



**Elysium**  
**3D-SUITE™**

## **Elysium 3D-SUITE**

インストールガイド

2025年 9 月

株式会社エリジオン

# 目次

1. はじめに	4
1.1. Front-End 製品ごとのインストール手順概要	4
1.2. Utility Tools のインストール手順概要	6
1.3. 想定されるユースケースごとのインストーラー実行手順	7
1.4. Elysium License Server のインストール	11
2. Elysium 3D-SUITE Components	13
2.1. インストール手順	13
2.1.1. 統合インストーラーでのインストール	13
2.1.2. 選択インストール	26
2.1.3. サイレントインストール	39
2.2. アンインストール手順	47
2.2.1. 手動アンインストール	47
2.2.2. サイレントアンインストール	48
2.3. CADmeister 独立型入出力オプション	48
3. Elysium 3D-SUITE Viewer	49
3.1. インストール手順	49
3.1.1. 手動インストール	49
3.1.2. サイレントインストール	54
3.2. 起動手順	55
3.3. 終了手順	55
3.4. アンインストール手順	55
3.4.1. 手動アンインストール	55
3.4.2. サイレントアンインストール	55
4. Elysium 3D-SUITE Editor	57
4.1. インストール手順	57
4.1.1. 手動インストール	57
4.1.2. サイレントインストール	59
4.2. 起動手順	60
4.3. 終了手順	61
4.4. アンインストール手順	61
4.4.1. 手動アンインストール	61
4.4.2. サイレントアンインストール	61

5. Elysium 3D-SUITE SmartLauncher	63
5.1. インストール手順	63
5.1.1. SmartLauncher (Standalone) の手動インストール	63
5.1.2. SmartLauncher (Plug-in) の手動インストール	77
5.1.3. SmartLauncher (Standalone) のサイレントインストール	81
5.1.4. SmartLauncher (Plug-in) のサイレントインストール	81
5.2. SmartLauncher (Plug-in) 設定手順	82
5.2.1. CAD 別初期設定 / 注意事項	84
5.3. 起動手順	87
5.3.1. SmartLauncher (Standalone) の起動	87
5.3.2. SmartLauncher (Plug-in) の起動	88
5.4. アンインストール手順	90
5.4.1. SmartLauncher (Standalone) の手動アンインストール	90
5.4.2. SmartLauncher (Standalone) のサイレントアンインストール	90
5.4.3. SmartLauncher (Plug-in) の手動アンインストール	90
5.4.4. SmartLauncher (Plug-in) のサイレントアンインストール	90
6. Elysium 3D-SUITE SmartController	92
6.1. インストール手順	92
6.1.1. 手動インストール	92
6.1.2. サイレントインストール	95
6.2. 起動手順	95
6.3. 終了手順	96
6.4. アンインストール手順	97
6.4.1. 手動アンインストール	97
6.4.2. サイレントアンインストール	97
7. Elysium 3D-SUITE SmartController Pro	98
7.1. インストール手順	98
7.1.1. 手動インストール	98
7.1.2. サイレントインストール	106
7.2. 起動手順	107
7.3. 終了手順	107
7.4. アンインストール手順	108
7.4.1. 手動アンインストール	108
7.4.2. サイレントアンインストール	108

8. Elysium 3D-SUITE TransServer	109
8.1. インストール手順	109
8.1.1. 入出力ファイルの授受に利用するファイルサーバーの設定	109
8.1.2. PostgreSQL のインストール	112
8.1.3. PostgreSQL への接続を許可するための設定 (オプション)	113
8.1.4. Command Line Tools のインストール (オプション)	114
8.1.5. TransServer のインストール	115
8.1.6. Apache のインストール	126
8.1.7. WorkerNode の設定	131
8.1.8. 複数の WorkerNode の導入	131
8.2. アップグレードインストール	131
8.2.1. インストール前の注意事項	131
8.2.2. TransServer のインストール	132
8.2.3. データベースの削除	136
8.3. インストール後の設定変更	136
8.3.1. アプリケーションサーバーのインスタンス数変更方法	136
8.3.2. リソースの保存フォルダー変更方法	137
8.3.3. ライセンスサーバーの変更方法	137
8.3.4. ファイルサーバーの変更方法	138
8.3.5. データベース名の変更方法	139
8.3.6. データベースパスワードの変更方法	139
8.3.7. Apache の更新方法	140
8.3.8. TransServer を Windows サービスとして登録する方法	140
8.3.9. TransServer の Windows サービスを登録解除する方法	142
8.3.10. アップロードされたモデルを一時的に格納するフォルダーの変更方法	142
8.4. 起動手順	143
8.4.1. サーバー設定	143
8.5. 終了手順	144
8.6. アンインストール手順	144
9. Elysium 3D-SUITE WorkerNode	146
9.1. インストール手順	146
9.1.1. 事前準備: 入出力ファイルの授受に利用するファイルサーバーの設定	146
9.1.2. 手動インストール	149
9.1.3. サイレントインストール	152

9.2. WorkerNode の設定	152
9.2.1. [共通設定] ダイアログ	153
9.2.2. [共通] タブ	155
9.2.3. [コンポーネント] タブ	156
9.2.4. Windows サービスの登録と削除	158
9.2.5. 複数の WorkerNode の設定	161
9.2.6. 高度な設定	162
9.2.7. 設定の引き継ぎ	162
9.3. 起動と停止	163
9.4. アンインストール手順	166
9.4.1. 手動アンインストール	166
9.4.2. サイレントアンインストール	166
9.5. 補足	167
9.5.1. WorkerNode の実行状態を確認する方法について	167
9.5.2. WorkerNode のログについて	167
10. Elysium 3D-SUITE Inspector	168
10.1. インストール手順	168
10.1.1. 手動インストール	168
10.1.2. サイレントインストール	170
10.2. 起動手順	171
10.3. 終了手順	173
10.4. アンインストール手順	173
10.4.1. 手動アンインストール	173
10.4.2. サイレントアンインストール	173
11. Elysium 3D-SUITE ScenarioEditor	175
11.1. インストール手順	175
11.1.1. 手動インストール	175
11.1.2. サイレントインストール	180
11.2. 起動手順	181
11.3. 終了手順	182
11.4. アンインストール手順	182
11.4.1. 手動アンインストール	182
11.4.2. サイレントアンインストール	182
12. Elysium 3D-SUITE Data Package Studio (Acrobat Plug-in) for 3D PDF	184

12.1. インストール手順	184
12.1.1. 手動インストール	184
12.1.2. サイレントインストール	190
12.2. 起動手順	191
12.3. 終了手順	191
12.4. アンインストール手順	191
12.4.1. 手動アンインストール	191
12.4.2. サイレントアンインストール	192
13. Elysium 3D-SUITE Validation Configurator	193
13.1. インストール手順	193
13.1.1. 手動インストール	193
13.1.2. サイレントインストール	201
13.2. 起動手順	201
13.3. 終了手順	202
13.4. アンインストール手順	202
13.4.1. 手動アンインストール	202
13.4.2. サイレントアンインストール	203
14. Elysium 3D-SUITE PDQ Checker Configurator	204
14.1. インストール手順	204
14.2. 起動手順	204
14.3. 終了手順	204
14.4. アンインストール手順	204
15. Elysium 3D-SUITE 設定ユーティリティ	205
15.1. インストール手順	205
15.2. 起動手順	205
15.3. 終了手順	205
15.4. アンインストール手順	205
16. トラブルシューティング	206
Appendix A: 3D-SUITE インストーラー一覧	208
Appendix B: サンプルシナリオについて	214
B.1. DFM Studio を実行するためのサンプルシナリオ	214
B.2. DFAS Studio を実行するためのサンプルシナリオ	215
B.3. DFA Studio を実行するためのサンプルシナリオ	216
B.4. CAD Validator を実行するためのサンプルシナリオ	216

B.5. Drawing Validator を実行するためのサンプルシナリオ .....	217
B.6. PMI Checker を実行するためのサンプルシナリオ .....	218
Appendix C: Python インストール時の注意点について .....	219
C.1. Components インストーラーから Python をインストールしない場合の注意点	219
C.2. 同一コンピューター上で複数のユーザーが DFX Analyzer または PMI Checker を使用する場合の注意点 .....	220
C.3. Python で 260 字より長いパスを扱う場合の注意点 .....	221
C.4. 特殊な方法で Python を導入した場合の注意点 .....	221

## モジュールパッケージについて

3D-SUITE の全モジュールパッケージは、3D-SUITE カスタマーページで公開されています。公開されているモジュールパッケージの一覧は以下の通りです。

- 3D-SUITE Base パッケージ
- 3D-SUITE Components パッケージ
- 3D-SUITE Viewer パッケージ
- 3D-SUITE Editor パッケージ
- 3D-SUITE SmartController パッケージ
- 3D-SUITE SmartController Pro パッケージ
- 3D-SUITE TransServer パッケージ
- 3D-SUITE WorkerNode パッケージ
- 3D-SUITE Inspector パッケージ
- 3D-SUITE Daimler Bundle パッケージ
- 3D-SUITE Honda Bundle パッケージ
- 3D-SUITE Standard Format パッケージ
- 3D-SUITE Module for CADmeister パッケージ
- 3D-SUITE ScenarioEditor パッケージ
- 3D-SUITE Data Package Studio パッケージ
- 3D-SUITE Validation Configurator パッケージ
- 3D-SUITE PDQ Checker Configurator パッケージ
- 3D-SUITE Component binary パッケージ
- 3D-SUITE DFX Analyzer Base パッケージ
- 3D-SUITE Drawing Validator Base パッケージ



本ドキュメント中で各パッケージに言及する際には、3D-SUITE を省略した上で <> で囲って表記します。

(例: "サンプルスクリプトは <Base パッケージ> に含まれています。")

なお、3D-SUITE カスタマーページのログイン情報については、以下のフォームから申請してください。カスタマーページへのログインを申請するためには、製品の保守契約を継続いただいている必要があります。 <https://www.elysium-global.com/ja/support/3d-suite/>

## 3D-SUITE 設定ユーティリティーについて

ライセンスサーバーの情報やシナリオフォルダーのパスなど 3D-SUITE 製品群で共通して利用する設定項目については、"3D-SUITE ユーザー共通設定" もしくは "3D-SUITE ローカルユーザー設定" で設定することができます。設定可能な項目の詳細については [Elysium 3D-SUITE 設定ユーティリテーマニュアル] を参照してください。

なお本ドキュメントでは、以降 "3D-SUITE ユーザー共通設定" と "3D-SUITE ローカルユーザー設定" をまとめて "3D-SUITE ユーザー設定" と記載します。

## 3D-SUITE 製品の略称について

本ドキュメント内では、各 3D-SUITE 製品の名称を以下の通り省略して記載します。

- 3D-SUITE Components → Components
- 3D-SUITE Viewer → Viewer
- 3D-SUITE Editor → Editor
- 3D-SUITE SmartLauncher (Standalone) → SmartLauncher (Standalone)
- 3D-SUITE SmartLauncher (Plug-in) → SmartLauncher (Plug-in)
- 3D-SUITE SmartController → SmartController
- 3D-SUITE SmartController Pro → SmartController Pro
- 3D-SUITE TransServer → TransServer
- 3D-SUITE WorkerNode → WorkerNode
- 3D-SUITE Inspector → Inspector
- 3D-SUITE ScenarioEditor → ScenarioEditor
- 3D-SUITE Data Package Studio (Acrobat Plug-in) for 3D PDF → Data Package Studio for 3D PDF
- 3D-SUITE Data Package Studio (Standalone) for HTML → Data Package Studio for HTML
- 3D-SUITE Validation Configurator → Validation Configurator
- 3D-SUITE PDQ Checker Configurator → PDQ Checker Configurator
- 3D-SUITE Setting Utility → Setting Utility
- 3D-SUITE DFX Analyzer Parameter Settings Tool → DFX Analyzer Parameter Settings Tool

## バージョンが混在するインストール環境のサポートについて

3D-SUITE では、バージョンの異なる Front-End 製品どうしを組み合わせで使用すること、およびバージョンの異なる Front-End 製品と Components を組み合わせで使用することはサポートされていません。例えば、以下のような組み合わせで 3D-SUITE を使用することはサポートされていないのでご注意ください。

- SmartController Pro EX10.0 + WorkerNode EX11.0 + Components EX11.0
- Editor EX12.0 + SmartLauncher EX11.0 + Components EX11.0
- Editor EX11.0 + SmartLauncher EX12.0 + Components EX12.0

なお EX11.0 以降の Components では、より新しいバージョンの WorkerNode と組み合わせで使用することがサポートされています。したがって、以下のような組み合わせで 3D-SUITE を使用することは可能です。

- TransServer EX12.0 + WorkerNode EX12.0 + Components EX11.0

# 1. はじめに

本ドキュメントでは、3D-SUITE 製品群のインストール手順について説明します。3D-SUITE は複数の製品から構成されており、インストーラーも各製品、もしくは機能単位で提供しています。想定している使用方法、お持ちのライセンス、負荷の分散などを考慮して、いずれの製品をどのコンピューターにインストールするかを決定してください。

なお 3D-SUITE 製品それぞれの概要については、別冊 "Elysium 3D-SUITE 製品概要" マニュアルを参照してください。

## 1.1. Front-End 製品ごとのインストール手順概要

どの Front-End 製品を使用するかを基準として、3D-SUITE 製品群をセットアップする手順の概要を以下にまとめました。実行するインストーラー、実行する対象となるコンピューター、実行する順序を Front-End 製品ごとに記載しています。ここで記載しているのはあくまでも手順の概要となりますので、詳細については 2 章以降を参照してください。



ここでは、統合インストーラーで Components をインストールする際に SmartLauncher も同時にインストールするものとして記載しています。

### • Viewer

Viewer をインストールする対象を "コンピューター A" とすると、インストーラーの実行順序、対象コンピューター、インストーラーは以下の通りになります。

導入順序	対象コンピューター	インストーラー
1	コンピューター A	Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Viewer.exe

### • Editor

Editor の利用には Components が必要です。Editor をインストールする対象を "コンピューター A" とすると、インストーラーの実行順序、対象コンピューター、インストーラーは以下の通りになります。

導入順序	対象コンピューター	インストーラー
1	コンピューター A	Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Components.exe
2	コンピューター A	Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Editor.exe

### • SmartLauncher

SmartLauncher は Components の統合インストーラーからインストールすることができます。SmartLauncher をインストールする対象を "コンピューター A" とすると、インストーラーの実行順序、対象コンピューター、インストーラーは以下の通りになります。

導入順序	対象コンピューター	インストーラー
1	コンピューター A	Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Components.exe

### • SmartLauncher Plug-in

SmartLauncher Plug-in は Components の統合インストーラーからインストールすることができます。SmartLauncher Plug-in をインストールする対象を "コンピューター A" とすると、インストーラーの実行順序、対象コンピューター、インストーラーは以下の通りになります。

導入順序	対象コンピューター	インストーラー
1	コンピューター A	Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Components.exe

### • SmartController

SmartController をインストールする対象を "コンピューター A" とすると、インストーラーの実行順序、対象コンピューター、インストーラーは以下の通りになります。

導入順序	対象コンピューター	インストーラー
1	コンピューター A	Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Components.exe
2	コンピューター A	Elysium_3D-SUITE_EX11_0_SmartController.exe

### • SmartController Pro

SmartController Pro は、実際の処理を WorkerNode で実行します。一般的には、SmartController Pro と WorkerNode を別々のコンピューターにインストールすることができます。SmartController Pro をインストールする対象を "コンピューター A"、WorkerNode をインストールする対象を "コンピューター B" としたとき、インストーラーの実行順序、対象コンピューター、インストーラーは以下の通りになります。

導入順序	対象コンピューター	インストーラー
1	コンピューター A	Elysium_3D-SUITE_EX11_0_SmartController_Pro.exe
2	コンピューター B	Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Components.exe
3	コンピューター B	Elysium_3D-SUITE_EX11_0_WorkerNode.exe

### • TransServer

TransServer は実際の処理を WorkerNode で実行します。また TransServer はサーバー OS の動作するコンピューターに、WorkerNode はクライアント OS の動作するコンピューターにインストールする必要があります。TransServer をインストールする対象を "コンピューター A"、WorkerNode をインストールする対象を "コンピューター B" としたとき、インストーラーの実行順序、対象コンピューター、インストーラーは以下の通りになります。

導入順序	対象コンピューター	インストーラー
1	コンピューター A	Elysium_3D-SUITE_EX11_0_TransServer.exe
2	コンピューター B	Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Components.exe
3	コンピューター B	Elysium_3D-SUITE_EX11_0_WorkerNode.exe

### • Inspector

Inspector をインストールする対象を "コンピューター A" とすると、インストーラーの実行順序、対象コンピューター、インストーラーは以下の通りになります。

導入順序	対象コンピューター	インストーラー
1	コンピューター A	Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Viewer.exe
2	コンピューター A	Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Inspector.exe

### • Command Line

Command Line での利用には Components が必要です。Components をインストールする対象を "コンピューター A" とすると、インストーラーの実行順序、対象コンピューター、インストーラーは以下の通りになります。

導入順序	対象コンピューター	インストーラー
1	コンピューター A	Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Components.exe



"Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_Components.exe" は統合インストーラーになっています。このインストーラーから並びのフォルダー内にあるインストーラーを呼び出すことで、Adapter や SmartLauncher など複数の製品をまとめてインストールできます。インストールウィザードの中で必要な製品を選択し、インストールを実行してください。

なお特定の Adapter だけをインストールしたい場合などには、並びのフォルダー内にあるインストーラーを個別に実行してインストールすることも可能です。インストーラーの情報については、[Appendix A, 3D-SUITE インストーラー一覧](#) を参照してください。

## 1.2. Utility Tools のインストール手順概要

Utility Tools は 3D-SUITE 製品群の各種設定を行うためのツールです。これらのツールで設定した内容はファイルとして保存することができ、そのファイルを Front-End および Components がインストールされているコンピューターに配置すれば意図した動作を実現できます。このため、Utility Tools 自体は Front-End または Components がインストールされているコンピューター以外のコンピューターにインストールすることも可能です。

以下の表には、Utility Tools に含まれる各製品のインストーラーと、その製品と組み合わせて使用する可能性のある Front-End をまとめています。

Utility Tools	インストーラー	Front-End
3D-SUITE Scenario Editor	Elysium_3D-SUITE_EX11_0_ScenarioEditor.exe	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 3D-SUITE SmartLauncher</li> <li>• 3D-SUITE SmartLauncher Plug-in</li> <li>• 3D-SUITE SmartController</li> <li>• 3D-SUITE SmartController Pro</li> </ul>

3D-SUITE Data Package Studio	Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Data_Package_Studio_for_Acrobat_32bit.exe  Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Data_Package_Studio_for_Acrobat_64bit.exe	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 3D-SUITE SmartLauncher</li> <li>• 3D-SUITE SmartLauncher Plug-in</li> <li>• 3D-SUITE SmartController</li> <li>• 3D-SUITE SmartController Pro</li> </ul>
3D-SUITE Validation Configurator	Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Validation_Configurator.exe	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 3D-SUITE SmartLauncher</li> <li>• 3D-SUITE SmartLauncher Plug-in</li> <li>• 3D-SUITE SmartController</li> <li>• 3D-SUITE SmartController Pro</li> </ul>
3D-SUITE PDQ Checker Configurator	(*1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 3D-SUITE Editor</li> <li>• 3D-SUITE SmartLauncher</li> <li>• 3D-SUITE SmartLauncher Plug-in</li> <li>• 3D-SUITE SmartController</li> <li>• 3D-SUITE SmartController Pro</li> </ul>

- \*1: PDQ Checker Configurator のインストーラーはありません。 使用する際には、<PDQ Checker Configurator パッケージ> に含まれる "PDQCheckerSetting.xlsm" を Microsoft Excel で開いてください。

### 1.3. 想定されるユースケースごとのインストーラー実行手順

以下では想定されるいくつかの状況を具体例として、どのような場合にどのインストーラーを実行する必要があるかを説明します。

#### ケース 1: Editor で NX から JT への変換を行う (NX (Plug-in) Adapter を使用)

- NX がインストールされているコンピューターに Editor をインストールする場合
  - "Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_Components.exe" を実行して Component および SmartLauncher をインストールします。セットアップタイプとしては "完全インストール" を選択するか、"カスタムインストール" で以下を選択します。
    - Elysium 3D-SUITE EX11.0 NX Adapter
    - Elysium 3D-SUITE EX11.0 JT Adapter
  - "Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_Editor.exe" を実行して Editor をインストールします。
- NX がインストールされているコンピューターとは別のコンピューターに Editor をインストールする場合
  - NX がインストールされているコンピューターで "Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_Components.exe" を実行して Component および SmartLauncher をインストールします。セットアップタイプとしては "完全インストール" を

選択するか、"カスタムインストール" で以下を選択します。

- Elysium 3D-SUITE EX11.0 NX Adapter
- Elysium 3D-SUITE EX11.0 SmartLauncher (NX Plug-in)
- Editor をインストールするコンピューターで "Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_Components.exe" を実行して Component をインストールします。セットアップタイプとしては "完全インストール" を選択するか、"カスタムインストール" で以下を選択します。
  - Elysium 3D-SUITE EX11.0 JT Adapter
- Editor をインストールするコンピューターで "Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_Editor.exe" を実行して Editor をインストールします。

#### ケース 2:

**SmartLauncher で Creo Parametric から SOLIDWORKS への変換を行う  
(Creo Parametric (Plug-in) Adapter および SOLIDWORKS (Plug-in) Adapter を使用)**

- a. Creo Parametric と SOLIDWORKS が同じコンピューターにインストールされている場合
  - "Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_Components.exe" を実行して、Component および SmartLauncher をインストールします。セットアップタイプとしては "完全インストール" を選択するか、"カスタムインストール" で以下を選択します。
    - Elysium 3D-SUITE EX11.0 Creo Parametric Adapter
    - Elysium 3D-SUITE EX11.0 SOLIDWORKS Adapter
- b. Creo Parametric と SOLIDWORKS が別々のコンピューターにインストールされている場合
  - Creo Parametric のインストールされているコンピューターで "Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_Components.exe" を実行して、Component および SmartLauncher をインストールします。セットアップタイプとしては "完全インストール" を選択するか、"カスタムインストール" で以下を選択します。
    - Elysium 3D-SUITE EX11.0 Creo Parametric Adapter
  - SOLIDWORKS のインストールされているコンピューターで "Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_Components.exe" を実行して、Component および SmartLauncher をインストールします。セットアップタイプとしては "完全インストール" を選択するか、"カスタムインストール" で以下を選択します。
    - Elysium 3D-SUITE EX11.0 SOLIDWORKS Adapter

#### ケース 3:

**NX 向けの SmartLauncher CAD 組込メニューで CATIA V5 モデルを出力する  
(NX (Plug-in) Adapter および CATIA V5 (Plug-in) Adapter を使用)**

- a. NX と CATIA V5 が同じコンピューターにインストールされている場合
  - "Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_Components.exe" を実行して、Component および SmartLauncher をインストールします。セットアップタイプとしては "完全インストール" を選択するか、"カスタムインストール" で以下を選択します。
    - Elysium 3D-SUITE EX11.0 NX Adapter

- Elysium 3D-SUITE EX11.0 SmartLauncher (NX Plug-in)
- Elysium 3D-SUITE EX11.0 CATIA V5 Adapter

b. NX と CATIA V5 が別々のコンピューターにインストールされている場合

- NX のインストールされているコンピューターで  
"Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_Components.exe" を実行して、Component および SmartLauncher をインストールします。セットアップタイプとしては "完全インストール" を選択するか、"カスタムインストール" で以下を選択します。
  - Elysium 3D-SUITE EX11.0 NX Adapter
  - Elysium 3D-SUITE EX11.0 SmartLauncher (NX Plug-in)
- CATIA V5 のインストールされているコンピューターで  
"Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_Components.exe" を実行して、Component および SmartLauncher をインストールします。セットアップタイプとしては "完全インストール" を選択するか、"カスタムインストール" で以下を選択します。
  - Elysium 3D-SUITE EX11.0 CATIA V5 Adapter

**ケース 4:  
SmartController で CATIA V5 モデル同士の CAD 比較を行う (CATIA V5 (Plug-in) Adapter  
を使用)**

- "Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_Components.exe" を実行して Component をインストールします。セットアップタイプとしては "完全インストール" を選択するか、"カスタムインストール" で以下を選択します。
  - Elysium 3D-SUITE EX11.0 CATIA V5 Adapter
- "Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_SmartController.exe" を実行して SmartController をインストールします。

**ケース 5:  
SmartController Pro で NX モデルの形状簡略化を行う (NX (Plug-in) Adapter を使用)**

- ジョブの管理を行うためのコンピューター上で  
"Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_SmartController\_Pro.exe" を実行し、SmartController Pro をインストールします。
- NX のインストールされているコンピューター上で  
"Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_Components.exe" を実行して Component をインストールします。セットアップタイプとしては "完全インストール" を選択するか、"カスタムインストール" で以下を選択します。
  - Elysium 3D-SUITE EX11.0 NX Adapter
- NX のインストールされているコンピューター上で  
"Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_WorkerNode.exe" を実行して WorkerNode をインストールします。

**ケース 6:  
TransServer で SOLIDWORKS から CATIA V5 への変換を行う (SOLIDWORKS (Plug-in) Adapter および CATIA V5 (Plug-in) Adapter を使用)**

- a. SOLIDWORKS と CATIA V5 が同じコンピューターにインストールされている場合
- ジョブの管理を行うためのコンピューター上で  
"Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_TransServer.exe" を実行し、TransServer をインストールします。
  - SOLIDWORKS と CATIA V5 がインストールされているコンピューター上で  
"Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_Components.exe" を実行して Component をインストールします。セットアップタイプとしては "完全インストール" を選択するか、"カスタムインストール" で以下を選択します。
    - Elysium 3D-SUITE EX11.0 SOLIDWORKS Adapter
    - Elysium 3D-SUITE EX11.0 CATIA V5 Adapter
  - SOLIDWORKS と CATIA V5 がインストールされているコンピューター上で  
"Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_WorkerNode.exe" を実行して WorkerNode をインストールします。
- b. SOLIDWORKS と CATIA V5 が別々のコンピューターにインストールされている場合
- ジョブの管理を行うためのコンピューター上で  
"Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_TransServer.exe" を実行し、TransServer をインストールします。
  - SOLIDWORKS がインストールされているコンピューター上で  
"Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_Components.exe" を実行して Component をインストールします。セットアップタイプとしては "完全インストール" を選択するか、"カスタムインストール" で以下を選択します。
    - Elysium 3D-SUITE EX11.0 SOLIDWORKS Adapter
  - SOLIDWORKS がインストールされているコンピューター上で  
"Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_WorkerNode.exe" を実行して WorkerNode をインストールします。
  - CATIA V5 がインストールされているコンピューター上で  
"Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_Components.exe" を実行して Component をインストールします。セットアップタイプとしては "完全インストール" を選択するか、"カスタムインストール" で以下を選択します。
    - Elysium 3D-SUITE EX11.0 CATIA V5 Adapter
  - CATIA V5 がインストールされているコンピューター上で  
"Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_WorkerNode.exe" を実行して WorkerNode をインストールします。

**ケース 7:  
CADdoctor Bundle Package を使用する**

- "Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_Components.exe" を実行して Component および SmartLauncher をインストールします。セットアップタイプとしては "完全インストール" を選択するか、"カスタムインストール" で以下を選択します。

- Elysium 3D-SUITE EX11.0 IGES Adapter
- Elysium 3D-SUITE EX11.0 STL Adapter

- "Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_Editor.exe" を実行して Editor をインストールします。



- CADdoctor Bundle Package 以外に CAD の変換オプションライセンスも保有している場合には、Components をインストールする際にそれらのライセンスに対応する Adapter も選択してください。
- CADdoctor Bundle Package の詳細については、"3D-SUITE CADdoctor Bundle Package マニュアル" を参照してください。

#### ケース 8: Daimler Bundle Package を使用して CATIA V5 to/from JT 変換を実行する

- "Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_Components.exe" を実行して Component および SmartLauncher をインストールします。セットアップタイプとしては "完全インストール" を選択するか、"カスタムインストール" で以下を選択します。

- Elysium 3D-SUITE EX11.0 CATIA V5 Adapter
- Elysium 3D-SUITE EX11.0 SmartLauncher (CATIA V5 Plug-in)
- Elysium 3D-SUITE EX11.0 JT Adapter
- Elysium 3D-SUITE EX11.0 PLM XML Adapter

- "Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_SmartController.exe" を実行して SmartController をインストールします。

- "Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_SmartController\_Pro.exe" を実行して SmartController Pro をインストールします。

- "Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_WorkerNode.exe" を実行して WorkerNode をインストールします。

- "Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_TransServer.exe" を実行し、TransServer をインストールします。



- Components 以外のインストーラーについては、どの Front-End 製品を用いて処理を実行するかを踏まえ、適切なものを選択して実行してください。
- 処理方法の詳細などについては、"3D-SUITE Daimler Bundle Package マニュアル" を参照してください。

## 1.4. Elysium License Server のインストール

3D-SUITE 製品群は、Elysium License Server によりライセンス管理されます。以下のインストーラーを実行して、Elysium License Server を導入してください。導入手順の詳細は、別冊 "Elysium License Server クイックスタートガイド" を参照してください。

- Elysium License Server インストーラー:  
<Base パッケージ>\license\server\Elysium\_License\_Server\_1\_2\_0.exe
- Elysium License Server クイックスタートガイド:  
<Base パッケージ>\doc\LicenseServer\_QuickStartGuide\_ja.pdf



- Elysium License Server は、3D-SUITE 製品をインストールするコンピューターと同じコンピューターにインストールすることも、別のコンピューターにインストールすることも可能です。別のコンピューターにインストールする場合には、そのコンピューターに対して 3D-SUITE 製品がインストールされるコンピューターから通信ができるように設定してください。また Elysium License Server は対象となる環境で 1 台のコンピューターにだけインストールすればよく、3D-SUITE 製品をインストールするすべてのコンピューターにインストールする必要はありません。

## 2. Elysium 3D-SUITE Components

### 事前にインストールする必要があるプログラム

- なし

### 2.1. インストール手順



インストールは管理者権限のあるユーザーで実行してください。Components をインストールする際には、統合インストーラーで一括インストールする方法と、Component を個別のインストーラーで選択インストールする方法のいずれかを選択することができます。それぞれの方法の概要は以下の通りです。

- **統合インストーラーによるインストール:**  
インストールする Component を選択すると、その前提となる Component も併せて選択され、それらがまとめて自動的にインストールされます。インストーラーを 1 回実行するだけで済むため、最小限の工数でインストールを実行できます。通常はこちらの方法を選択してください。
- **個別のインストーラーによる選択インストール:**  
必要最小限の Component だけを選択してインストールできます。関連しない Component は一切インストールされないため、記憶領域の消費を最小限に抑えられます。また初期セットアップの時点では統合インストーラーを利用し、後から機能を追加する際には選択インストールを用いるという用途もあります。

それぞれの方法でのインストール手順は以下の通りです。

#### 2.1.1. 統合インストーラーでのインストール



- ネットワークドライブに配置したインストーラーを管理者として実行したコマンドプロンプトから実行した場合、インストールが失敗します。以下のいずれかの方法でインストールを実行してください。
  - コマンドプロンプトをログインユーザーの権限で起動し、インストーラーを実行する。
  - Components インストーラーを UNC パスで指定して実行する。
  - Components インストーラーをローカルドライブにコピーしてから実行する。
- 統合インストーラーによるインストールの実行中に [キャンセル] をクリックした場合、そこまでに実行されたインストールはロールバックされません。必要な場合には、インストール済みのアプリケーションを手動でアンインストールしてください。
- 統合インストーラーから Setting Utility、3D-SUITE SmartLauncher Base、SmartLauncher (Plug-in) をインストールする場合、先に古いバージョンのアプリケーションがアンインストールされます。その後最新バージョンがインストールされますが、インストール処理が途中で失敗すると Setting Utility、

3D-SUITE SmartLauncher Base、SmartLauncher (Plug-in) が導入されていない状態となる可能性があります。

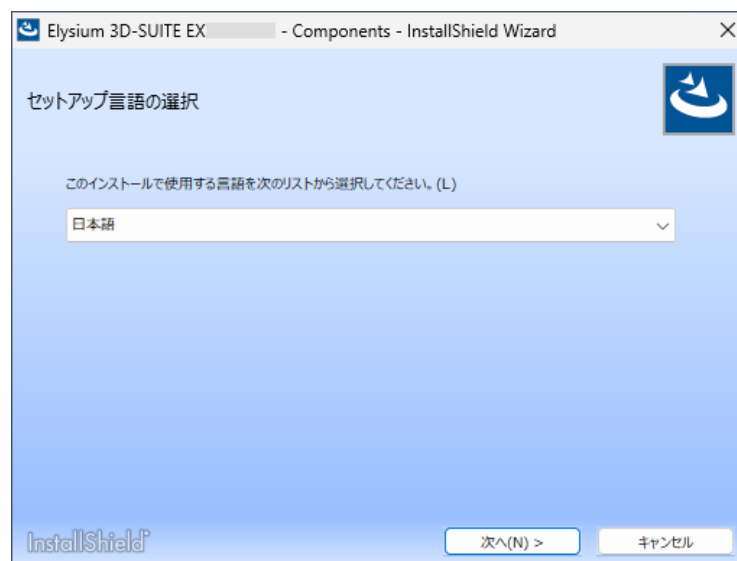


- 3D-SUITE EX11.0 の Setting Utility または SmartLauncher がインストールされている状態で 3D-SUITE EX9.0.5 または 3D-SUITE EX9.0.14 をインストールした場合、アプリケーションが正常に動作しなくなる可能性があります。3D-SUITE EX9.0.5 または 3D-SUITE EX9.0.14 をインストールする場合には、あらかじめ 3D-SUITE EX11.0 に含まれるアプリケーションをすべてアンインストールしてください。

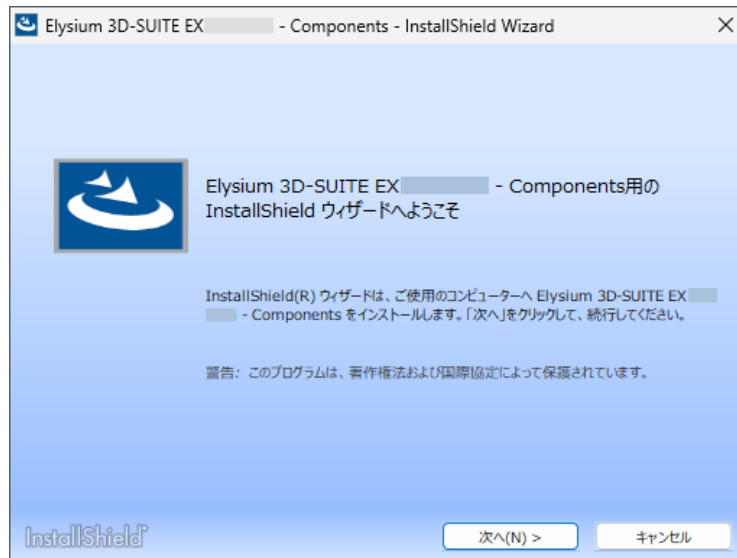
1. Components のインストーラーを実行します。

- インストーラーが含まれるフォルダー: <Components パッケージ>\
- インストーラー: Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_Components.exe

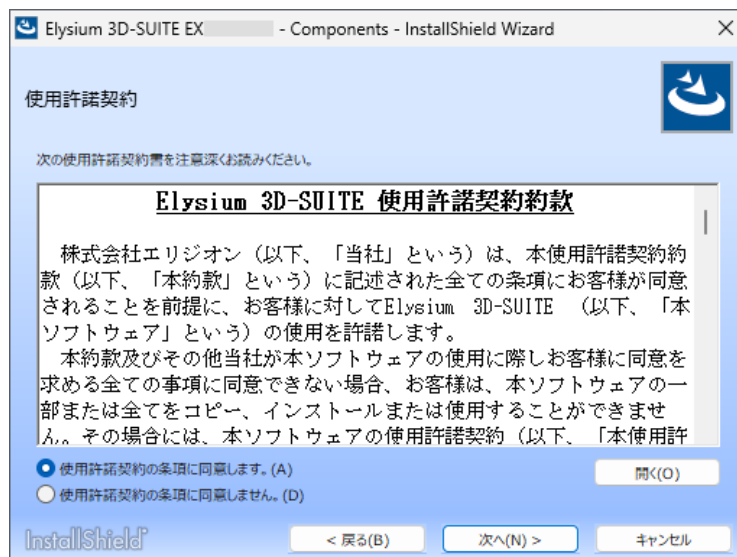
2. インストールで使用する言語を選択して [次へ] をクリックします。日本語と英語が選択可能です。



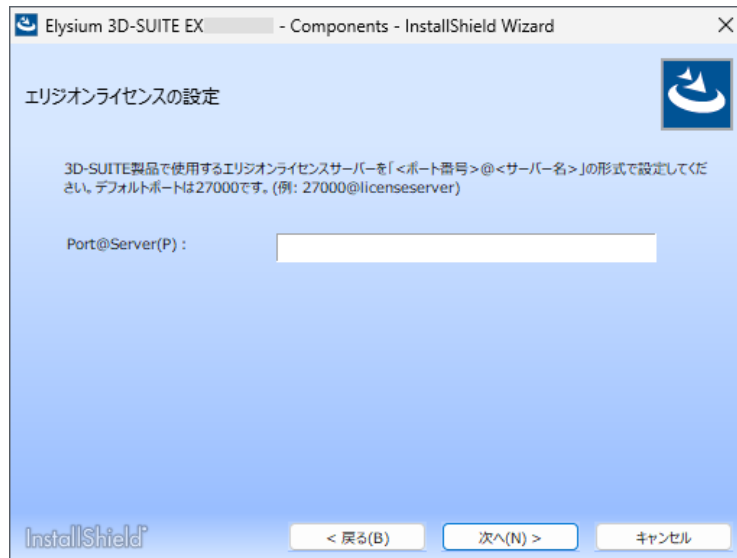
3. インストール開始画面が表示されます。[次へ] をクリックします。



4. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続ける事はできません。



5. ライセンスの設定画面が表示されます。Elysium License Server をインストールしたコンピューターの情報を "<ポート番号>@<ホスト名>" という形式で入力します。



6. インストール先のフォルダーを指定するダイアログが表示されます。デフォルトのインストール先から変更する場合は、[変更] をクリックして変更先フォルダーを指定します。指定が完了したら [次へ] をクリックします。



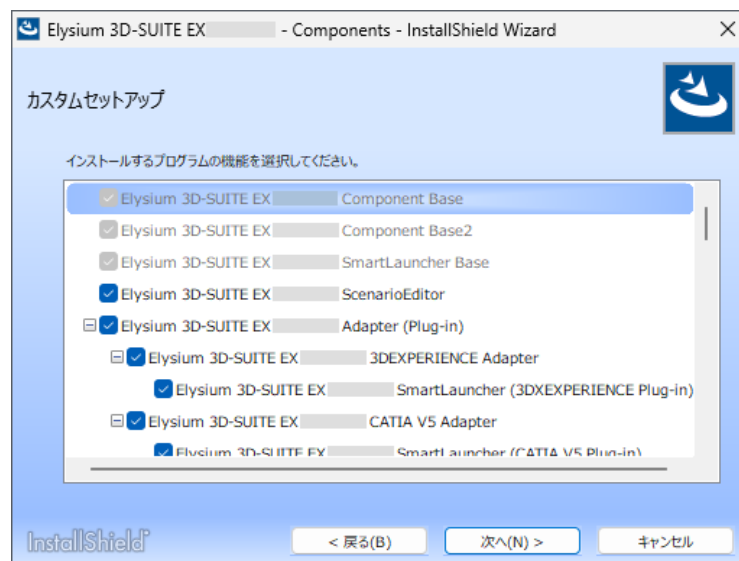
- インストール先フォルダーのパスは ASCII 文字のみで構成されるようにしてください。フォルダーパスに非 ASCII 文字が含まれている場合、アプリケーションが想定通りに動作しない場合があります。
- デフォルトのインストールフォルダーより深いパスは指定しないでください。インストールが失敗する可能性があります。

7. セットアップタイプを選択します。

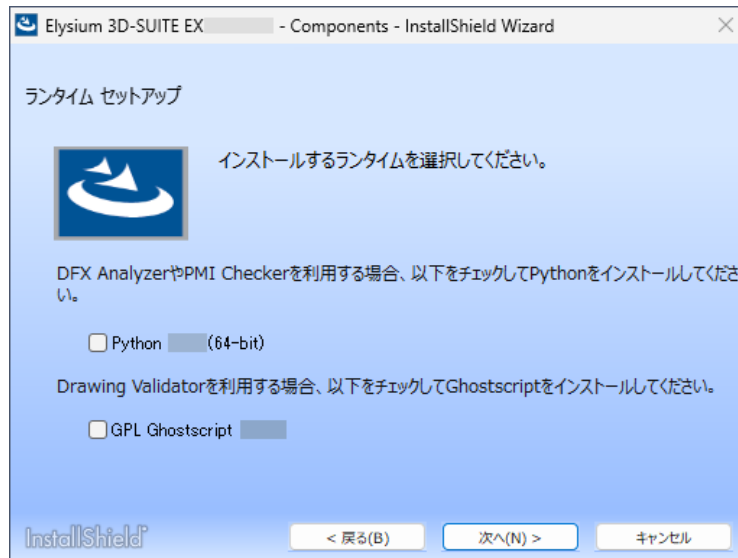


カスタムを選択した場合、次のダイアログが表示されるまでに時間がかかることがあります。

カスタムを選択した場合には、インストールする機能を選択します。このとき、手順 5. で指定したライセンスサーバーを参照してインストールする Component が自動選択されています。必要に応じて選択状態を変更してから [次へ] をクリックします。



- ランタイム セットアップの画面が表示されます。必要に応じてチェックを入れ、[次へ] をクリックします。

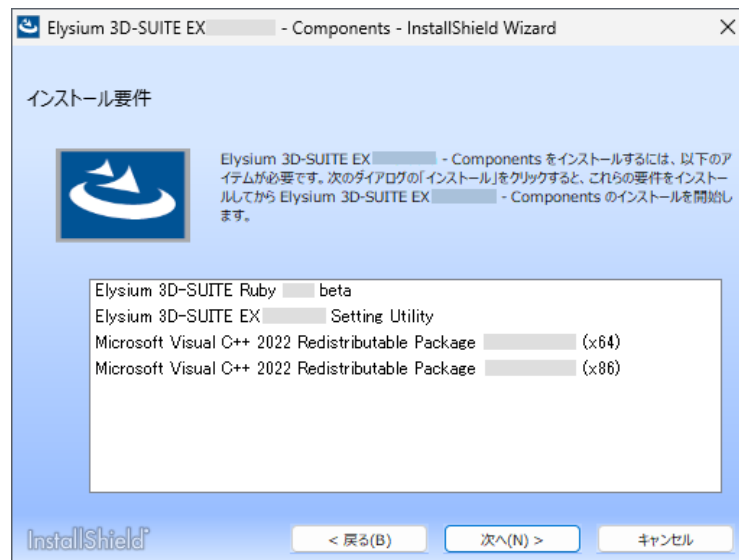


- Python をインストールする際には、いくつか注意していただきたい点があります。詳しくは [Appendix C, Python インストール時の注意点について](#) を参照してください。

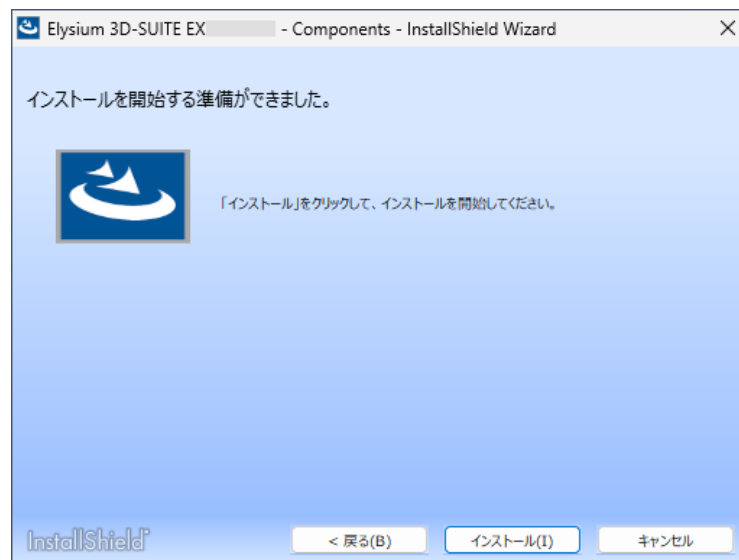


- Ghostscript は公式サイトで配布されているインストーラーを利用してインストールしても問題ありません。

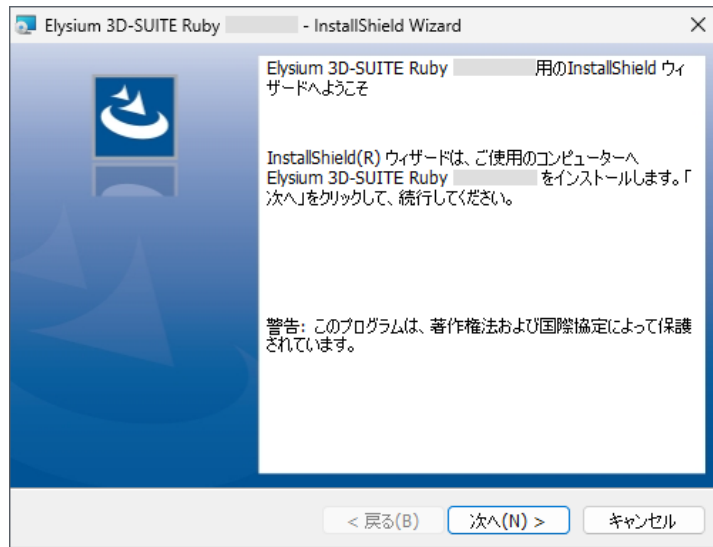
9. 以下の内容が表示された場合には、[次へ] をクリックします。



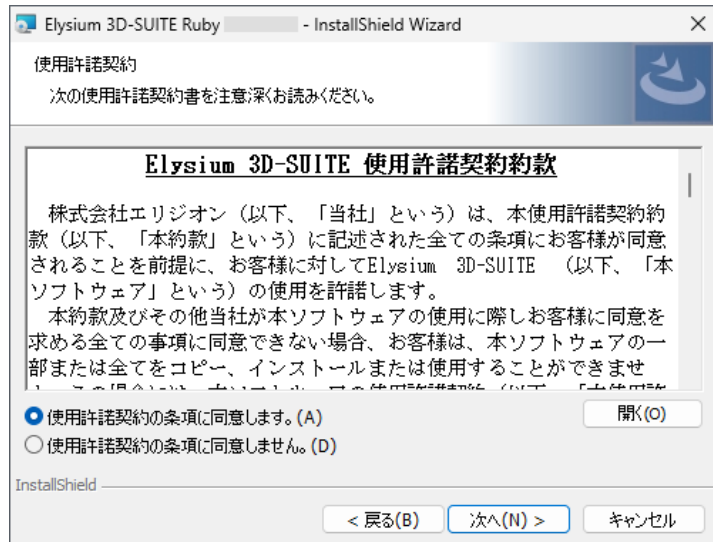
10. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。



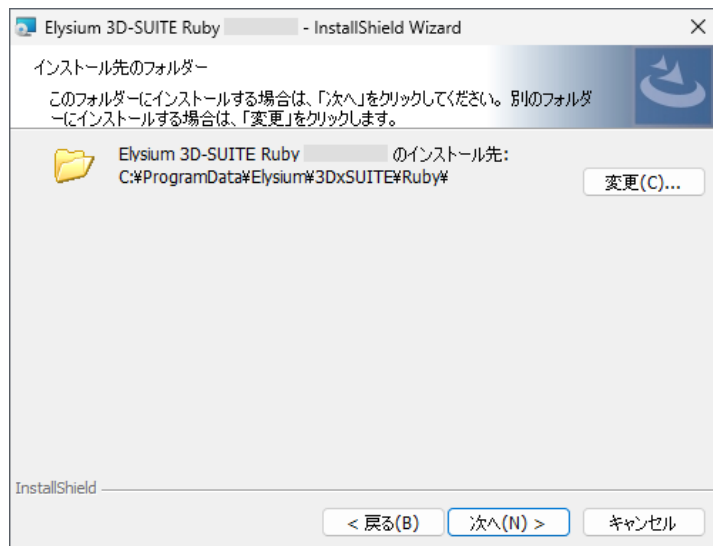
11. Elysium 3D-SUITE Ruby がインストールされていない場合、Elysium 3D-SUITE Ruby のインストーラーが起動します。以下の手順でインストールを実行します。すでに Elysium 3D-SUITE Ruby がインストールされている場合は、Elysium 3D-SUITE Ruby インストール後の手順へ進んでください。
- インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



- b. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続ける事はできません。

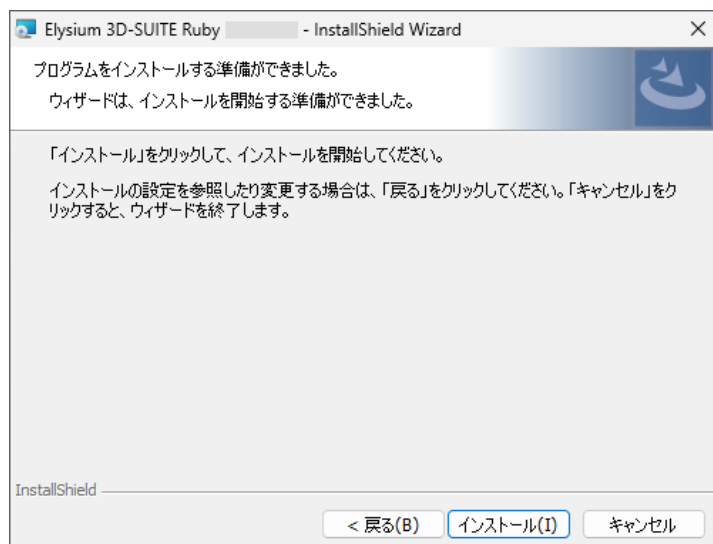


- c. インストール先のフォルダーを指定するダイアログが表示されます。デフォルトのインストール先から変更する場合は、[変更] をクリックして変更先フォルダーを指定します。指定が完了したら [次へ] をクリックします。



インストール先フォルダーのパスは半角英数字および一部の半角記号（「#」「+」「-」「\_」「.」「\$」「/」「:」）のみで構成されるようにしてください。これら以外の文字がパスに含まれている場合にはエラーとなります。

d. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。

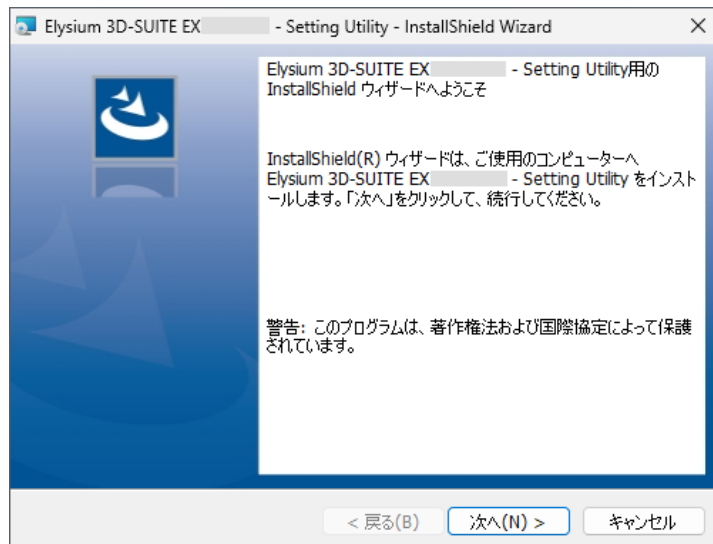


e. インストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてインストーラーを終了します。

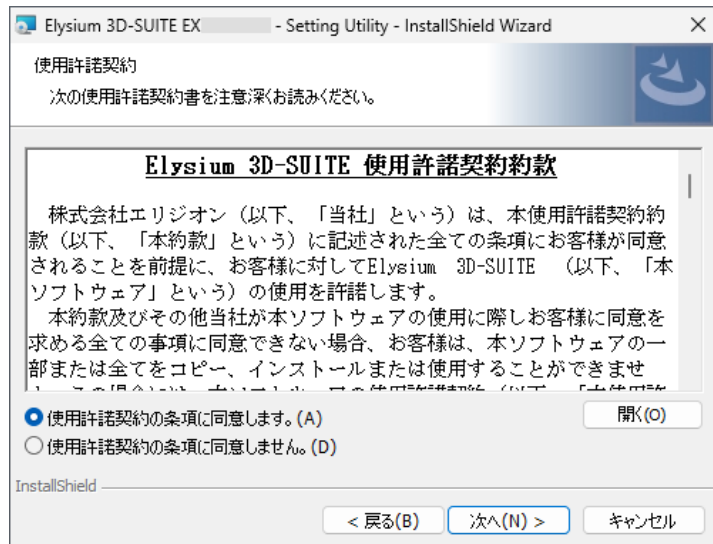


12. Setting Utility がインストールされていない場合、Setting Utility のインストーラーが起動します。以下の手順でインストールを実行します。Setting Utility がすでに導入されている場合は、Setting Utility インストール後の手順へ進んでください。

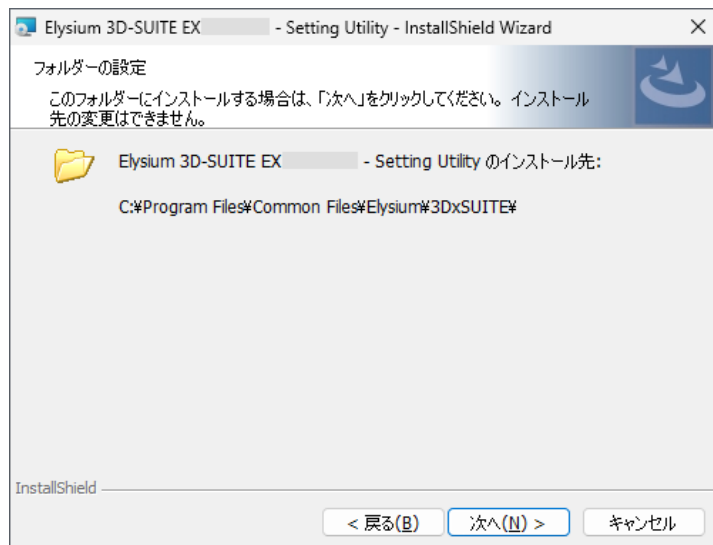
- a. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



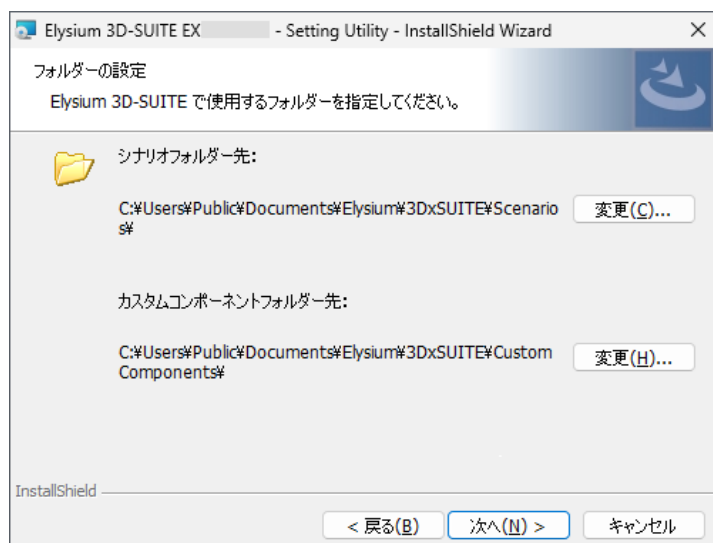
- b. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続ける事はできません。



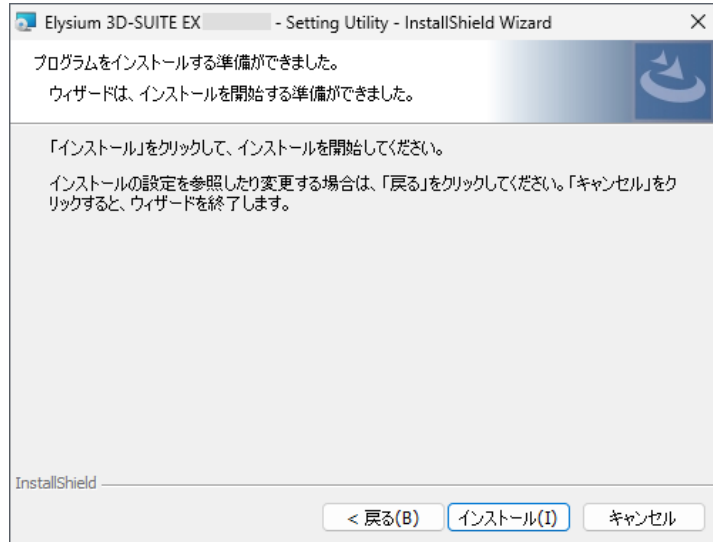
c. Setting Utility のインストール先を示す画面が表示されます。[次へ] をクリックします。



d. シナリオフォルダーとカスタムコンポーネントフォルダーを設定する画面が表示されます。必要に応じてフォルダーのパスを変更し、[次へ] をクリックします。



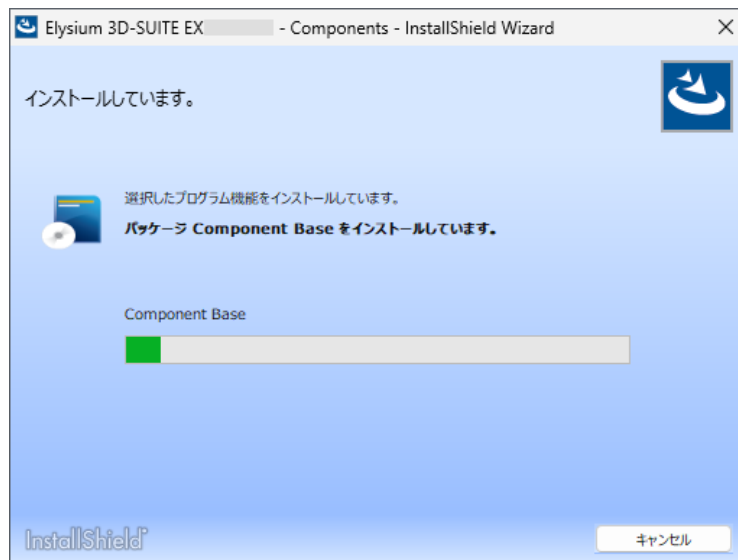
e. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。



f. Setting Utility のインストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてインストーラーを終了します。



13. Components のインストールが実行されます。処理が終了するまで待機します。



統合インストーラーによるインストールの実行中に [キャンセル] をクリックした場合、そこまで実行されたインストールはロールバックされません。必要な場合には、インストールされたアプリケーションを手動でアンインストールしてください。

14. Components のインストールが終了すると以下のダイアログが表示されます。必要な項目を選択して [完了] をクリックします。

終了後に OS の再起動が必要になる場合があります。

- SmartLauncher のコンテキストメニューを追加する  
 オンの場合、エクスプローラーでファイルを右クリックした際に表示されるメニューに [Elysium] が追加され、ファイルの変換やシナリオの実行を行えるようになります。オンにすると、SmartLauncher を Windows コンテキストメニューに追加します。
- SmartLauncher Plug-in のショートカット設定を行う  
 オンの場合、引き続き SmartLauncher (Plug-in) のショートカット設定を実施できます。SmartLauncher (Plug-in) のショートカット設定については、"3D-SUITE SmartLauncher マニュアル" を参照してください。



[完了] をクリックした際、OS の再起動を求めるダイアログが表示される場合があります

まず、ショートカット設定を行う前にこのダイアログで [はい] をクリックすると、すぐに OS が再起動されてしまい、この時点で設定を行うことができなくなります。

SmartLauncher Plug-in のショートカット設定を行う場合には、再起動を求めるダイアログで [はい] をクリックする前に実行してください。なおショートカット設定を行う前に [はい] をクリックした場合でも、後ほど "3D-SUITE ユーザー設定" から同じ設定を実行できます。

## 2.1.2. 選択インストール



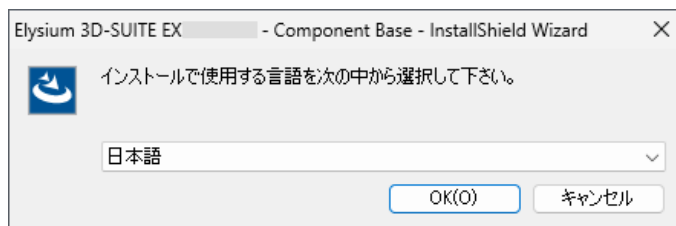
統合インストーラーによるインストールを実施している場合、通常は本手順を実施する必要はありません。

Components インストーラーの並びにあるフォルダー内のインストーラーを実行することで、必要な Component を選択してインストールすることができます。

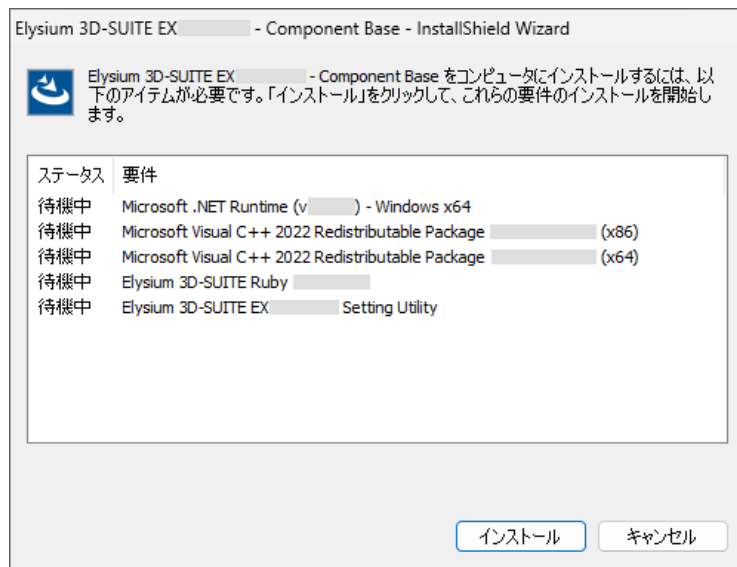
- [3D-SUITE Component Base](#)
  - 3D-SUITE 製品を実行するために必ずインストールする必要があります。
- [3D-SUITE Component Base2](#)
  - 3D-SUITE 製品を実行するために必ずインストールする必要があります。
- [Adapter](#)
  - Adapter ごとにインストールできます。ただし、Adapter のインストールを実行する前に 3D-SUITE Component Base (Base, Base2) をインストールする必要があります。

### Component Base

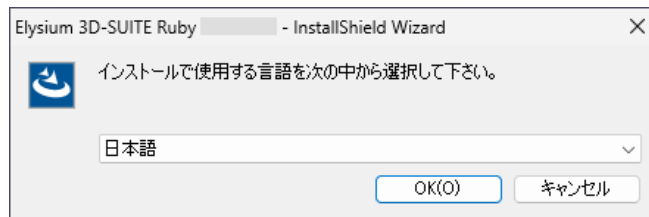
1. インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。



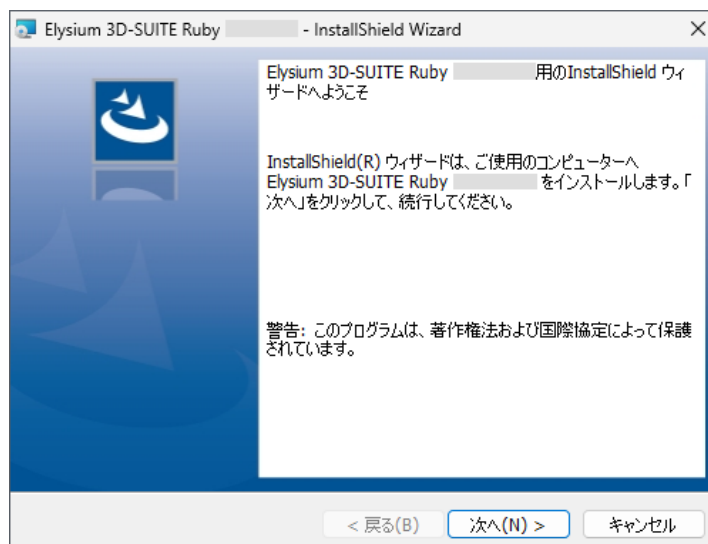
2. 以下のダイアログが表示された場合、[インストール] をクリックしインストールを行います。(すでにインストールされている環境では、このダイアログは表示されません。)



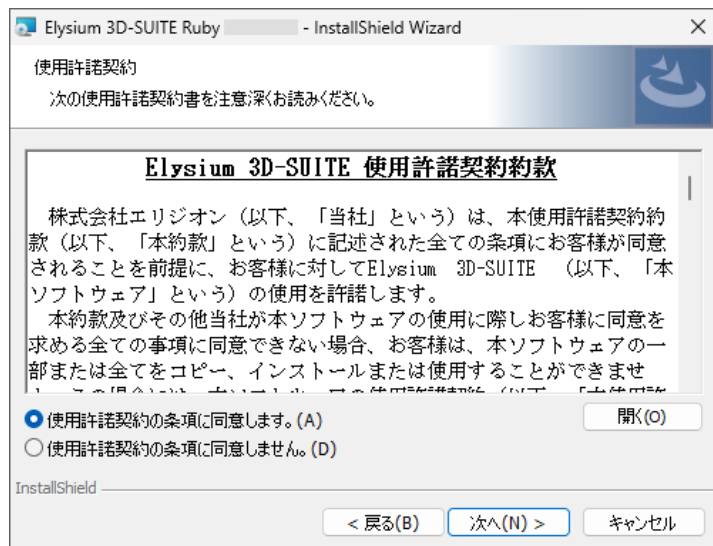
3. Elysium 3D-SUITE Ruby が導入されていない環境の場合、Elysium 3D-SUITE Ruby のインストーラーが起動します。以下の手順でインストールを実行します。すでに Elysium 3D-SUITE Ruby が導入されている場合は、Elysium 3D-SUITE Ruby インストール後の手順へ進んでください。
  - a. インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。



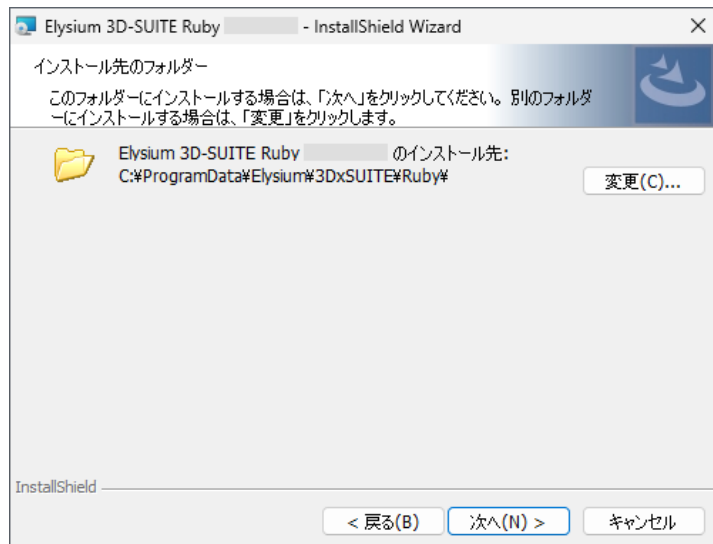
- b. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



- c. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続ける事はできません。

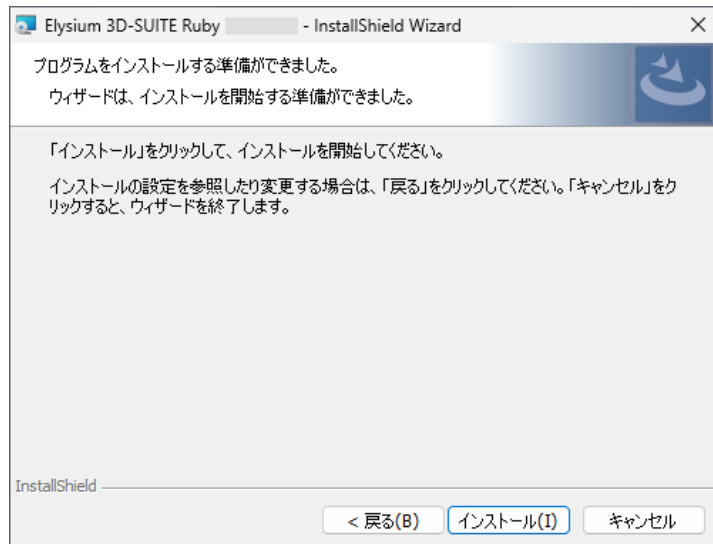


- d. インストール先のフォルダーを指定するダイアログが表示されます。デフォルトのインストール先から変更する場合は、[変更] をクリックして変更先フォルダーを指定します。指定が完了したら [次へ] をクリックします。



インストール先フォルダーのパスは半角英数字および一部の半角記号（「#」「+」「-」「\_」「.」「\$」「/」「:」）のみで構成されるようにしてください。これら以外の文字がパスに含まれている場合にはエラーとなります。

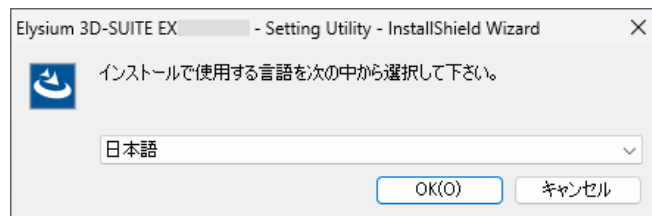
- e. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。



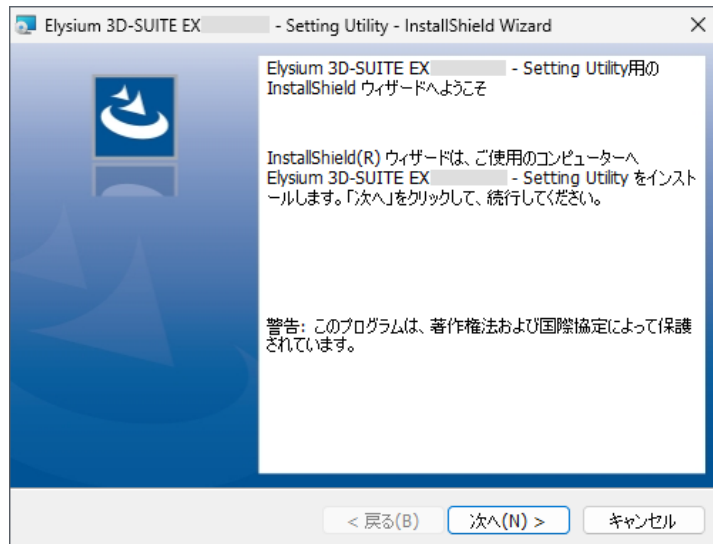
- f. インストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてインストーラーを終了します。



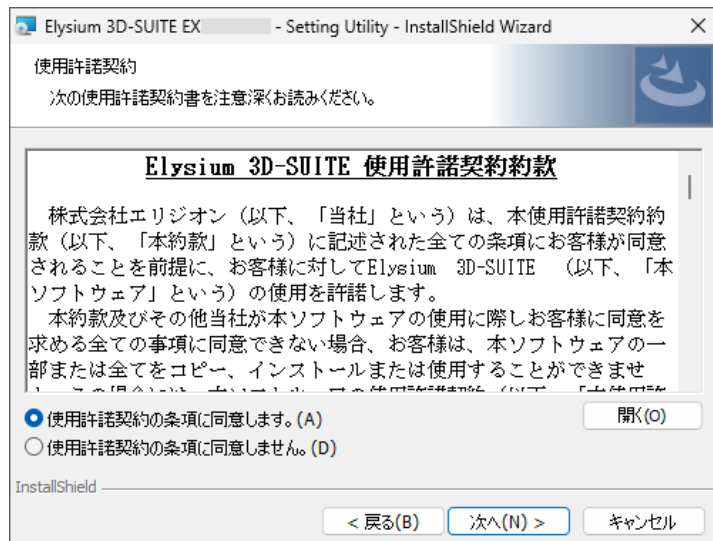
4. Setting Utility がインストールされていない場合、Setting Utility のインストーラーが起動します。以下の手順でインストールを実行します。Setting Utility がすでに導入されている場合は、Setting Utility インストール後の手順へ進んでください。
- a. インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。



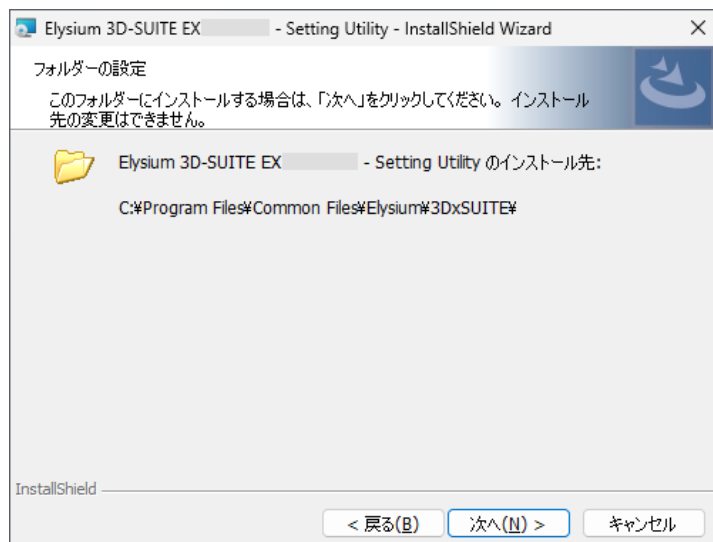
- b. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



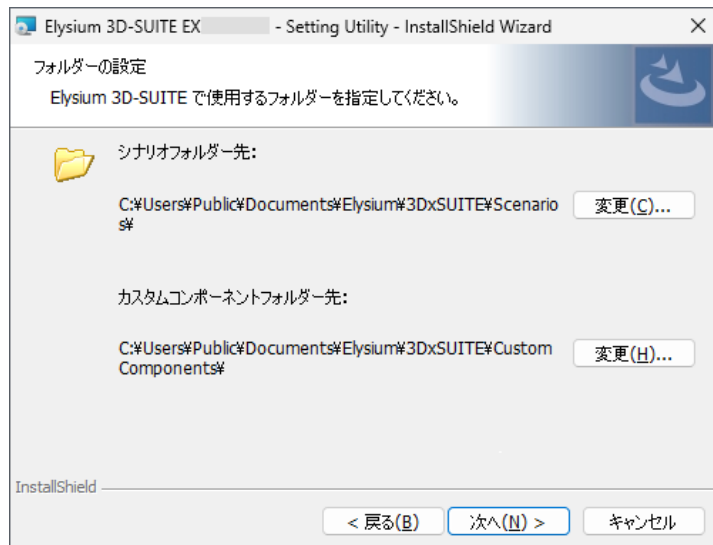
- c. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続ける事はできません。



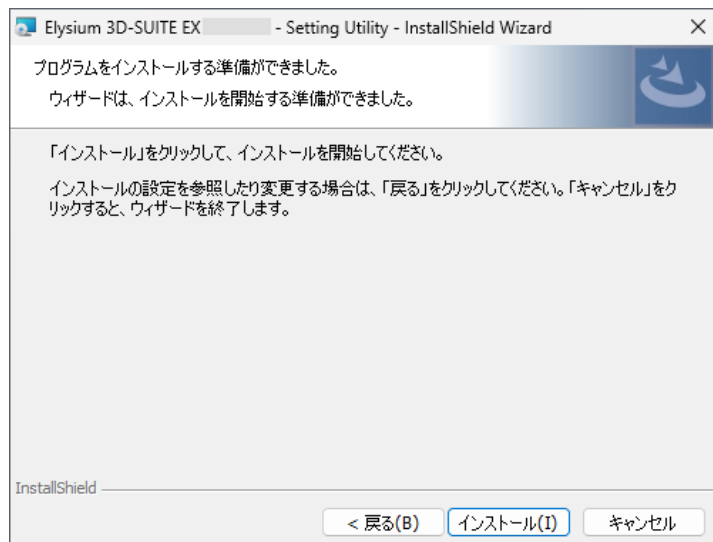
- d. Setting Utility のインストール先を示す画面が表示されます。[次へ] をクリックします。



- e. シナリオフォルダーとカスタムコンポーネントフォルダーを設定する画面が表示されます。必要に応じてフォルダーのパスを変更し、[次へ] をクリックします。



- f. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。



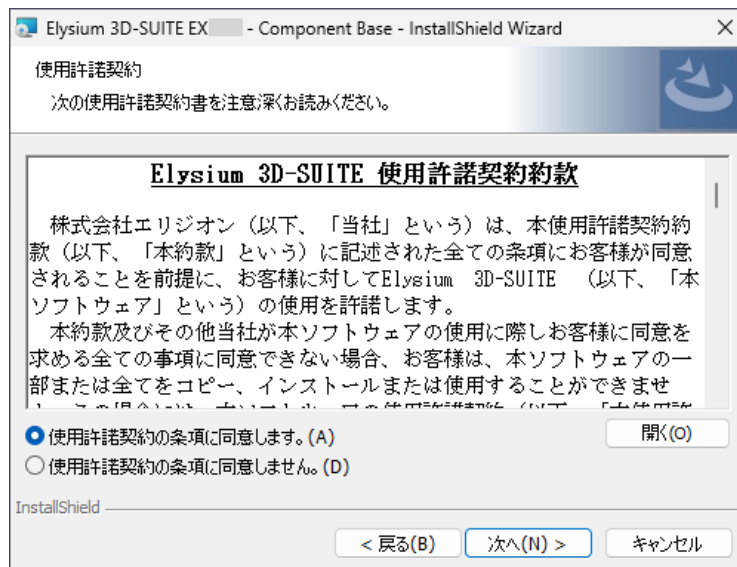
- g. Setting Utility のインストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてインストーラーを終了します。



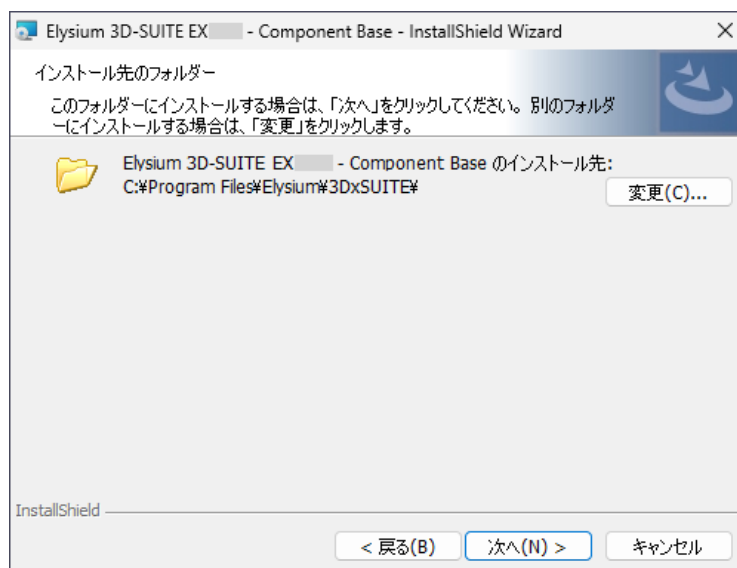
5. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



6. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続けることはできません。

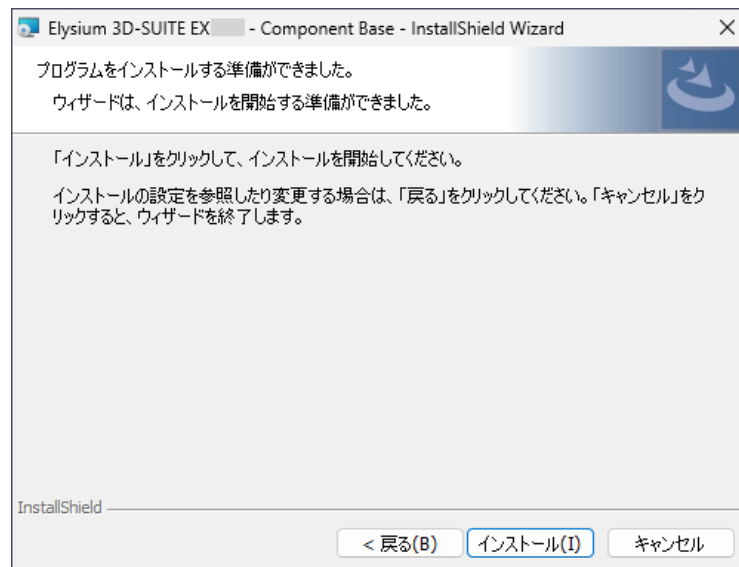


7. インストール先のフォルダーを指定するダイアログが表示されます。デフォルトのインストール先から変更する場合は、[変更] をクリックして変更先フォルダーを指定します。指定が完了したら、[次へ] をクリックします。



- インストール先フォルダーのパスは ASCII 文字のみで構成されるようにしてください。フォルダーパスに非 ASCII 文字が含まれている場合、アプリケーションが想定通りに動作しない場合があります。
- デフォルトのインストールフォルダーより深いパスは指定しないでください。インストールが失敗する可能性があります。

8. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。



9. インストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックします。終了後に OS の再起動が必要になる場合があります。



## Component Base2

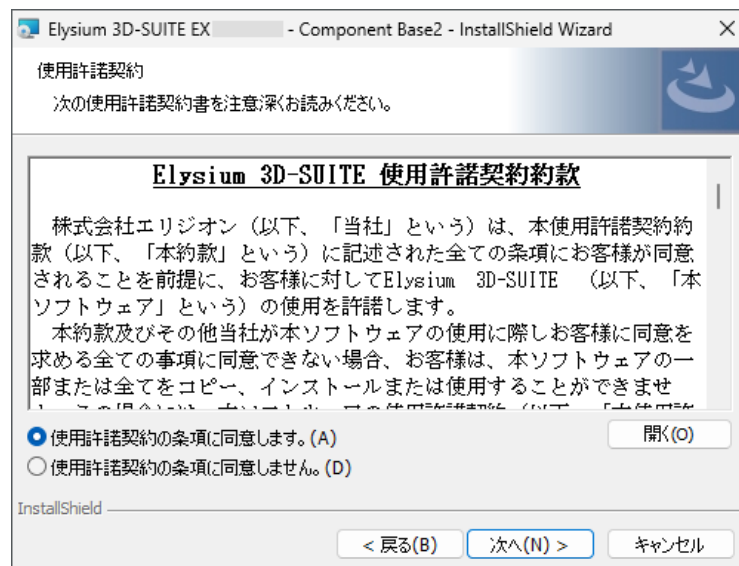
1. インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。



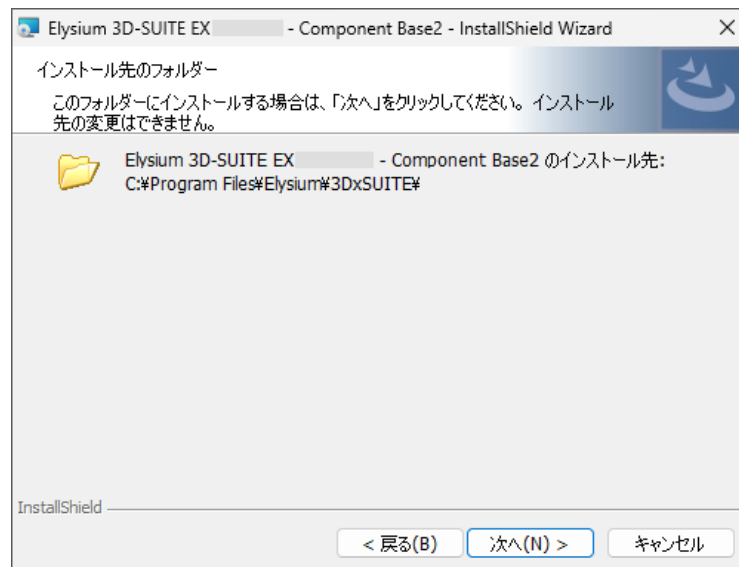
2. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



3. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続けることはできません。



4. インストール先のフォルダーを示すダイアログが表示されます。[次へ] をクリックします。



5. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。

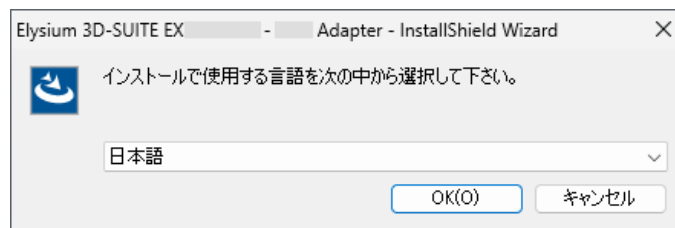


6. インストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックします。終了後に OS の再起動が必要になる場合があります。

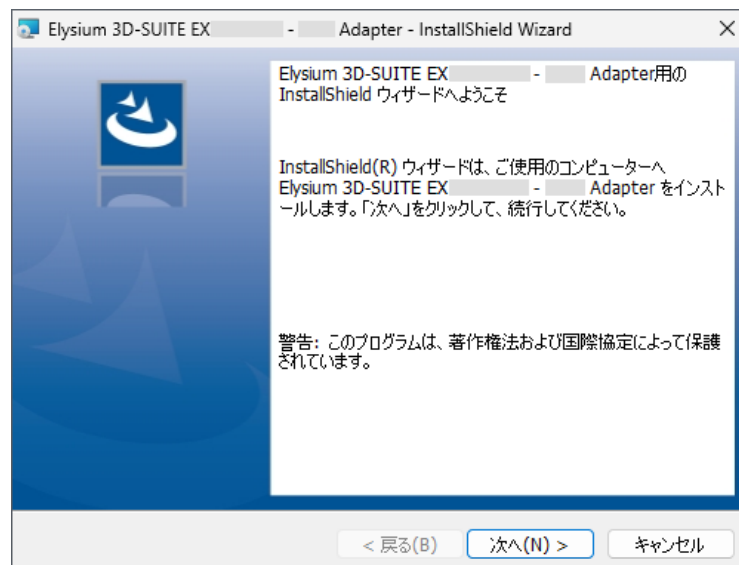


## Adapter

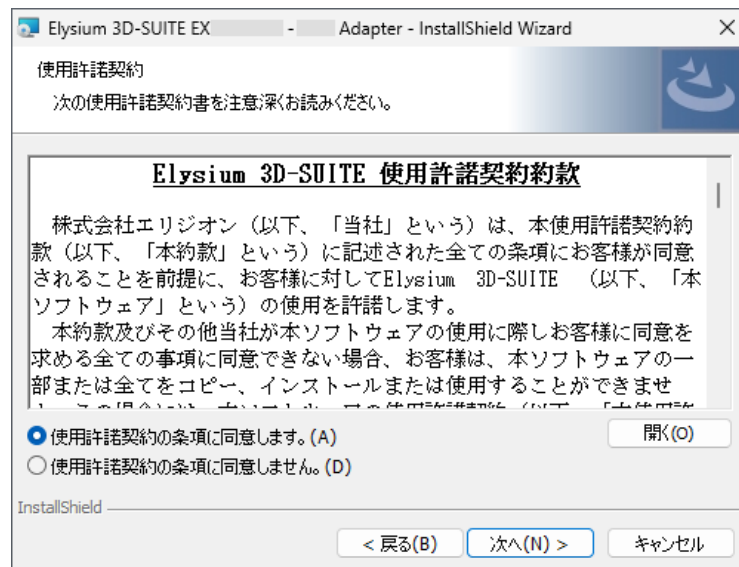
1. インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。



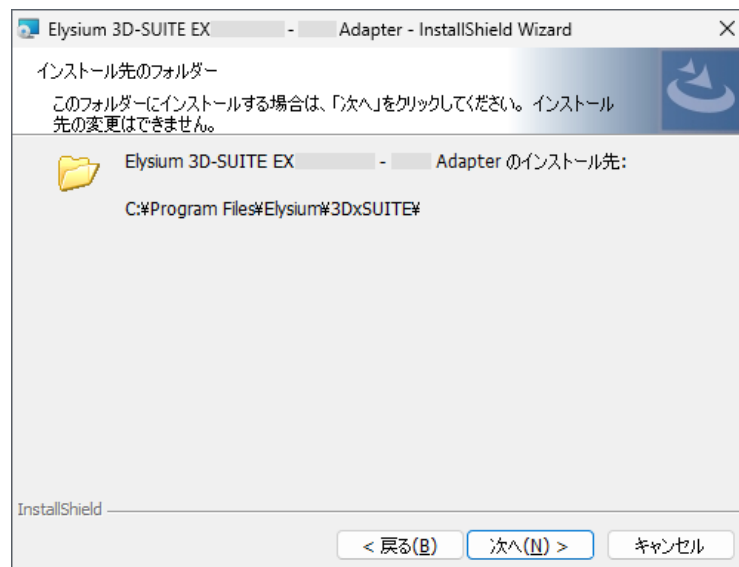
2. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



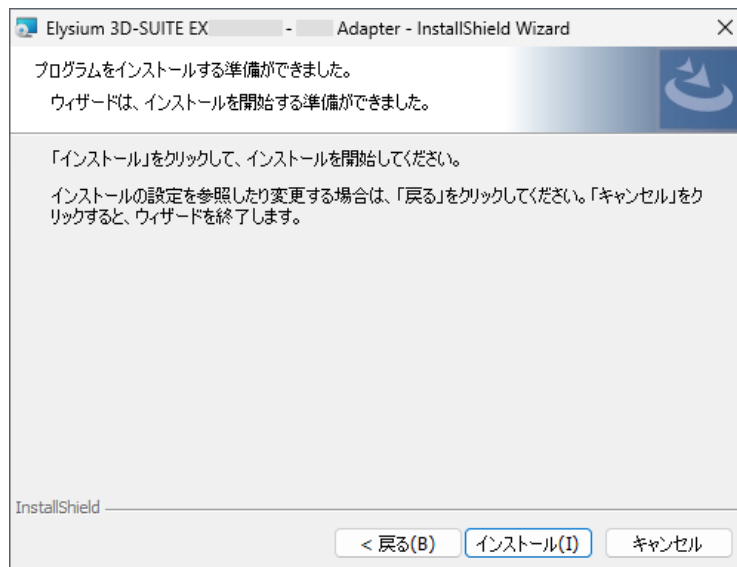
3. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続けることはできません。



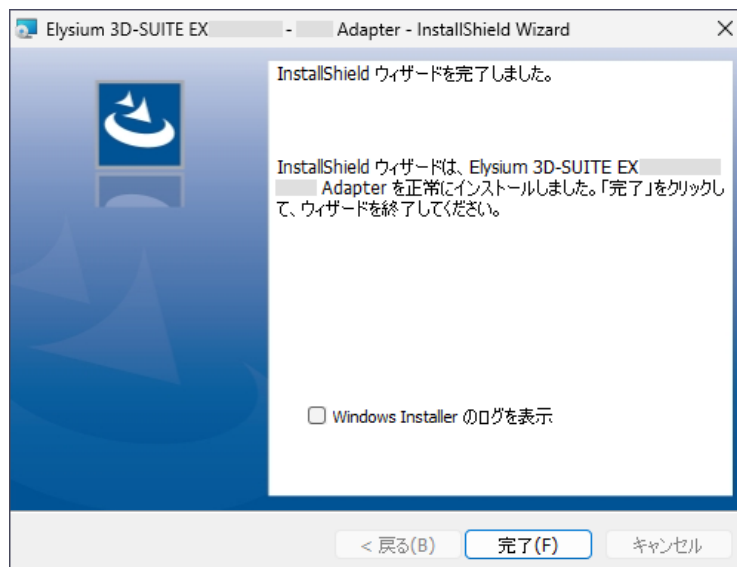
4. インストール先のフォルダーが表示されます。3D-SUITE Component Base で指定したフォルダーにインストールされるため、変更はできません。[次へ] をクリックします。



5. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。



6. インストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックします。終了後に OS の再起動が必要になる場合があります。



### 2.1.3. サイレントインストール

#### 統合インストーラーの場合

管理者として実行したコマンドプロンプトからオプションを引数に指定してインストーラーを実行することにより、Components をユーザーの入力を必要とせずにインストールすることができます。

- インストーラー "Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_Components.exe" は以下のパスにあります。
  - <Components パッケージ>\
- コマンドの形式は以下の通りです。
  - 完全インストール (改行は不要)

```
Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Components.exe /silent
```

```
INSTALLDIR=<任意のフォルダーパス> ELYSIUM_LICENSE_FILE=<ポート番号>@<ホスト名>
```

- カスタムインストール (改行は不要)

```
Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Components.exe /silent
INSTALLDIR=<任意のフォルダーパス> ELYSIUM_LICENSE_FILE=<ポート番号>@<ホスト名> ISFeatureInstall=<インストールするコンポーネント>
```

指定可能なオプションは以下の通りです。

- INSTALLDIR

説明	インストールフォルダーを指定します。
指定可能な値	任意のフォルダーパス
デフォルト値	指定なし (空文字列)
備考	-

- ELYSIUM\_LICENSE\_FILE

説明	ライセンスサーバーの動作しているコンピューターの情報を "<ポート番号>@<ホスト名>" という形式で設定します。
指定可能な値	任意の文字列
デフォルト値	指定なし (空文字列)
備考	-

- /debuglog

説明	インストーラーログを書き出すパスを指定します。本オプションを指定するとログが書き出されます。このオプションはサイレントインストール以外の場合でも使用できます。
指定可能な値	ログファイルのパス ("/debuglog" との間にスペースを入れなくて、パスをダブルクォーテーションで囲って指定してください)
デフォルト値	指定なし (空文字列)
備考	<p>実行例は以下の通りです。</p> <pre>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Components.exe /debuglog"C:\temp\components.log"</pre>

- /tempextractpath

説明	一時ファイルを展開するパスを指定します。なお Python および Ghostscript のインストールに対しては、本オプションを指定しても効果がありません。
指定可能な値	展開先のパス ("/tempextractpath" との間にスペースを入れずに、パスをダブルクォーテーションで囲って指定)
デフォルト値	指定なし (空文字列)
備考	実行例は以下の通りです。 <pre>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Components.exe /tempextractpath"C:\Elysium\temp"</pre>

- ISFeatureInstall

説明	インストールするコンポーネントおよび Utility Tool を指定します。
指定可能な値	インストールするコンポーネントおよび Utility Tool を示す文字列 (複数指定可、コンマ区切り)
デフォルト値	指定なし (空文字列)
備考	このオプションを指定しない場合にはすべてのコンポーネントと Utility Tool がインストールされます。

- CUSTOM\_COMPONENT\_FOLDER\_DIR

説明	カスタムコンポーネントフォルダーを指定します。
指定可能な値	任意のフォルダーパス
デフォルト値	指定なし (空文字列)
備考	-

- SCENARIO\_FOLDER\_DIR

説明	シナリオフォルダーを指定します。
指定可能な値	任意のフォルダーパス
デフォルト値	指定なし (空文字列)
備考	-

- RUBY\_INSTALL\_DIR

説明	Elysium Ruby をインストールするフォルダーを指定します。
指定可能な値	任意のフォルダーパス
デフォルト値	指定なし (空文字列)

備考	-
----	---



Elysium Ruby をインストールするフォルダーのパスは、半角英数字および一部の半角記号（「#」「+」「-」「\_」「.」「\$」「/」「:」）のみで構成されるようにしてください。これら以外の文字がパスに含まれている場合にはエラーとなります。

- SETTING\_COMMON\_DATA\_FOLDER (\*)

説明	本オプションでフォルダーを指定すると、指定フォルダー内のファイル (preference.json および user_environment.bat) がコピーされます。コピー先は下記の "SETTING_CATEGORY" オプションで指定します。
指定可能な値	任意のフォルダーパス
デフォルト値	指定なし (空文字列)
備考	-

- SETTING\_CATEGORY (\*)

説明	上記 "SETTING_COMMON_DATA_FOLDER" オプションを指定した際にコピーされるファイルの保存先を指定します。
指定可能な値	UserCommon もしくは LocalUser
デフォルト値	指定なし (空文字列)
備考	UserCommon を指定すると、ファイルは以下に保存されます。 <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;">%PUBLIC%\Documents\Elysium\3DxSUITE\Config\Common</div> LocalUser を指定すると、ファイルは以下に保存されます。 <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;">%LOCALAPPDATA%\Elysium\3DxSUITE\Config\Common</div>

- SETTING\_SL\_DATA\_FOLDER (\*)

説明	本オプションで指定されたフォルダー内にあるファイル (sl_preference_v1.json) が、インストール対象のコンピューターにコピーされます。
指定可能な値	任意のフォルダーパス
デフォルト値	指定なし (空文字列)

備考	ファイルは以下に保存されます。 <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;">           %LOCALAPPDATA%\Elysium\3DxSUITE\Config\SmartLauncher         </div>
----	--



(\*) "SETTING\_COMMON\_DATA\_FOLDER"、"SETTING\_CATEGORY"、"SETTING\_SL\_DATA\_FOLDER" は、3つのパラメーターがすべて設定されているときにのみ有効です。

コンポーネント、Utility Tools、ランタイムに対応する設定用文字列は以下の通りです。CB および SLB は必ず指定してください。インストールするコンポーネント間で共通する設定用文字列がある場合、その文字列は1度だけ指定してください。(コマンドの例を参照してください)

コンポーネントおよび Utility Tools	設定用文字列
3D-SUITE Component Base	CB
3D-SUITE Component Base2	CB2
3D-SUITE SmartLauncher Base	SLB
ScenarioEditor	SE
3DEXPERIENCE Adapter	DEXP
SmartLauncher (3DEXPERIENCE Plug-in)	DEXP,DEX_SL
CATIA V5 (Plug-in) Adapter	V5P
SmartLauncher (CATIA V5 Plug-in)	V5P,V5_SL
Creo Elements/Direct Adapter	CREDP
Creo Parametric (Plug-in) Adapter	CRPP
SmartLauncher (Creo Parametric Plug-in)	CRPP,CRP_SL
Inventor Adapter	AIP
NX (Plug-in) Adapter	NXP
SmartLauncher (NX Plug-in)	NXP,NX_SL
NX I-deas Adapter	IDEP
SOLIDWORKS (Plug-in) Adapter	SWP
SmartLauncher (SOLIDWORKS Plug-in)	SWP,SW_SL
3D PDF Adapter	PDFS
3DXML Adapter	XMLS
ACIS Adapter	ACISS

コンポーネントおよび Utility Tools	設定用文字列
CADmeister Adapter	CDMS
CATIA V4 Adapter	V4S
CATIA V5 (Standalone) Adapter	V5S
Creo Parametric(Standalone) Adapter	CRPS
Creo View Adapter	CVS
HTML Adapter	HTMLS
iCAD Adapter	ICADS
IGES Adapter	IGESS
JT Adapter	JTS
Nastran Adapter	NSTRS
NX (Standalone) Adapter	NXS
OBJ Adapter	OBJS
Parasolid Adapter	PARS
PLM XML Adapter	PLXMS
PointCloud Adapter	POCLS
QIF Adapter	QIFS
Solid Edge Adapter	SEP
SOLIDWORKS(Standalone) Adapter	SWS
STEP Adapter	STPS
STEP XML Adapter	STPBS
STL Adapter	STLS
VRML Adapter	VRMLS
XPDMXML Adapter	XPDXMS
XVL Adapter	XVLS
Python	PYTHON
Creo Parametric Drawing Adapter	CRPPD
DWG Drawing Adapter	DWGSD
Inventor Drawing Adapter	AIPD
NX Drawing Adapter	NXPD

コンポーネントおよび Utility Tools	設定用文字列
SOLIDWORKS Drawing Adapter	SWPD

コマンドの例:

- 完全インストール (改行は不要)

```
Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Components.exe /silent INSTALLDIR="C:\\Program Files\\Elysium\\Components" ELYSIUM_LICENSE_FILE=27000@Server
```

- カスタムインストール (改行は不要)

```
Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Components.exe /silent INSTALLDIR="C:\\Program Files\\Elysium\\Components" ELYSIUM_LICENSE_FILE=27000@Server  
ISFeatureInstall=CB,SLB,V5P,V5_SL,STPS
```



- Python スクリプトによるカスタマイズが可能なコンポーネントを使用する場合に必要となる Python は、公式サイトで配布されているインストーラーを利用してサイレントインストールすることもできます。Python スクリプトによるカスタマイズが可能なコンポーネントは以下の通りです。
  - DFX Analyzer
  - DFX Reporter
  - PMI Checker
- Drawing Validator を使用する場合に必要となる Ghostscript は、サイレントインストールに対応していません。必要に応じて手動でインストールしてください。

## ライセンスサーバー上のライセンスを参照して設定用文字列を出力する方法

ライセンスサーバーに登録されているライセンスの情報を参照して、有効なライセンスがあるコンポーネントに対応する設定用文字列を出力することができます。手順は以下の通りです。

1. 以下のファイルを、サイレントインストールを実行するコンピューター上の任意のフォルダーにコピーします。

```
<Installer パッケージ>\Silent-Installation\ComponentListCreator.exe  
<Installer パッケージ>\Silent-Installation\rzlstat.exe
```

2. コマンドプロンプトを起動し、手順 1 でファイルをコピーしたフォルダーに移動します。
3. 以下のコマンドを実行します。

```
ComponentListCreator.exe /LicenseFile:<ポート番号>@<ホスト名>
```

- <ホスト名>: ライセンスサーバーのホスト名を指定します。
- <ポート番号>: ライセンスサーバーのポート番号を指定します。

コマンドの実行に成功すると、以下のような文字列が出力されます。この結果は、リダイレクトを用いてテキストファイルに出力することもできます。

```
ISFeatureInstall=CB,SLB,DEXP,CVS,HTMLS,V5XP,XVLS
```

この文字列をコピーして、以下の例のようにサイレントインストール用コマンドを作成し、実行してください。

```
Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Components.exe /silent INSTALLDIR="C:\\Program  
Files\\Elysium\\Components" ELYSIUM_LICENSE_FILE=27000@Server  
ISFeatureInstall=CB,SLB,DEXP,CVS,HTMLS,V5XP,XVLS
```

### 個別の Component インストーラーの場合

管理者として実行したコマンドプロンプトからオプションを引数に指定してインストーラーを実行することにより、各 Component をユーザーの入力を必要とせずにインストールすることができます。

- 各 Component のインストーラーは以下のパスにあります。
  - <Components パッケージ>\<Component 名>

- コマンド例は以下の通りです。ここでは 3D PDF Adapter を例として記載していますが、他の Component についても同様です。

```
Elysium_3D-SUITE_EX11_0_3D_PDF_Adapter.exe /s /v"/l* \"C:\temp\install.log\"
/qn"
```

サイレントインストールの際にインストーラーに渡すコマンド引数の一覧は以下の通りです。

コマンド引数	説明	必須 / 任意
/s	インストールをサイレントモードで実行します。	必須
/v	<p>/v"&lt;引数1&gt;&lt;引数2&gt; …" という形式で以下の引数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• /l* \"&lt;ログファイル&gt;\" : ログファイルのパスを指定します。"/l*" とファイル名の間に半角スペースが必要です。</li> <li>• /qn : ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。</li> <li>• /qn+ : インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。</li> </ul>	任意



- 3D-SUITE Component Base インストーラーをサイレントインストールで実行した場合、処理の終了後に OS が再起動される場合があります。ご注意ください。
- Setting Utility インストーラーをサイレントインストールで実行し、INSTALLDIR プロパティを用いてインストール先をデフォルトのパスから変更した場合、EX11.0 よりも前の 3D-SUITE Component が正常に動作しなくなります。ご注意ください。

## 2.2. アンインストール手順



アンインストールは管理者権限のあるユーザーで実行してください。

### 2.2.1. 手動アンインストール

#### 統合インストーラーでインストールした場合

1. Windows の [スタート] メニューから [設定] を選択します。
2. [アプリ] を選択します。
3. "アプリと機能" に表示されたアプリケーションの一覧から、"Elysium 3D-SUITE EX11.0 - Components" を選択して、アンインストールを実行します。

#### 個別の Component インストーラーでインストールした場合



以下は 3D PDF Adapter を例として記載していますが、他の Component も同様です。

1. Windows の [スタート] メニューから [設定] を選択します。
2. [アプリ] を選択します。
3. "アプリと機能" に表示されたアプリケーションの一覧から、"Elysium 3D-SUITE EX11.0 - 3D PDF Adapter" を選択して、アンインストールを実行します。

## 2.2.2. サイレントアンインストール

### 統合インストーラーでインストールした場合

管理者として実行したコマンドプロンプトから以下の通りオプションを引数に指定してインストーラーを実行することにより、Components をユーザーの入力を必要とせずアンインストールすることができます。

コマンドの例:

```
Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Components.exe /silent /remove
```



"/debuglog" オプションを指定することもできます。オプションの詳細については、[こちら](#) を参照してください。

### 個別の Component インストーラーでインストールした場合

管理者として実行したコマンドプロンプトから以下の通りオプションを引数に指定してインストーラーを実行することにより、各 Component をユーザーの入力を必要とせずにアンインストールすることができます。

- コマンド例は以下の通りです。ここでは 3D PDF Adapter を例として記載していますが、他の Component についても同様です。

```
Elysium_3D-SUITE_EX11_0_3D_PDF_Adapter.exe /s /x /v"/l* \"C:\temp\uninstall.log\" /qn"
```

## 2.3. CADmeister 独立型入出力オプション

CADmeister 独立型入出力オプションを使用するには、<Module for CADmeister パッケージ> 内の CRESTAM フォルダを、Components をインストールしたドライブのルートフォルダにコピーします。(例: C:\CRESTAM)



3D-SUITE EX10.0 以前の CRESTAM フォルダと、Components EX11.0 を組み合わせることはできません。3D-SUITE EX11.0 の CRESTAM フォルダと Components EX11.0 を組み合わせご利用ください。

なお、複数のバージョンの Components でそれぞれ CADmeister 独立型入出力オプションを使用したい場合は、各バージョンの Components を別々のドライブに導入し、それらのドライブのルートに対応する CRESTAM フォルダを配置する必要があります。

## 3. Elysium 3D-SUITE Viewer

### 事前にインストールする必要があるプログラム

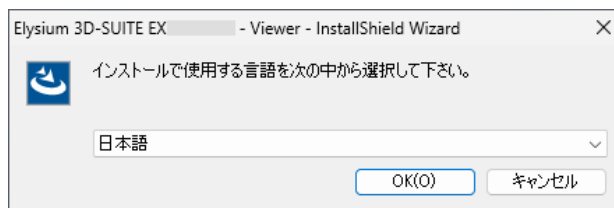
- なし

### 3.1. インストール手順

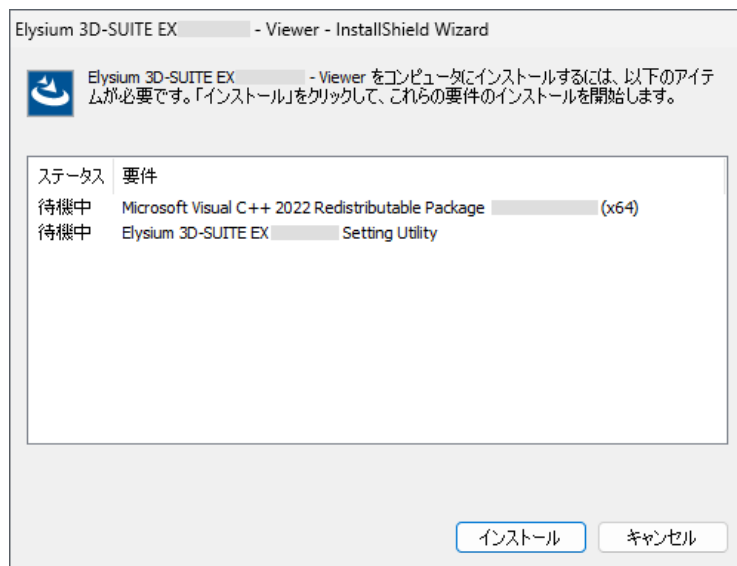
**i** インストールは管理者権限のあるユーザーで実行してください。

#### 3.1.1. 手動インストール

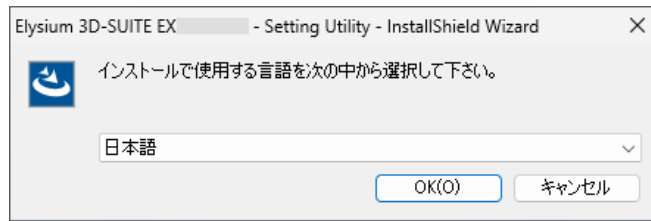
- Viewer のインストーラーを実行します。
  - インストーラーが含まれるフォルダー: <Viewer パッケージ>
  - インストーラー: Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_Viewer.exe
- インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。



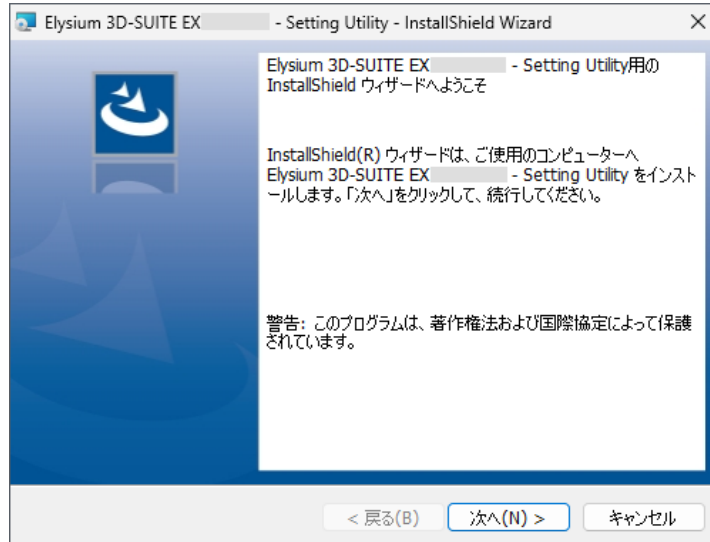
- このダイアログが表示された場合、[インストール] をクリックしてインストールを行います。(すでにインストールされている環境では、このダイアログは表示されません。)



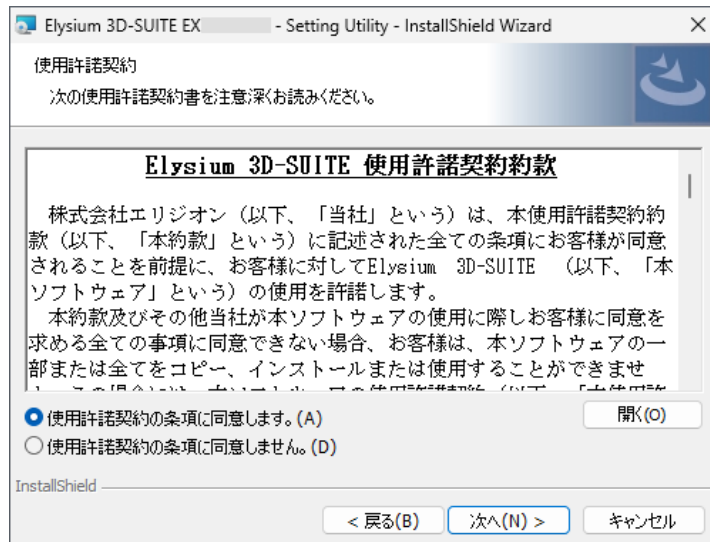
- Setting Utility がインストールされていない場合、Setting Utility のインストーラーが起動します。以下の手順でインストールを実行します。Setting Utility がすでに導入されている場合は、Setting Utility インストール後の手順へ進んでください。
  - インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。



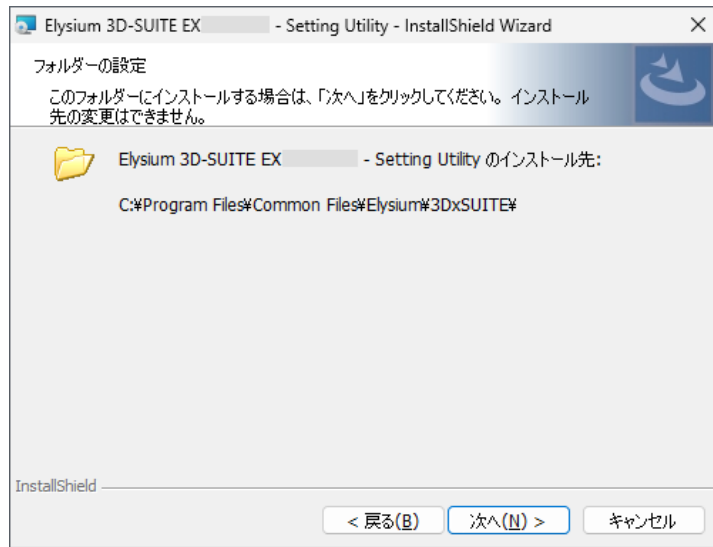
- b. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



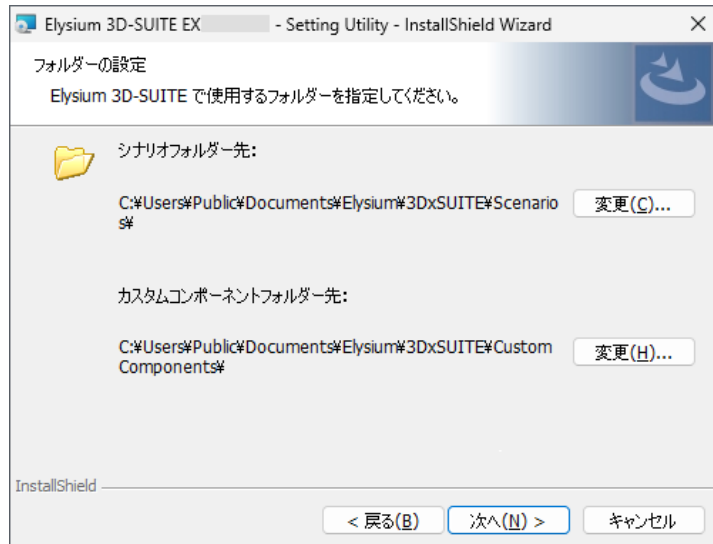
- c. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続ける事はできません。



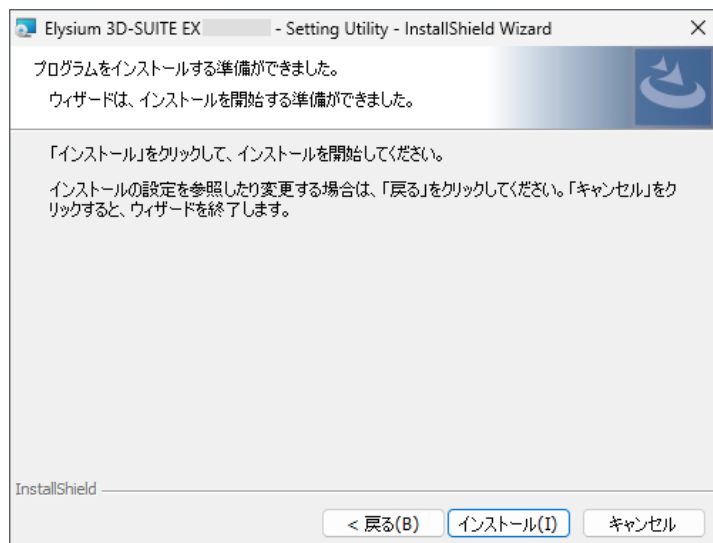
- d. Setting Utility のインストール先を示す画面が表示されます。[次へ] をクリックします。



- e. シナリオフォルダーとカスタムコンポーネントフォルダーを設定する画面が表示されます。必要に応じてフォルダーのパスを変更し、[次へ] をクリックします。



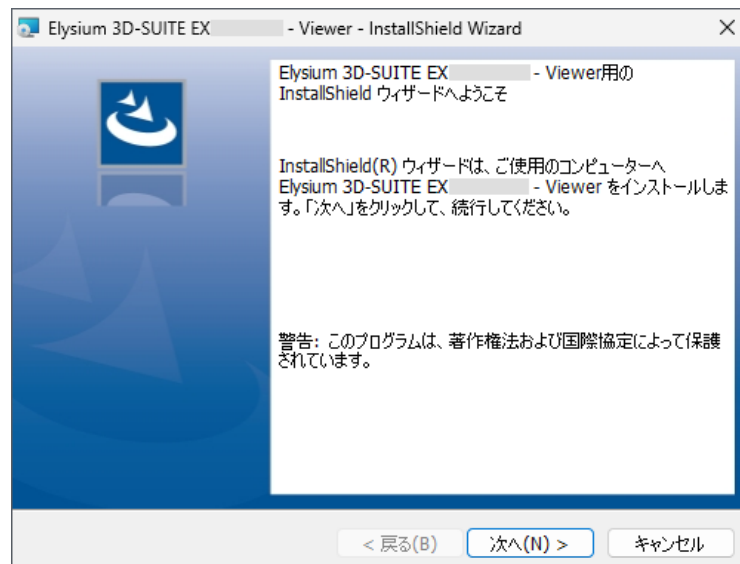
- f. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。



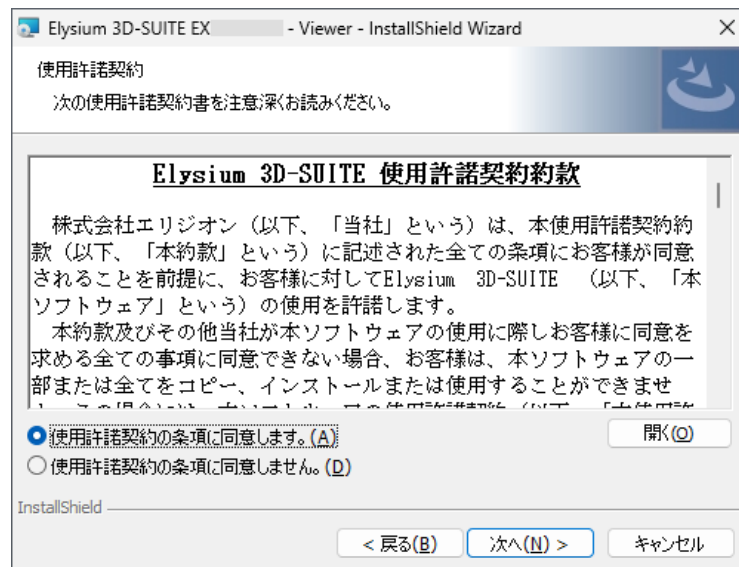
- g. Setting Utility のインストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてインストーラーを終了します。



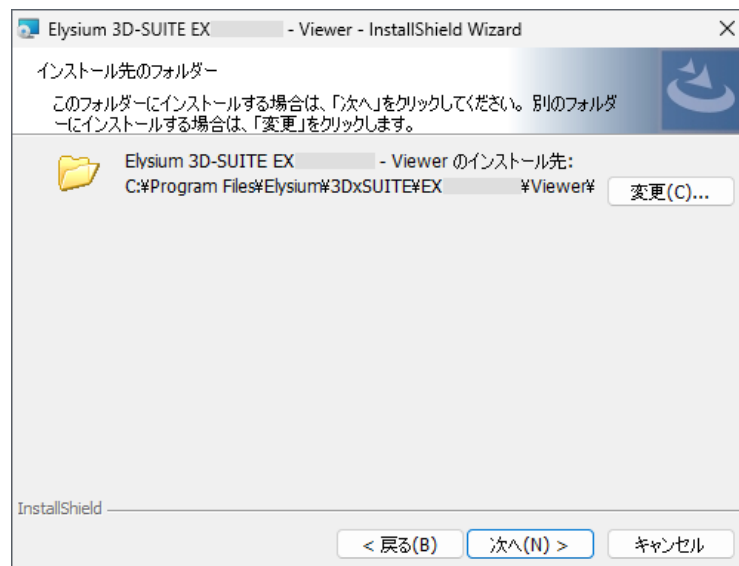
5. Viewer のインストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



6. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択してから [次へ] をクリックします。

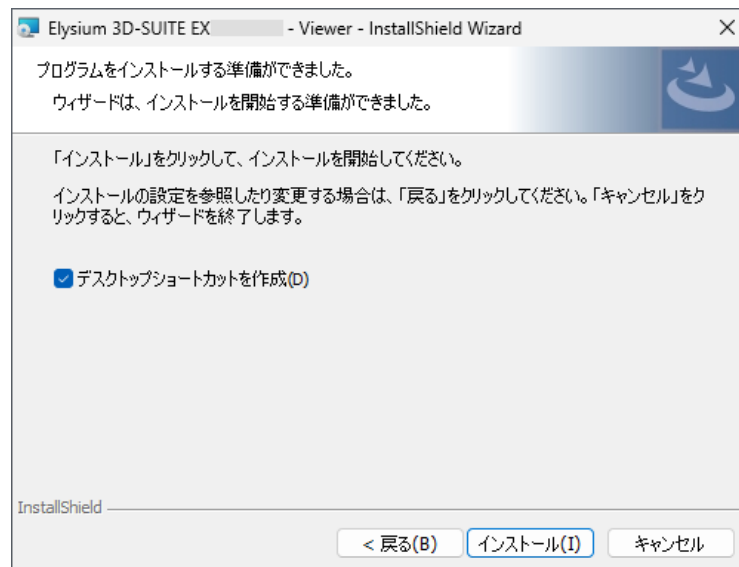


7. インストール先のフォルダーを指定するダイアログが表示されます。デフォルトのインストール先から変更する場合は、[変更] をクリックして変更先フォルダーを指定します。指定が完了したら、[次へ] をクリックします。



インストール先フォルダーのパスは ASCII 文字のみで構成されるようにしてください。フォルダーパスに非 ASCII 文字が含まれている場合、アプリケーションが想定通りに動作しない場合があります。

8. 以下のダイアログが表示されます。デスクトップショートカットを作成しない場合はチェックを外します。[インストール] をクリックしてインストールを開始します。



9. インストールが終了すると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてダイアログを閉じます。



### 3.1.2. サイレントインストール

コマンドにて Viewer の新規導入やアップグレードを行うことができます。実行コマンドについては、以下のコマンド例とコマンド引数の説明をご参照ください。

- コマンド例

```
Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Viewer.exe /s /v"/l* "C:\temp\install.log"
INSTALLDIR="C:\Program Files\Elysium\3D-SUITE\EX11.0\Viewer\" /qn"
```

サイレントインストールを実行する際にインストーラーに渡すコマンド引数の一覧は以下の通りです。

コマンド引数	説明	必須 / 任意
/s	インストールをサイレントモードで実行します。	必須
/v	<p>/v"&lt;引数1&gt;&lt;引数2&gt; …" という形式で以下の引数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• /l* \&lt;ログファイル&gt;": ログファイルのパスを指定します。"/l*" とファイル名の間で半角スペースが必要です。</li> <li>• INSTALLDIR=\&lt;インストールフォルダー&gt;": インストール先のフォルダーを指定します。インストール時のみ指定が可能です。</li> <li>• /qn: ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。</li> <li>• /qn+: インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。</li> </ul>	任意

## 3.2. 起動手順

Windows スタートメニューから [3D-SUITE Viewer EX11.0] を選択します。



## 3.3. 終了手順

メニューの [ファイル] - [アプリケーションの終了] を選択するか、ウインドウを閉じて終了してください。

## 3.4. アンインストール手順

### 3.4.1. 手動アンインストール

1. Windows スタートメニューから [設定](ギアマーク) を選択します。
2. [アプリ] を選択します。
3. "アプリと機能" に表示されたアプリケーションの一覧から、"Elysium 3D-SUITE EX11.0 - Viewer" を選択して、アンインストールを実行します。

### 3.4.2. サイレントアンインストール

コマンドでサイレントアンインストールを行うことができます。現在導入されているバージョンのインストーラーが必要です。

## • コマンド例

```
Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Viewer.exe /s /x /v"/l* \"C:\temp\uninstall.log\" /qn"
```

サイレントアンインストールを実行する際にインストーラーに渡すコマンド引数の一覧です。

コマンド引数	説明	必須 / 任意
/s	アンインストールをサイレントモードで実行します。	必須
/x	アンインストールを実行します。	必須
/v	<p>/v"&lt;引数1&gt;&lt;引数2&gt; …" という形式で以下の引数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• /l* \"&lt;ログファイル&gt;\" : ログファイルのパスを指定します。"/l*" とファイル名の間には半角スペースが必要です。</li><li>• /qn : ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。</li><li>• /qn+ : インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。</li></ul>	任意

## 4. Elysium 3D-SUITE Editor

事前にインストールする必要があるプログラム

- [Components](#)

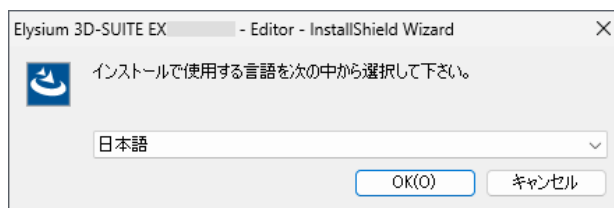
### 4.1. インストール手順



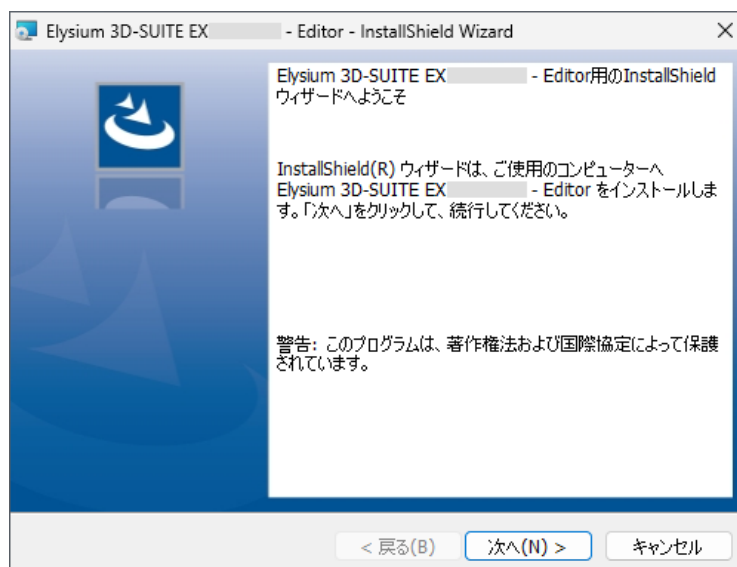
インストールは管理者権限のあるユーザーで実行してください。  
事前にインストールする必要があるプログラムがインストールされていない場合、  
実行が中止されます。

#### 4.1.1. 手動インストール

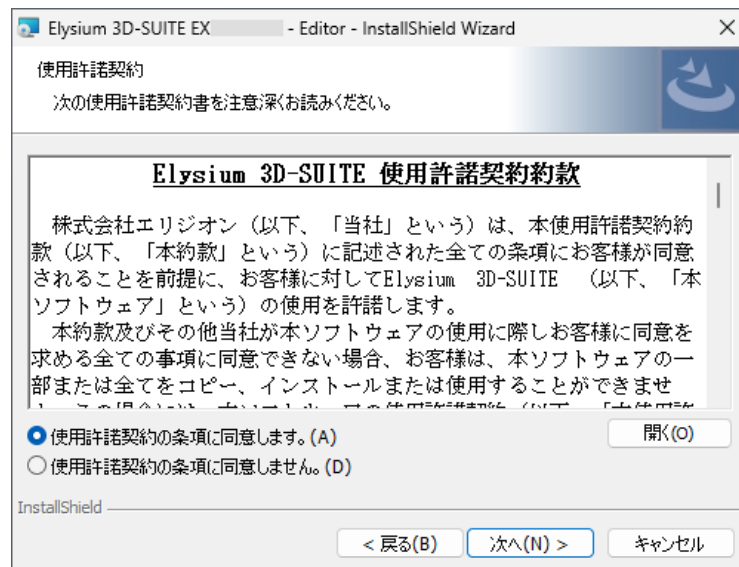
1. Editor のインストーラーを実行します。
  - インストーラーが含まれるフォルダー: <Editor パッケージ>\
  - インストーラー: Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_Editor.exe
2. インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。



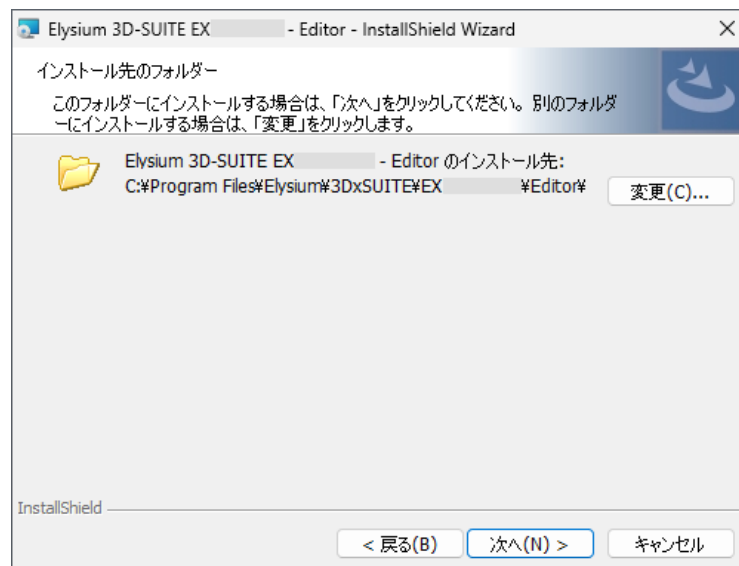
3. Editor のセットアップ画面が表示されます。[次へ] をクリックします。



4. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続けることはできません。

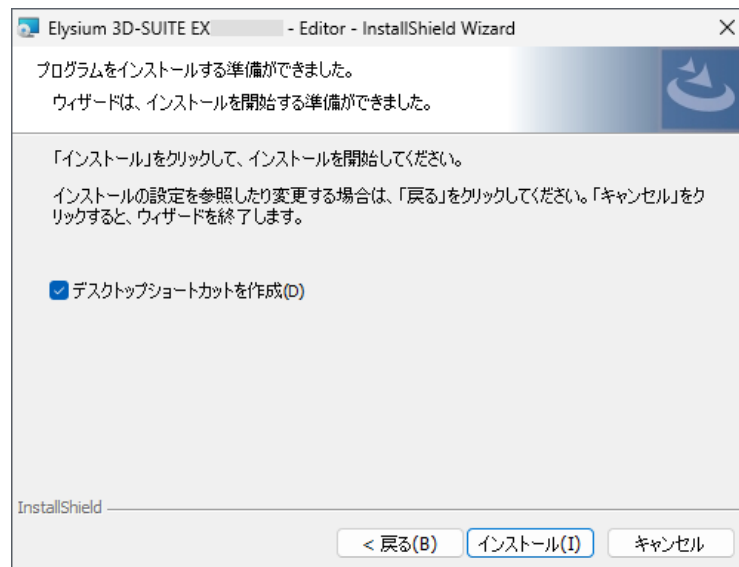


5. インストール先のフォルダーを指定するダイアログが表示されます。デフォルトのインストール先から変更する場合は、[変更] をクリックして変更先フォルダーを指定します。指定が完了したら、[次へ] をクリックします。

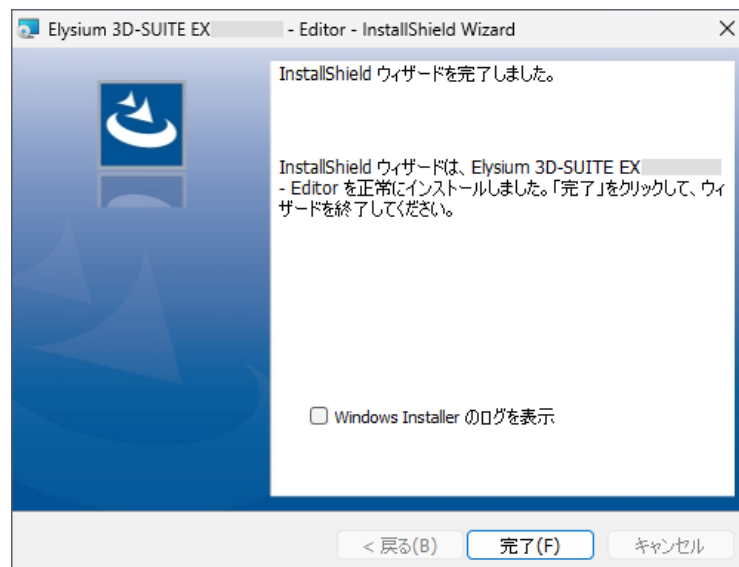


インストール先フォルダーのパスは ASCII 文字のみで構成されるようにしてください。フォルダーパスに非 ASCII 文字が含まれている場合、アプリケーションが想定通りに動作しない場合があります。

6. 以下のダイアログが表示されます。デスクトップショートカットを作成しない場合はチェックを外した上で、[インストール] をクリックしてインストールを開始します。



7. インストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてダイアログを閉じます。



#### 4.1.2. サイレントインストール

コマンドを実行して UI を表示せずに Editor の新規導入やアップグレードを行うことができます。実行コマンドについては、以下のコマンド例とコマンド引数の説明を参照してください。

- コマンド例

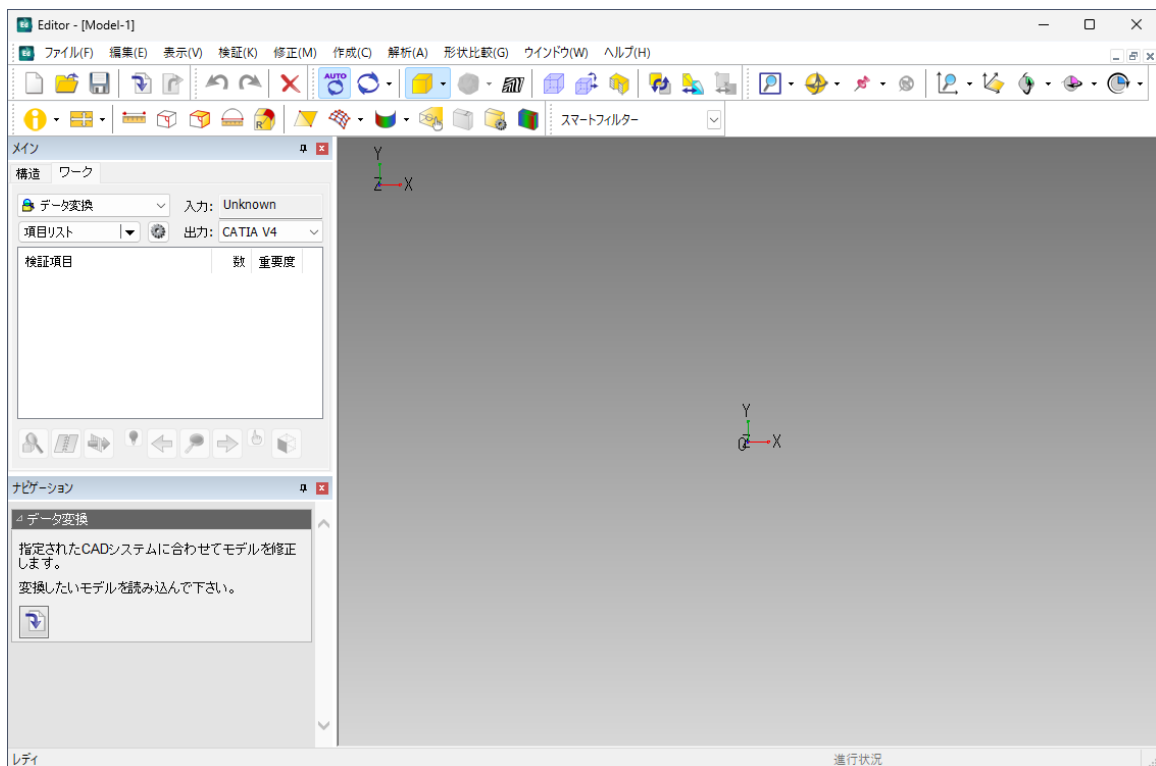
```
Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Editor.exe /s /v"/l* "C:\temp\install.log"
INSTALLDIR="C:\Program Files\Elysium\3DxSUITE\EX11.0\Editor\" /qn
```

サイレントインストールの際にインストーラーに渡すコマンド引数の一覧は以下の通りです。

コマンド引数	説明	必須 / 任意
/s	インストールをサイレントモードで実行します。	必須
/v	<p>/v"&lt;引数1&gt;&lt;引数2&gt; …" という形式で以下の引数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• /!*\&lt;ログファイル&gt;": ログファイルのパスを指定します。"!/*" とファイル名の間に半角スペースが必要です。</li> <li>• INSTALLDIR="\&lt;インストールフォルダー&gt;": インストール先のフォルダーを指定します。インストール時のみ指定が可能です。</li> <li>• /qn: ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。</li> <li>• /qn+: インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。</li> </ul>	任意

## 4.2. 起動手順

Windows スタートメニューから [Elysium 3D-SUITE Editor] - [3D-SUITE Editor EX11.0] を選択し、Editor を起動してください。



Editor を最初に起動する前に 3D-SUITE ユーザー設定を起動し、入出力する CAD に関する設定を実施しておくことを推奨します。

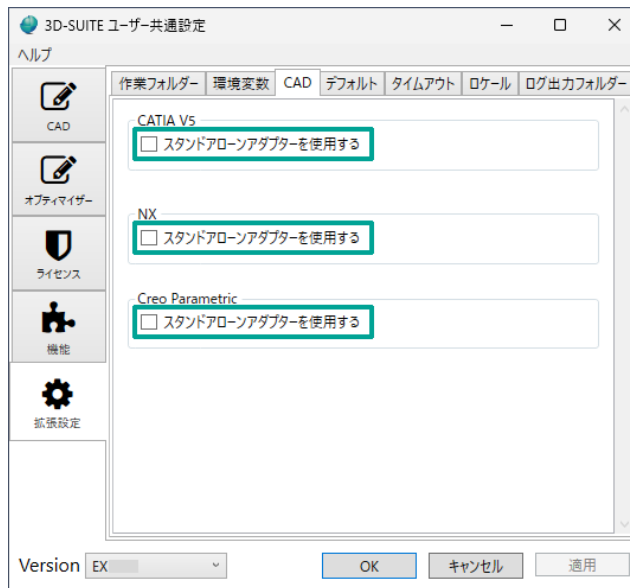


3D-SUITE ユーザー設定は、Windows スタートメニューから [Elysium 3D-SUITE] - [3D-SUITE ユーザー共通設定] または [Elysium 3D-SUITE] - [3D-SUITE ローカルユーザー設定] を選択することで起動します。

以下の CAD 形式のファイルを Editor にドラッグ & ドロップした場合、既定の設定では Plug-in Adapter が使用されます。

- CATIA V5
- NX
- Creo Parametric

このため Plug-in Adapter のライセンスを保有していない場合にはライセンスに関するエラーが発生します。これらの CAD 形式のファイルをドラッグ & ドロップした際に Plug-in Adapter ではなく Standalone Adapter が使用されるようにするためには、"3D-SUITE 設定" で "スタンドアロンアダプターを使用する" をオンにしてください。



## 4.3. 終了手順

メニューから [ファイル] - [アプリケーションの終了] を選択して終了してください。

## 4.4. アンインストール手順

### 4.4.1. 手動アンインストール

1. Windows スタートメニューから [設定](ギアマーク) を選択します。
2. [アプリ] を選択します。
3. "アプリと機能" に表示されたアプリケーションの一覧から、"Elysium 3D-SUITE EX11.0 - Editor" を選択して、アンインストールを実行します。

### 4.4.2. サイレントアンインストール

サイレントアンインストールを行うためのコマンドは以下の通りです。現在導入されているバージョ

ンのインストーラーが必要です。詳細については、以下のコマンド例とコマンド引数の説明を参照してください。

- コマンド例

```
Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Editor.exe /s /x /v"/l* "C:\temp\uninstall.log\" /qn"
```

サイレントアンインストールを実行する際にインストーラーに渡すコマンド引数の一覧です。

コマンド引数	説明	必須 / 任意
/s	アンインストールをサイレントモードで実行します。	必須
/x	アンインストールを実行します。	必須
/v	<p>/v"&lt;引数1&gt;&lt;引数2&gt; …" という形式で以下の引数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• /l* \"&lt;ログファイル&gt;\" : ログファイルのパスを指定します。"/l*" とファイル名の間には半角スペースが必要です。</li> <li>• /qn : ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。</li> <li>• /qn+ : インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。</li> </ul>	任意

## 5. Elysium 3D-SUITE SmartLauncher

事前にインストールする必要があるプログラム

- なし

### 5.1. インストール手順



"Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_Components.exe" を用いて Components をインストールした場合、SmartLauncher も同時にインストールされます。この場合は、SmartLauncher を個別にインストールする必要はありません。

以下は、"Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_Components.exe" を用いずに、各コンポーネントと SmartLauncher を個別にインストールする場合の手順になります。

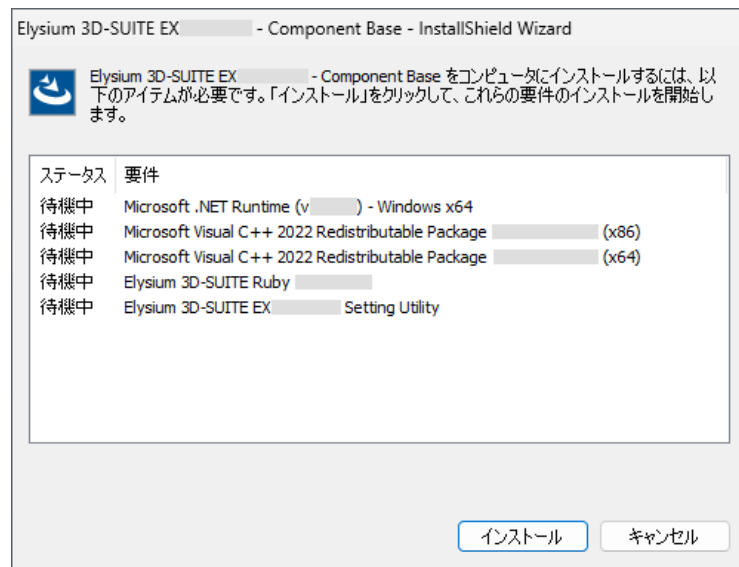
インストールは管理者権限のあるユーザーで実行してください。

#### 5.1.1. SmartLauncher (Standalone) の手動インストール

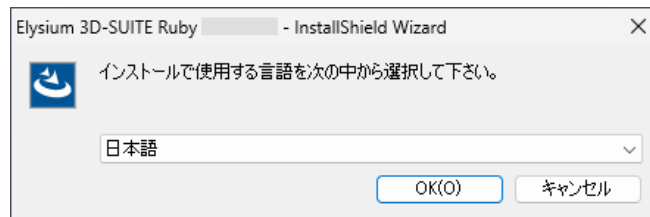
- "3D-SUITE Component Base" のインストーラーを実行します。"3D-SUITE Component Base" をすでにインストールしている場合は "Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_SmartLauncher\_Base.exe" を実行する手順に進んでください。
  - インストーラーが含まれるフォルダー: <Components パッケージ>\Component\_Base\
  - インストーラー: Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_Component\_Base.exe
- インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。日本語と英語が選択可能です。



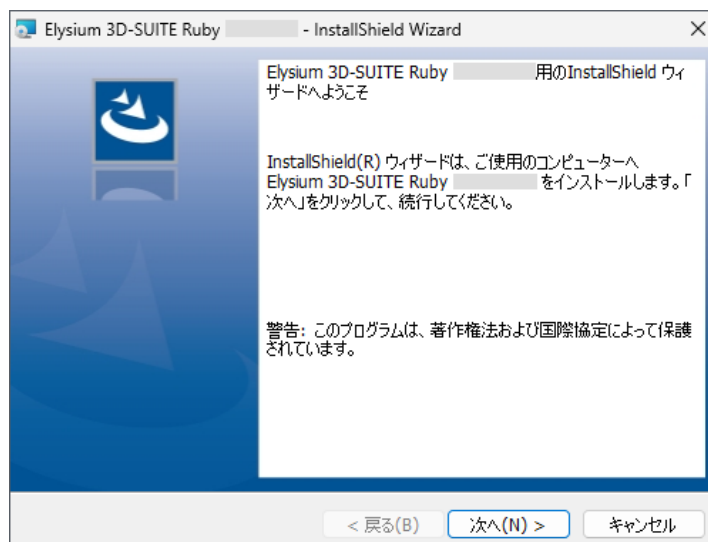
- このダイアログが表示された場合、[インストール] をクリックします。



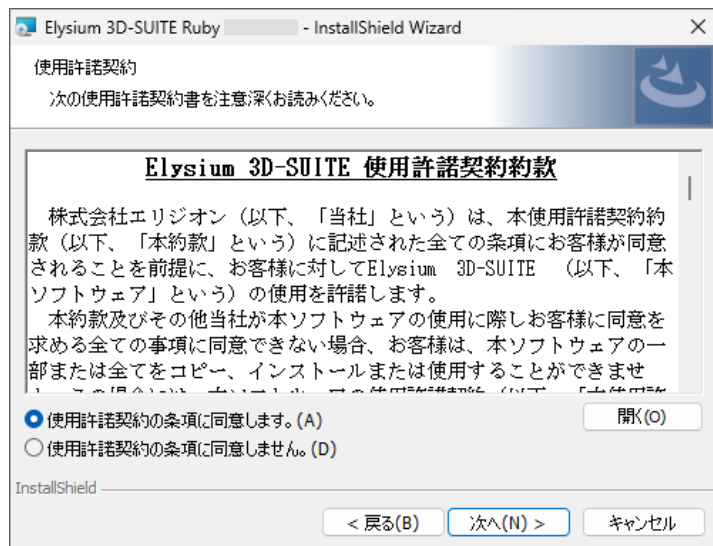
4. Elysium 3D-SUITE Ruby が導入されていない環境の場合、Elysium 3D-SUITE Ruby のインストーラーが起動します。以下の手順でインストールを実行します。すでに Elysium 3D-SUITE Ruby が導入されている場合は、Elysium 3D-SUITE Ruby インストール後の手順へ進んでください。
- インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。



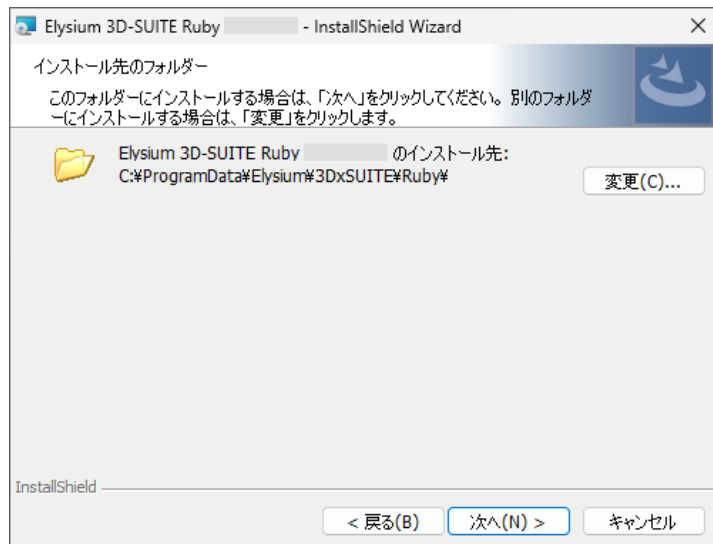
- インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



- 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続ける事はできません。

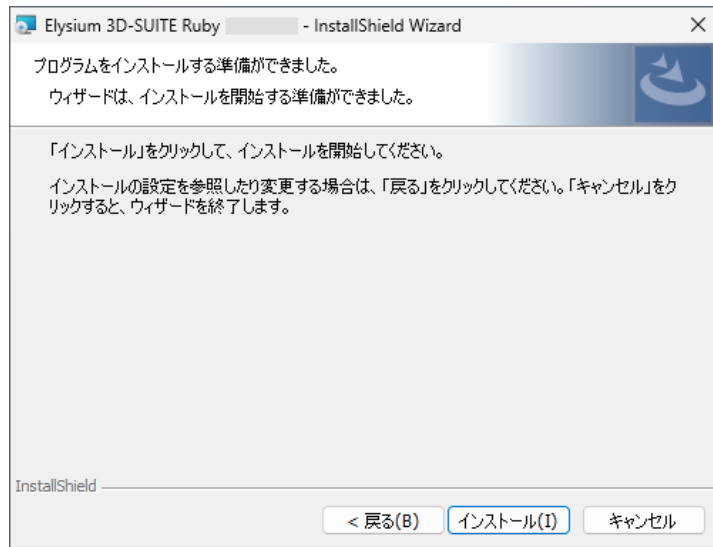


- d. インストール先のフォルダーを指定するダイアログが表示されます。デフォルトのインストール先から変更する場合は、[変更] をクリックして変更先フォルダーを指定します。指定が完了したら [次へ] をクリックします。



インストール先フォルダーのパスは半角英数字および一部の半角記号（「#」「+」「-」「\_」「.」「\$」「/」「:」）のみで構成されるようにしてください。これら以外の文字がパスに含まれている場合にはエラーとなります。

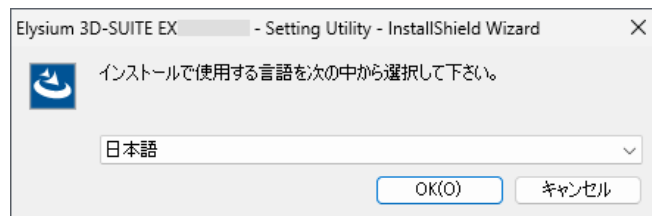
- e. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。



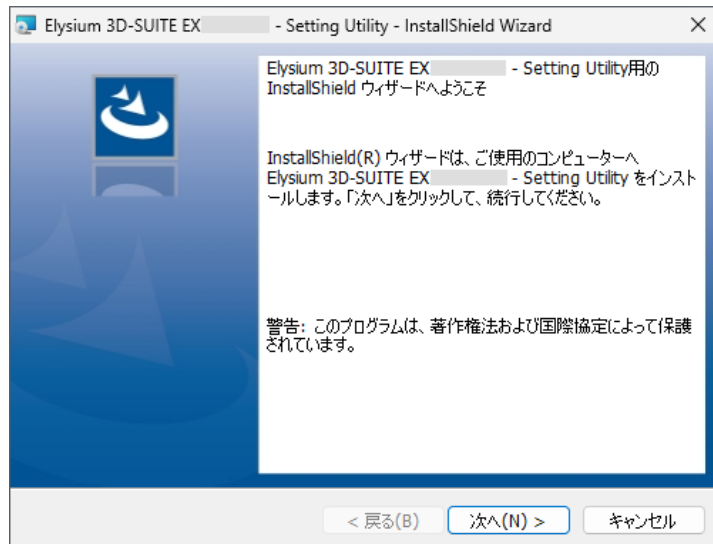
- f. インストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてインストーラーを終了します。



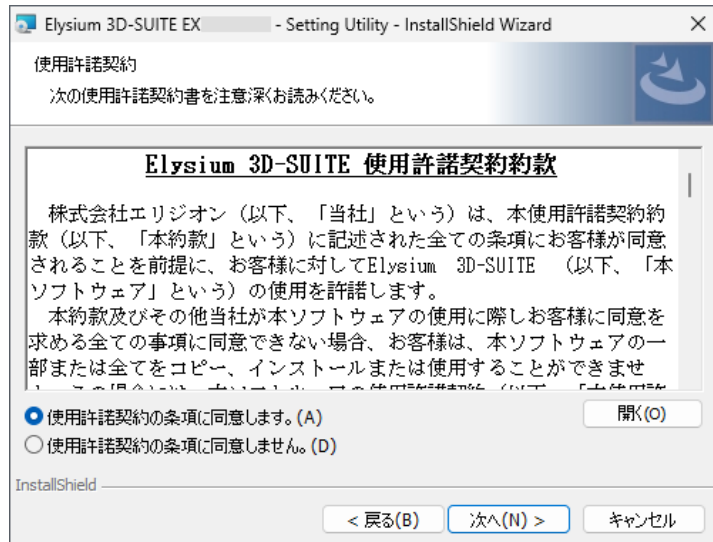
5. Setting Utility がインストールされていない場合、Setting Utility のインストーラーが起動します。以下の手順でインストールを実行します。Setting Utility がすでに導入されている場合は、Setting Utility インストール後の手順へ進んでください。
- a. インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。



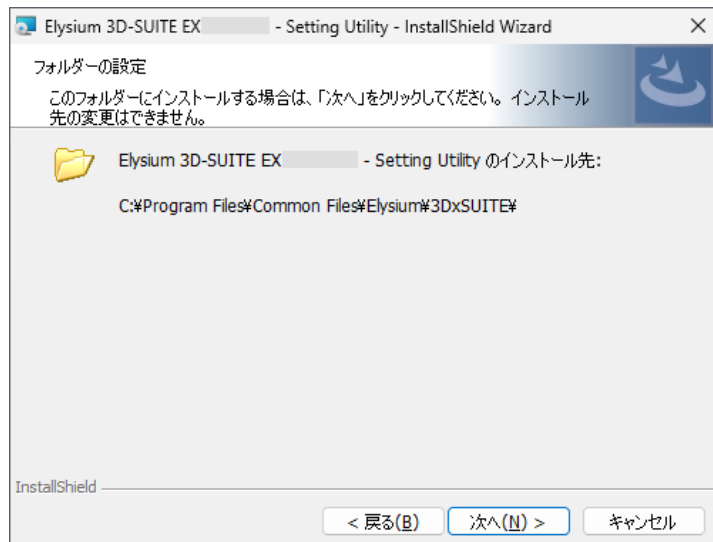
- b. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



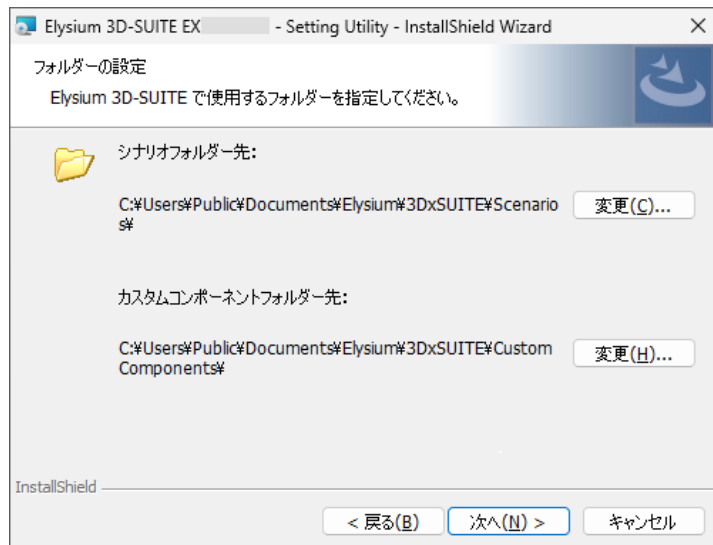
- c. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続ける事はできません。



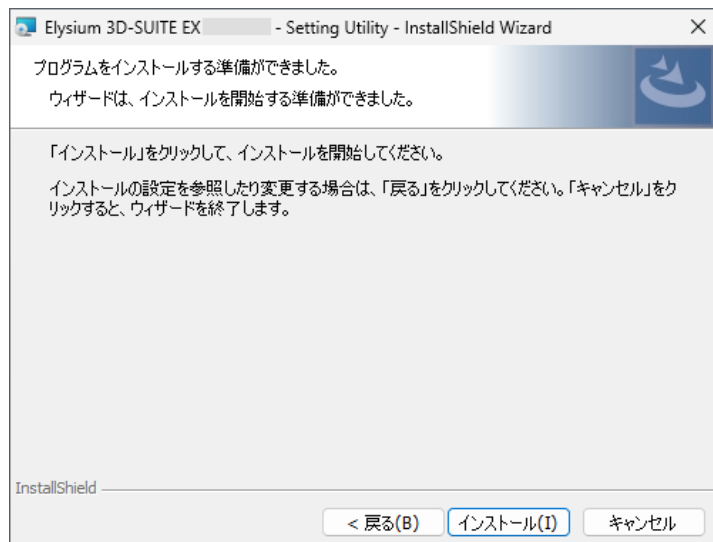
- d. Setting Utility のインストール先を示す画面が表示されます。[次へ] をクリックします。



- e. シナリオフォルダーとカスタムコンポーネントフォルダーを設定する画面が表示されます。必要に応じてフォルダーのパスを変更し、[次へ] をクリックします。



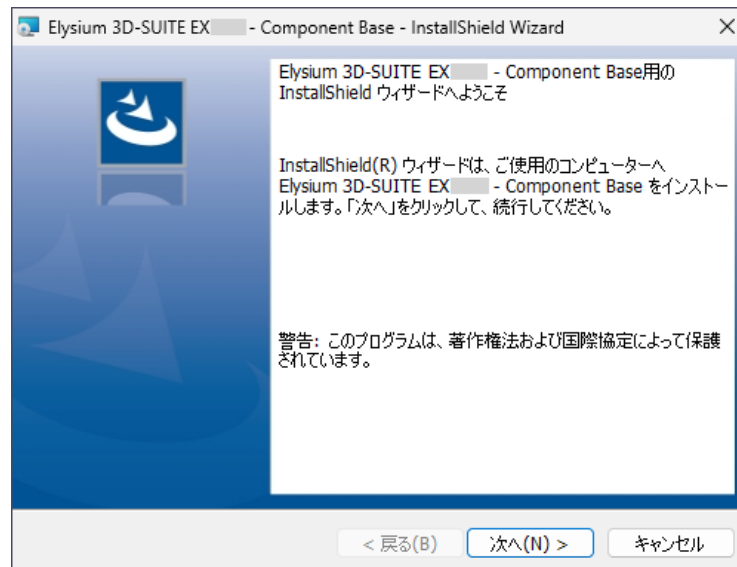
- f. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。



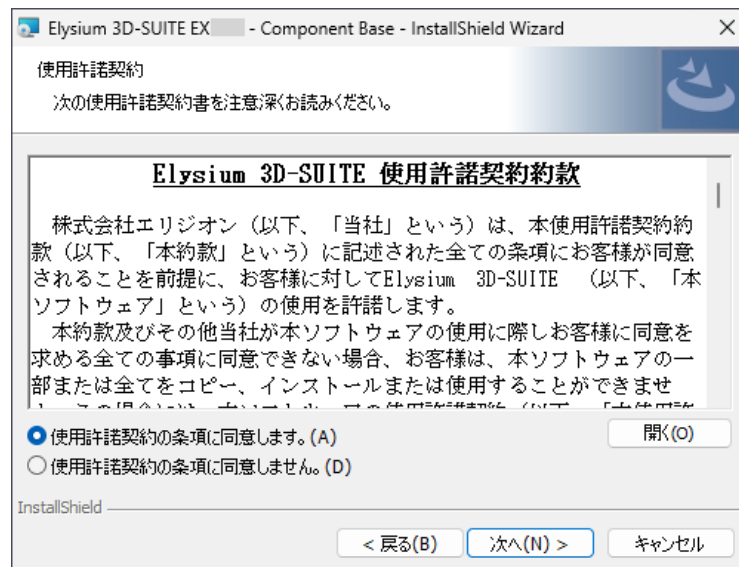
- g. Setting Utility のインストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてインストーラーを終了します。



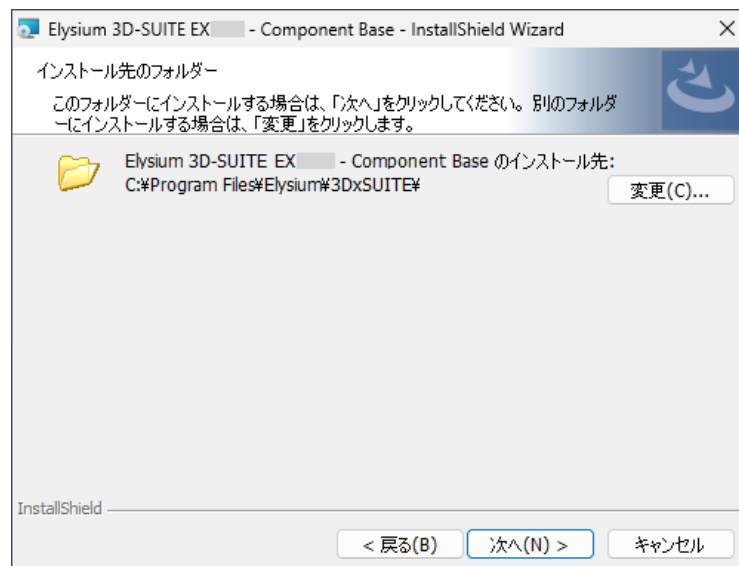
6. "3D-SUITE Component Base" のインストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



7. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続けることはできません。

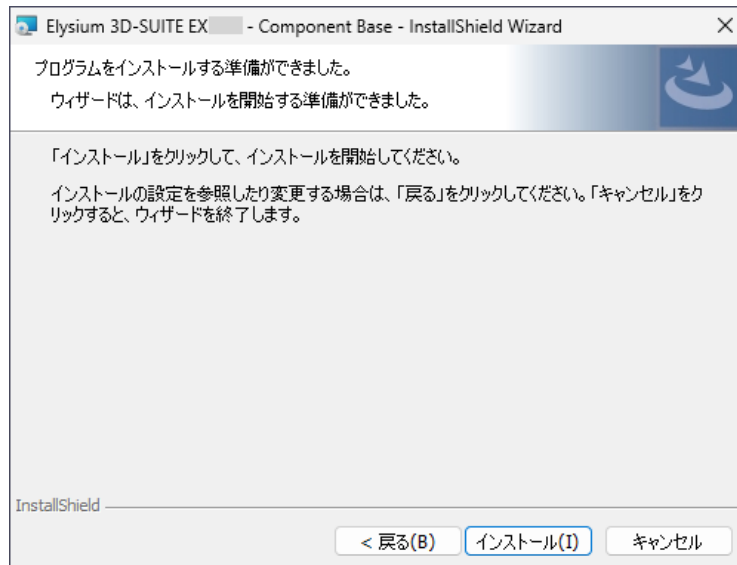


8. インストール先のフォルダーを指定するダイアログが表示されます。デフォルトのインストール先から変更する場合は、[変更] をクリックして変更先フォルダーを指定します。指定が完了したら [次へ] をクリックします。



インストール先フォルダーのパスは ASCII 文字のみで構成されるようにしてください。フォルダーパスに非 ASCII 文字が含まれている場合、アプリケーションが想定通りに動作しない場合があります。

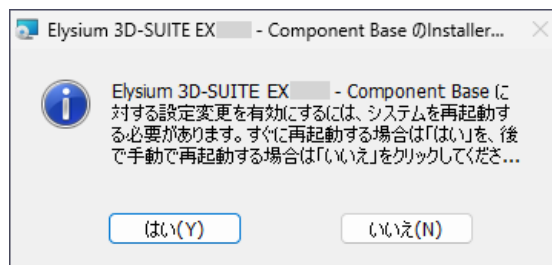
9. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。



10. インストールが終了すると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックして "3D-SUITE Component Base" のインストールを終了します。



11. 再起動を求めるダイアログが表示された場合には、OS を再起動します。



12. 続いて、"3D-SUITE Component Base2" のインストーラーを実行します。

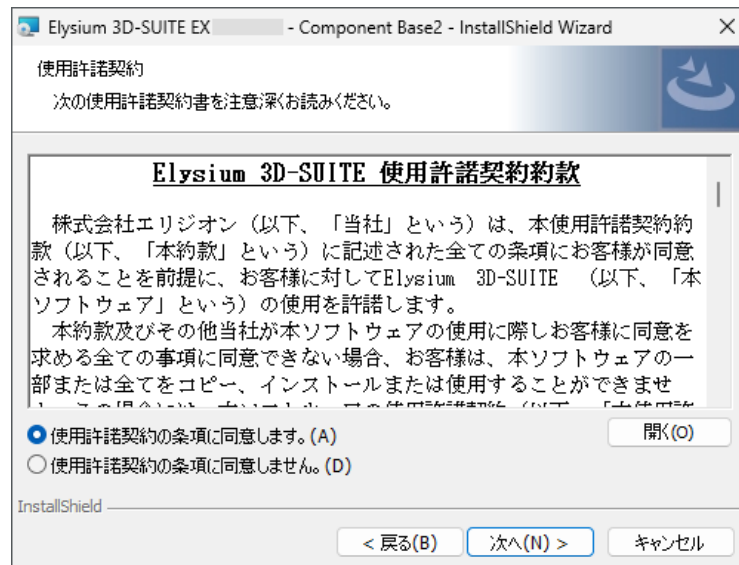
- インストーラーが含まれるフォルダー: <Components パッケージ>\Component\_Base2\
- インストーラー: Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_Component\_Base2.exe

13. "3D-SUITE Component Base2" のインストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックしま

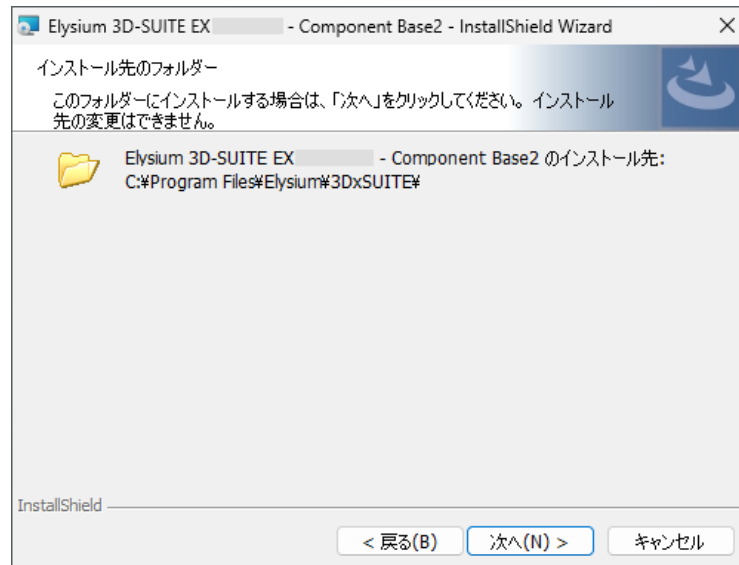
す。



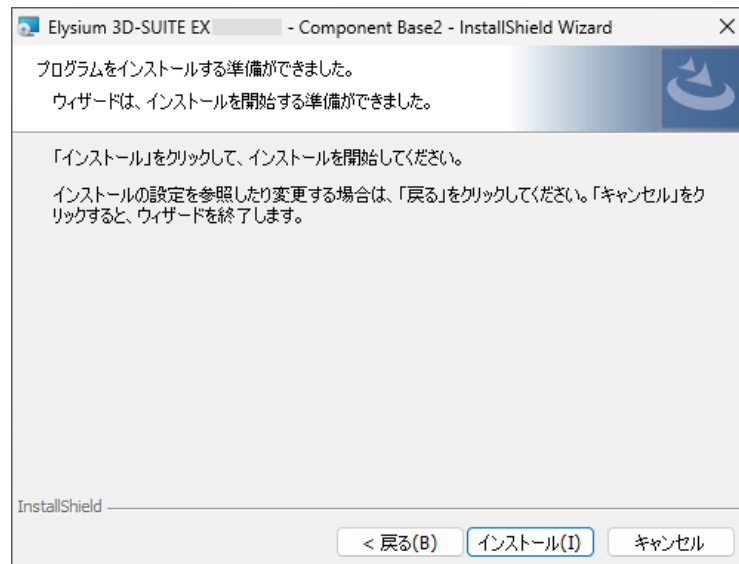
14. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続けることはできません。



15. インストール先のフォルダーを示すダイアログが表示されます。[次へ] をクリックします。



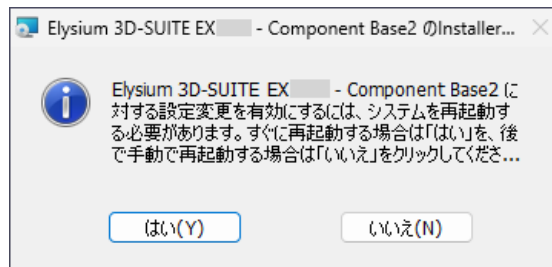
16. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。



17. インストールが終了すると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックして "3D-SUITE Component Base2" のインストールを終了します。



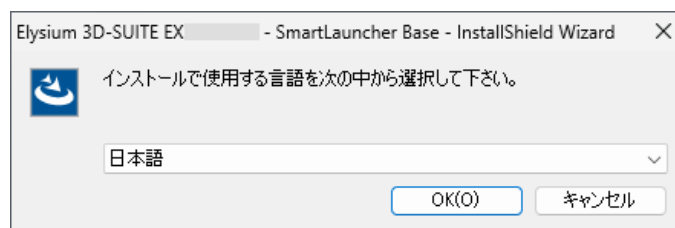
18. 再起動を求めるダイアログが表示された場合には、OS を再起動します。



19. 続いて、"3D-SUITE SmartLauncher Base" のインストーラーを実行します。

- インストーラーが含まれるフォルダー: <Components パッケージ>\SmartLauncher\_Base\
- インストーラー: Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_SmartLauncher\_Base.exe

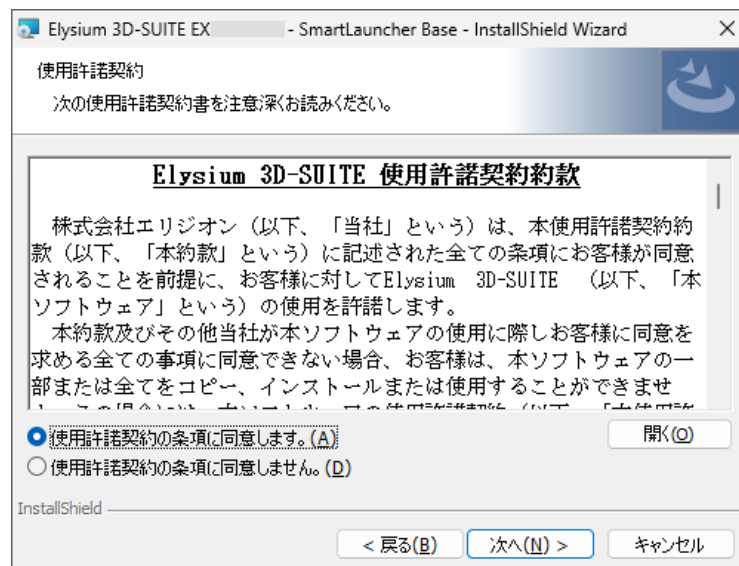
20. インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。日本語と英語が選択可能です。



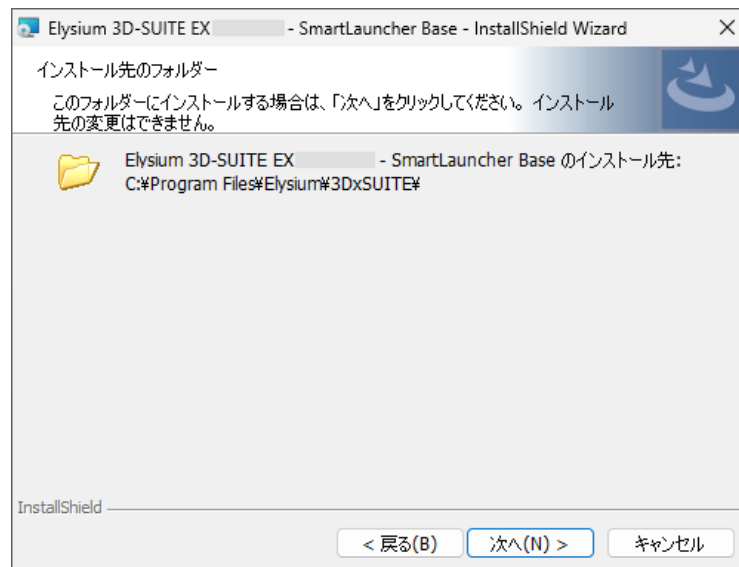
21. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



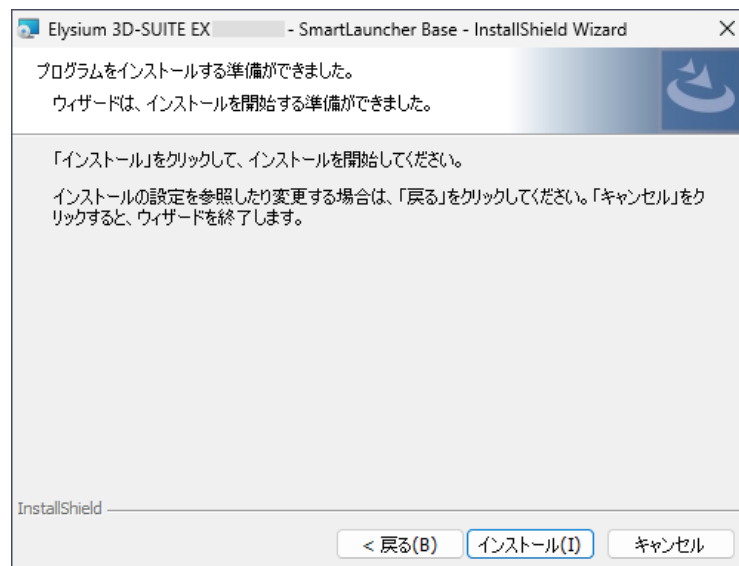
22. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続けることはできません。



23. インストール先のフォルダーが表示されます。3D-SUITE Component Base で指定したフォルダーにインストールされるため、変更はできません。[次へ] をクリックします。



24. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。



25. インストールが終了すると、以下のダイアログが表示されます。必要な項目を選択した上で [完了] をクリックします。

- SmartLauncher のコンテキストメニューを追加  
オンにすると、SmartLauncher を Windows コンテキストメニューに追加します。
- Windows Installer のログを表示  
オンにすると、インストール終了後に Windows Installer のログを表示します。



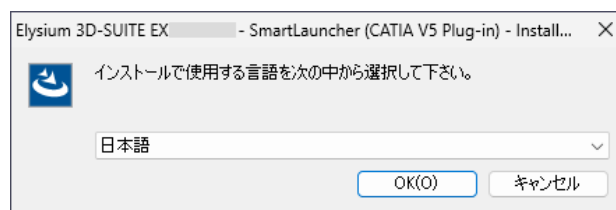
この時点では、SmartLauncher を利用するための基盤のみがインストールされた状態です。引き続き、実行する処理に必要な Component をインストールしてください。Component は <Components パッケージ> 内の各フォルダー内にあるインストーラーを実行することで、インストールすることができます。各インストーラーの詳細については、[Appendix A, 3D-SUITE インストーラー一覧](#) を参照してください。

### 5.1.2. SmartLauncher (Plug-in) の手動インストール

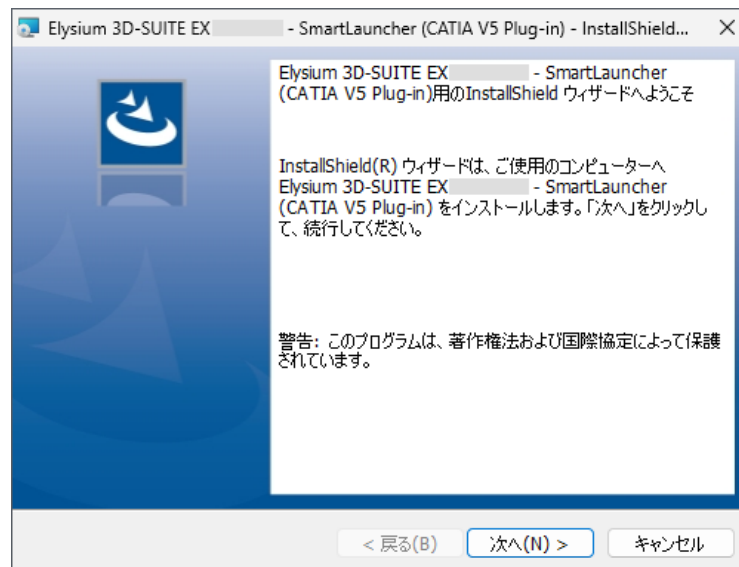


SmartLauncher (Plug-in) をインストールするためには、事前に対応する CAD Adapter、3D-SUITE Component Base、3D-SUITE Component Base2、3D-SUITE SmartLauncher Base をインストールしておく必要があります。例えば CATIA V5 向けの SmartLauncher (Plug-in) をインストールする場合には、事前に CATIA V5 (Plug-in) Adapter、3D-SUITE Component Base、3D-SUITE SmartLauncher Base をインストールしてください。

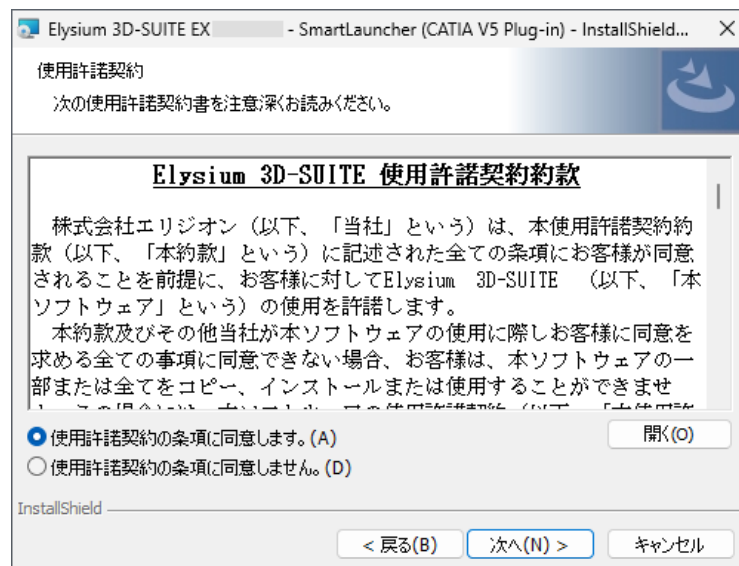
- SmartLauncher (Plug-in) のインストーラーを実行します。以降の手順では、CATIA V5 向け SmartLauncher (Plug-in) のインストーラーを実行した際の画像を例として説明しますが、いずれの CAD であっても手順は同じです。
  - インストーラーが含まれるフォルダー: <Components パッケージ>\SmartLauncher\_\*\*\*\
  - インストーラー: Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_SmartLauncher\_\*\*\*.exe  
(\*\*\* は SmartLauncher (Plug-in) をインストールする CAD の名称)
- インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。日本語と英語が選択可能です。



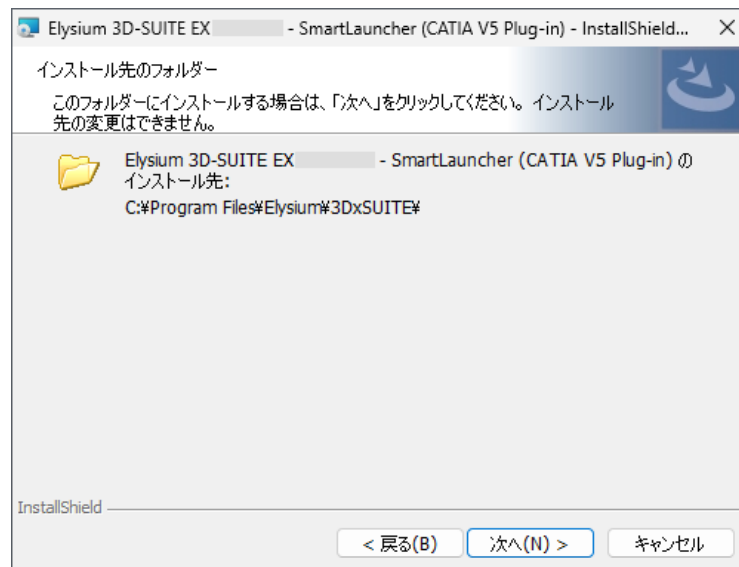
- インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



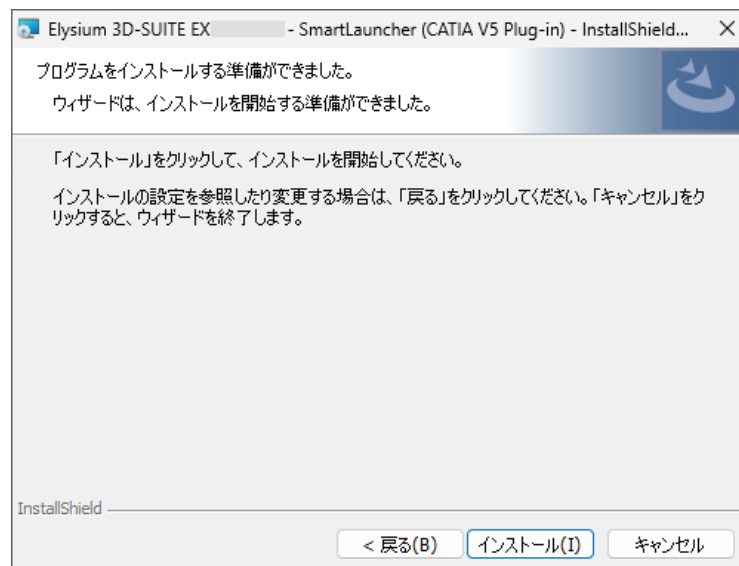
4. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続けることはできません。



5. インストール先のフォルダーが表示されます。3D-SUITE Component Base で指定したフォルダーにインストールされるため、変更はできません。[次へ] をクリックします。



6. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。



7. インストールが終了すると、以下のダイアログが表示されます。必要な項目を選択した上で [完了] をクリックします。

- SmartLauncher Plug-in のショートカット設定を行う  
オンにすると、インストール終了後に SmartLauncher Plug-in のショートカット設定ダイアログを表示します。

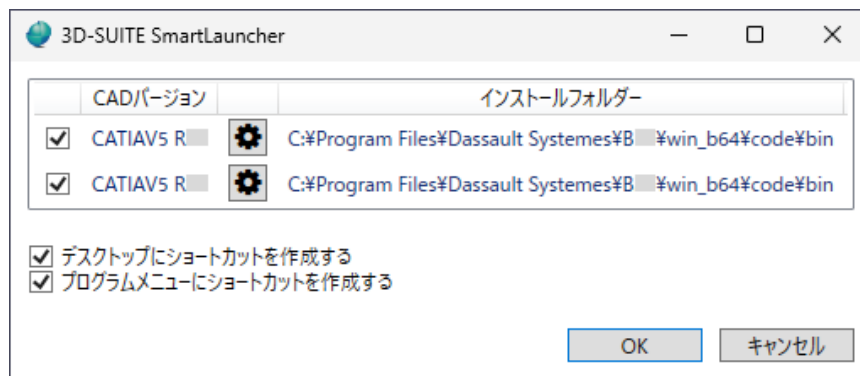


[完了] をクリックした際、OS の再起動を求めるダイアログが表示される場合があります。ショートカット設定を行う前にこのダイアログで [はい] をクリックすると、すぐに OS の再起動が実行されるため、この時点で設定を行うことができなくなります。



SmartLauncher Plug-in のショートカット設定を行う場合には、再起動を求めるダイアログで [はい] をクリックする前に実施してください。なおショートカット設定を行う前に [はい] をクリックした場合であっても、後ほど "3D-SUITE ユーザー設定" から同じ設定を実施することができます。

8. "SmartLauncher Plug-in のショートカット設定を行う" をオンにした場合、以下のダイアログが表示されます。必要に応じてチェックボックスのオン / オフを変更し、[OK] をクリックします。



このダイアログには、レジストリーから自動検知された各 CAD の導入フォルダーが表示されます。同一 CAD バージョンが複数導入されている場合や、過去の古い CAD 情報がレジストリーに残っている場合には自動検知に失敗する場合があります。

CAD を起動する際の環境ファイル (CATIA V5 の ENV ファイル、3DEXPERIENCE の ENV ファイル、NX の custom\_dirs.dat) はダイアログ上の拡張設定アイコン (⚙️) から指定できます。

上記ダイアログ内のオプション "デスクトップにショートカットを作成する"、"プログラムメニューにショートカットを作成する" は、チェックボックスをオンにした CAD バージョンに対してのみ有効です。

表示されている CAD 導入環境を変更する場合、または導入されている CAD バージョンが表示されていない場合は、ダイアログを閉じた上で 3D-SUITE ユーザー設定から設定を行ってください。

### 5.1.3. SmartLauncher (Standalone) のサイレントインストール

管理者として実行したコマンドプロンプトからオプションを引数に指定してインストーラーを実行することにより、SmartLauncher (Standalone) をユーザーの入力を必要とせずにインストールできます。実行するコマンドの例は以下の通りです。さらにオプションを追加することでインストールするコンポーネントや設定内容を細かく指定できます。

コマンドの例 (改行は不要):

```
Elysium_3D-SUITE_EX11_0_SmartLauncher_Base.exe /s /v"/l* "C:\temp\install.log" /qn"
```

- インストーラーが含まれるフォルダー: <Components パッケージ>\SmartLauncher\_Base\
- インストーラー: Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_SmartLauncher\_Base.exe

指定可能なオプションは以下の通りです。

コマンド引数	説明	必須 / 任意
/s	インストールをサイレントモードで実行します。	必須
/v	<p>/v"&lt;引数1&gt;&lt;引数2&gt; …" という形式で以下の引数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• /l* \&lt;ログファイル&gt;\": ログファイルのパスを指定します。"/l*" とファイル名の間には半角スペースが必要です。</li> <li>• INSTALLDIR=\&lt;インストールフォルダー&gt;\": インストール先のフォルダーを指定します。インストール時のみ指定が可能です。</li> <li>• INSTALL_SHELL_EXTENSION=0/1: SmartLauncher のコンテキストメニューを追加するか否かを指定します。デフォルト値は 1 です。(0: SmartLauncher のコンテキストメニューを追加しない / 1: SmartLauncher のコンテキストメニューを追加する)</li> <li>• /qn: ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。</li> <li>• /qn+: インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。</li> </ul>	任意

### 5.1.4. SmartLauncher (Plug-in) のサイレントインストール

管理者として実行したコマンドプロンプトからオプションを引数に指定してインストーラーを実行することにより、SmartLauncher (Plug-in) をユーザーの入力を必要とせずにインストールできます。実行ファイルは、SmartLauncher (Plug-in) を利用する CAD に対応したものを指定してください。

コマンドの例 (Creo Parametric 向け SmartLauncher (Plug-in) の場合):

```
Elysium_3D-SUITE_EX11_0_SmartLauncher_Creo_Parametric.exe /s /v"/l*
\C:\temp\install.log\"/qn"
```

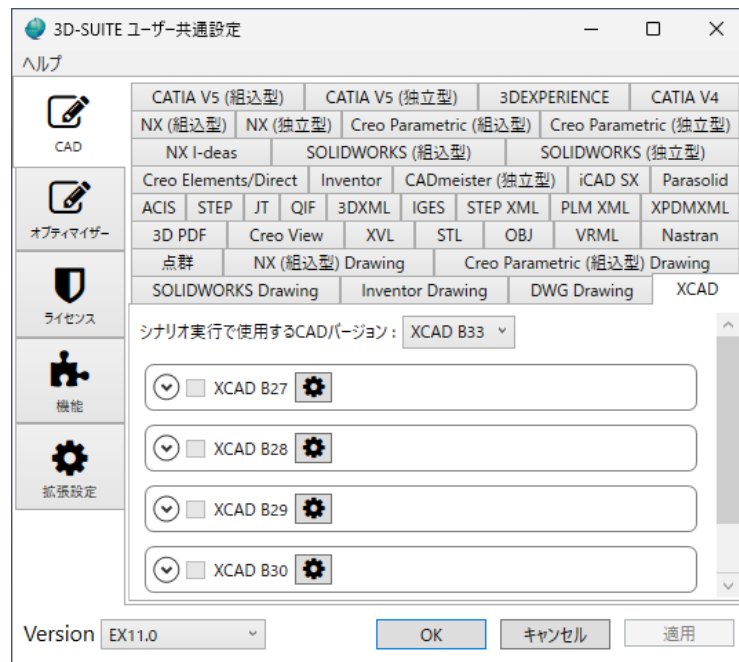
サイレントインストールの際にインストーラーに渡すコマンド引数の一覧は以下の通りです。

コマンド引数	説明	必須 / 任意
/s	インストールをサイレントモードで実行します。	必須
/v	<p>/v"&lt;引数1&gt; &lt;引数2&gt; …" という形式で以下の引数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• /l* \&lt;ログファイル&gt;\" : ログファイルのパスを指定します。"/l*" とファイル名の間には半角スペースが必要です。</li> <li>• INSTALLDIR=\&lt;インストールフォルダー&gt;\" : インストール先のフォルダーを指定します。インストール時のみ指定が可能です。</li> <li>• CREATE_ALL_SHORTCUTS=0/1 : 自動的に CAD 起動ショートカットを作成するか否かを指定します。デフォルト値は 1 です。(0: インストール時に自動的に CAD 起動ショートカットを作成しない / 1: インストール時に自動的に CAD 起動ショートカットを作成する)</li> <li>• /qn : ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。</li> <li>• /qn+ : インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。</li> </ul>	任意

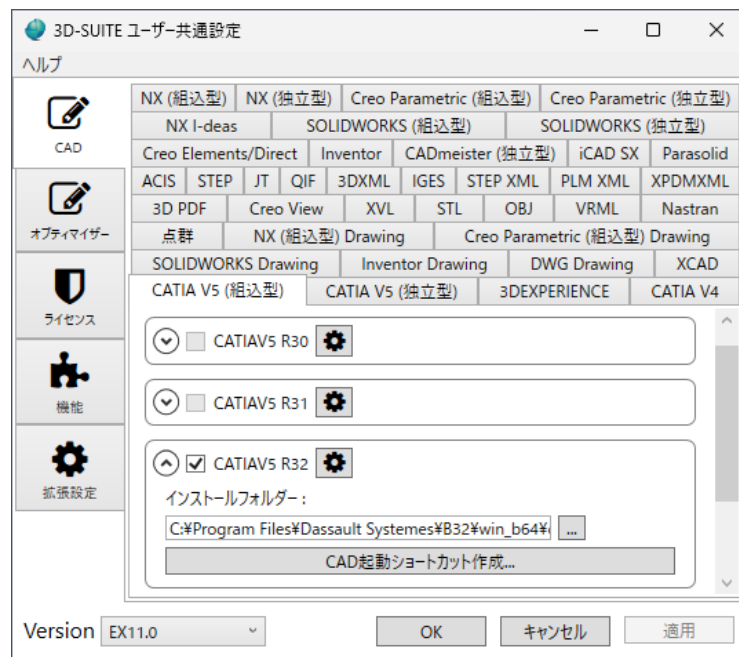
## 5.2. SmartLauncher (Plug-in) 設定手順

SmartLauncher (Plug-in) の設定は、3D-SUITE ユーザー設定で実行してください。手順は以下の通りです。

1. Windows メニューから [Elysium 3D-SUITE] - [3D-SUITE ユーザー共通設定] または [Elysium 3D-SUITE] - [3D-SUITE ローカルユーザー設定] を選択します。
2. [CAD] タブを選択します。



3. 設定を実施する CAD のタブを選択し、変換に用いるバージョンについて以下の内容を設定します。



- ・チェックボックスのオン/オフで、当該バージョンを変換に使用するか否かを指定できます。
- ・ギアマークを押すと表示されるダイアログで、変換のためのコンフィグキーワードを設定できます。(任意)
- ・"インストールフォルダー" に CAD の実行ファイルが配置されているフォルダーのパスを設定します。
- ・"CAD起動ショートカット作成" をクリックすると、SmartLauncher (Plug-in) を組み込んだ状態で CAD を起動するためのショートカットを作成できます。(\*1)



\*1: CAD の UI から SmartLauncher (Plug-in) を起動できるのは、以下の CAD

の特定のバージョンのみです。UI から SmartLauncher (Plug-in) を起動できる CAD のバージョンについては、リリースノートの "サポートCAD バージョン一覧" を参照してください。

- CATIA V5
- 3DEXPERIENCE
- Creo Parametric
- NX
- SOLIDWORKS

UI から SmartLauncher (Plug-in) を起動できない CAD のバージョンについては "CAD 起動ショートカット作成" ボタンが表示されません。それらのバージョンの CAD については、コンテキストメニューからのみ変換を実行できます。


4. [OK] をクリックしてダイアログを閉じます。

### 5.2.1. CAD 別初期設定 / 注意事項


各 CAD Adapter の仕様や注意事項については、以下の内容と併せて "3D-SUITE コンポーネントマニュアル" の "3.1 Adapter" もご参照ください。

#### CATIA V5

- カスタマイズされた CATIA V5 環境に対して SmartLauncher (Plug-in) を導入するには、以下の 2 種類の方法があります。
  - カスタマイズ環境の設定を SmartLauncher (Plug-in) に引き継ぐ

5.2, "SmartLauncher (Plug-in) 設定手順" にある手順に従って "CAD 起動ショートカット作成" をクリックすると表示されるダイアログで拡張設定アイコン (  ) を押し、"以下の CATIA V5 ENV ファイルをコピーして使用する:" にカスタマイズされた CATIA V5 の環境ファイルを指定してください。またカスタマイズ環境で設定していた環境変数を使用する必要がある場合は、3D-SUITE ユーザー設定の "拡張設定" にある "環境変数" に設定してください。

- カスタマイズ環境に SmartLauncher (Plug-in) の設定を追加する

5.2, "SmartLauncher (Plug-in) 設定手順" にある手順に従って "CAD 起動ショートカット作成" をクリックすると表示されるダイアログで拡張設定アイコン (  ) を押し、"以下の CATIA V5 ENV ファイルをコピーして使用する:" にカスタマイズされた CATIA V5 の環境ファイルを指定してください。処理が終了すると、カスタマイズ環境と SmartLauncher (Plug-in) 環境が共存した、新しい環境ファイルが以下のパスに作成されます。(\* は CAD のバージョン)

```
%Public%\Documents\Elysium\3DxSUITE\Config\SmartLauncher\CATIAV5\R*\ELY_CATIAV5_R*.txt
```


作成された環境ファイルをカスタマイズ環境にコピーし、このファイルを用いてカスタマイズ

環境の CATIA V5 を起動してください。


## 3DEXPERIENCE

- カスタマイズされた 3DEXPERIENCE 環境に対して SmartLauncher (Plug-in) を導入するには、以下の 2 種類の方法があります。

- カスタマイズ環境の設定を SmartLauncher (Plug-in) に引き継ぐ


5.2, “SmartLauncher (Plug-in) 設定手順” にある手順に従って "CAD 起動ショートカット作成" をクリックすると表示されるダイアログで拡張設定アイコン (  ) を押し、"以下の 3DEXPERIENCE ENV ファイルをコピーして使用する:" にカスタマイズされた 3DEXPERIENCE の環境ファイルを指定してください。またカスタマイズ環境で設定していた環境変数を使用する必要がある場合は、3D-SUITE ユーザー設定の "拡張設定" にある "環境変数" に設定してください。

- カスタマイズ環境に SmartLauncher (Plug-in) の設定を追加する

5.2, “SmartLauncher (Plug-in) 設定手順” にある手順に従って "CAD 起動ショートカット作成" をクリックすると表示されるダイアログで拡張設定アイコン (  ) を押し、"以下の 3DEXPERIENCE ENV ファイルをコピーして使用する:" にカスタマイズされた 3DEXPERIENCE の環境ファイルを指定してください。処理が終了すると、カスタマイズ環境と SmartLauncher (Plug-in) 環境が共存した、新しい環境ファイルが以下のパスに作成されます。(\*\*\*\* は CAD のバージョン)

```
%Public%\Documents\Elysium\3DxSUITE\Config\SmartLauncher\3DEX\R****x\ELY_3DEX_ASX_ASX_R****x.txt
```


作成された環境ファイルをカスタマイズ環境にコピーし、このファイルを用いてカスタマイズ環境の 3DEXPERIENCE を起動してください。

- SmartLauncher (Standalone) を使う場合は、5.2, “SmartLauncher (Plug-in) 設定手順” を参考にして 3D-SUITE ユーザー設定にある [CAD] タブの [3DEXPERIENCE] タブを開き、設定アイコン (  ) を押しコンフィグキーワード 3DEX\_LoginTicket を設定してください。3DEX\_LoginTicket の取得方法は "Elysium 3D-SUITE コンポーネントマニュアル" の 3DEXPERIENCE Importer / Exporter を参照してください。

## NX

- カスタマイズされた NX 環境 (Teamcenter 環境の NX 含む) や既定の NX 起動用ショートカット経由で SmartLauncher (Plug-in) を利用する方法は以下の通りです。

- カスタマイズ環境の設定を SmartLauncher (Plug-in) に引き継ぐ

5.2, “SmartLauncher (Plug-in) 設定手順” にある手順に従って "CAD 起動ショートカット作成" をクリックすると表示されるダイアログで拡張設定アイコン (  ) を押し、"以下の custom\_dirs.dat をコピーして使用する:" にカスタマイズ環境の UGII\_CUSTOM\_DIRECTORY\_FILE で指定されるファイル (custom\_dirs.dat など) のパスを指

定してください。

- カスタマイズ環境に SmartLauncher (Plug-in) の設定を追加する

以下のいずれかの方法で、カスタマイズ環境に SmartLauncher (Plug-in) の設定を追加してください。

- A. カスタマイズされた NX 環境を起動する際に参照している UGII\_CUSTOM\_DIRECTORY\_FILE (custom\_dirs.dat など) に、SmartLauncher (Plug-in) for NX の導入フォルダーのパスを追記する。
- B. 環境変数 UGII\_USER\_DIR に SmartLauncher (Plug-in) for NX の導入フォルダーのパスを指定する。

SmartLauncher (Plug-in) for NX の導入フォルダーのパスは以下の通りです。

- <3D-SUITE 導入フォルダー>\SmartLauncher\cad\_plugin\114<NXバージョン>

(例) C:\Program Files\Elysium\3DxSUITE\SmartLauncher\cad\_plugin\114\NX1953

Teamcenter 経由で NX を起動して DFX 向けシナリオを実行すると、Teamcenter Rich Client を起動するバッチの中で PowerShell/Python のパスが消えてしまうため、DFX コンポーネントが実行できなくなります。以下のように環境変数 "AUX\_PATH" に PowerShell/Python のフォルダーを指定することで正常に実行することができます。



```
AUX_PATH=C:\WINDOWS\System32\WindowsPowerShell\v1.0\;%LOCALAPPDATA%\
Programs\Python\Python***\
```

\*\*\* の部分は Python のバージョン番号で置き換えてください。(例: Python312)

## Creo Parametric

- カスタマイズされた Creo Parametric の環境や、既定の Creo Parametric 起動用ショートカット経由で SmartLauncher (Plug-in) を利用する方法は以下の通りです。
  1. 任意の場所に protk.dat ファイルを作成します。このファイルには以下の内容を記載してください。(SmartLauncher を既定のフォルダーに導入しており、Creo Parametric 6.0 を利用する場合)

```
NAME ELY_CREOP_CONVERTER_PLUG_IN
EXEC_FILE C:\Program Files\Elysium\3DxSUITE\SmartLauncher\cad_plugin\104\Creo6\dll\PDMPProe.dll
TEXT_DIR C:\Program Files\Elysium\3DxSUITE\SmartLauncher\cad_plugin\104\Creo6\text_fbt
REVISION Wildfire
STARTUP dll
END
```

- Creo Parametric が起動時に読み込む config.pro に下記の行を追加します。(既定では、<Creo Parametric のインストールフォルダー>\Common Files\text\config.pro が読み込まれます)

PROTKDAT <手順 1. で作成した protk.dat のフルパス>

- オンメモリー設定がオフの場合、Creo Parametric を起動したまま変換を実行すると、起動している Creo Parametric とは別に新たに Creo Parametric を使用する変換が実行されます。その際、Creo Parametric のライセンスファイルに "DUP\_GROUP" というキーワードが含まれない場合には、Creo Parametric 自体のライセンスが 2 本必要となるのでご注意ください。オンメモリー設定がオンの場合は、従来同様、Creo Parametric のライセンスを 1 本のみ使用します。

## SOLIDWORKS

- SOLIDWORKS 向けの SmartLauncher (Plug-in) は、インストールしただけではメニューに表示されません。以下の手順で有効化してください。
  - "SOLIDWORKS 20\*\* - 3D-SUITE SmartLauncher" を用いて SOLIDWORKS を起動します。(20\*\* は SOLIDWORKS のバージョン)
  - メニューから [ツール] - [アドイン] を選択します。
  - "アドイン" ダイアログで "Elysium Tool for SOLIDWORKS" をオンにします。
  - [OK] をクリックして "アドイン" ダイアログを閉じます。

## 5.3. 起動手順

SmartLauncher (Standalone)、SmartLauncher (Plug-in) は以下の各メニューから起動できます。

### 5.3.1. SmartLauncher (Standalone) の起動

以下の手順でエクスプローラーのコンテキストメニューから起動できます。

- 変換対象ファイルを選択し右クリックします。
- 表示されるコンテキストメニューから [Elysium] - [変換] を選択します。"開く" ダイアログが表示されます。(Windows 11 の場合は [その他のオプションを表示] を選択してから、[Elysium] を選択してください)



### 5.3.2. SmartLauncher (Plug-in) の起動

SmartLauncher (Plug-in) は Windows メニューまたはデスクトップ上のショートカットから起動します。

- Windows メニューから起動する場合は、以下のメニューから起動したい CAD / バージョンのバッチを実行してください。
  - [Elysium 3D-SUITE SmartLauncher] - [(CAD名) (Version) - 3D-SUITE SmartLauncher]
- ショートカットから起動する場合は、デスクトップ上にある "(CAD名) (Version) - 3D-SUITE SmartLauncher" をダブルクリックしてください。

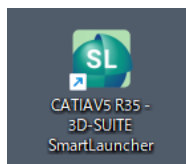


図 1. CATIA V5 R35 起動用ショートカットの例

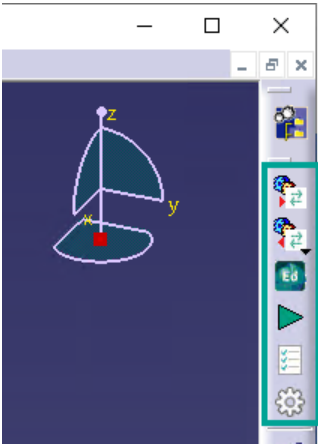

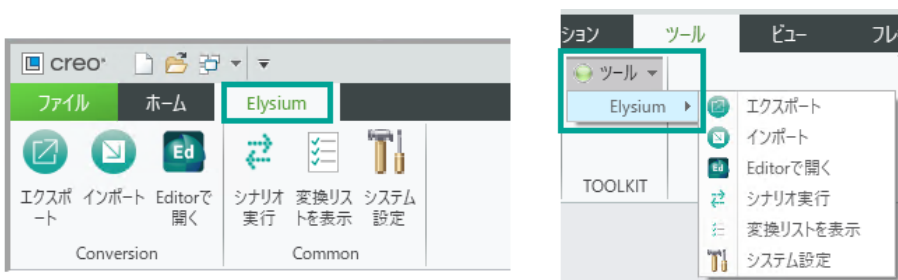
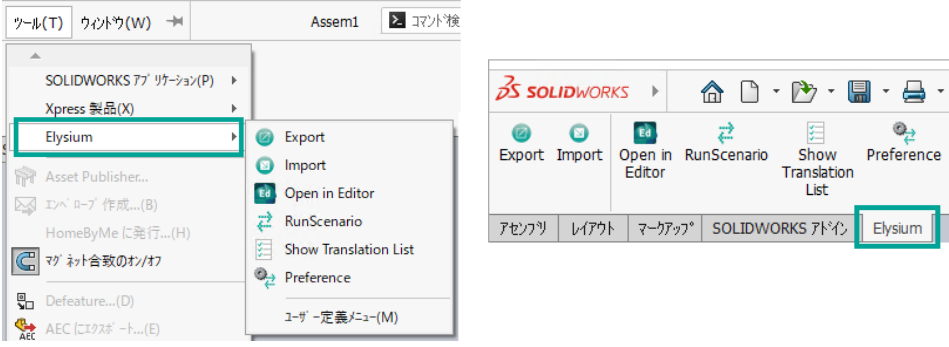
CAD の UI から SmartLauncher (Plug-in) を起動できるのは、以下の CAD の特定のバージョンのみです。UI から SmartLauncher (Plug-in) を起動できる CAD のバージョンについては、リリースノートの "サポート CAD バージョン一覧" を参照してください。



- CATIA V5
- 3DEXPERIENCE
- Creo Parametric
- NX
- SOLIDWORKS

UI から SmartLauncher (Plug-in) を起動できない CAD のバージョンについてはコンテキストメニューからのみ変換を実行できます。

SmartLauncher (Plug-in) は CAD のメニューに組み込まれて表示されます。

CAD	SmartLauncher (Plug-in) 表示位置
CATIA V5	
3DEXPERIENCE	 <p>※入出力ファイル形式として *_Elysium を指定すると変換が実行されます。</p>
Creo	
NX	
SOLIDWORKS	

## 5.4. アンインストール手順



アンインストールは管理者権限のあるユーザーで実行してください。

以下の手順で SmartLauncher (Plug-in) のアンインストールを実行した場合、処理は終了するもののアプリケーションは削除されません。



1. Components インストーラーを用いて 3D-SUITE SmartLauncher Base と SmartLauncher (Plug-in) をインストールする。
2. 3D-SUITE SmartLauncher Base を直接指定してアンインストールする。
3. Components をアンインストールする。

この現象は SmartLauncher (Plug-in) がインストールされている状態で 3D-SUITE SmartLauncher Base をアンインストールしたことに起因して発生しています。このような状況になった場合には、Components 経由ではなく SmartLauncher (Plug-in) を直接指定してアンインストールしてください。

### 5.4.1. SmartLauncher (Standalone) の手動アンインストール

1. Windows スタートメニューから [設定](ギアマーク) を選択します。
2. [アプリ] を選択します。
3. "アプリと機能" に表示されたアプリケーションの一覧から、"Elysium 3D-SUITE EX11.0 - SmartLauncher Base" を選択して、アンインストールを実行します。

### 5.4.2. SmartLauncher (Standalone) のサイレントアンインストール

管理者として実行したコマンドプロンプトから以下の通りオプションを引数に指定してインストーラーを実行することにより、SmartLauncher (Standalone) をユーザーの入力を必要とせずアンインストールすることができます。

コマンドの例:

```
Elysium_3D-SUITE_EX11_0_SmartLauncher_Base.exe /s /x /v"/l*  
"C:\temp\uninstall.log\"/qn"
```

### 5.4.3. SmartLauncher (Plug-in) の手動アンインストール

1. Windows スタートメニューから [設定](ギアマーク) を選択します。
2. [アプリ] を選択します。
3. "アプリと機能" に表示されたアプリケーションの一覧から、"Elysium 3D-SUITE EX11.0 - SmartLauncher (\*\*\*) Plug-in)" を選択して、アンインストールを実行します。(\*\*\*) は CAD 名)

### 5.4.4. SmartLauncher (Plug-in) のサイレントアンインストール

管理者として実行したコマンドプロンプトから以下の通りオプションを引数に指定してインストーラーを実行することにより、SmartLauncher (Plug-in) をユーザーの入力を必要とせずアンインストールすることができます。実行ファイルは、アンインストールする SmartLauncher (Plug-in) に対応したものを指定してください。

コマンドの例 (CATIA V5 向け SmartLauncher (Plug-in) の場合):

```
Elysium_3D-SUITE_EX11_0_SmartLauncher_CATIA_V5.exe /s /x /v"/l*
\C:\temp\uninstall.log\"/qn"
```

サイレントアンインストールを実行する際にインストーラーに渡すコマンド引数の一覧です。

コマンド引数	説明	必須 / 任意
/s	アンインストールをサイレントモードで実行します。	必須
/x	アンインストールを実行します。	必須
/v	<p>/v"&lt;引数1&gt; &lt;引数2&gt; …" という形式で以下の引数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• /l* \&lt;"&lt;ログファイル&gt;" : ログファイルのパスを指定します。"/l*" とファイル名の間には半角スペースが必要です。</li> <li>• /qn : ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。</li> <li>• /qn+ : インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。</li> </ul>	任意

## 6. Elysium 3D-SUITE SmartController

### 事前にインストールする必要があるプログラム

- [Components](#)



- SmartController を起動する前に、3D-SUITE ユーザー設定でライセンスの設定を実行する必要があります。
- SmartController を最初に起動した際には、3D-SUITE ユーザー設定に設定されたライセンス設定が使用されます。2 回目以降の起動時には、SmartController に設定されているライセンス設定が優先的に使用されます。

### 6.1. インストール手順



インストールは管理者権限のあるユーザーで実行してください。  
事前にインストールする必要があるプログラムがインストールされていない場合、実行が中止されます。

#### 6.1.1. 手動インストール

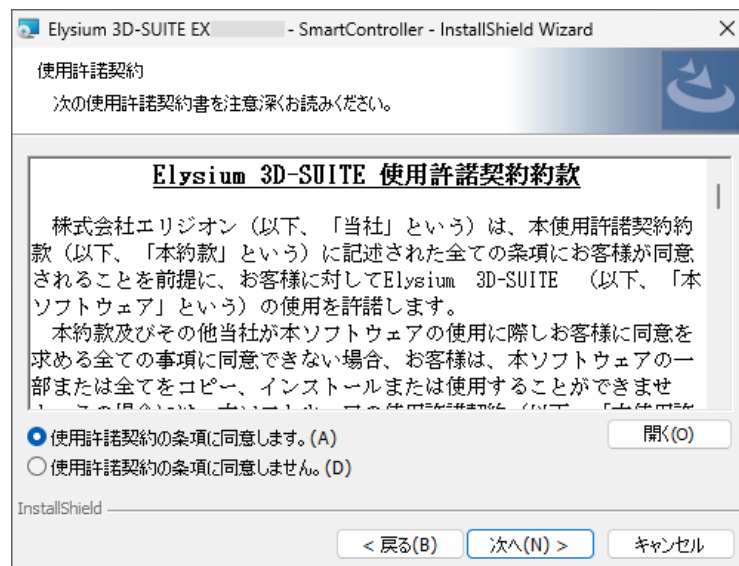
1. SmartController のインストーラーを実行します。
  - インストーラーが含まれるフォルダー: <SmartController パッケージ>\
  - インストーラー: Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_SmartController.exe
2. インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。日本語と英語が選択可能です。



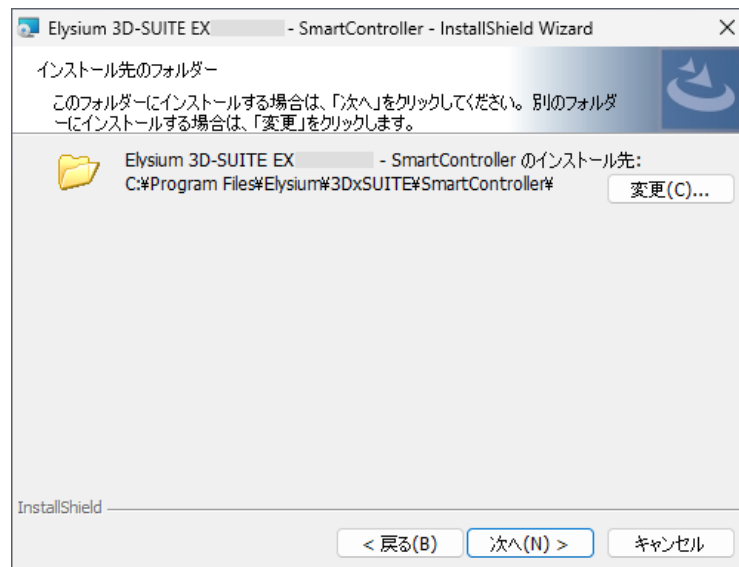
3. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



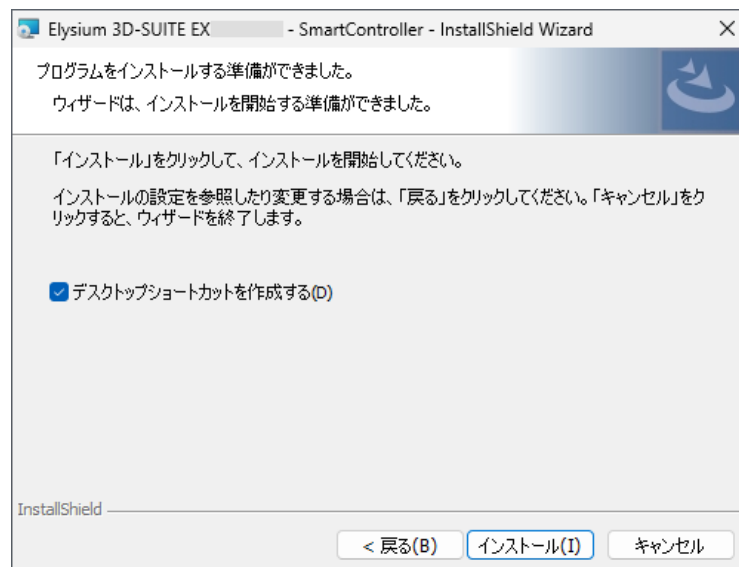
4. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続けることはできません。



5. インストール先のフォルダーを指定するダイアログが表示されます。デフォルトのインストール先から変更する場合は、[変更] をクリックして変更先フォルダーを指定します。指定が完了したら [次へ] をクリックします。



6. デスクトップショートカットを作成しない場合はチェックを外します。[インストール] をクリックしてインストールを開始します。



7. インストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてインストーラーを終了します。



## 6.1.2. サイレントインストール

コマンドにて SmartController の新規導入やアップグレードを行うことができます。実行コマンドについては、以下のコマンド例とコマンド引数の説明を参照してください。

- コマンド例

```
Elysium_3D-SUITE_EX11_0_SmartController.exe /s /v"/l* \"C:\temp\install.log\"  
INSTALLDIR=\"C:\Program Files\Elysium\3DxSUITE\EX11.0\SmartController\" /qn"
```

サイレントインストールの際にインストーラーに渡すコマンド引数の一覧は以下の通りです。

コマンド引数	説明	必須 / 任意
/s	インストールをサイレントモードで実行します。	必須
/v	<p>/v"&lt;引数1&gt; &lt;引数2&gt; …" という形式で以下の引数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• /l* \"&lt;ログファイル&gt;\" : ログファイルのパスを指定します。"/l*" とファイル名の間には半角スペースが必要です。</li> <li>• INSTALLDIR=\"&lt;インストールフォルダー&gt;\" : インストール先のフォルダーを指定します。インストール時のみ指定が可能です。</li> <li>• /qn : ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。</li> <li>• /qn+ : インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。</li> </ul>	任意

## 6.2. 起動手順

Windows スタートメニューから [Elysium 3D-SUITE] - [3D-SUITE SmartController] を選択して起動してください。デスクトップ上の [3D-SUITE SmartController] ショートカットをダブルクリックし

て起動することもできます。



### 6.3. 終了手順

ウィンドウを閉じて終了します。

## 6.4. アンインストール手順

### 6.4.1. 手動アンインストール

1. Windows スタートメニューから [設定](ギアマーク) を選択します。
2. [アプリ] を選択します。
3. "アプリと機能" に表示されたアプリケーションの一覧から、"Elysium 3D-SUITE EX11.0 - SmartController" を選択して、アンインストールを実行します。

### 6.4.2. サイレントアンインストール

コマンドでサイレントアンインストールを行うことができます。現在導入されているバージョンのインストーラーが必要です。コマンドについては、以下のコマンド例と [コマンド引数](#) の説明を参照してください。

- コマンド例

```
Elysium_3D-SUITE_EX11_0_SmartController.exe /s /x /v"/l*  
\"C:\temp\uninstall.log\" /qn"
```

## 7. Elysium 3D-SUITE SmartController Pro

### 事前にインストールする必要があるプログラム

- なし



- SmartController Pro を起動する前に、3D-SUITE ユーザー設定でライセンスの設定をする必要があります。
- SmartController Pro を最初に起動した際には、3D-SUITE ユーザー設定に設定されたライセンス設定が使用されます。2回目以降の起動時には、SmartController Pro に設定されているライセンス設定が優先的に使用されます。

### 7.1. インストール手順



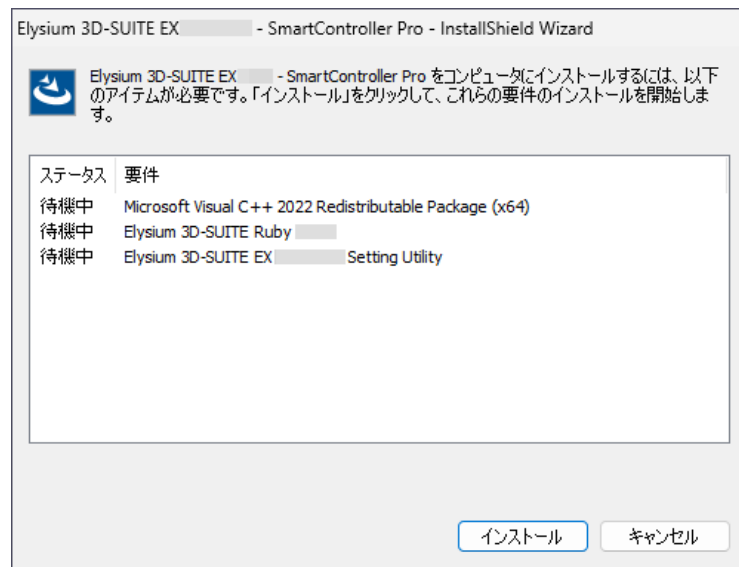
インストールは管理者権限のあるユーザーで実行してください。

#### 7.1.1. 手動インストール

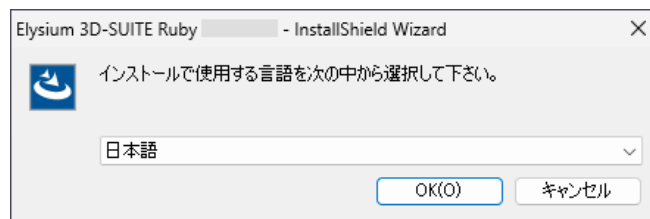
- SmartController Pro のインストーラーを実行します。
  - インストーラーが含まれるフォルダー: <SmartController Pro パッケージ>
  - インストーラー: Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_SmartController\_Pro.exe
- インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。日本語と英語が選択可能です。



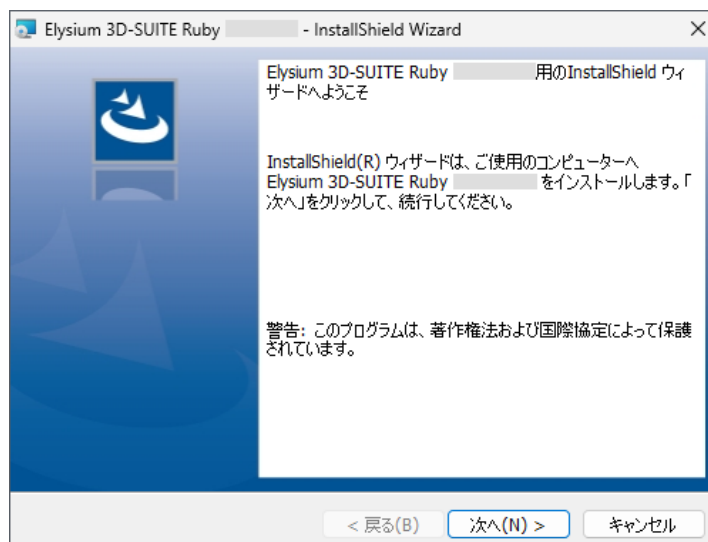
- このダイアログが表示された場合、[インストール] をクリックします。



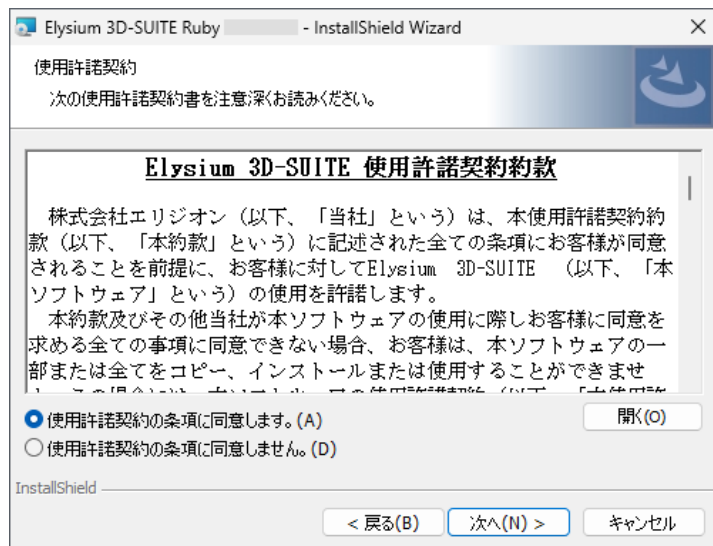
4. Elysium 3D-SUITE Ruby が導入されていない環境の場合、Elysium 3D-SUITE Ruby のインストーラーが起動します。以下の手順でインストールを実行します。すでに Elysium 3D-SUITE Ruby が導入されている場合は、Elysium 3D-SUITE Ruby インストール後の手順へ進んでください。
- インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。



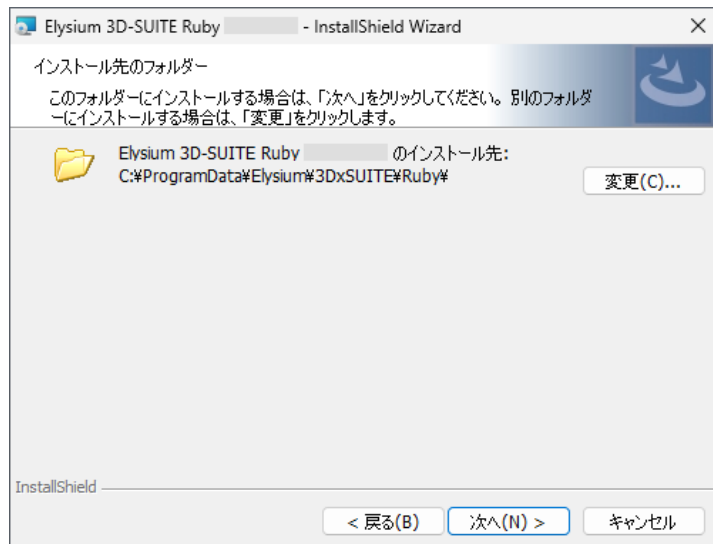
- インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



- 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続ける事はできません。

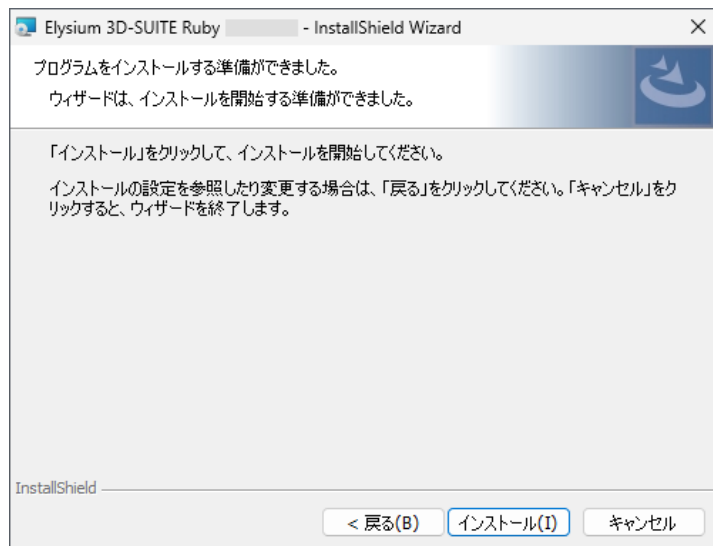


- d. インストール先のフォルダーを指定するダイアログが表示されます。デフォルトのインストール先から変更する場合は、[変更] をクリックして変更先フォルダーを指定します。指定が完了したら [次へ] をクリックします。

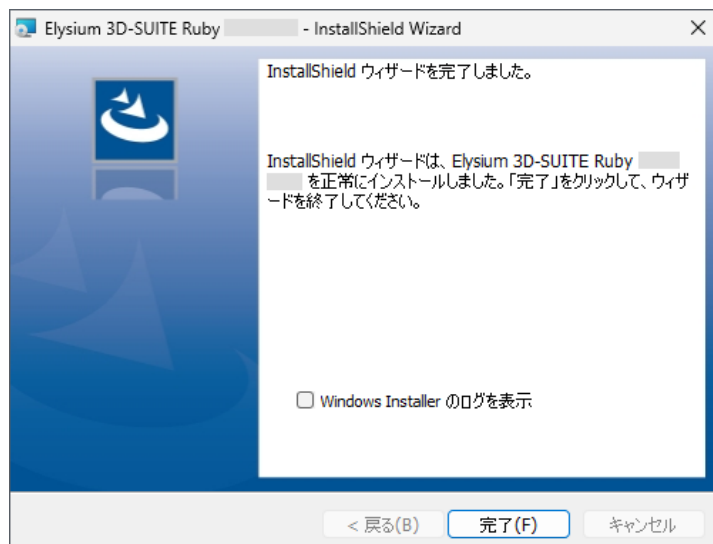


インストール先フォルダーのパスは半角英数字および一部の半角記号（「#」「+」「-」「\_」「.」「\$」「/」「:」）のみで構成されるようにしてください。これら以外の文字がパスに含まれている場合にはエラーとなります。

- e. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。

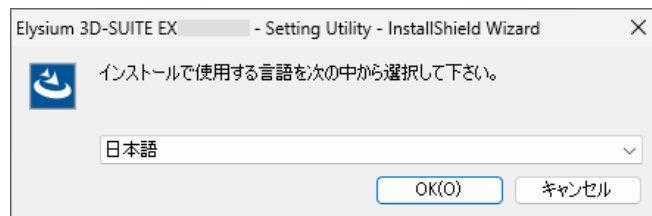


- f. インストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてインストーラーを終了します。

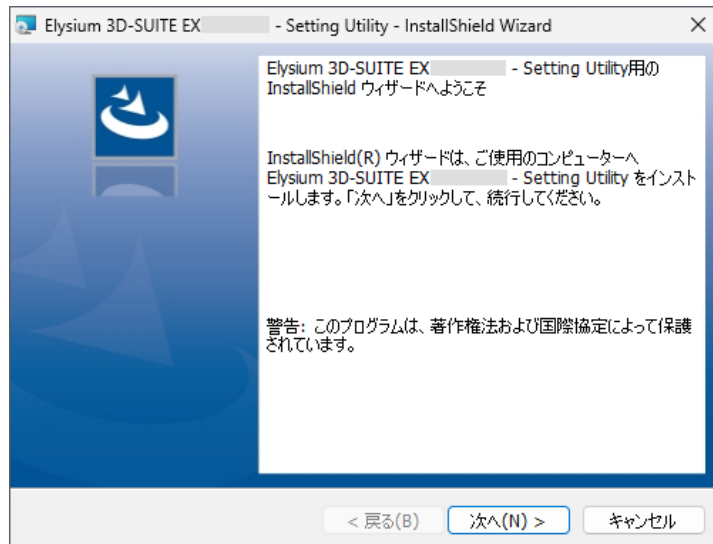


5. Setting Utility がインストールされていない場合、Setting Utility のインストーラーが起動します。以下の手順でインストールを実行します。Setting Utility がすでに導入されている場合は、Setting Utility インストール後の手順へ進んでください。

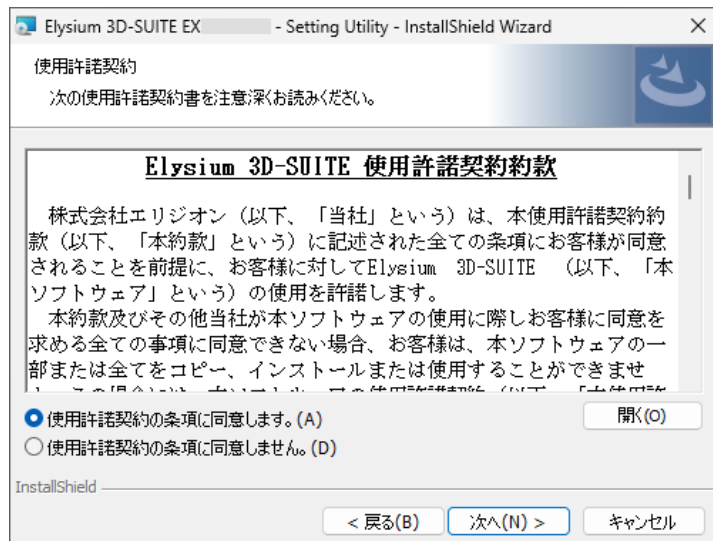
- a. インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。



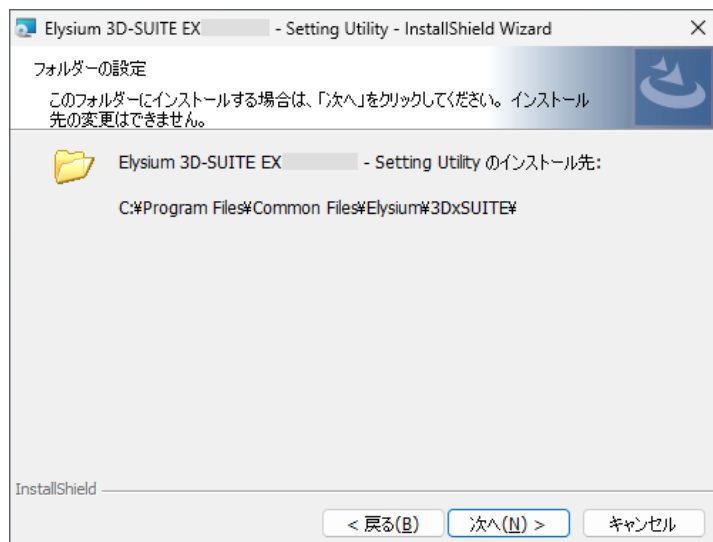
- b. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



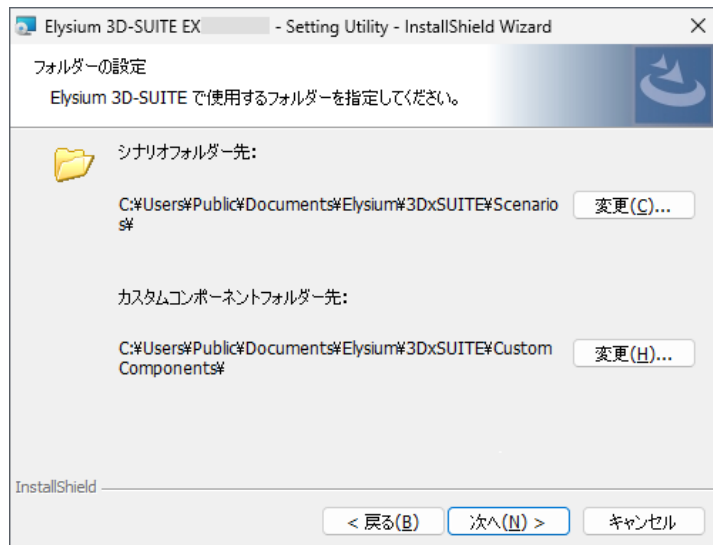
- c. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続ける事はできません。



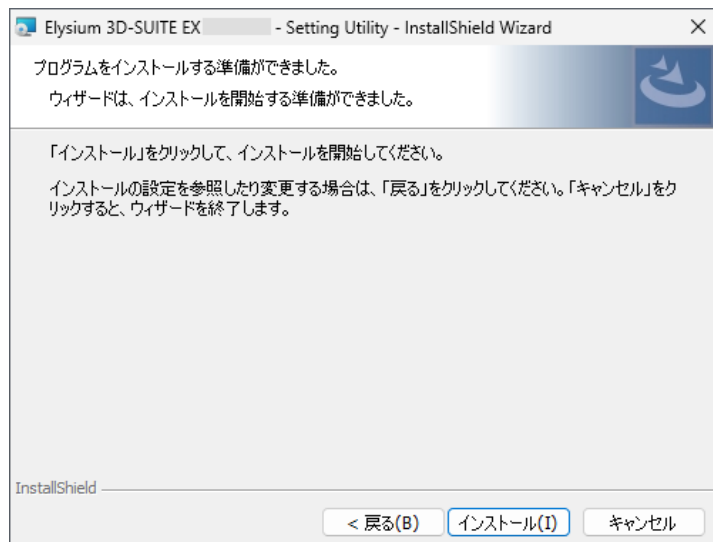
- d. Setting Utility のインストール先を示す画面が表示されます。[次へ] をクリックします。



- e. シナリオフォルダーとカスタムコンポーネントフォルダーを設定する画面が表示されます。必要に応じてフォルダーのパスを変更し、[次へ] をクリックします。



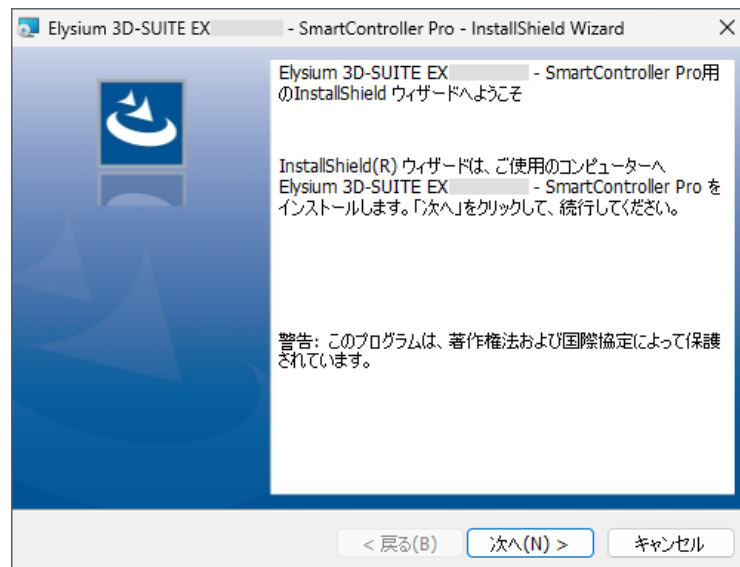
- f. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。



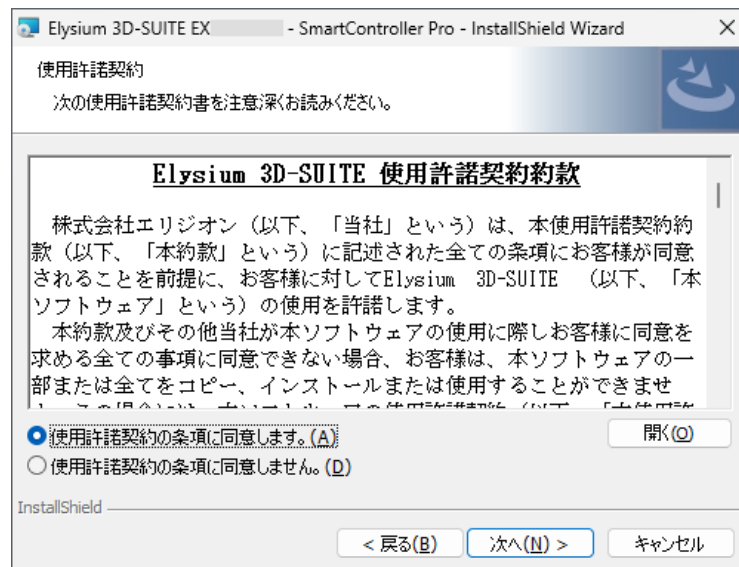
- g. Setting Utility のインストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてインストーラーを終了します。



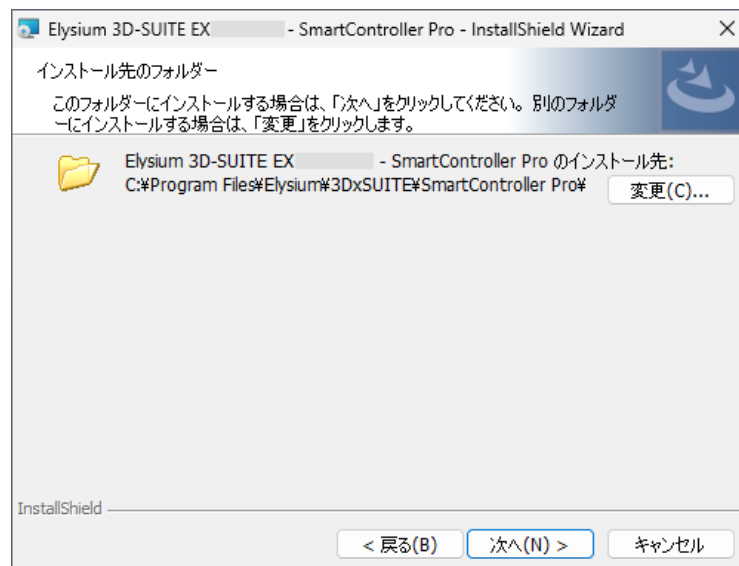
6. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



7. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続けることはできません。

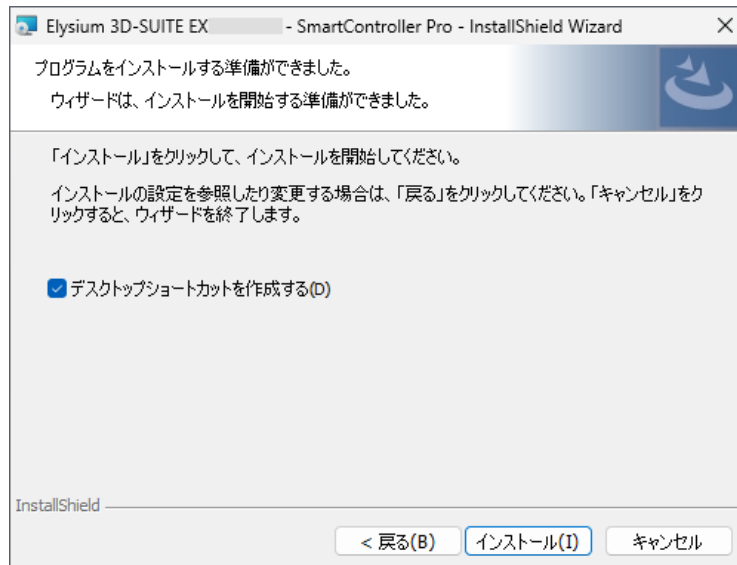


8. インストール先のフォルダーを指定するダイアログが表示されます。デフォルトのインストール先から変更する場合は、[変更] をクリックして変更先フォルダーを指定します。指定が完了したら [次へ] をクリックします。



インストール先フォルダーのパスは ASCII 文字のみで構成されるようにしてください。フォルダーパスに非 ASCII 文字が含まれている場合、アプリケーションが想定通りに動作しない場合があります。

9. デスクトップショートカットを作成しない場合はチェックを外します。[インストール] をクリックしてインストールを開始します。



10. インストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてインストーラーを終了します。



### 7.1.2. サイレントインストール

コマンドにて SmartController Pro の新規導入やアップグレードを行うことができます。実行コマンドについては、以下のコマンド例とコマンド引数の説明を参照してください。

- コマンド例

```
Elysium_3D-SUITE_EX11_0_SmartController_Pro.exe /s /v"/l*
"C:\temp\install.log\" INSTALLDIR="C:\Program
Files\Elysium\3DxSUITE\EX11.0\SmartController_Pro\" /qn"
```

サイレントインストールの際にインストーラーに渡すコマンド引数の一覧は以下の通りです。

コマンド引数	説明	必須 / 任意
/s	インストールをサイレントモードで実行します。	必須
/v	<p>/v"&lt;引数1&gt;&lt;引数2&gt; …" という形式で以下の引数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• /l*\&lt;ログファイル&gt;": ログファイルのパスを指定します。"/l*" とファイル名の間に半角スペースが必要です。</li> <li>• INSTALLDIR=\&lt;インストールフォルダー&gt;": インストール先のフォルダーを指定します。インストール時のみ指定が可能です。</li> <li>• /qn: ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。</li> <li>• /qn+: インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。</li> </ul>	任意

## 7.2. 起動手順



SmartController Pro を最初に起動した際には、3D-SUITE ユーザー設定に設定されたライセンス設定が使用されます。2 回目以降の起動時には、SmartController Pro に設定されているライセンス設定が優先的に使用されます。

Windows スタートメニューから [Elysium 3D-SUITE] - [3D-SUITE SmartController Pro] を選択して起動してください。デスクトップ上の [3D-SUITE SmartController Pro] ショートカットをダブルクリックして起動することもできます。



## 7.3. 終了手順

ウインドウを閉じて終了します。

## 7.4. アンインストール手順

### 7.4.1. 手動アンインストール

1. Windows スタートメニューから [設定](ギアマーク) を選択します。
2. [アプリ] を選択します。
3. "アプリと機能" に表示されたアプリケーションの一覧から、"Elysium 3D-SUITE EX11.0 - SmartController Pro" を選択して、アンインストールを実行します。

### 7.4.2. サイレントアンインストール

コマンドでサイレントアンインストールを行うことができます。現在導入されているバージョンのインストーラーが必要です。

- コマンド例

```
Elysium_3D-SUITE_EX11_0_SmartController_Pro.exe /s /x /v"/l*
\C:\temp\uninstall.log\" /qn"
```

サイレントアンインストールを実行する際にインストーラーに渡すコマンド引数の一覧です。

コマンド引数	説明	必須 / 任意
/s	アンインストールをサイレントモードで実行します。	必須
/x	アンインストールを実行します。	必須
/v	<p>/v"&lt;引数1&gt;&lt;引数2&gt; …" という形式で以下の引数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• /l* \&lt;"&lt;ログファイル&gt;" : ログファイルのパスを指定します。"/l*" とファイル名の間には半角スペースが必要です。</li> <li>• /qn : ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。</li> <li>• /qn+ : インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。</li> </ul>	任意

## 8. Elysium 3D-SUITE TransServer

### 事前にインストールする必要があるプログラム

- なし

### 8.1. インストール手順



- TransServer と WorkerNode は同じライセンスサーバーを参照するようにしてください。
- TransServer は、既定の設定において、参照するライセンスサーバー上のライセンスをすべて利用できることを前提にジョブの割り振りを行います。他の Elysium 製品や他の TransServer も利用しているライセンスサーバーを参照するように設定した場合、ジョブの割り振りを行う際にエラーが発生することがあります。



インストールは管理者権限のあるユーザーで実行してください。

TransServer はサイレントインストールには対応していません。手動インストールを行ってください。

#### 8.1.1. 入出力ファイルの授受に利用するファイルサーバーの設定

TransServer をインストールするコンピューターと WorkerNode をインストールするコンピューターの間では、ファイルサーバーを経由して入出力ファイルの授受を行います。

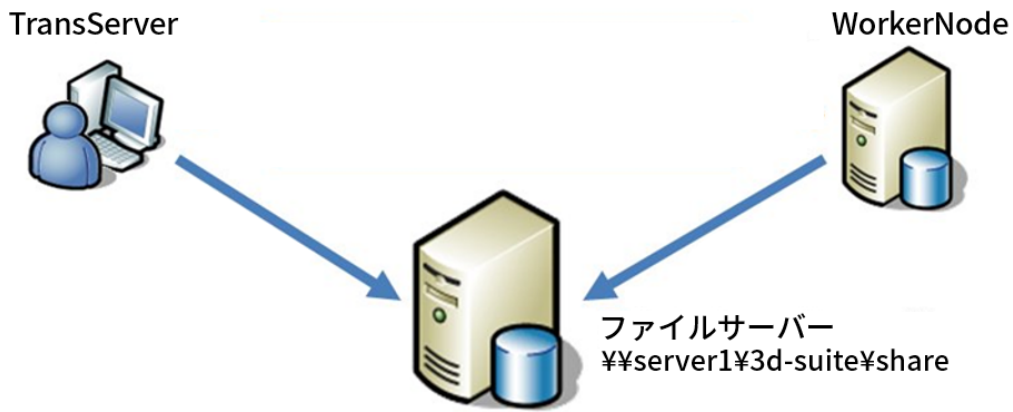


以降では、この "入出力ファイルの授受のためのファイルサーバー" のことを単純に "ファイルサーバー" と記載します。

ファイルサーバーは、以下の条件を満たすように設定してください。

- TransServer をインストールするコンピューターと WorkerNode をインストールするコンピューターの両方からネットワーク経由でアクセスできる。
- TransServer を実行するユーザーと WorkerNode を実行するユーザーの両方が書き込み権限を持っている。

ファイルサーバーとしては、通常の Windows 共有フォルダーを用いることも可能ですし、SMB 3.0 以降をサポートする NAS を用いることも可能<sup>\*1</sup>です。またファイルサーバーは、ネットワークドライブとしてマウントせずに UNC パス (\\ で始まるパス) で指定することも可能<sup>\*2</sup>です。



上の例では、server1 というコンピューターのフォルダー "\\server1\3D-SUITE\share" をファイルサーバーとしています。

\*1: NAS を利用する場合、WorkerNode の作業フォルダーにはファイルサーバー上のパスを設定しないでください。そのような構成は製品としてサポートされていません。NAS を利用する場合には、WorkerNode のローカルドライブにあるフォルダーを作業フォルダーとして設定する必要があります。

\*2: ファイルサーバーを UNC パスで指定することは可能です。ただし、**WorkerNode の作業フォルダーに UNC パスを指定することはサポートされていません**。この点を踏まえ、以下のいずれかの方法で TransServer および WorkerNode の設定を行ってください。



- パターン A
  - TransServer: ファイルサーバーを UNC パスで直接指定する。または、ファイルサーバーをネットワークドライブとしてマウントした上で指定する。
  - WorkerNode: ローカルドライブにあるフォルダーを作業フォルダーとして指定する。
- パターン B
  - TransServer: ファイルサーバーをネットワークドライブとしてマウントした上で指定する。
  - WorkerNode: 作業フォルダーを指定せず空欄のままとする。



カスタムコンポーネントを使用する場合、カスタムコンポーネントの動作によってはファイルサーバーを UNC パスで指定せず、ネットワークドライブとしてマウントした上で指定する必要があります。詳細は "Elysium 3D-SUITE TransServer 管理者マニュアル" の "9.2. カスタムコンポーネント" を参照してください。

## [オプション] UNC パスを任意のドライブに割り当てる手順

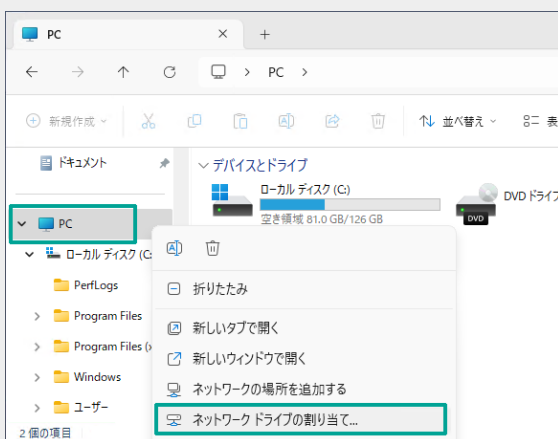
以前のバージョンの 3D-SUITE と同様に、WorkerNode で実行する処理の一時作業領域としてもファイルサーバーを利用する場合には、ファイルサーバーの UNC パスを任意のドライブに割り当てる必要があります。割り当てるための手順は以下の通りです。



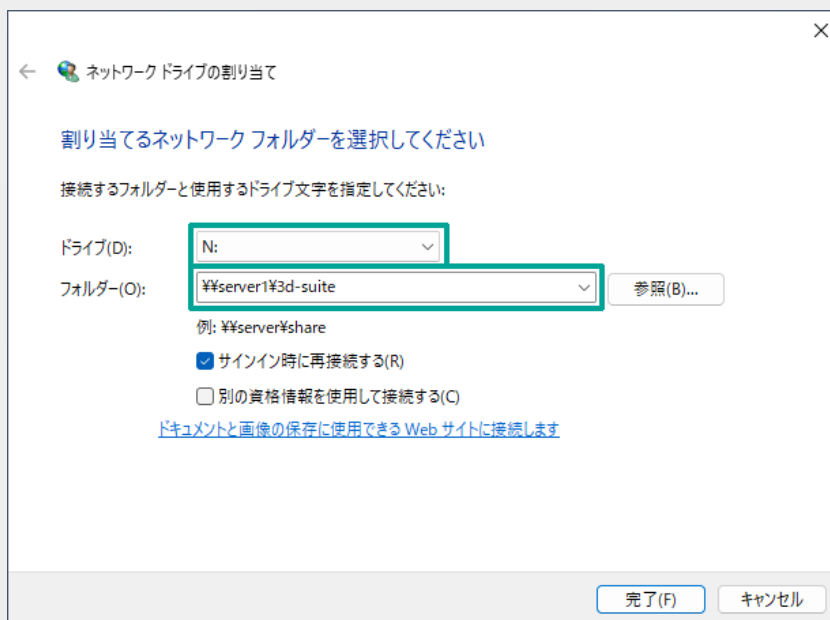
WorkerNode の設定項目にある "作業フォルダー設定" で作業フォルダーを設定しない場合にだけ、以下の作業が必要となります。

### UNC パスを任意のドライブに割り当てる方法

1. [PC] を右クリックして、[ネットワーク ドライブの割り当て] を選択します。



2. ドライブ欄からドライブ名を選び、フォルダー欄には割り当てる予定の UNC パスを設定します。最後に [完了] をクリックします。



この設定は、TransServer をインストールするコンピューターと WorkerNode をインストールするコンピューターすべてで実施してください。

## 8.1.2. PostgreSQL のインストール



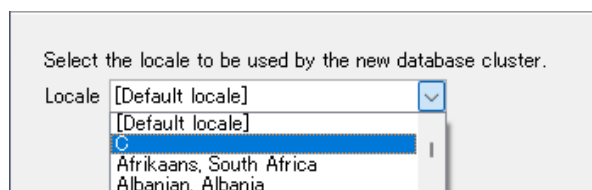
3D-SUITE TransServer EX10.0 からは、TransServer とは別のコンピューターにインストールされた PostgreSQL も使用できるようになりました。コンピューターの性能やネットワークの状況などを踏まえ、どのコンピューターに PostgreSQL をインストールするかを決定してください。

PostgreSQL を導入します。PostgreSQL のバージョンは 17.\* を使用します。



以下に記載した手順はインストール方法の一例です。使用するインストーラーによっては、これとは異なる手順となる可能性もあるのでご注意ください。ただし、Locale については、以下に記載している内容に従って設定を行ってください。

1. 下記ページから PostgreSQL 17.\* (Windows x86-64) のインストーラーをダウンロードします。
  - <https://www.enterprisedb.com/downloads/postgres-postgresql-downloads>
2. インストーラーを実行し、インストーラーの指示に従って PostgreSQL をインストールします。
  - インストールの実行には管理者権限が必要です。
  - Select Components  
"PostgreSQL Server"、"pgAdmin4"、"Command Line Tools" は必ずインストールしてください。
  - Data Directory  
デフォルトのパスは C:\Program Files\PostgreSQL\17\data となっておりますが、OS のバージョンによっては Program Files 以下のフォルダーにデータを格納すると問題が発生する場合があります。ドライブ直下にフォルダーを作成しそのフォルダーを指定することを推奨します。  
(例) D:\pgdata\17
  - Advanced Options  
Locale プルダウンメニューから "C" を選択してください。



3. インストール完了後に Windows のサービス一覧を開き、"postgresql-x64-17" もしくは "postgresql-x64-17 - PostgreSQL Server 17" というサービスがあることを確認します。サービスがあれば次の手順に進みます。
  - サービス一覧は、Windows キーと R キーを同時に押すと表示される "ファイル名を指定して実行" ウィンドウに "services.msc" と入力して [OK] をクリックすると表示されます。
  - サービスがない場合は、PostgreSQL の導入に失敗していると考えられます。トラブルシューティングやインターネット上の情報を参考に、PostgreSQL の導入を成功させてください。



PostgreSQL のインストール手順は動画も公開しています。下記ページの "1-6\_PostgreSQLのインストール" を参照してください。

[https://www.elysium-global.com/ja/redirect/support/3d-suite/installer\\_dl](https://www.elysium-global.com/ja/redirect/support/3d-suite/installer_dl)

### 8.1.3. PostgreSQL への接続を許可するための設定 (オプション)

TransServer とは別のコンピューターに PostgreSQL をインストールした場合には、TransServer から PostgreSQL への接続を許可するための設定を行う必要があります。設定手順は以下の通りです。

1. PostgreSQL をインストールしたコンピューターにログインし、テキストエディターで以下のファイルを開きます。

```
<PostgreSQL の Data Directory>\pg_hba.conf
```

2. ファイルの最終行に、以下の内容を追記します。

```
host all postgres <TransServer の動作するコンピューターの IP アドレス>/0 scram-sha-256
```

以下は設定例です。

```
# TYPE DATABASE USER ADDRESS METHOD
# IPv4 local connections:
host all all 127.0.0.1/32 scram-sha-256
# IPv6 local connections:
host all all ::1/128 scram-sha-256
# Allow replication connections from localhost, by a user with the
# replication privilege.
host replication all 127.0.0.1/32 scram-sha-256
host replication all ::1/128 scram-sha-256
host all postgres 192.168.123.123/0 scram-sha-256
```



pg\_hba.conf の詳細については、以下の URL を参照してください。

<https://www.postgresql.org/docs/17/auth-pg-hba-conf.html>

3. 変更内容を保存してテキストエディターを終了します。
4. 続いて、テキストエディターで以下のファイルを開きます。

```
<PostgreSQL の Data Directory>\postgresql.conf
```

5. ファイル内の "listen\_addresses = " の部分に、他のコンピューターからの接続を受け付けるための IP アドレスを指定します。アドレスは IPv4 と IPv6 のいずれの形式でも指定できます。また "listen\_addresses = \*" というように \* を指定した場合、すべての IP アドレスで接続を受け付けます。

設定例: listen\_addresses = '192.168.0.1'



詳細については、以下のページを参照してください。

<https://www.postgresql.org/docs/17/runtime-config-connection.html>

6. 変更内容を保存してテキストエディターを終了します。
7. PostgreSQL に対するファイアウォール経由の通信を許可するよう設定します。以下は、Windows ファイアウォールを使用している場合の設定方法の例です。別のファイアウォール製品を使用している場合には、通信が許可されるように適宜設定してください。
  - a. Windows キーと R キーを同時に押して "ファイル名を指定して実行" を起動します。
  - b. "名前" に "control.exe /name Microsoft.WindowsFirewall" と入力して [OK] をクリックします。
  - c. ウィンドウの左側にある [Windows Defender ファイアウォールを介したアプリまたは機能を許可] を選択します。
  - d. [設定の変更] がクリックできる状態の場合にはクリックします。
  - e. [別のアプリの許可] を選択し、以下のプログラムの通信を許可します。

<PostgreSQL のインストールフォルダー>\bin\postgres.exe

- f. [OK] をクリックします。
8. PostgreSQL のサービスを再起動します。



PostgreSQL への接続を許可するための設定手順を解説した動画を公開しています。下記ページの "Vol.0 TransServer と別のコンピューターに PostgreSQL をインストールした場合の設定" を参照してください。

[https://www.elysium-global.com/ja/redirect/support/3d-suite/prereq\\_psq](https://www.elysium-global.com/ja/redirect/support/3d-suite/prereq_psq)

#### 8.1.4. Command Line Tools のインストール (オプション)

TransServer のインストール先とは別のコンピューターに PostgreSQL をインストールした場合には、TransServer のインストール先となるコンピューターに PostgreSQL の Command Line Tools をインストールする必要があります。インストール手順は以下の通りです。

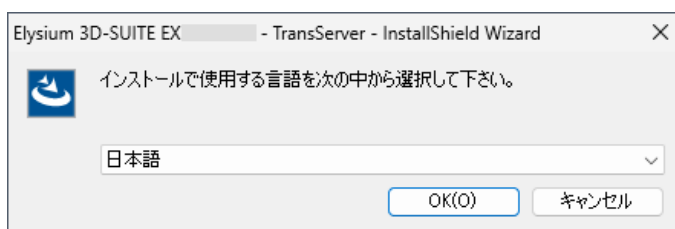
1. PostgreSQL 17.\* (Windows x86-64) のインストーラーを、TransServer をインストールするコンピューターの任意のフォルダーにコピーします。
2. インストーラーを実行し、指示に従って Command Line Tools と pgAdmin4 をインストールします。
  - インストールの実行には管理者権限が必要です。
  - Select Components  
"pgAdmin4" と "Command Line Tools" は必ずインストールしてください。

3. インストール完了後に pgAdmin4 を起動し、TransServer で使用する PostgreSQL に問題なく接続できることを確認します。

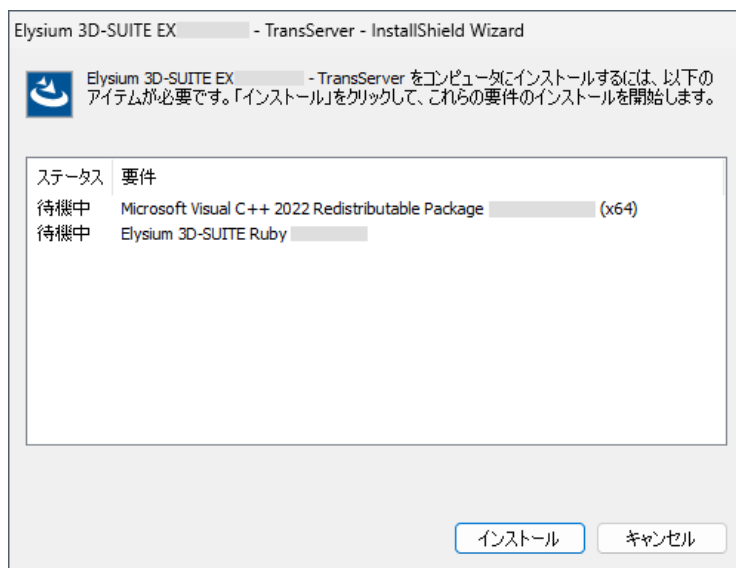
### 8.1.5. TransServer のインストール

以下の手順に従って導入、設定を行ってください。

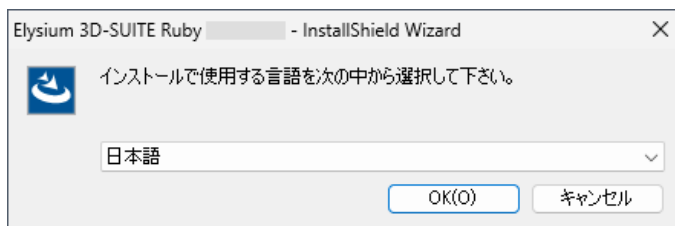
1. TransServer のインストーラーを実行します。
  - インストーラーが含まれるフォルダー: <TransServer パッケージ>\
  - インストーラー: Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_TransServer.exe
2. インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。



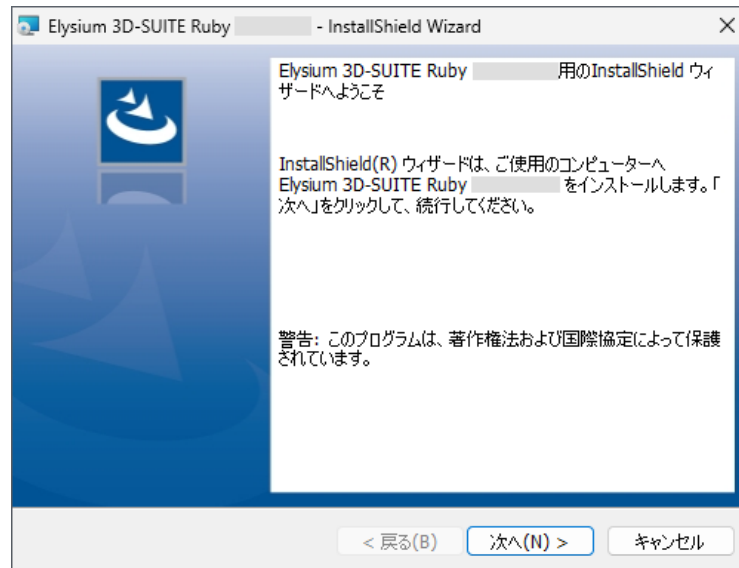
3. このダイアログが表示された場合、[インストール] をクリックし Ruby のインストールを行います。(すでにインストールされている環境では、このダイアログは表示されません。)



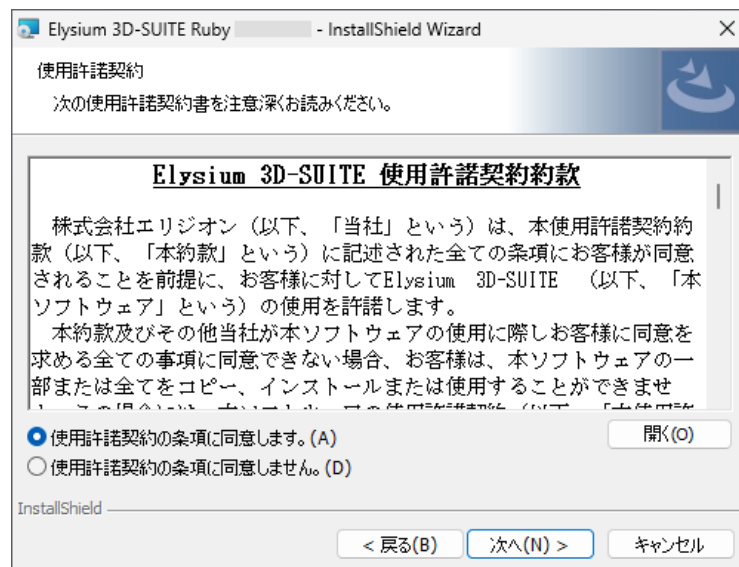
4. Elysium 3D-SUITE Ruby のインストーラーが起動します。すでに Elysium 3D-SUITE Ruby が導入されている場合は、11. へ進んでください。
5. インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。



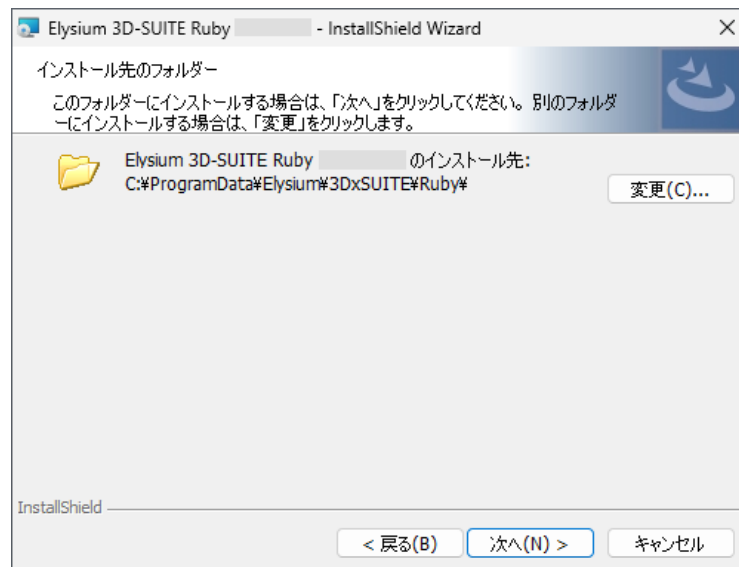
6. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



7. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続けることはできません。

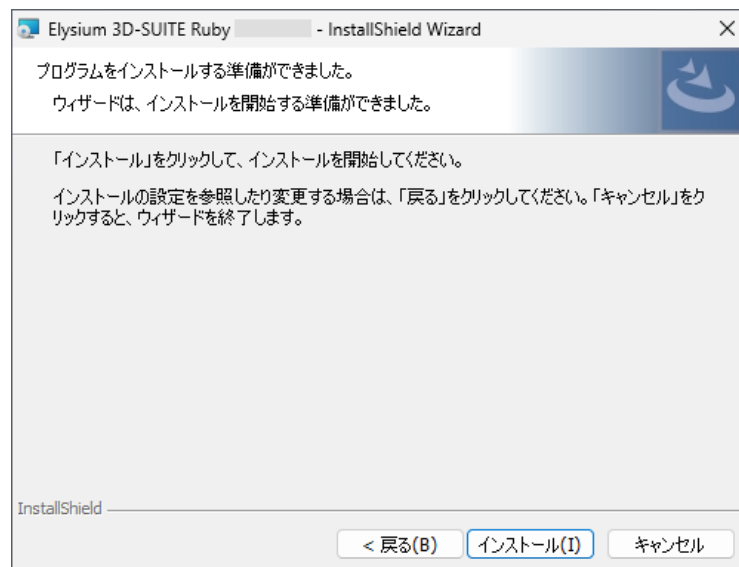


8. インストール先のフォルダーを指定するダイアログが表示されます。デフォルトのインストール先から変更する場合は、[変更] をクリックして変更先フォルダーを指定します。指定が完了したら、[次へ] をクリックします。



インストール先フォルダーのパスは半角英数字および一部の半角記号（「#」「+」「-」「\_」「.」「\$」「/」「:」）のみで構成されるようにしてください。これら以外の文字がパスに含まれている場合にはエラーとなります。

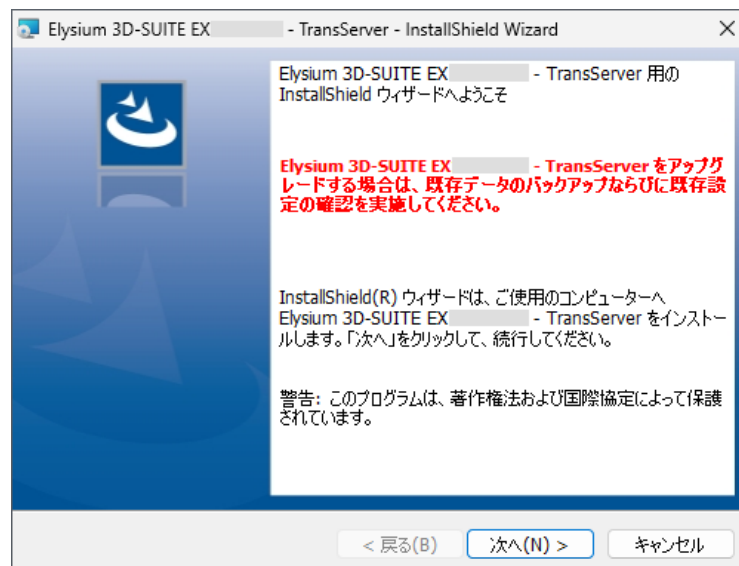
9. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。



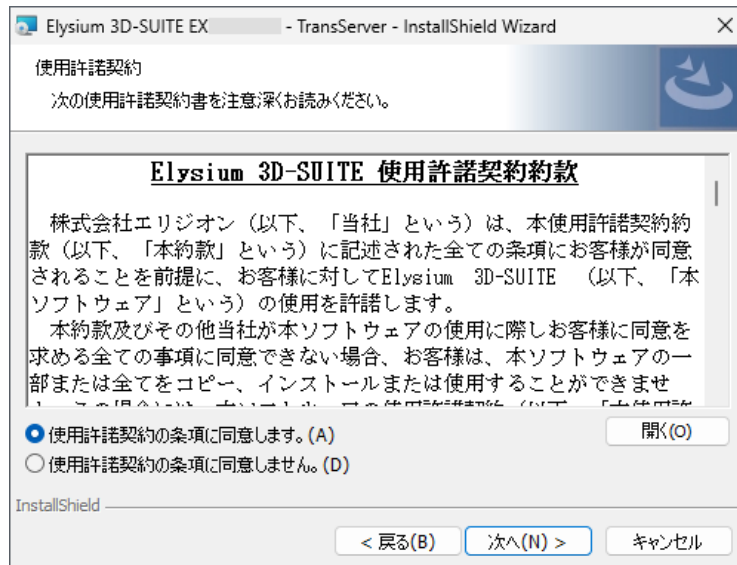
10. インストールが完了すると、以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックして Elysium 3D-SUITE Ruby のインストーラーを終了し、TransServer のインストーラーに戻ります。



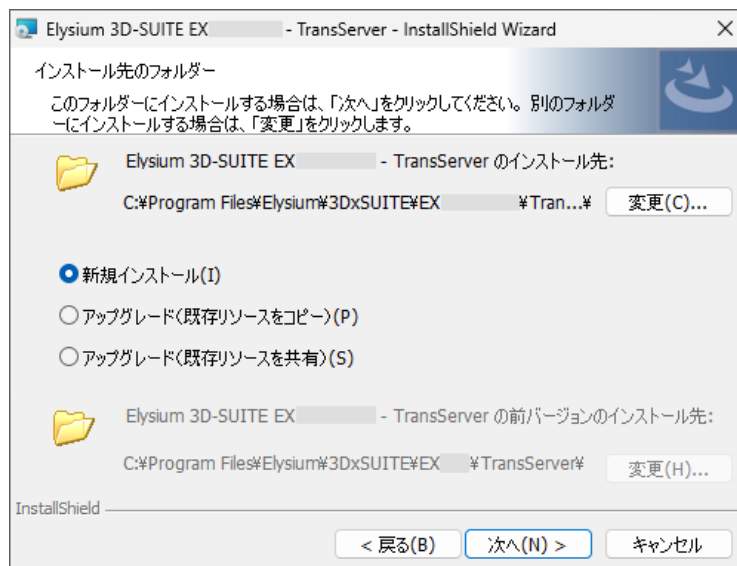
11. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



12. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続けることはできません。

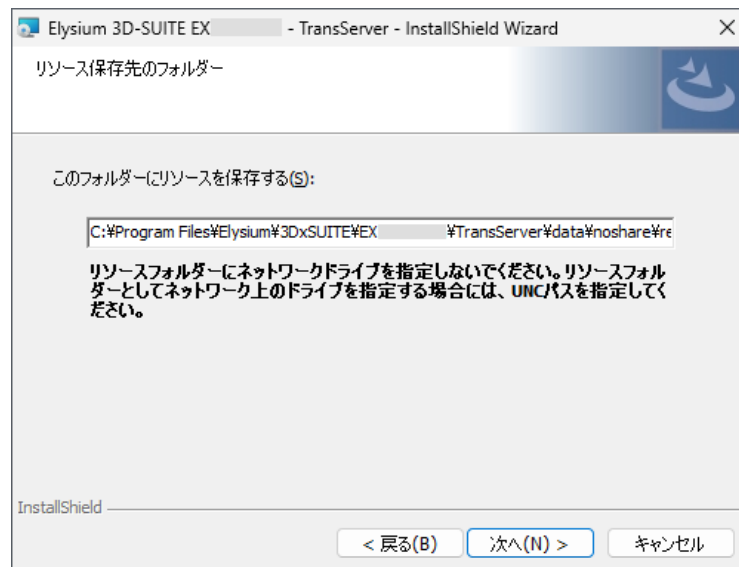


13. インストールフォルダーを指定するダイアログが表示されます。必要に応じて画面上部 "Elysium 3D-SUITE TransServerのインストール先" を変更します。新規インストールが選択されていることを確認し、[次へ] をクリックします。



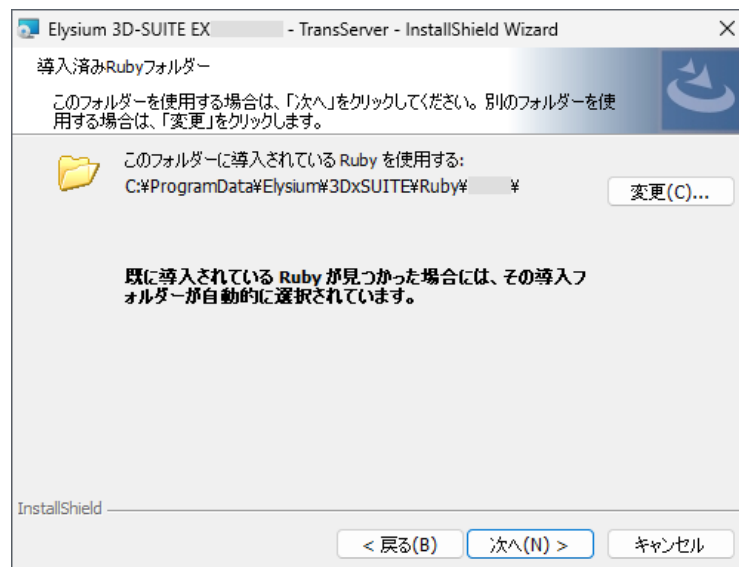
インストールフォルダーのパスは 80 文字以下となるように設定してください。80 文字より長いパスを指定した場合、TransServer が正常に動作しないことがあります。

14. リソースの保存先フォルダーを指定し [次へ] をクリックします。

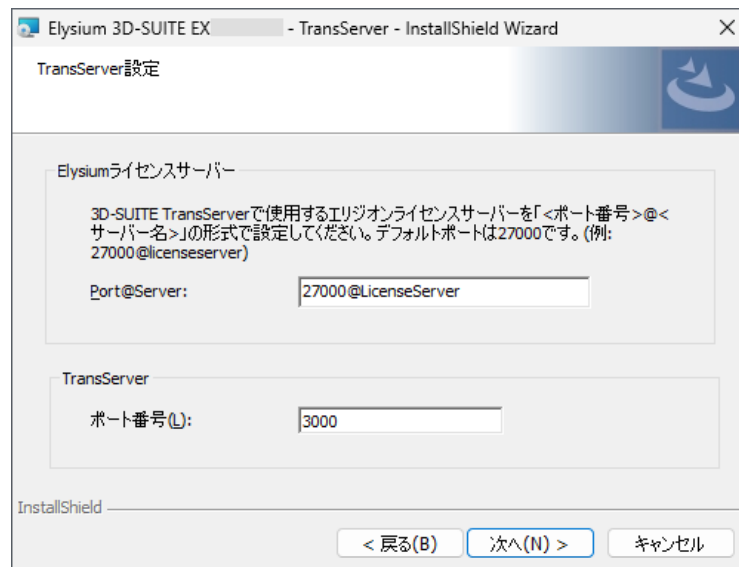


リソースフォルダーにはローカルドライブのパスか UNC パスを指定するようにしてください。ネットワークマウントしたドライブを含むパスを指定した場合、TransServer が正常に動作しないことがあるので指定しないでください。

15. Ruby のインストールフォルダーを指定し [次へ] をクリックします。

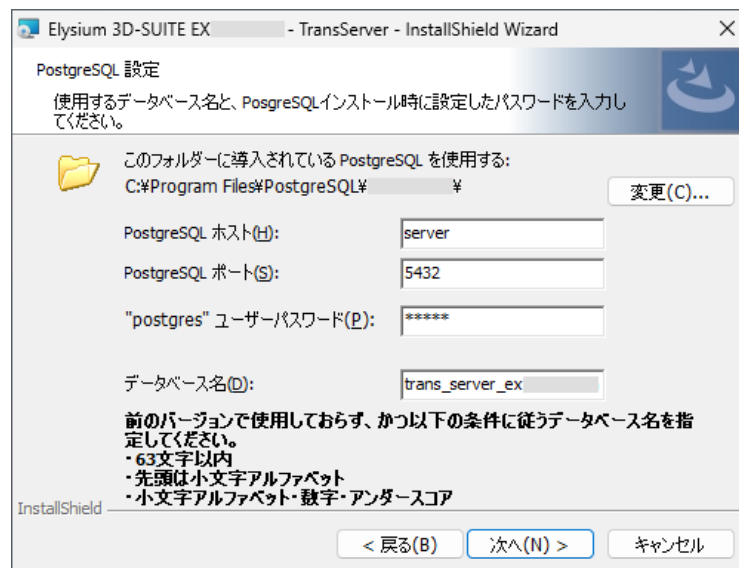


16. "<ポート番号>@<ホスト名>" という形式で、Elysium ライセンスサーバーの情報を設定します。また併せて、TransServer が使用するポート番号も設定します。設定が終わったら [次へ] をクリックします。



Elysium ライセンスサーバーには WorkerNode に設定したものと同一 Elysium ライセンスサーバーを設定してください。

17. PostgreSQL をインストールしたコンピューターのホスト名または IP アドレス、PostgreSQL の使用するポート番号、PostgreSQL の導入時に設定したパスワード、PostgreSQL のデータベース名を入力します。



- PostgreSQL を別のコンピューターにインストールしている場合、インストーラーは PostgreSQL のインストールフォルダーを自動的に取得することができません。手動で正しいインストール先フォルダーの情報を設定してください。
- インストールフォルダーの情報が間違っている場合、TransServer のインストールは成功しますが、TransServer のバックアップとリストアの機能が正しく動作しません。
- PostgreSQL を同じコンピューターにインストールしている場合、特に理由がない限りは "PostgreSQL ホスト" の値に "localhost" を指定してください。"localhost" ではなく実際のホスト名を指定した場合には、[8.1.3](#),

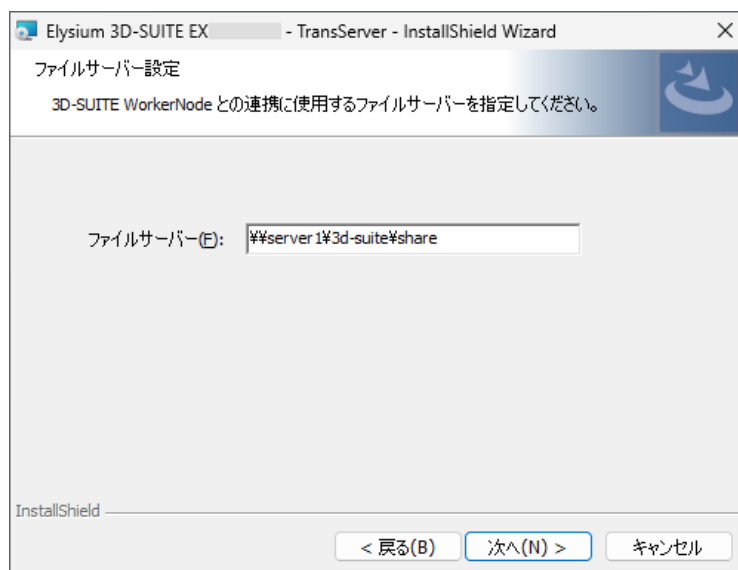
“PostgreSQL への接続を許可するための設定 (オプション)” に記載している手順を実施してください。



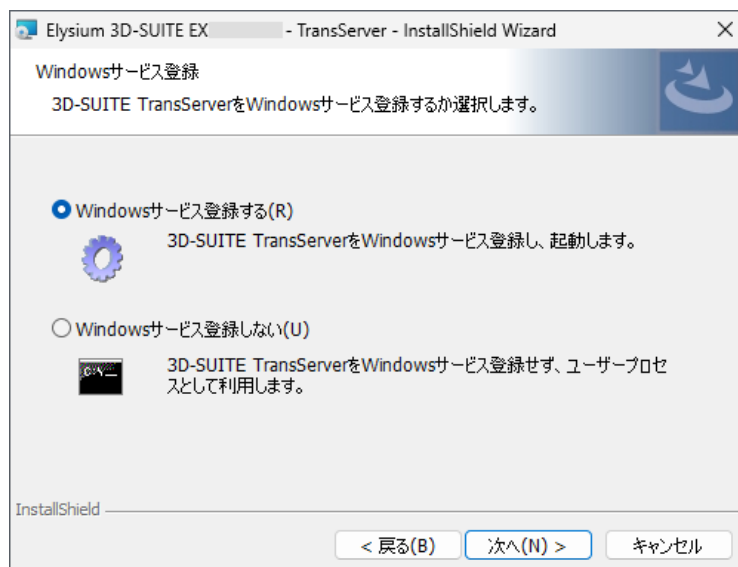
- PostgreSQL の使用するポート番号の既定値は 5432 です。
- データベース名の初期値として trans\_server\_ex\*\_\* が指定されています (\*\_\* は TransServer のバージョン番号)。通常は変更する必要はありません。ただし初めてのインストールではなく、かつ以前のデータベースが削除されていない場合、過去に使用したことのないデータベース名を指定してください。

18. 8.1.1, “入出力ファイルの授受に利用するファイルサーバーの設定” で設定したファイルサーバーを指定します。

(例: \\server1\3D-SUITE\share)



19. Windows サービスとして登録するか否かを選択します。“Windowsサービス登録する”を選択した場合は、手順 21. に進みます。“Windowsサービス登録しない”を選択した場合は、手順 22. に進みます。



Windows サービスとして登録する場合、コンピューターの起動に併せて TransServer も自動的に起動するため、ユーザーが対話的ログインを行って起動する必要がありません。

これに対し Windows サービスとして登録しない場合、処理に関する情報がコマンドプロンプトに出力されるため、問題が発生した場合にはより多くの情報を得ることができます。

運用の一例としては、定常的に TransServer を稼働させる際にはサービスとして起動し、問題発生時の調査を行う場合や一時的な試験などを実施する場合には対話的ログインで起動するという方法が考えられます。

使用目的や想定される使用状況などを踏まえた上で、適切な方法を選択してください。



20. 以下の項目を設定して [次へ] をクリックします。

- ドライブレター: WorkerNode の共通設定で指定するドライブレターと同一のものを設定します。<sup>\*1</sup>
- UNCパス: 手順 18 と同じファイルサーバーのパスを設定します。
- Active Directory外のユーザーを指定する: Active Directory が導入されていない環境にインストールする場合、および Active Directory に登録されていないユーザーを使用する場合にはオンにします。<sup>\*2</sup>
- ユーザー名: "UNCパス" に設定したパスに対して読み取りおよび書き込みが可能なユーザーのユーザー名を設定します。Active Directory に登録されているユーザーを使用する場合は空欄のままにしてください。
- パスワード: "ユーザー名" に設定したユーザーのパスワードを設定します。Active Directory に登録されているユーザーを使用する場合は空欄のままにしてください。
- パスワード(再入力): "パスワード" に設定したものと同一のパスワードを設定します。Active Directory に登録されているユーザーを使用する場合は空欄のままにしてください。

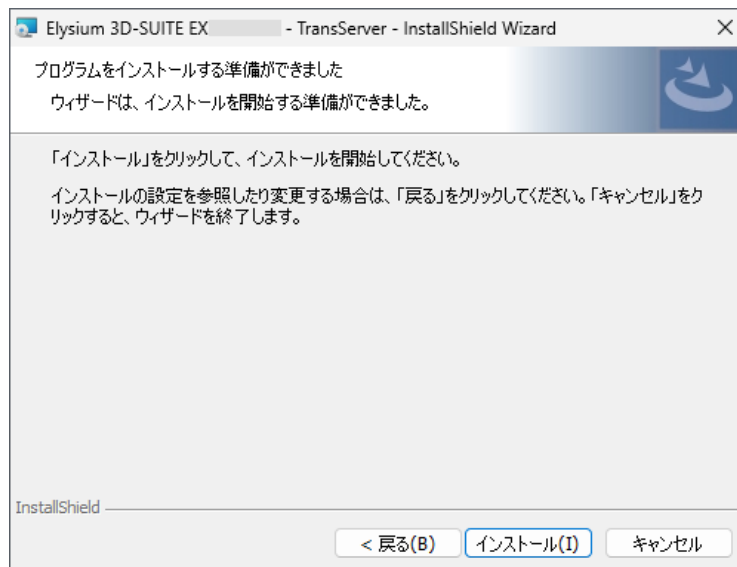


<sup>\*1</sup>: WorkerNode の設定で、作業フォルダーとしてローカルドライブにあるフォルダーを指定する場合には、ここでドライブレターを指定する必要はありません。



\*2: 登録されるサービスのログオンユーザーには "Network Service" が設定されます。Active Directory に登録されているユーザーをサービスのログオンユーザーに設定する場合には、インストールの終了後に手順 24. もしくは 8.3.8, “TransServer を Windows サービスとして登録する方法” を参照してサービスのログオンユーザーを変更してください。なお、"Active Directory外のユーザーを指定する" をオフにしてインストールを実行した場合、通常はサービスのログオンユーザーを変更する必要があります。(ファイルサーバーが TransServer をインストールしたコンピューターと同一である場合を除く)

21. [インストール] をクリックします。インストールが開始されます。



22. インストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてダイアログを閉じます。



インストールが失敗した場合には、以下のログを確認してください。



```
<TransServer インストールフォルダー>\log\install_k2.log
```

"no pg\_hba.conf entry..." または "server closed the connection unexpectedly..." というメッセージが出力されている場合には、[8.1.3, “PostgreSQL への接続を許可するための設定 \(オプション\)”](#)などを参考にして pg\_hba.conf が正しく設定されているか確認してください。正しく設定されている場合には、以下のドキュメントなどを参考に、接続に関する PostgreSQL のチューニングを行ってから再度インストールを実行してください。

<https://www.postgresql.org/docs/17/runtime-config.html>

<https://www.postgresql.org/docs/17/runtime-config-connection.html>

23. TransServer を Windows サービスとして登録した場合には、Windows のサービス一覧を開き、"Elysium 3D-SUITE EX11.0 TransServer Service" というサービスがあることを確認します。サービスが存在していればインストールは成功です。



- サービス一覧は、Windows キーと R キーを同時に押すと表示される "ファイル名を指定して実行" ウィンドウに "services.msc" と入力して [OK] をクリックすると表示されます。
- サービスが起動していても TransServer を使用できない場合があります。そのような場合には、タスクマネージャーを起動して httpd.exe プロセスが実行中であるかを確認してください。

24. サービスとして登録した TransServer をコンピューターの起動時に自動で起動するよう設定します。サービス一覧から "Elysium 3D-SUITE EX11.0 TransServer Service" のプロパティを開き、スタートアップの種類を "自動(遅延開始)" に変更します。



サービスのログオンユーザーを変更する場合には、サービス一覧から "Elysium 3D-SUITE EX11.0 TransServer Service" のプロパティを開き、[ログオン] タブにファイルサーバーに対して読み取りおよび書き込みが可能なユーザーのユーザー名とパスワードを設定してください。

25. TransServer 実行ユーザーに対する TransServer 導入フォルダーのアクセス許可をフルコントロールに設定します。



TransServer の設定を変更することで、導入フォルダーに対するフルコントロール権限を設定せずに運用することも可能です。設定を変更する場合には、"k2server.ini" に記載されている以下のパラメーターの値を編集します。

- TemporaryDir
- LogFile
- PrivateResourcePath<sup>\*1</sup>

これらのパラメーターに設定されているパスを、"TransServer 実行ユーザーが書き込み権限のあるフォルダーのパス" に変更してください。

なお、"k2server.ini" のパスは以下の通りです。

```
<TransServer インストールフォルダー>\config\k2server.ini
```

\*1: PrivateResourcePath を変更した場合には、併せて以下の設定を行う必要があります。

#### vaults テーブルの編集

以下の手順で vaults テーブルを編集してください。

1. Windows のスタートメニューから [PostgreSQL 17.\*] - [pgAdmin 4] を選択します。
2. TransServer のデータベースがある PostgreSQL に接続します。
3. vaults テーブルを開きます。
4. "path" 列の値が変更前の PrivateResourcePath の値を含む行について、"path" 列の値を現在の PrivateResourcePath に合わせて修正します。変更対象となる行は 2 行です。

#### リソース用フォルダーの作成

上で修正した vaults テーブルの path 列の値に対応するフォルダーを手動で作成してください。"protected" と "volatile" の 2 フォルダーを作成する必要があります。



TransServer のインストール手順を動画で公開しています。下記ページの "Vol.1 TransServerのインストール" を参照してください。

[https://www.elysium-global.com/ja/redirect/support/3d-suite/prereq\\_psql](https://www.elysium-global.com/ja/redirect/support/3d-suite/prereq_psql)

## 8.1.6. Apache のインストール

以下の手順で Apache をインストールしてください。

1. x64 VS17 版の Apache と mod\_log\_rotate をダウンロードします。

Apache を公開しているサイトは複数あります。いずれかのサイトからダウンロードしてください。

<https://httpd.apache.org/docs/current/platform/windows.html#down>



エリジオンでは、Apache Lounge からダウンロードした Apache を用いて結合テストを実施しています。

<https://www.apachelounge.com/download/>

3D-SUITE TransServer EX11.0 でエリジオンとして結合テストを実施したモジュールは以下の通りです。

- <https://www.apachelounge.com/download/VS17/binaries/httpd-2.4.65-250724-Win64-VS17.zip>
- [https://www.apachelounge.com/download/VS17/modules/mod\\_log\\_rotate-1.0.2-win64-VS17.zip](https://www.apachelounge.com/download/VS17/modules/mod_log_rotate-1.0.2-win64-VS17.zip)

2. ダウンロードしたファイルを、TransServer をインストールしたコンピューターの任意のフォルダーにコピーします。
3. ダウンロードしたファイルに含まれるドキュメントに従って Apache をセットアップします。以下では、Apache Lounge からダウンロードしたファイルを用いる場合の手順を記載します。それ以外のサイトからダウンロードした場合には、ダウンロードしたファイルに含まれるドキュメントを参照してください。
4. zip ファイルに含まれる Apache24 フォルダーを任意のフォルダーに配置します。ここでは、以下のフォルダーに配置したとします。

```
C:\Apache24
```



上記以外のパスに配置した場合には、httpd.conf にある SRVROOT の値を変更してください。

httpd.conf のパス:

```
Apache24\conf\httpd.conf
```

5. コマンドプロンプトを管理者として実行し、以下のパスに移動します。

```
C:\Apache24\bin
```

6. 以下のコマンドを実行します。

```
httpd.exe
```



コマンドを実行した際、以下のようなメッセージが表示されることがありますが、通常の場合 TransServer の動作に影響することはありません。

```
AH00558: httpd.exe: Could not reliably determine the server's fully qualified domain name, using *. Set the 'ServerName' directive globally to suppress this message
```

このメッセージは、httpd.conf に含まれる ServerName 設定に関連して出力されています。詳細については以下のページを参照してください。

<https://httpd.apache.org/docs/2.4/ja/mod/core.html#servername>

当該コンピューター上で 80 番ポートが既に使用されている場合、以下のようなエラーが表示されます。

```
AH00072: make_sock: could not bind to address 0.0.0.0:80
AH00451: no listening sockets available, shutting down
AH00015: Unable to open logs
```



このような場合には、httpd.conf をテキストエディターで開き、以下の行の "80" を使用されていないポート番号に変更した上で、再度 Apache が起動するか確認してください。

```
Listen 80
```

httpd.conf のパス:

```
Apache24\conf\httpd.conf
```

7. ブラウザーで以下の URL を開きます。  
"It works!" と表示されれば Apache は正常に動作しています。

<http://localhost/>



ポート番号を既定の 80 から変更している場合には、以下のようにポート番号も指定してください。 <port\_num> はポート番号で置き換えてください。

[http://localhost:<port\\_num>/](http://localhost:<port_num>/)

8. コマンドプロンプトに戻って Ctrl + C を入力し、Apache のプロセスを停止します。
9. 続いて以下のコマンドを実行し、Apache を Windows サービスとして登録します。(Apache をサービスとして登録しない場合には、この手順をスキップしてください)

```
httpd.exe -k install -n "Apache for 3D-SUITE TransServer"
```



"Apache for 3D-SUITE TransServer" の部分はサービス名を指定しています。必要に応じて適宜変更してください。

"The 'Apache for 3D-SUITE TransServer' service is successfully installed." と表示されればサービスの登録は成功です。

10. <TransServer パッケージ>\doc に含まれている modules\_for\_apache フォルダの内容を以下のフォルダにコピーします。(同名のフォルダを上書きする形になります)

```
C:\Apache24
```



modules フォルダー内の mod\_auth\_kerb.so は、統合 Windows 認証を利用しない場合、コピーする必要はありません。

11. **最初のステップ**でダウンロードした mod\_log\_rotate の zip ファイルを展開し、"mod\_log\_rotate.so" を以下のフォルダーにコピーします。

```
C:\Apache24\modules
```

12. TransServer のログイン画面をカスタマイズする場合には、以降の手順を実行する前に以下のファイルを編集します。カスタマイズしない場合には、次の手順に進みます。

```
<TransServer インストールフォルダー>\config\httpd.conf.erb  
<TransServer インストールフォルダー>\config\k2server.ini
```

13. テキストエディターで以下のファイルを開き、"InstallDir" の値として Apache をインストールしたフォルダーのフルパスを指定します。

```
<TransServer インストールフォルダー>\config\k2server.ini
```

記入例:

```
InstallDir=C:\Apache24
```



フォルダーのフルパスはダブルクォーテーションで囲まないでください。

14. テキストエディターで以下のファイルを開き、"ServerName" をアンコメントした上で、値として "TransServer のインストール先ホスト名:80" を指定します。

```
<TransServer インストールフォルダー>\config\httpd.conf.erb
```

修正前:

```
#ServerName www.example.com:80
```

修正後の例:

```
ServerName server:80
```

15. 以下のファイルをダブルクリックして、コンソールを起動します。

```
<TransServer インストールフォルダー>\k2dashboard\start-console.bat
```

16. 以下のコマンドを実行します。

```
bundle exec rake ats:httpd_conf > <任意のパス>\httpd.conf
```

17. 指定したパスに出力された httpd.conf を以下のフォルダーに配置します。

```
C:\Apache24\conf
```

18. TransServer と Apache を起動します。

Apache については、手順 9 でサービス登録した場合には、サービス一覧から Apache サービスを起動してください。サービス一覧は、Windows キーと R キーを同時に押すと表示される "ファイル名を指定して実行" ウィンドウに "services.msc" と入力して [OK] をクリックすると表示されません。

手順 9 でサービス登録しなかった場合には、手順 6 と同じコマンドで起動してください。

TransServer をサービスとしてインストールしていない場合であれば、"TransServer" というタイトルのコンソールに "TransServer started successfully!" と表示されたら、TransServer の起動は成功です。Apache の起動が成功したか否かは、次のステップで確認してください。



- TransServer が正常に起動しない場合には、以下のログを確認してください。

```
<TransServerインストールフォルダー>\TransServer\log\transserver.log
```

- Apache が正常に起動しない場合には、アプリケーションイベントログを確認してください。
- TransServer と Apache はどちらを先に起動しても問題ありません。

19. 以下の URL にアクセスして、TransServer のログイン画面が正しく表示されることを確認します。

<http://localhost:3000/>

20. Apache に対するファイアウォール経由の通信を許可するよう設定します。以下は、Windows ファイアウォールを使用している場合の設定方法の例です。別のファイアウォール製品を使用している場合には、通信が許可されるように適宜設定してください。

- Windows キーと R キーを同時に押して "ファイル名を指定して実行" を起動します。
- "名前" に "control.exe /name Microsoft.WindowsFirewall" と入力して [OK] をクリックしま

す。

- c. ウィンドウの左側にある [Windows Defender ファイアウォールを介したアプリまたは機能を許可] を選択します。
- d. [設定の変更] がクリックできる状態の場合にはクリックします。
- e. [別のアプリの許可] を選択し、以下のプログラムの通信を許可します。
  - Apache HTTP Server:  
    <Apache のインストールフォルダー>\bin\httpd.exe
- f. [OK] をクリックします。



Apache のインストール手順を動画で公開しています。下記ページの "Vol.2 Apache のインストール" を参照してください。

[https://www.elysium-global.com/ja/redirect/support/3d-suite/prereq\\_psqj](https://www.elysium-global.com/ja/redirect/support/3d-suite/prereq_psqj)

### 8.1.7. WorkerNode の設定

以下の手順で WorkerNode を設定してください。

1. TransServer を起動します。起動方法については、[8.4, “起動手順”](#) を参照してください。
2. 管理者ユーザーとしてログインし、[管理者機能] - [サービスモニター] を開きます。
3. [編集] を選択します。
4. [追加] を選択します。
5. 追加する WorkerNode のホスト名、ポートおよび TransServer と WorkerNode の間の通信で利用するプロトコルを入力した上で、[保存] をクリックします。



プロトコルとして "https" を設定した場合には、別途 WorkerNode の TLS 設定で証明書と秘密鍵を指定する必要があります。



WorkerNode の設定手順を動画で公開しています。下記ページの "Vol.3 WorkerNode の設定" を参照してください。

[https://www.elysium-global.com/ja/redirect/support/3d-suite/prereq\\_psqj](https://www.elysium-global.com/ja/redirect/support/3d-suite/prereq_psqj)

### 8.1.8. 複数の WorkerNode の導入

[9.2.5, “複数の WorkerNode の設定”](#) を参照してください。

WorkerNode を 5 つ以上設定する場合、PostgreSQL の最大同時接続数を調整する必要があります。管理者マニュアルの "DB の最大同時接続数の設定" を参照し設定を行ってください。

## 8.2. アップグレードインストール

### 8.2.1. インストール前の注意事項

- 3D-SUITE TransServer EX11.0 では、3D-SUITE TransServer EX10.0.\* からのアップグレード

インストールに対応しています。現在 EX10.0 より前のバージョンを利用している場合は、先に 3D-SUITE TransServer EX10.0 にアップグレードを行い、その後 3D-SUITE TransServer EX11.0 へのアップグレードを行ってください。

- 3D-SUITE TransServer EX11.0 では、PostgreSQL のサポートバージョンが 15.\* から 17.\* に変更になりました。8.1.2, “PostgreSQL のインストール” を参照して PostgreSQL 17.\* をインストールしてください。また、事前に <TransServer パッケージ> 内の "ts\_upgrade\_pgver17¥upgrade\_pg\_17.bat" を実行して、データベースのアップグレードを行ってください。詳細な手順は、ts\_upgrade\_pgver17¥README\_ja.txt を参照してください。
- アップグレードインストールでは、現在ご利用の TransServer の各種設定およびデータは自動的に引き継がれます。
- アップグレードによってアップグレード前の環境が影響を受けることはありませんが、万一に備えて事前にバックアップを行うことを推奨します。バックアップの方法は、管理者マニュアルの "バックアップ / リストア" をご参照ください。
- アップグレードインストールを実施する際には、事前に 3D-SUITE TransServer を停止してください。
- 以前のバージョンの 3D-SUITE TransServer がサービスとして登録されている場合には、事前にサービスを停止して、"スタートアップの種類" を "手動" に変更してください。これは複数バージョンの 3D-SUITE TransServer サービスが同時に起動しないようにするためです。手順は以下の通りです。
  1. Windows キーと R キーを同時に押して "ファイル名を指定して実行" ウィンドウを開き、"services.msc" と入力して OK をクリックします。
  2. "Elysium 3D-SUITE EX\*\* TransServer Service" サービスを停止します。
  3. "Elysium 3D-SUITE EX\*\* TransServer Service" サービスのプロパティを開き、"スタートアップの種類" を "手動" に変更します。
  4. [OK] をクリックしてプロパティを閉じます。
  5. アップグレードを実施します。

## 8.2.2. TransServer のインストール

以下の手順に従って導入、設定を行ってください。

1. TransServer のインストーラーを実行します。
  - インストーラーが含まれるフォルダー: <TransServer パッケージ>
  - インストーラー: Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_TransServer.exe
2. Elysium 3D-SUITE Ruby のインストールおよび TransServer インストーラーの画面遷移は、新規インストールと同様です。
3. TransServer インストーラーの "インストール先のフォルダー" 画面では以下のように指定してください。

### "Elysium 3D-SUITE TransServerのインストール先"

TransServer をインストールするフォルダーを指定します。[変更] からフォルダーを変更でき

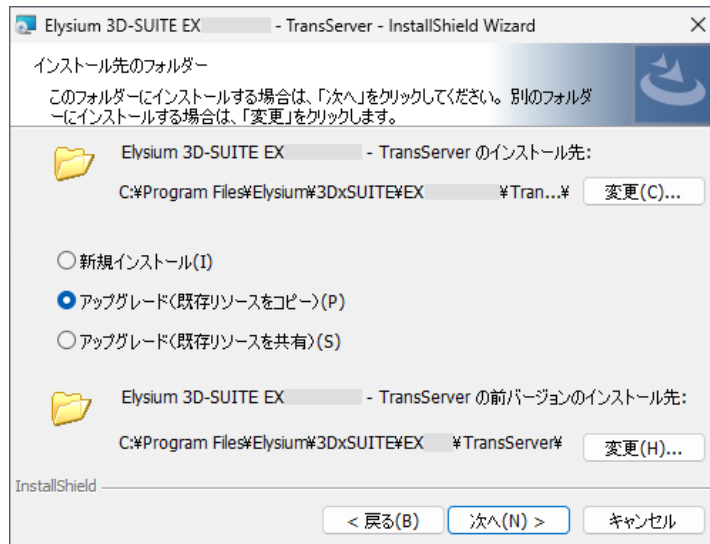
ます。"Elysium 3D-SUITE TransServerの前バージョンのインストール先"とは異なるフォルダーを指定してください。

### "Elysium 3D-SUITE TransServerの前バージョンのインストール先"

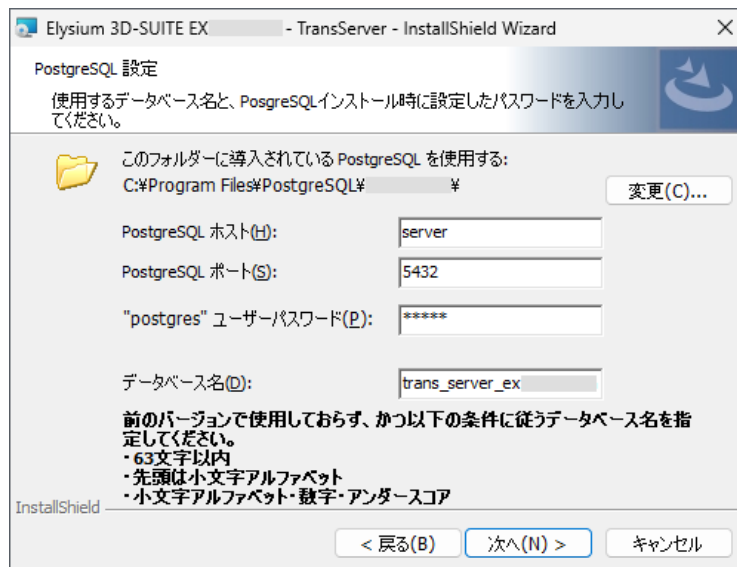
前バージョンの TransServer をインストールしたフォルダーを指定します。[変更]をクリックするとフォルダーを変更することができます。

アップグレード (既存リソースをコピー) または アップグレード (既存リソースを共有) を選択します。

- アップグレード (既存リソースをコピー) の場合、前バージョンのリソースをコピーして使用します。
- アップグレード (既存リソースを共有) の場合、前バージョンのリソースをそのまま参照します。ディスク容量の制限などでリソースの保存先を変更している場合は、こちらを選択してください。



4. PostgreSQL をインストールしたコンピューターのホスト名または IP アドレス、PostgreSQL の使用するポート番号、PostgreSQL の導入時に設定したパスワード、PostgreSQL のデータベース名を入力します。データベース名の初期値として trans\_server\_ex\*\_\* が指定されています (\*\_\* は TransServer のバージョン番号)。アップグレードインストールの場合は、必ず **過去に使用したことのないデータベース名を指定してください。**



- PostgreSQL を別のコンピューターにインストールしている場合、インストーラーは PostgreSQL のインストールフォルダーを自動的に取得することができません。手動で正しいインストール先フォルダーの情報を設定してください。
- インストールフォルダーの情報が間違っている場合、TransServer のインストールは成功しますが、TransServer のバックアップとリストアの機能が正しく動作しません。

5. 画面に従ってインストールを進めます。インストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてダイアログを閉じます。



- Active Directory が導入されていない環境で TransServer を Windows サービスとして登録する場合は、ウィザードの中で "Windows サービス登録しない" を選択してください。その上で 9.2.4, “Windows サービスの登録と削除” に従って手動でサービス登録を実施してください。



- Windows サービスとして登録する場合、コンピューターの起動に併せて TransServer も自動的に起動するため、ユーザーが対話的ログインを行って

起動する必要はありません。

これに対し Windows サービスとして登録しない場合、処理に関する情報がコマンドプロンプトに出力されるため、問題が発生した場合にはより多くの情報を得られます。

運用の一例としては、定常的に TransServer を稼働させる際にはサービスとして起動し、問題発生時の調査を行う場合や一時的な試験などを実施する場合には対話的ログインで起動するという方法が考えられます。

使用目的や想定される使用状況などを踏まえた上で、適切な方法を選択してください。

- 登録する Windows サービスのログオンユーザーとして Active Directory に登録されているユーザーを設定したい場合には、"Windows サービス登録" のステップで "Active Directory 外のユーザーを指定する" をオフのままにした上で、それ以下の入力欄は空欄のままにして [次へ] をクリックしてください。この時点で登録されるサービスのログオンユーザーとしては "Network Service" が設定されます。その上で [8.1.5, "TransServer のインストール" の手順 24](#)、もしくは [8.3.8, "TransServer を Windows サービスとして登録する方法"](#) を参照して、サービスのログオンユーザーを変更してください。

6. TransServer を Windows サービスとして登録した場合には、Windows のサービス一覧を開き、"Elysium 3D-SUITE EX11.0 TransServer Service" というサービスがあることを確認します。サービスが存在していればインストールは成功です。



- サービス一覧は、Windows キーと R キーを同時に押すと表示される "ファイル名を指定して実行" ウィンドウに "services.msc" と入力して OK をクリックすると表示されます。
- サービスが起動していても TransServer を使用できない場合があります。そのような場合には、タスクマネージャーを起動して httpd.exe プロセスが実行中であるかを確認してください。

7. TransServer 実行ユーザーに対する TransServer 導入フォルダーのアクセス許可をフルコントロールに設定します。

TransServer の設定を変更することで、導入フォルダーに対するフルコントロール権限を設定せずに運用することも可能です。設定を変更する場合には、"k2server.ini" に記載されている以下のパラメーターの値を編集します。

- TemporaryDir
- LogFile
- PrivateResourcePath<sup>\*1</sup>



これらのパラメーターに設定されているパスを、"TransServer 実行ユーザーが書き込み権限のあるフォルダーのパス" に変更してください。

なお、"k2server.ini" のパスは以下の通りです。

```
<TransServer インストールフォルダー>\config\k2server.ini
```

\*1: PrivateResourcePath を変更した場合には、併せて以下の設定を行う必要があります。

#### vaults テーブルの編集

以下の手順で vaults テーブルを編集してください。

1. Windows のスタートメニューから [PostgreSQL 17.\*] - [pgAdmin 4] を選択します。
2. TransServer のデータベースがある PostgreSQL に接続します。
3. vaults テーブルを開きます。
4. "path" 列の値が変更前の PrivateResourcePath の値を含む行について、"path" 列の値を現在の PrivateResourcePath に合わせて修正します。変更対象となる行は 2 行です。

#### リソース用フォルダーの作成

上で修正した vaults テーブルの path 列の値に対応するフォルダーを手動で作成してください。"protected" と "volatile" の 2 フォルダーを作成する必要があります。

8. 必要に応じて Apache のインストールと設定を行います。手順は [8.1.6, “Apache のインストール”](#) を参照してください。

### 8.2.3. データベースの削除

アップグレード後に古いバージョンの TransServer データベースを削除する場合は、次の手順に従います。なお、この作業はアップグレードインストールに必須ではありません。

1. Windows のスタートメニューから [PostgreSQL 17] - [pgAdmin 4] を選択します。
2. Object Explorer から TransServer のデータベースが含まれるサーバーの名前をダブルクリックし、表示されたダイアログにパスワードを入力します。
3. Databases を開き、データベース名 (デフォルトでは trans\_server\_ex\*\_\*)。\*\_\* はバージョン番号) を右クリックして [削除/抹消] を選択します。

## 8.3. インストール後の設定変更

### 8.3.1. アプリケーションサーバーのインスタンス数変更方法

同時利用ユーザー数に応じてアプリケーションサーバー数を変更してください。設定方法は管理者マ

マニュアルの "アプリケーションサーバー管理設定のチューニング" を参照してください。

### 8.3.2. リソースの保存フォルダー変更方法

ディスク容量に応じてリソースの保存フォルダーを変更してください。

1. TransServer を停止します。
2. 以下を実行してコマンドプロンプトを起動します。

```
<3D-SUITE TransServer の導入フォルダー>\k2dashboard\start-console.bat
```

3. 以下のコマンドを実行します。

```
bundle exec rake ats:resources:copy RESOURCE_PATH=(リソースの保存先に指定する  
フォルダーのフルパス)
```

4. 変更前のリソースフォルダーを削除します。
5. 以下のファイルをテキストエディターで開きます。

```
<3D-SUITE TransServer の導入フォルダー>\config\k2server.ini
```

6. K2server セクションにある PrivateResourcePath の値を、リソースの保存先に指定するフォルダーの絶対パスに変更します。(\*)
7. TransServer を再起動します。

(\*) ここで指定した内容はアップグレードを行う際に必要となります。何らかの方法で記録しておいてください。



リソースフォルダーにはローカルドライブのパスか UNC パスを指定してください。ネットワークマウントしたドライブを含むパスを指定した場合、TransServer が正常に動作しないことがあるので指定しないでください。

### 8.3.3. ライセンスサーバーの変更方法

ライセンスサーバーを変更する場合は WorkerNode、TransServer それぞれに対して以下の手順で設定を変更してください。

#### TransServer

1. テキストエディターで以下のファイルを開きます。

```
<3D-SUITE TransServer の導入フォルダー>\set_ruby_env.bat
```

2. ELYSIUM\_LICENSE\_FILE の値を新しいライセンスサーバーにあわせて変更し上書き保存します。
3. TransServer を再起動します。

### WorkerNode

1. スタートメニューから [Elysium 3D-SUITE WorkerNode] - [3D-SUITE WorkerNode EX11.0の設定] を起動します。
2. ノード一覧からノードを選択し、"共通" タブの "ライセンスファイル" にてホスト名とポート番号を変更し、[適用] をクリックします。
3. WorkerNode を再起動します。



TransServer と WorkerNode は同じライセンスサーバーを参照するようにしてください。

### 8.3.4. ファイルサーバーの変更方法

インストール時に指定したファイルサーバーのパスを変更したい場合は、以下の手順で設定を変更してください。

1. TransServer を停止します。
2. テキストエディターで以下のファイルを開きます。

```
<3D-SUITE TransServer の導入フォルダー>\set_ruby_env.bat
```

3. "@set SHARED\_FOLDER=" に続く部分の内容を変更します。
4. 変更内容を保存してテキストエディターを終了します。
5. TransServer を開始します。

また TransServer を Windows サービス登録しており、かつネットワークドライブの設定 (UNC パスおよびドライブレター) を変更した場合には、以下の手順も併せて実行してください。

1. TransServer サービスを停止します。
2. テキストエディターで以下のファイルを開きます。

```
<3D-SUITE TransServer の導入フォルダー>\config\k2server.ini
```

3. 以下の部分について値を変更します。

```
SharedFolderDriveLetter=  
SharedFolderUncPath=
```

4. 変更内容を保存してテキストエディターを終了します。

5. TransServer サービスを開始します。

### 8.3.5. データベース名の変更方法

TransServer のセットアップ後にデータベースの名前を変更する場合には、以下の手順を実施してください。

1. TransServer を停止します。
2. Windows のスタートメニューから [PostgreSQL 17.\*] - [pgAdmin 4] を選択します。
3. Object Explorer から TransServer のデータベースが含まれるサーバーの名前をダブルクリックし、表示されたダイアログにパスワードを入力します。
4. Databases を開き、データベース名 (デフォルトでは trans\_server\_ex\*\_\*)。\*\_\* はバージョン番号) を右クリックして [Properties] を選択します。
5. [General] タブにある "Database" の値を、新たに設定したいデータベース名に変更してから [Save] をクリックします。
6. 以下のファイルをテキストエディターで開き、"DATABASE\_NAME" の値を変更後のデータベース名に修正します。

```
<3D-SUITE TransServer の導入フォルダー>\install_conf.ini
```

7. 以下のファイルをテキストエディターで開き、"production" セクションにある "database" の値を、変更後のデータベース名に修正します。

```
<3D-SUITE TransServer の導入フォルダー>\k2dashboard\config\database.yml
```

### 8.3.6. データベースパスワードの変更方法

TransServer のセットアップ後にデータベースのパスワードを変更する場合には、以下の手順を実施してください。

1. 以下の URL を参照して、PostgreSQL のパスワードを変更します。

<https://www.postgresql.org/docs/17/sql-alterrole.html>

2. 以下を実行してコマンドプロンプトを起動します。

```
<3D-SUITE TransServer の導入フォルダー>\k2dashboard\start-console.bat
```

3. 以下のコマンドを実行します。改行は不要です。

```
bundle exec rake ats:update_credentials PG_USER=postgres
```

```
PG_PASSWORD=<新しいパスワード>
```

<新しいパスワード> は手順 1 で設定したパスワードで置き換えてください。

### 8.3.7. Apache の更新方法

TransServer が利用する Apache を更新する場合には、以下の手順を実施してください。

1. Apache が起動している場合には停止します。
2. TransServer が起動している場合には停止します。
3. Apache がサービスとして登録されている場合には、以下のコマンドを実行してサービス登録を解除します。

```
httpd.exe -k uninstall
```

コマンドはカレントフォルダーを Apache インストールフォルダー内の bin フォルダーに変更した上で実行してください。

4. [8.1.6, “Apache のインストール”](#) にある手順に沿って Apache と TransServer を設定します。

### 8.3.8. TransServer を Windows サービスとして登録する方法

インストール後に TransServer を Windows サービスとして登録することが必要になった場合には、以下の手順で登録を行ってください。



インストール中に TransServer を Windows サービスとして登録した場合には、本手順を実施する必要はありません。

1. TransServer がプロセスとして実行されている場合には終了します。
2. 以下のフォルダーに "install\_error.txt" というファイルが存在しないことを確認します。

```
<TransServer インストールフォルダー>\log
```

ファイルが存在した場合は TransServer のインストールが失敗しています。以下のファイルを参照して失敗の原因を特定し、TransServer を再インストールしてください。

```
<TransServer インストールフォルダー>\log\install_k2.log
```

3. 以下のファイルをテキストエディターで開きます。

```
<TransServer インストールフォルダー>\config\k2server.ini
```

4. "k2server.ini" の [Service] セクションの値を以下の通り更新します。

- SharedFolderDriveLetter: ファイルサーバーを TransServer と WorkerNode の両方でネットワークドライブとして利用する場合に、ネットワークドライブとしてマウントする際のドライブレターを設定してください。末尾にコロンが必要です。ファイルサーバーをネットワークドライブとして利用しない場合には、値を設定しないでください。
- SharedFolderUncPath: ファイルサーバーへの UNC パスを含むパスを設定してください。この項目は必ず設定する必要があります。SharedFolderDriveLetter を設定した場合には、ここで設定したパスがネットワークドライブのルートになります。
- UserName: SharedFolderUncPath のマウントを行うユーザーを設定してください。ここでユーザーを設定しなかった場合、Windows サービスのログオンユーザーでマウントを行います。
- UserPassword: 上で設定した UserName に対応するパスワードを設定してください。UserName を設定しない場合には、UserPassword も設定しないでください。

5. 変更内容を保存してテキストエディターを終了します。

6. 管理者権限でコマンドプロンプトを起動し、以下のフォルダーに移動します。

```
<3D-SUITE TransServer の導入フォルダー>\installer_data
```

7. 以下のコマンドを実行します。

```
register_service.bat <StartFlag> <EncryptFlag>
```

それぞれの引数は以下の情報で置き換えてください。

- <StartFlag>: Windows サービス登録後にそのまま Windows サービスを起動する場合には "1" を指定してください。起動したくない場合には "0" を指定してください。
- <EncryptFlag>: 初めて Windows サービスを登録する場合は "1" を指定してください。"k2server.ini" の UserName と UserPassword を暗号化します。過去に Windows サービスを登録したことがあり、再度サービスを登録する場合には "0" を指定してください。

コマンドの実行例:

```
register_service.bat 1 1
```

8. ログオンユーザーを設定するダイアログが表示されます。サービスのログオンユーザーとして登録したいユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。

9. 以下のフォルダーに "install\_error.txt" というファイルが存在しないことを確認します。

```
<TransServer インストールフォルダー>\log
```

ファイルが存在した場合は TransServer サービスの登録に失敗しています。以下のファイルを参照して失敗の原因を特定および解決した上で "install\_error.txt" を削除し、再度手順 3 に戻ってサービスの登録を実施してください。

```
<TransServer インストールフォルダー>\log\install_k2.log
```

### 8.3.9. TransServer の Windows サービスを登録解除する方法

TransServer の Windows サービスを削除したい場合には、以下の手順で登録を解除してください。

1. TransServer の Windows サービスが起動している場合には停止します。
2. 管理者権限でコマンドプロンプトを起動し、以下のフォルダーに移動します。

```
<3D-SUITE TransServer の導入フォルダー>\installer_data
```

3. 以下のコマンドを実行します。

```
unregister_service.bat
```

### 8.3.10. アップロードされたモデルを一時的に格納するフォルダーの変更方法

TransServer にアップロードされたモデルは、一時的に TransServer の動作するコンピューター上にある作業フォルダーに格納されます。既定では、作業フォルダーとして以下のパスが設定されています。

```
<TransServer インストールフォルダー>\k2dashboard\tmp
```

作業フォルダーを変更する場合には、以下の手順を実施してください。

1. TransServer が起動している場合には停止します。
2. 以下のファイルをテキストエディターで開きます。

```
<TransServer インストールフォルダー>\config\k2server.ini
```

3. "TemporaryDir" の値として、TransServer 実行ユーザーが書き込み権限を持つフォルダーのパスを設定します。

例: `TemporaryDir=D:\somewhere\tmp`

4. 変更内容を保存してテキストエディターを終了します。
5. TransServer を起動します。

## 8.4. 起動手順

### Windows サービスとして登録している場合

TransServer サービスは OS 起動時に自動的に起動するように設定されています。特に作業は必要ありません。

正常に起動した場合、アプリケーションイベントログに ID 0 のイベントが記録されます。起動時に問題が起きた場合には、ID 818 のイベントや ID 819 のイベントが記録されます。

### Windows サービスとして登録していない場合

スタートメニューの [Elysium 3D-SUITE TransServer] - [3D-SUITE TransServer EX11.0 の起動] を実行します。



TransServer サービスが実行中の場合、スタートメニューから起動することはできません。

### 8.4.1. サーバー設定

クライアントコンピューターのブラウザから以下のアドレスを開き、管理者ユーザーとしてログインします。

アドレス	<code>http://&lt;TransServerホスト名&gt;:&lt;ポート番号(初期値:3000)&gt;</code> (例) <a href="http://server:3000">http://server:3000</a>
初期アカウント	ユーザー名: admin パスワード: admin

初回ログイン時に表示されるダイアログで以下の内容を設定します。

	設定名	説明
1	admin の表示言語	ユーザー "admin" でログインした際の表示言語です。
2	言語優先度	各ユーザーにデフォルトで設定される言語優先度です。
3	scheduler.error_mail.sender	Job 実行に失敗した際に送信されるメールの送信者を指定します。
4	system.default.timezone	ユーザー新規登録時に使われる既定のタイムゾーンです。

	設定名	説明
5	system.mail.smtp_port	メール送信用の SMTP ポートを指定します。
6	system.mail.smtp_server	メール送信用の SMTP サーバーを FQDN(完全修飾ドメイン名) で設定します。
7	system.monitor.error_mail_recipient	システム監視時に異常が発生した際に送信されるメールの受信者を指定します。
8	scheduler.error_mail.recipient	Job 実行に失敗した際に送信されるメールの受信者を指定します。
9	system.mail.smtp_default_domain	メール送信時に使用するデフォルトのドメインを設定します。
10	web.common.server_base_address	TransServer 利用者向けの起点となる URL を設定します。

このダイアログを再度表示して設定をやり直したい場合には、TemporaryDir で指定されるフォルダーにある "initialized.txt" を削除してください。TemporaryDir に指定されているパスの値は、以下のファイルで確認することができます。

```
<TransServer インストールフォルダー>\config\k2server.ini
```

## 8.5. 終了手順

### Windows サービスとして登録している場合

サービス一覧から TransServer サービスを停止します。

正常に終了した場合、アプリケーションイベントログに ID 0 のイベントが記録されます。終了時に問題が起きた場合には、ID 818 のイベントや ID 819 のイベントが記録されます。


### Windows サービスとして登録していない場合

スタートメニューの [Elysium 3D-SUITE TransServer] - [3D-SUITE TransServer EX11.0 の停止] を実行します。

## 8.6. アンインストール手順

TransServer を再インストールする場合は、あらかじめデータベースの情報をバックアップしておき、再インストール後にリストアしてください。バックアップ、リストアの手順については別冊の "3D-SUITE TransServer 管理者マニュアル" をご参照ください。

TransServer はサイレントアンインストールには対応していません。手動アンインストールを行ってください。

1. Windows メニューから  [設定] を選択し、表示されたウィンドウで [アプリ] を選択します。
2. アプリの一覧から以下のプログラムを選択してアンインストールします。

## i. Elysium 3D-SUITE EX11.0 - TransServer

## ii. Elysium 3D-SUITE Ruby 3.4.4

同じコンピューターに他の 3D-SUITE 製品がインストールされており、その使用を継続する場合は、Ruby のアンインストールは行わないでください。

## iii. PostgreSQL 17

PostgreSQL を TransServer 以外の用途にも使用している場合は、TransServer のデータベースの削除を実行してください。

データベースの削除手順は [8.2.3, “データベースの削除”](#) を参照してください。



アンインストールを実行する前に TransServer を停止してください。Windows サービスとして登録している場合にはサービスを停止してください。

3. アンインストールしたプログラムのインストールフォルダーを削除します。

4. Apache をサービスとして登録している場合には、コマンドプロンプトを管理者として実行し、以下のフォルダーに移動します。

登録していない場合には、手順 7 に進んでください。

```
C:\Apache24\bin
```



Apache を "C:\Apache24" 以外のフォルダーにインストールしている場合には適宜読み替えてください。

5. 以下のコマンドを実行します。

```
httpd.exe -k uninstall -n "Apache for 3D-SUITE TransServer"
```



Apache のサービスを "Apache for 3D-SUITE TransServer" 以外の名前で登録している場合には適宜読み替えてください。

6. コマンドプロンプトを終了します。

7. Apache のインストールフォルダーを削除します。

## 9. Elysium 3D-SUITE WorkerNode

事前にインストールする必要があるプログラム

- [Components](#)

### 9.1. インストール手順

#### 9.1.1. 事前準備: 入出力ファイルの授受に利用するファイルサーバーの設定

WorkerNode をインストールするコンピューターと WorkerNode を使用するアプリケーションをインストールするコンピューターの間では、ファイルサーバーを経由して入出力ファイルの授受を行います。

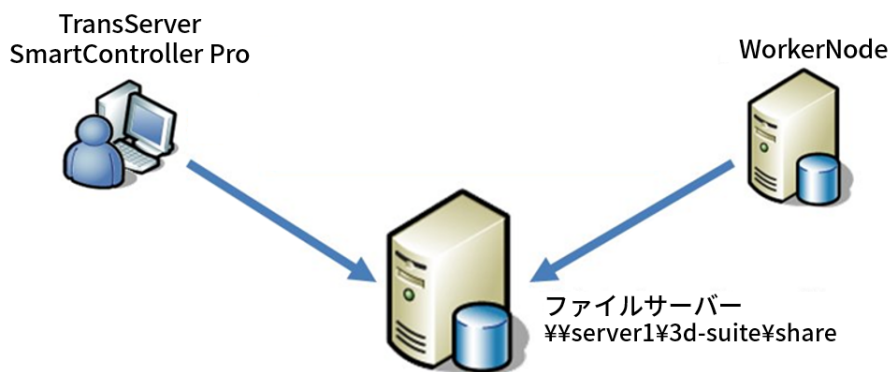


以降では、この "入出力ファイルの授受のためのファイルサーバー" のことを単純に "ファイルサーバー" と記載します。

ファイルサーバーは、以下の条件を満たすように設定してください。

- WorkerNode を使用するアプリケーションをインストールするコンピューターと WorkerNode をインストールするコンピューターの両方からネットワーク経由でアクセスできる。
- WorkerNode を使用するアプリケーションを実行するユーザーと WorkerNode を実行するユーザーの両方が書き込み権限を持っている。

ファイルサーバーとしては、通常の Windows 共有フォルダーを用いることも可能ですし、SMB 3.0 以降をサポートする NAS を用いることも可能<sup>\*1</sup>です。またファイルサーバーは、ネットワークドライブとしてマウントせずに UNC パス (\\ で始まるパス) で指定することも可能<sup>\*2</sup>です。



上の例では、server1 というコンピューターのフォルダー "\\server1\3D-SUITE\share" をファイルサーバーとして設定しています。



\*1: NAS を利用する場合、WorkerNode の作業フォルダーにはファイルサーバー上のパスを設定しないでください。そのような構成は製品としてサポートされていません。NAS を利用する場合には、WorkerNode のローカルドライブにあるフォルダーを作業フォルダーとして設定する必要があります。

\*2: ファイルサーバーを UNC パスで指定することは可能です。ただし、**WorkerNode の作業フォルダーに UNC パスを指定することはサポートされていません**。この点を踏まえ、以下のいずれかの方法で SmartController Pro または TransServer と WorkerNode の設定を行ってください。

- パターン A

- SmartController Pro または TransServer: ファイルサーバーを UNC パスで直接指定する。または、ファイルサーバーをネットワークドライブとしてマウントした上で指定する。
- WorkerNode: ローカルドライブにあるフォルダーを作業フォルダーとして指定する。

- パターン B

- SmartController Pro または TransServer: ファイルサーバーをネットワークドライブとしてマウントした上で指定する。
- WorkerNode: 作業フォルダーを指定せず空欄のままとする。



カスタムコンポーネントを使用する場合、カスタムコンポーネントの動作によってはファイルサーバーを UNC パスで指定せず、ネットワークドライブとしてマウントした上で指定する必要があります。詳細は "Elysium 3D-SUITE TransServer 管理者マニュアル" の "9.2. カスタムコンポーネント" を参照してください。

## [オプション] UNC パスを任意のドライブに割り当てる手順

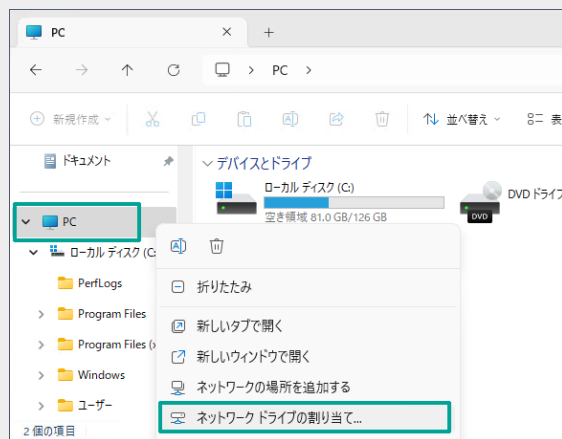
以前のバージョンの 3D-SUITE と同様に、WorkerNode で実行する処理の一時作業領域としてもファイルサーバーを利用する場合には、ファイルサーバーの UNC パスを任意のドライブに割り当てる必要があります。割り当てるための手順は以下の通りです。



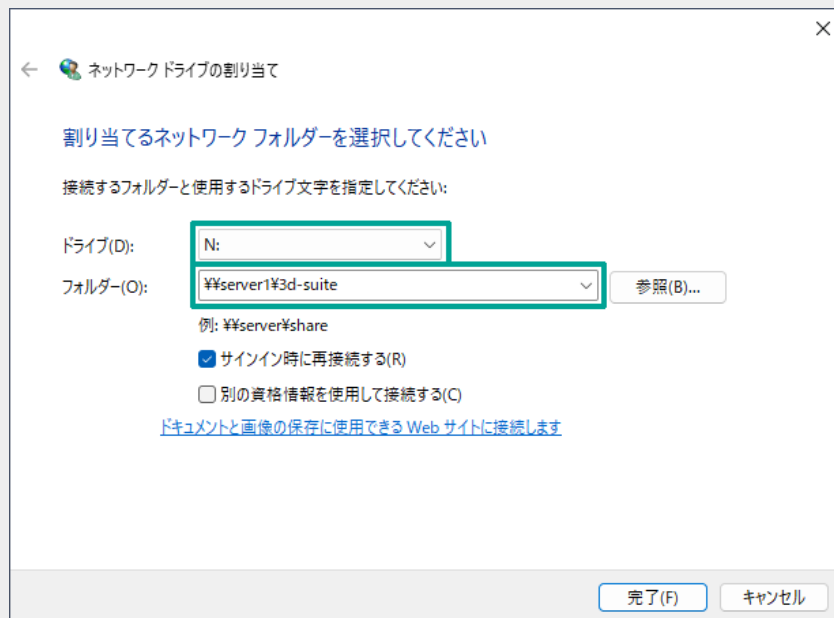
WorkerNode の設定項目にある "作業フォルダー設定" で作業フォルダーを設定しない場合にだけ、以下の作業が必要となります。

### UNC パスを任意のドライブに割り当てる方法

1. [PC] を右クリックして、[ネットワーク ドライブの割り当て] を選択します。



2. ドライブ欄からドライブ名を選び、フォルダー欄には割り当てる UNC パスを設定します。最後に [完了] をクリックします。



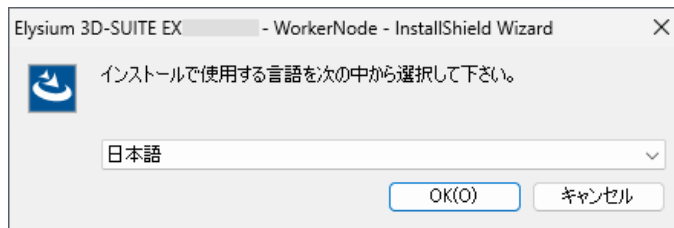
上記の設定は、WorkerNode をインストールするコンピューターと、WorkerNode を利用するアプリケーションをインストールするすべてのコンピューターで実施してください。

## 9.1.2. 手動インストール

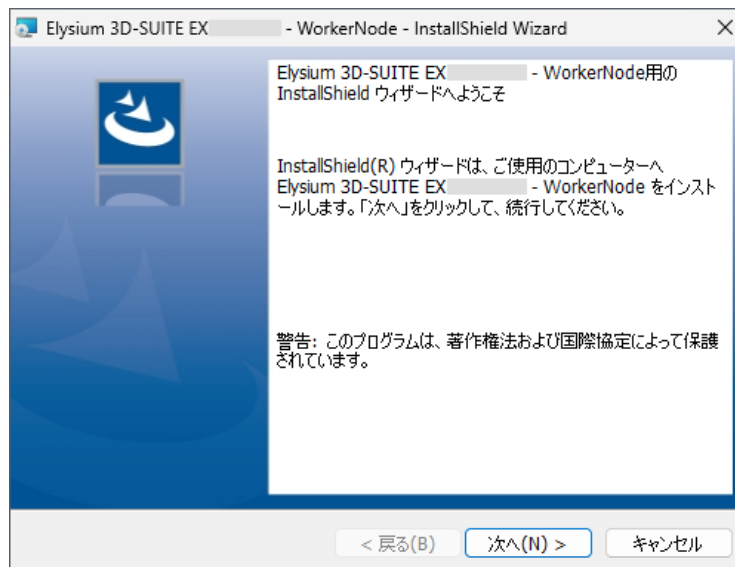


インストールは管理者権限のあるユーザーで実行してください。  
事前にインストールする必要のあるプログラムがインストールされていない場合、  
実行が中止されます。

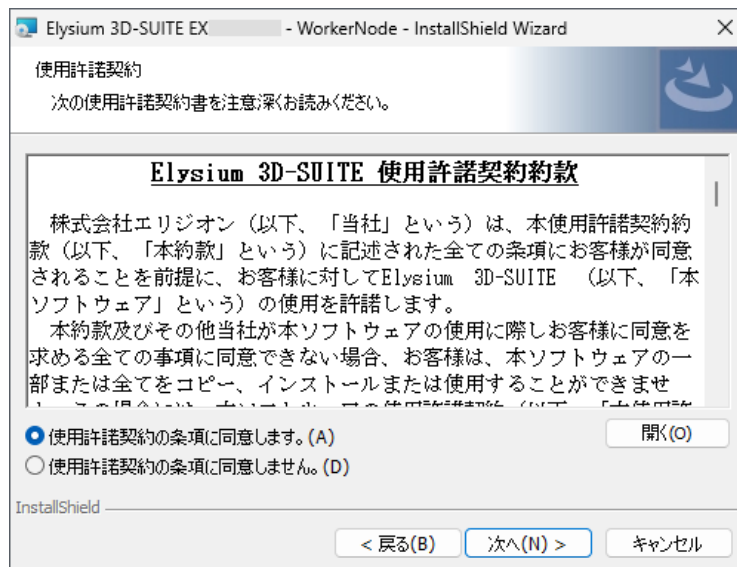
1. WorkerNode のインストーラーを実行します。
  - インストーラーが含まれるフォルダー: <WorkerNode パッケージ>\
  - インストーラー: Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_WorkerNode.exe
2. インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。日本語と英語が選択可能です。



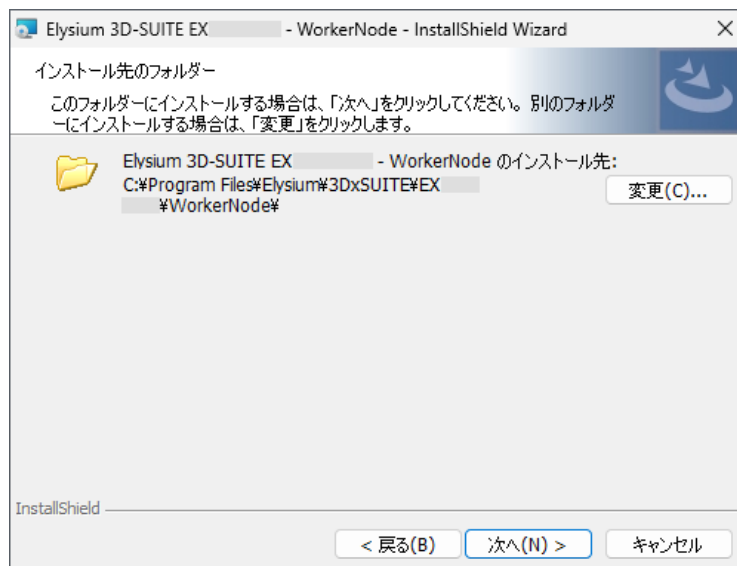
3. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



4. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続ける事はできません。

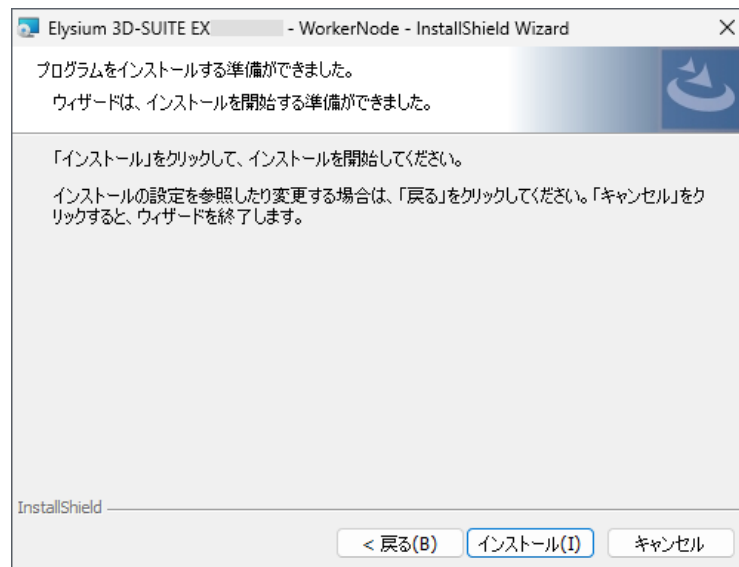


5. インストール先のフォルダーを指定するダイアログが表示されます。デフォルトのインストール先から変更する場合は、[変更] をクリックして変更先フォルダーを指定します。指定が完了したら [次へ] をクリックします。



インストール先フォルダーのパスは ASCII 文字のみで構成されるようにしてください。フォルダーパスに非 ASCII 文字が含まれている場合、アプリケーションが想定通りに動作しない場合があります。

6. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。



7. インストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてインストーラーを終了します。



SmartController Pro もしくは TransServer が動作するコンピューターから WorkerNode が動作するコンピューターの名前を解決できるようにしておく必要があります。同じく WorkerNode から SmartController Pro もしくは TransServer が動作するコンピューターの名前も解決できるようにしておく必要があります。

8. WorkerNode に対するファイアウォール経由の通信を許可するよう設定します。以下は、Windows ファイアウォールを使用している場合の設定方法の例です。別のファイアウォール製品を使用している場合には、通信が許可されるように適宜設定してください。
- Windows キーと R キーを同時に押して "ファイル名を指定して実行" を起動します。
  - "名前" に "control.exe /name Microsoft.WindowsFirewall" と入力して [OK] をクリックします。
  - ウインドウの左側にある [Windows Defender ファイアウォールを介したアプリまたは機能を許可] を選択します。

- d. [設定の変更] がクリックできる状態の場合にはクリックします。
- e. [別のアプリの許可] を選択し、以下のプログラムの通信を許可します。
- WorkerNode:  
<Elysium 3D-SUITE Ruby のインストールフォルダー<sup>\*1</sup>>\3.4.4\rubies\ruby-3.4.4\bin\ruby.exe



\*1: デフォルトでは "C:\ProgramData\Elysium\3DxSUITE\Ruby" です。

- f. [OK] をクリックします。

### 9.1.3. サイレントインストール

コマンドにて WorkerNode の新規導入やアップグレードを行うことができます。実行コマンドについては、以下のコマンド例とコマンド引数の説明を参照してください。

- コマンド例

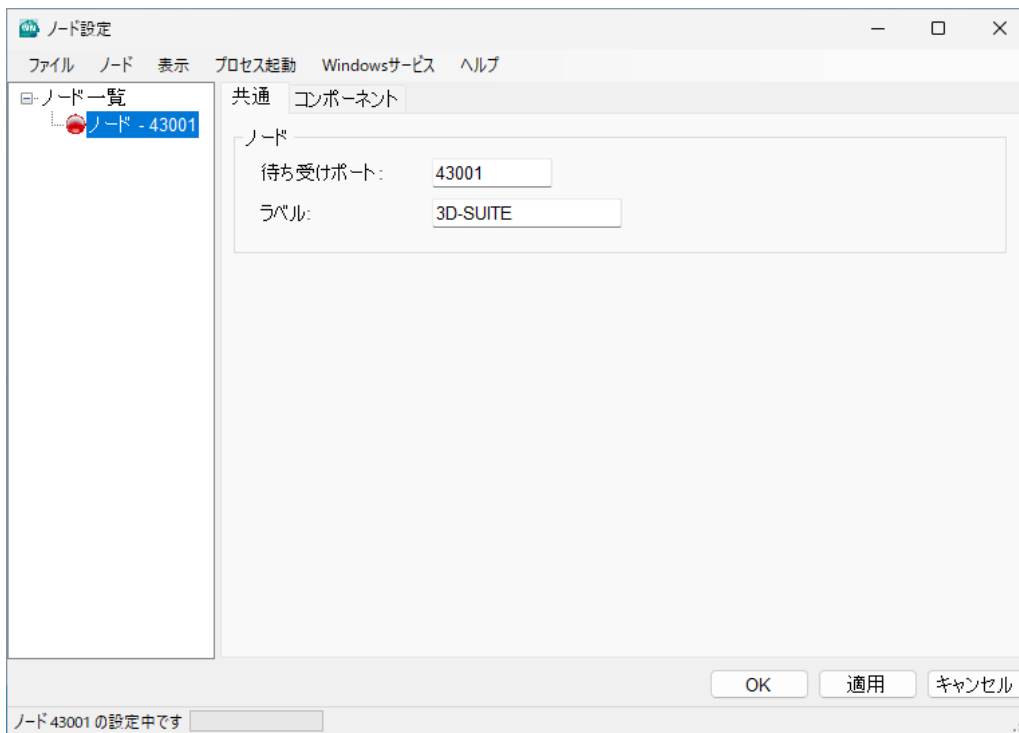
```
Elysium_3D-SUITE_EX11_0_WorkerNode.exe /s /v"/l* "C:\temp\install.log\"
INSTALLDIR="C:\Program Files\Elysium\3D-SUITE\EX11.0\WorkerNode\" /qn"
```

サイレントインストールの際にインストーラーに渡すコマンド引数の一覧は以下の通りです。

コマンド引数	説明	必須 / 任意
/s	インストールをサイレントモードで実行します。	必須
/v	<p>/v"&lt;引数1&gt;&lt;引数2&gt; …" という形式で以下の引数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>/l* \&lt;"&lt;ログファイル&gt;" : ログファイルのパスを指定します。"/l*" とファイル名の間には半角スペースが必要です。</li> <li>INSTALLDIR=\&lt;"&lt;インストールフォルダー&gt;" : インストール先のフォルダーを指定します。インストール時のみ指定が可能です。</li> <li>/qn : ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。</li> <li>/qn+ : インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。</li> </ul>	任意

## 9.2. WorkerNode の設定

Windows スタートメニューから [Elysium 3D-SUITE WorkerNode] - [3D-SUITE WorkerNode EX11.0の設定] を選択すると以下のダイアログが起動します。WorkerNode の設定はこのダイアログ上で行います。



導入済みの WorkerNode から設定を引き継ぐことも可能です。手順については 9.2.5, “複数の WorkerNode の設定” を参照してください。

### 9.2.1. [共通設定] ダイアログ

[共通設定] ダイアログは、メニューから [ファイル] - [共通設定] を選択すると表示されます。このダイアログでは、以下の内容を設定できます。

- ライセンスファイル  
ライセンスサーバーの動作しているコンピューターの情報をもとに "<ポート番号>@<ホスト名>" という形式で設定します。
- ファイルサーバー設定 (Windowsサービス起動時)
  - WorkerNode を Windows サービスとして実行する場合に指定します。
  - WorkerNode をインストールしたコンピューターが、SmartController Pro や TransServer をインストールしたコンピューターと入出力ファイルを受受するために利用するファイルサーバーの情報を UNC パスで設定します。
  - "ユーザー"、"パスワード"、"パスワード(再入力)" は、WorkerNode のプロセスを起動するユーザー、もしくは WorkerNode のサービスを実行するユーザーが、指定した UNC パスにアクセスできない場合のみ指定してください。それらのユーザーが指定した UNC パスにアクセスできる場合、指定する必要はありません。
- 作業フォルダー設定
  - 作業フォルダー：  
WorkerNode で実行する処理で利用する一時作業領域のパスを指定します。



作業フォルダーとして UNC パスを指定することはできません。

- 。フォルダーの最低保持期間を指定する (日):

作業フォルダーを指定している状態で本設定を有効にした場合、作成されてから指定した日数が経過したワークフォルダー<sup>\*1</sup>が自動で削除されます。日数のデフォルト値は 30 日です。



\*1: ワークフォルダーとは、3D-SUITE の処理を実行する際に作成されるファイルやログなどを一時的に保存するためのフォルダーです。作業フォルダー内には、それぞれのジョブごとにワークフォルダーが作成されます。

ワークフォルダーの削除処理は、そのフォルダーに対応するジョブを実行したノードが起動していれば、指定された日数が経過してから最初に日付が変わった時点で実行されます。指定された日数が経過した時点で対応するジョブを実行したノードが起動していない場合には、その後最初にノードが起動した時点で削除処理が実行されます。



- 。通常の場合、WorkerNode 上で実行された処理によって作成されたワークフォルダーは、処理が完了した時点でファイルサーバーにコピーされ、作業フォルダーからは自動的に削除されます。しかし、なんらかの理由によって処理が異常終了した場合などには、ワークフォルダーが削除されないことがあります。"フォルダーの最低保持期間を指定する"を有効化することにより、削除されずに残ってしまったワークフォルダーを自動的に削除することができます。
- 。削除されずに残っているワークフォルダーは、トラブルシューティングなどを実施する上で有用な場合があります。自動削除の日数に小さい値を設定すると、問題が起きた際に必要な情報が残っていないという事態になる可能性がありますのでご注意ください。

- TLS 設定

TransServer と WorkerNode の間の通信プロトコルとして https を利用する場合に、証明書と秘密鍵を設定します。https で通信したい場合には、両方の項目を設定する必要があります。

- その他

- 。バインドアドレス:

WorkerNode が TransServer あるいは SmartController Pro からの通信を待ち受ける際に利用する IP アドレスを指定します。IPv4 と IPv6 のどちらの形式でも指定できます。



- "0.0.0.0" を指定すると、すべての IPv4 アドレスで待ち受けるように設定できます。
- ":::" を指定すると、すべての IPv6 アドレスで待ち受けるように設定できます。

- 。ログファイルを開くために使用するアプリケーション:

WorkerNode の出力するログを開く際に使用するアプリケーションを指定します。

### 9.2.2. [共通] タブ

[共通] タブでは、以下の内容を設定できます。

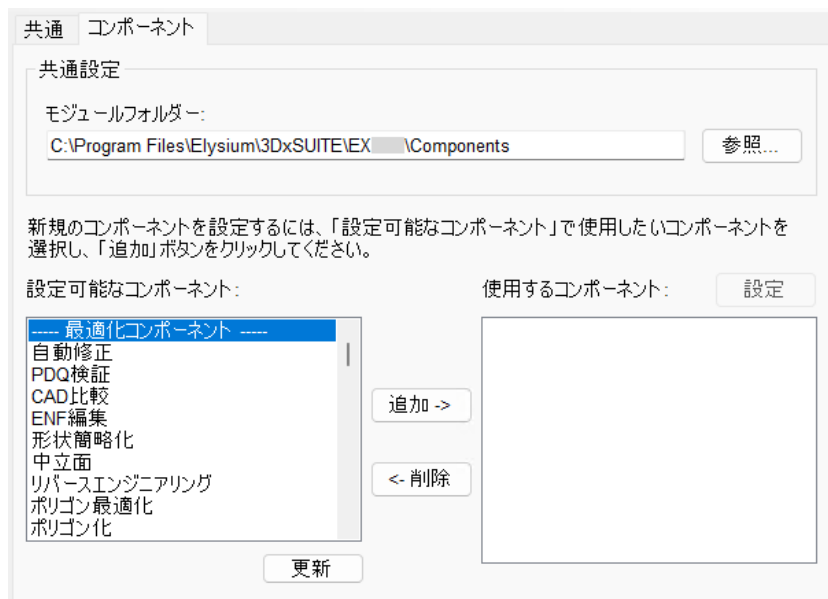
#### [ノードの設定]

- 待ち受けポート  
WorkerNode を利用するアプリケーションからの通信を受信するポートの番号を指定します。他のプログラムで使用していない番号を指定してください。
- ラベル

複数の WorkerNode をグループ化するための項目です。コンポーネントの WorkerNodeLabel パラメータにグループのラベルを指定することで、グループに属するいずれかの WorkerNode に処理を実行させることができます。同一のラベルを指定した WorkerNode が同一のグループに所属するものとして扱われます。グループ化する必要がない場合は変更する必要はありません。

### 9.2.3. [コンポーネント] タブ

[コンポーネント] タブでは、使用したい Component の有効化および CAD の導入フォルダーなどコンポーネントの動作に必要な情報を設定します。



#### [共通設定]

- モジュールフォルダー  
WorkerNode で使用する Component が導入されているフォルダーを指定します。

#### [使用するコンポーネントの設定]

- 設定可能なコンポーネント  
この WorkerNode で設定可能な Component (Adapter および Optimizer) の一覧です。
- 使用するコンポーネント  
この WorkerNode で動作するように指定された Component の一覧です。

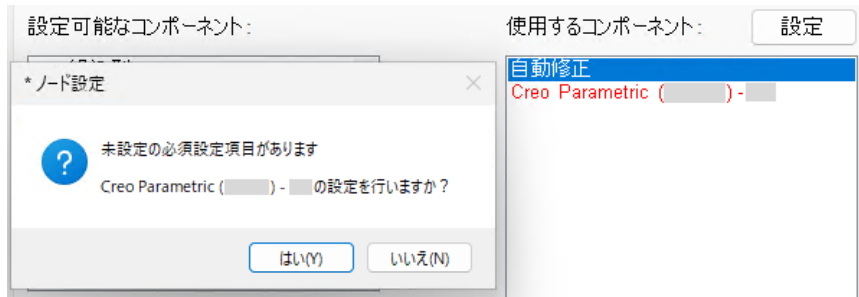
#### コンポーネントの追加と削除

1. 設定可能なコンポーネントの一覧から使用したいコンポーネントを選択して [追加] をクリックします。

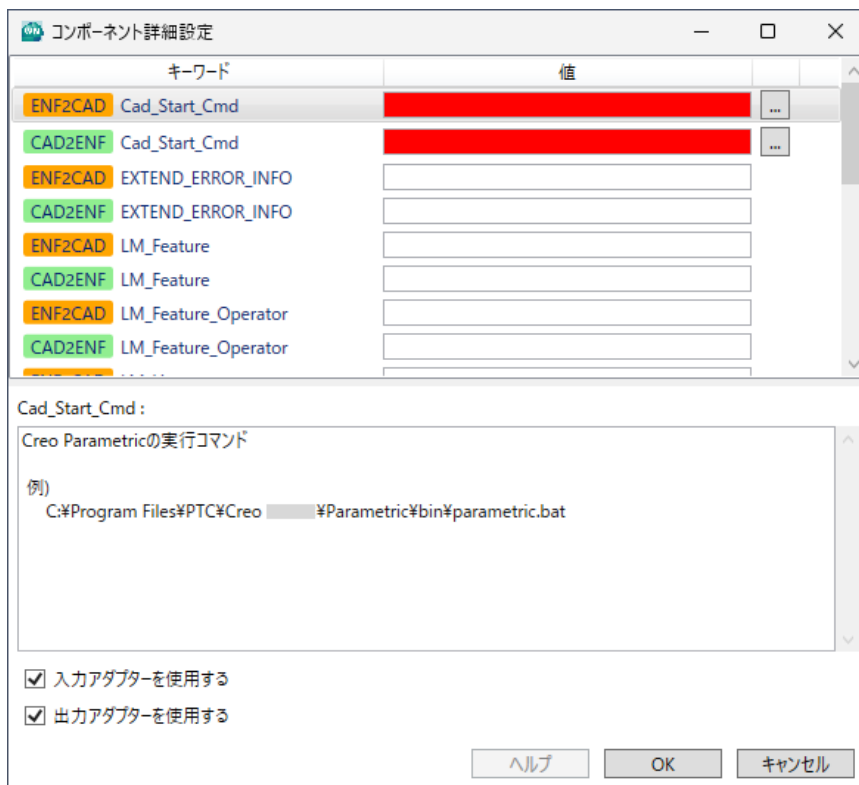


"自動修正" コンポーネントは必ず追加してください。

- 必須設定項目が存在する Component を追加した場合は、以下のようなダイアログが表示されます。[はい] をクリックして設定を開始します。[いいえ] をクリックした場合も、使用する Component の [設定] をクリックすることで後から設定できます。



- 手順 2. で [はい] をクリックした場合や後から [設定] をクリックした場合は、"コンポーネント詳細設定" ダイアログが表示されます。CAD の導入フォルダーや起動プログラムなどの必須情報 (値の列の背景が赤色で表示されています)、テンプレートファイルやライセンスタイムアウトなどの任意の設定項目を設定できます。

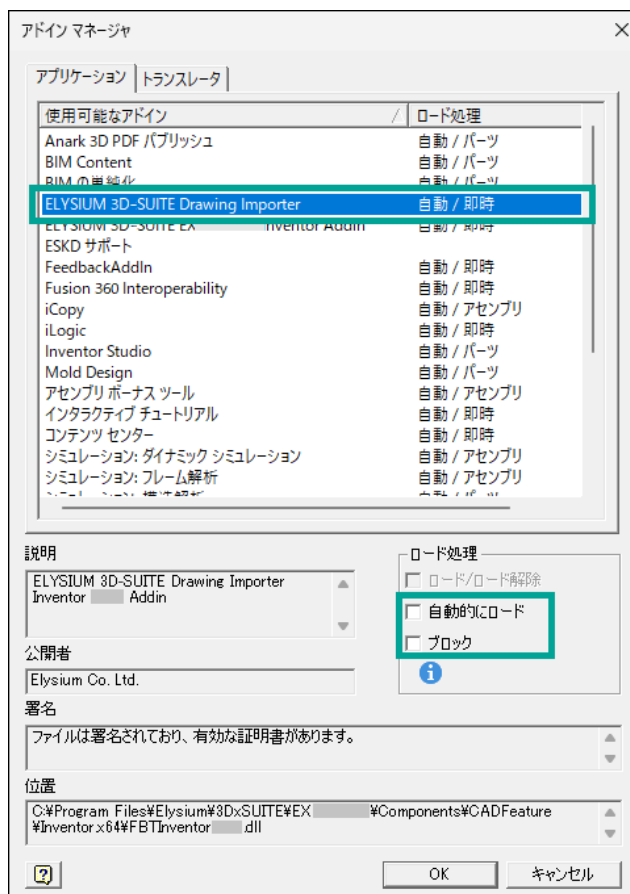




コンポーネント詳細ダイアログの設定内容は 3D-SUITE ユーザー設定ユーティリティと同期しています。変更する際には使用状況などを踏まえた上で、適切な設定を選択してください。

4. [OK] をクリックして設定を完了します。

Inventor Adapter を使用する場合、Inventor の [ツール] タブにある [アドイン] を選択してアドイン マネージャを起動し、"Elysium 3D-SUITE Inventor Addin" のブロックを解除しておく必要があります。



### 9.2.4. Windows サービスの登録と削除

WorkerNode を Windows サービスとして登録し、動作させることができます。登録した場合、コンピュータの起動に併せて WorkerNode も自動的に起動するため、ユーザーが対話的ログインを行って起動する必要がありません。Windows サービスを登録 / 削除する手順は以下の通りです。

#### Windows サービスの登録

1. メニューから [Windowsサービス] - [サービス登録] を選択します。
2. 表示されたダイアログでサービス実行ユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。
3. ユーザーアカウント制御の警告ダイアログが表示されます。問題なければ [はい] をクリックします。
4. サービスの登録に成功したことを示すダイアログが表示されたことを確認します。

5. メニューから [ファイル] - [共通設定] を選択します。
6. "ライセンスファイル" に各 Component が使用するライセンスサーバーの情報を "<ポート番号>@<ホスト名>" という形式で設定します。
7. "作業フォルダー" にドライブレター、ネットワークフォルダーパス (9.1.1, “事前準備: 入出力ファイルの授受に利用するファイルサーバーの設定” で指定したものと同一内容) を入力します。また、手順 2. で設定したサービス実行ユーザーがこのパスにアクセスする権限を持っていない場合には、アクセス権のあるユーザーのユーザー名とパスワードも入力します。
8. [OK] をクリックして設定を保存します。

一部の Component はサービスとして実行されている WorkerNode での実行に対応していません。サービス化未対応のコンポーネントについては、Windows サービスとして動作していない WorkerNode で実行してください。現時点における各 Component のサービス化対応状況は以下の通りです。

Component	対応状況
CATIA V5(Plug-in)	対応済み
CATIA V5(standalone)	対応済み
3DEXPERIENCE	対応済み
CATIA V4	対応済み
NX(Plug-in)	対応済み
NX(standalone)	対応済み
Creo Parametric(Plug-in)	対応済み
Creo Parametric(standalone)	対応済み
NX I-deas	未対応
SOLIDWORKS(Plug-in)	未対応
SOLIDWORKS(Standalone)	対応済み
Creo Elements/Direct Modeling	対応済み
Autodesk Inventor	対応済み
CADmeister(standalone)	対応済み
iCAD SX	対応済み
Solid Edge	対応済み
Parasolid	対応済み
ACIS	対応済み
STEP	対応済み

Component	対応状況
JT	対応済み
QIF	対応済み
3DXML	対応済み
IGES	対応済み
STEP XML	対応済み
PLM XML	対応済み
XPDMXML	対応済み
3D PDF	対応済み
XVL	対応済み
Creo View	対応済み
STL	対応済み
OBJ	対応済み
VRML	対応済み
Nastran	対応済み
Point Cloud	対応済み
HTML	対応済み
DWG Drawing	対応済み
自動修正	対応済み
PDQ Checker	対応済み
形状簡略化	対応済み
CAD 比較	対応済み
ENF ポリゴン	対応済み
ポリゴン最適化	対応済み
ENF 編集	対応済み
DFXA 作成	対応済み
DFXA 更新	対応済み
DFXA 統合	対応済み
DFX レポート作成	未対応
Drawing 比較	対応済み

Component	対応状況
PMI Checker	対応済み



カスタムコンポーネントが Windows サービスとして動作することの可否については、カスタムコンポーネントから呼び出される実行ファイルやバッチファイルのサービス対応状況に依存します。

## Windows サービスの削除

1. メニューから [Windowsサービス] - [サービス削除] を選択します。
2. ユーザーアカウント制御の警告ダイアログが表示されます。問題なければ [はい] をクリックします。
3. サービスの削除に成功したことを示すダイアログが表示されたことを確認します。



Windows サービスとして登録する場合、コンピューターの起動に併せて WorkerNode も自動的に起動するため、ユーザーが対話的ログインを行って起動する必要がありません。これに対し Windows サービスとして登録しない場合、処理に関する情報がコマンドプロンプトに出力されるため、問題が発生した場合にはより多くの情報を得ることができます。

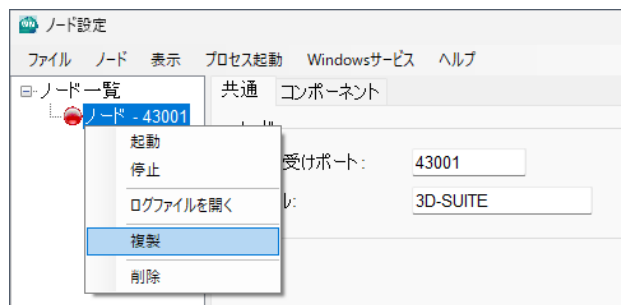
運用の一例としては、定常的に WorkerNode を稼働させる際にはサービスとして起動し、問題発生時の調査を行う場合や一時的な試験などを実施する場合には対話的ログインで起動するという方法が考えられます。使用目的や想定される使用状況などを踏まえた上で、適切な起動方法を選択してください。

## 9.2.5. 複数の WorkerNode の設定

ノード設定では、異なる設定を持った複数のノードを設定できます。

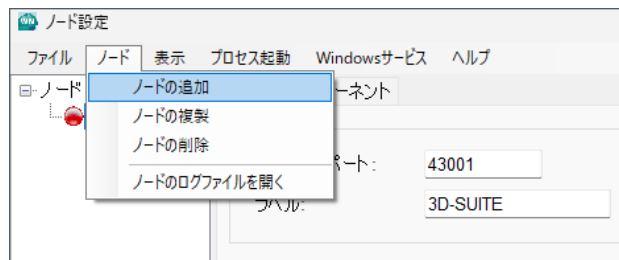
### 既存のノード設定を複製

1つのノードでは同時に1つの処理しか実行されません。そのため、同一のコンポーネントに対して複数のライセンス (エリジオンライセンス・CAD ライセンス) を所有している場合には、同一設定のノードを複数設定することでライセンスを有効に活用できます。



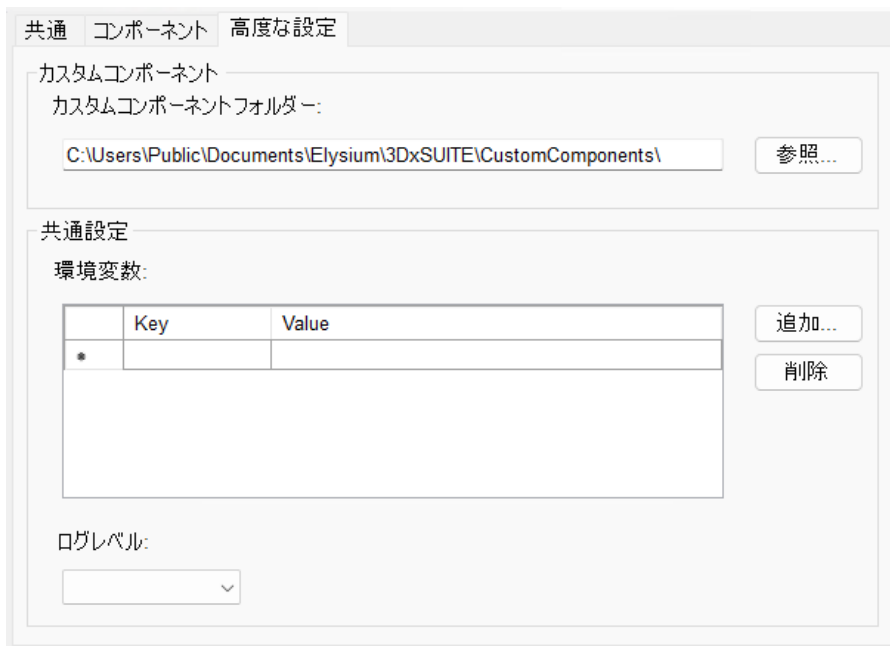
### 新規ノード作成

特定の CAD 専用のノードを作成したい場合など、既存のノードとはまったく異なるコンポーネントを持ったノードを作成したい場合は、新規にノードを追加してください。



## 9.2.6. 高度な設定

メニューの [表示] - [高度な設定] にチェックを付けると、[高度な設定] タブが表示されません。WorkerNode でのみ使用する環境変数の設定などを行うことができます。



### [カスタムコンポーネント]

- カスタムコンポーネントフォルダー  
3D-SUITE 以外の外部モジュールをコンポーネントとして追加するためのフォルダーです。

### [共通設定]

- 環境変数  
WorkerNode で使用する環境変数を設定できます。ここで設定した環境変数は WorkerNode 内でのみ有効です。



環境変数タブで指定した文字列は、すべてそのままの文字列として処理されます。 %Path% や %TEMP% などを指定して他の環境変数の値を参照することはできません。

- ログレベル  
WorkerNode の出力するログのレベルを、"info" と "debug" から選択します。ログレベルを選択していない状態では、"info" レベルのログが出力されます。ログの出力先については、[9.5.2, “WorkerNode のログについて”](#) を参照してください。

## 9.2.7. 設定の引き継ぎ

過去に導入済みの WorkerNode がある場合、設定済みの内容を引き継ぐことができます。手順は以下の通りです。

1. Windows スタートメニューから [Elysium 3D-SUITE WorkerNode] - [3D-SUITE WorkerNode EX11.0 の設定] を選択します。
2. [ノード設定] ウィンドウでメニューから [ファイル] - [インポート] を選択します。
3. ファイル選択ウィンドウで "ServiceConfig.xml" を選択して [開く] をクリックします。ファイルのパスは以下の通りです。
  - %Public%\Documents\Elysium\3DxSUITE\Config\WorkerNode\ServiceConfig.xml
4. [ノードの設定] ダイアログが表示されたら内容を確認し、インポートを実行する場合には [OK] をクリックします。
5. [ノード設定] ウィンドウで [適用] をクリックします。

## 9.3. 起動と停止

WorkerNode を [通常プロセス](#) として動作させるか [Windows サービス](#) として動作させるかで、起動と停止の方法が異なります。

Windows サービスとして実行されている WorkerNode と通常プロセスとして実行されている WorkerNode は同一コンピューター上で併存しないように運用してください。

WorkerNode がサービスとして実行されている状態でノードの追加や設定変更を行う場合には、サービスを停止した上で [ノード設定] から変更を行い、設定後にサービスを再起動してください。



WorkerNode が通常プロセスとして実行されている場合には、WorkerNode の Windows サービスを開始しないでください。既定の設定ではコンピューター起動時に WorkerNode の Windows サービスが自動的に起動するため、必要に応じてサービスの自動起動設定を無効化してください。

通常プロセスとして実行する場合にノードの追加や設定変更を行う際には、ノードを停止した上で [ノード設定] から設定変更を行い、再度ノードを起動してください。

### 通常プロセスの場合

WorkerNode を通常プロセスとして起動 / 停止する方法は以下の 3 種類です。

#### [プログラムメニューから起動 / 停止する]

起動:

Windows スタートメニューから [Elysium 3D-SUITE WorkerNode] - [3D-SUITE WorkerNode EX11.0の起動] を実行してください。

停止:

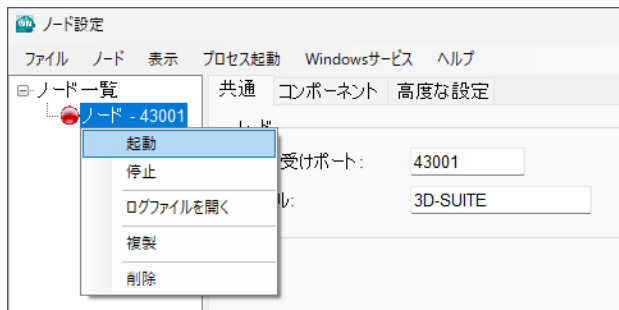
3D-SUITE -... で始まる名称のコマンドプロンプトを、ウィンドウ右上の × ボタンを押して閉じてく

ださい。

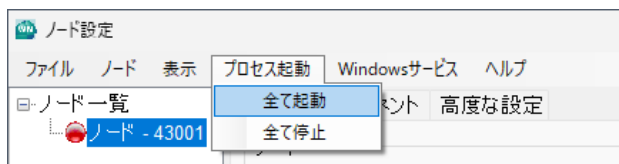
### [ノード設定ダイアログから起動する]

起動:

ノード一覧から起動したいノードを右クリックして "起動" を選択してください。



メニューの [プロセス起動] - [全て起動] を実行することでもノードの起動を行うことができます。



WorkerNode の起動に成功すると、以下のウィンドウが表示されます。

```
43001 - 3DxSUITE - C:/Program ...
I, [2024-10-25T16:45:31.654163 #3632] INFO -- : In load(33), Using config C:/Users/Public/Documents/Elysium/3DxS
D, [2024-10-25T16:45:31.654801 #3632] DEBUG -- : In load(36), Load config C:/Users/Public/Documents/Elysium/3DxS
I, [2024-10-25T16:45:31.813065 #3632] INFO -- : In load(33), Using config C:/Users/Public/Documents/Elysium/3DxS
D, [2024-10-25T16:45:31.814165 #3632] DEBUG -- : In read_service_list(88), Defined components
D, [2024-10-25T16:45:31.814442 #3632] DEBUG -- : In block in read_service_list(89), 3DxSUITE - dek
D, [2024-10-25T16:45:31.814841 #3632] DEBUG -- : In block in read_service_list(89), 3DxSUITE - step2enf - any
D, [2024-10-25T16:45:31.815148 #3632] DEBUG -- : In block in read_service_list(89), 3DxSUITE - enf2step - any
D, [2024-10-25T16:45:31.815452 #3632] DEBUG -- : In block in read_service_list(89), 3DxSUITE - iges2enf - any
D, [2024-10-25T16:45:31.815744 #3632] DEBUG -- : In block in read_service_list(89), 3DxSUITE - enf2iges - any
Defined components
3DxSUITE - dek
3DxSUITE - step2enf - any
3DxSUITE - enf2step - any
3DxSUITE - iges2enf - any
3DxSUITE - enf2iges - any
WorkerNode started on http://0.0.0.0:43001
```

停止:

ノード一覧から停止したいノードを右クリックして "停止" を選択してください。

メニューの [プロセス起動] - [全て停止] を実行することでもノードを停止できます。

### [コマンドラインから起動する]

<3D-SUITE インストールフォルダー>\EX11.0\WorkerNode\bin 内の WorkerLauncher.exe を使用することで、WorkerNode の起動 / 停止をコマンドラインから実行できます。オプションの詳細については、以下のように "?" を引数として WorkerLauncher.exe を実行し、確認してください。

```
> WorkerLauncher.exe /?
```

以下、WorkerNode の起動 / 停止のためのコマンド例を示します。

- すべての WorkerNode を起動 / 終了する場合

起動:

以下のコマンドを実行

```
> WorkerLauncher.exe /Mode=start
```

停止:

以下のコマンドを実行

```
> WorkerLauncher.exe /Mode=stop
```

- 特定ポートの WorkerNode を起動 / 停止する場合

起動:

```
> WorkerLauncher.exe /Mode=start /ListenPort={起動したい 3D-SUITE WorkerNode  
のポート番号}
```

停止:

```
> WorkerLauncher.exe /Mode=stop /ListenPort={停止したい 3D-SUITE WorkerNode  
のポート番号}
```

(例) ポート番号 43001 で定義されている WorkerNode を起動する場合

以下のコマンドを実行

```
> WorkerLauncher.exe /Mode=start /ListenPort=43001
```

## Windows サービスの場合

以下の手順でサービスの起動および停止を実行してください。

### a. Windows サービスの起動

1. ノード設定ウインドウのメニューから [Windowsサービス] - [サービス開始] を選択します。
2. ユーザーアカウント制御の警告ダイアログが表示されます。問題なければ [はい] をクリックします。
3. サービスの起動に成功したことを示すダイアログが表示されたことを確認します。

### b. Windows サービスの停止

1. ノード設定ウインドウのメニューから [Windowsサービス] - [サービス停止] を選択します。

2. ユーザーアカウント制御の警告ダイアログが表示されます。問題なければ [はい] をクリックします。
3. サービスの停止に成功したことを示すダイアログが表示されたことを確認します。



各ノードに設定されているすべてのポートが使用可能な場合のみ、WorkerNodeのWindowsサービスを起動できます。いずれかのポートが通常プロセスとして起動されたWorkerNodeもしくは別のアプリケーションによって利用されている場合、Windowsサービスの起動に失敗します。

## 9.4. アンインストール手順

### 9.4.1. 手動アンインストール

1. Windows スタートメニューから [設定](ギアマーク) を選択します。
2. [アプリ] を選択します。
3. "アプリと機能" に表示されたアプリケーションの一覧から、"Elysium 3D-SUITE EX11.0 - WorkerNode" を選択して、アンインストールを実行します。

### 9.4.2. サイレントアンインストール

コマンドでサイレントアンインストールを行うことができます。現在導入されているバージョンのインストーラーが必要です。

- コマンド例

```
Elysium_3D-SUITE_EX11_0_WorkerNode.exe /s /x /v"/l* \"C:\temp\uninstall.log\" /qn"
```

サイレントアンインストールを実行する際にインストーラーに渡すコマンド引数の一覧です。

コマンド引数	説明	必須 / 任意
/s	アンインストールをサイレントモードで実行します。	必須
/x	アンインストールを実行します。	必須
/v	<p>/v"&lt;引数1&gt; &lt;引数2&gt; …" という形式で以下の引数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• /l* \"&lt;ログファイル&gt;\" : ログファイルのパスを指定します。"/l*" とファイル名の間には半角スペースが必要です。</li> <li>• /qn : ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。</li> <li>• /qn+ : インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。</li> </ul>	任意

## 9.5. 補足

### 9.5.1. WorkerNode の実行状態を確認する方法について

以下のコマンドの戻り値で WorkerNode の実行状態を確認できます。<port> には WorkerNode の使用するポート番号を指定してください。

- <3D-SUITE インストールフォルダー>\EX11.0\WorkerNode\bin\check-worker-node-status.bat <port>

#### 戻り値

- WorkerNode が起動している場合: 0
- WorkerNode が起動していない場合: 1

#### 実行例

- a. ポート 43001 を使用する WorkerNode が起動している場合

```
>C:\Program Files\ELYSIUM\3DxSUITE\EX11.0\WorkerNode\bin\check-worker-  
node-status.bat 43001  
>echo %ERRORLEVEL%  
>0
```

- b. ポート 43002 を使用する WorkerNode が起動していない場合

```
>C:\Program Files\ELYSIUM\3DxSUITE\EX11.0\WorkerNode\bin\check-worker-  
node-status.bat 43002  
>echo %ERRORLEVEL%  
>1
```

### 9.5.2. WorkerNode のログについて

WorkerNode の動作ログは、既定の設定では以下のフォルダーに出力されます (<3D-SUITE Version> は 3D-SUITE のバージョン)。動作に問題があった場合などには、このフォルダーに出力されているログを参照して処理状況を確認してください。

```
%PUBLIC%\Documents\Elysium\3DxSUITE\Logs\WorkerNode\<3D-SUITE Version>\
```

なお出力先のフォルダーは、設定ユーティリティーで変更することができます。

# 10. Elysium 3D-SUITE Inspector

## 事前にインストールする必要があるプログラム

- Viewer



Viewer をインストールしていない状態でも Inspector は動作しますが、実際に使用する上では、Viewer もインストールしておくことを推奨します。

## 10.1. インストール手順



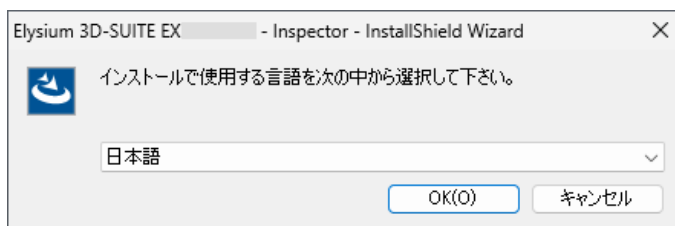
インストールは管理者権限のあるユーザーで実行してください。

### 10.1.1. 手動インストール

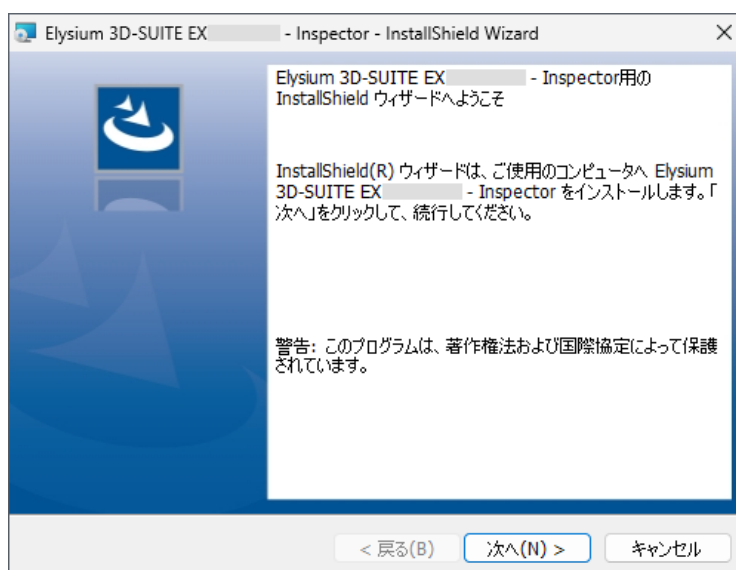
1. Inspector のインストーラーを実行します。

- インストーラーが含まれるフォルダー: <Inspector パッケージ>
- インストーラー: Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_Inspector.exe

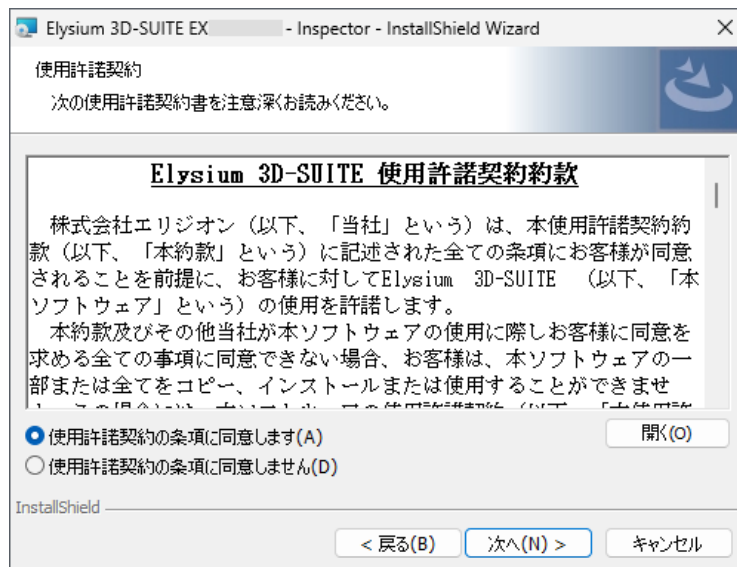
2. インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。



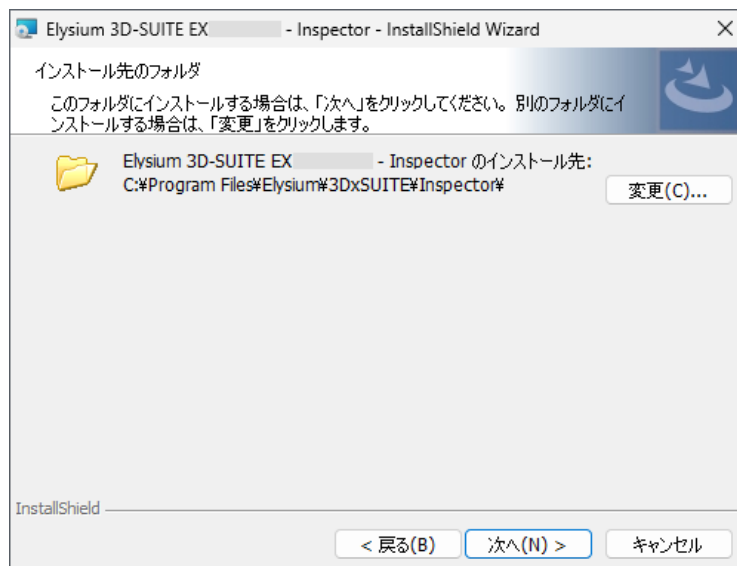
3. Inspector のインストールウィザードが表示されます。[次へ] をクリックします。



4. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択してから [次へ] をクリックします。

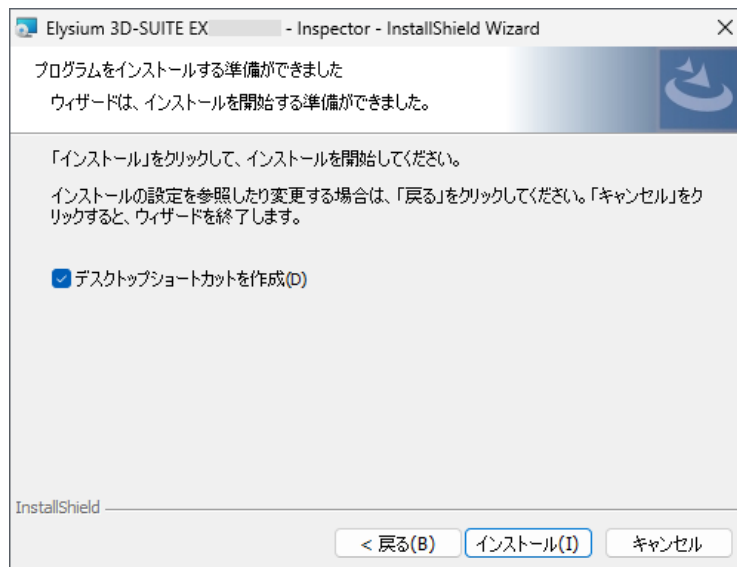


5. インストール先のフォルダーを指定するダイアログが表示されます。デフォルトのインストール先から変更する場合は、[変更] をクリックして変更先フォルダーを指定します。指定が完了したら、[次へ] をクリックします。



インストール先フォルダーのパスは ASCII 文字のみで構成されるようにしてください。フォルダーパスに非 ASCII 文字が含まれている場合、アプリケーションが想定通りに動作しない場合があります。

6. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。



7. インストールが終了したら [完了] をクリックしてダイアログを閉じます。



8. スタートメニューから [Elysium 3D-SUITE Inspector] - [3D-SUITE Inspector EX\*.\*] を選択して Inspector が正常に起動することを確認します。



Inspector 実行時には、以下のフォルダーの変更権限が必要です。起動に失敗する場合は、これらのフォルダーに対する変更権限があるかを確認してください。

- %TMP%、%TEMP%、%APPDATA%
- ファイル出力フォルダー

### 10.1.2. サイレントインストール

管理者権限で起動したコマンドプロンプトで以下のコマンドを実行してください。このコマンドはサンプルです。

```
D:\share\installer\Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Inspector.exe /s /v"/l*
"^"C:\temp\install.log"^" INSTALLDIR="^"C:\Program Files\Elysium\Inspector\v"^"
/qn"
```

## コマンドライン引数

サイレントインストールを実行する際にインストーラー (Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_Inspector.exe) に渡すコマンドライン引数の一覧です。

コマンド引数	説明
/s	インストールやアンインストールをサイレントモードで実行します。
/x	アンインストールを実行します。
/x	設定しない場合はインストールが実行されます。
/v	<p>/v"&lt;引数 1&gt; &lt;引数 2&gt; …" という形式で以下の引数を指定します。 (Msiexec に引数を渡す)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• /qn: インストール時にダイアログを表示しません。</li> <li>• /qn+: インストール完了時にダイアログを表示します。</li> <li>• /l* \&lt;ログファイル&gt;\ ログファイルのパスを指定します。 (/l* とファイル名の間には半角スペースが必要)</li> <li>• INSTALLDIR="&lt;インストールフォルダー&gt;\ インストール先のフォルダーを指定します。 (インストール時のみ指定が必要)</li> </ul>

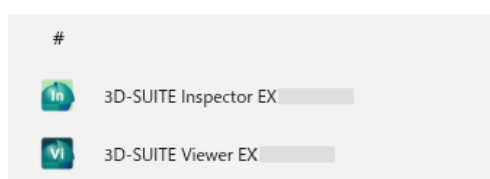
## 10.2. 起動手順


Inspector を起動する方法には以下の 4 種類があります。

- インストール時に作成されたショートカットから起動する



- Windows メニューから起動する

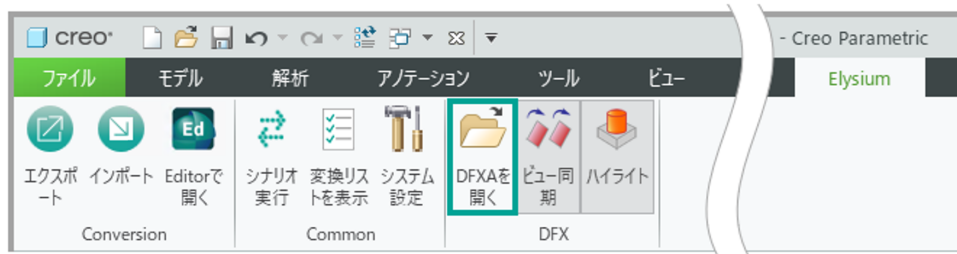


- SmartLauncher の変換リストから起動する
  - [開く]  をクリックすると Inspector が起動します (Inspector が起動していない場合)。
- SmartLauncher の CAD プラグインメニューから起動する
  - CAD のメニューに組み込まれている [DFXAを開く]、[Open Analytics]、[Open DFX Analytics] のいずれかをクリックした上で検証結果 (\*.dfxa) を選択すると Inspector が起動します (Inspector が起動していない場合)。

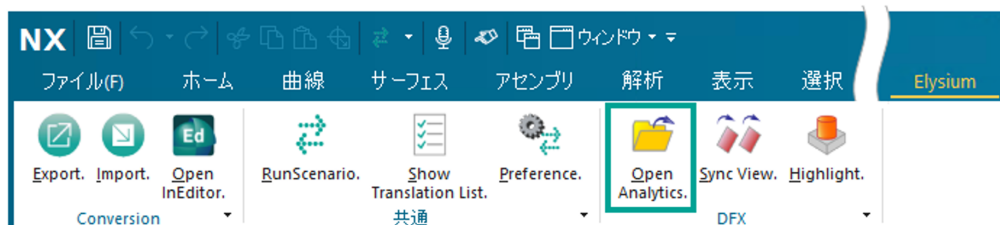
## CATIA V5



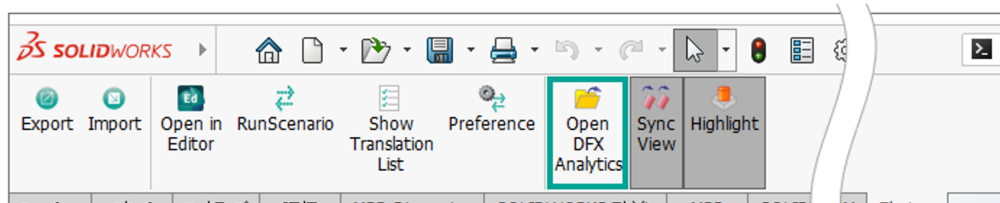
## Creo Parametric



## NX

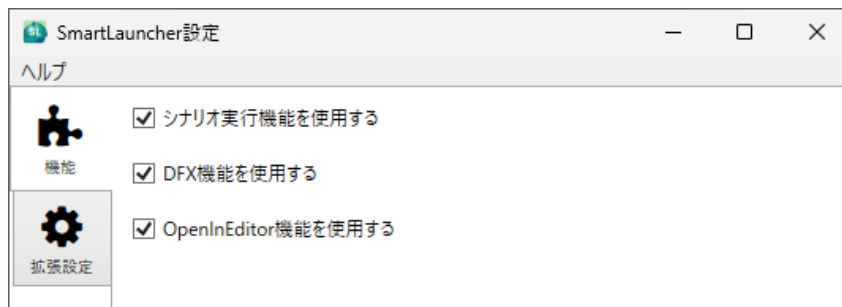


## SOLIDWORKS



SmartLauncher の CAD プラグインメニューに [DFXAを開く]、[Open Analytics]、[Open DFX Analytics] のいずれかが表示されていない場合には、"SmartLauncher設定" の [機能] タブにある "DFX機能を使用する" を有効化してください。





"SmartLauncher設定" の起動方法については、以下のマニュアルを参照してください。

<Base パッケージ>\doc\Front-End\3D-SUITE\_SmartLauncher\_Manual\_ja.pdf

## 10.3. 終了手順

ウインドウを閉じて終了します。

## 10.4. アンインストール手順

**i** アンインストールは管理者権限のあるユーザーで実行してください。

### 10.4.1. 手動アンインストール

1. Windows スタートメニューから [設定](ギアマーク) を選択します。
2. [アプリ] を選択します。
3. "アプリと機能" に表示されたアプリケーションの一覧から、"Elysium 3D-SUITE Inspector EX11.0" を選択して、アンインストールを実行します。

### 10.4.2. サイレントアンインストール

コマンドでサイレントアンインストールを行うことができます。現在導入されているバージョンのインストーラーが必要です。

- コマンド例

```
D:\share\installer\Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Inspector.exe /s /x /v"/l*
"^"C:\temp\uninstall.log"^" /qn"
```

サイレントアンインストールを実行する際にインストーラーに渡すコマンド引数の一覧です。

コマンド引数	説明	必須 / 任意
/s	アンインストールをサイレントモードで実行します。	必須
/x	アンインストールを実行します。	必須

コマンド引数	説明	必須 / 任意
/v	<p data-bbox="384 232 1139 295">/v"&lt;引数1&gt;&lt;引数2&gt; …" という形式で以下の引数を指定します。</p> <ul data-bbox="408 331 1171 551" style="list-style-type: none"><li data-bbox="408 331 1171 394">• /l*\"&lt;ログファイル&gt;\" : ログファイルのパスを指定します。"/l*" とファイル名の間には半角スペースが必要です。</li><li data-bbox="408 412 1171 474">• /qn : ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。</li><li data-bbox="408 492 1171 551">• /qn+ : インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。</li></ul>	任意

# 11. Elysium 3D-SUITE ScenarioEditor

## 事前にインストールする必要があるプログラム

- なし

## 11.1. インストール手順

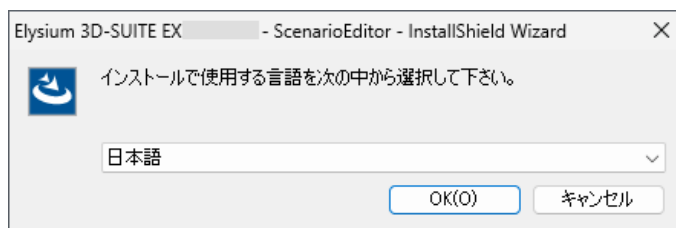
インストールは管理者権限のあるユーザーで実行してください。



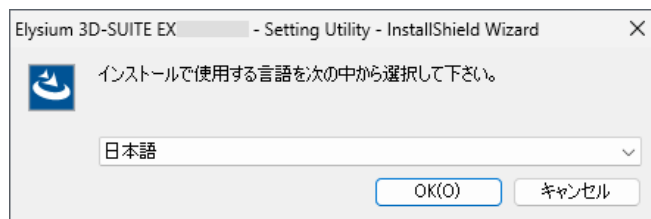
"Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_Components.exe" を用いて Components をインストールした場合、ScenarioEditor も同時にインストールできます。Components と同時にインストールしている場合には、ScenarioEditor を個別にインストールする必要はありません。

### 11.1.1. 手動インストール

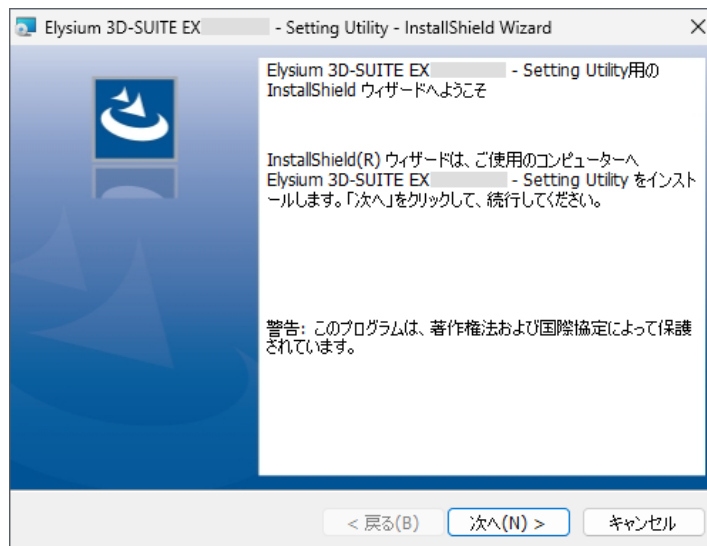
- ScenarioEditor のインストーラーを実行します。
  - インストーラーが含まれるフォルダー: <Components パッケージ>\ScenarioEditor\
  - インストーラー: Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_ScenarioEditor.exe
- インストールで使用する言語を指定して [OK] をクリックします。



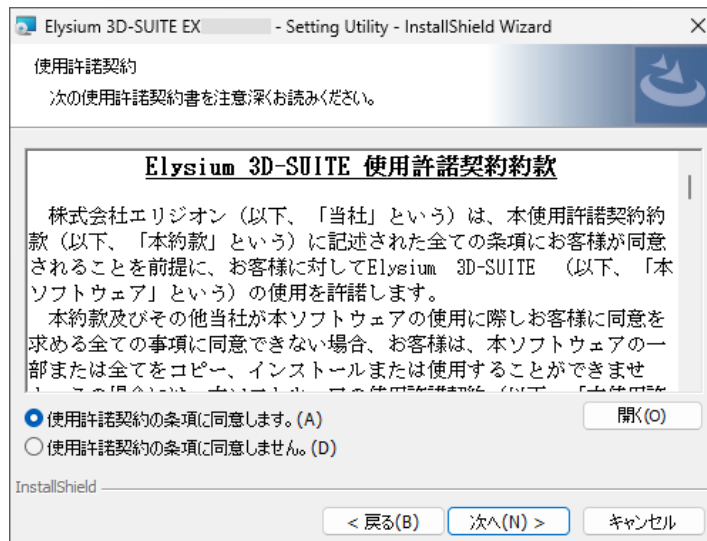
- Setting Utility がインストールされていない場合、Setting Utility のインストーラーが起動します。以下の手順でインストールを実行します。Setting Utility がすでに導入されている場合は、Setting Utility インストール後の手順へ進んでください。
  - インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。



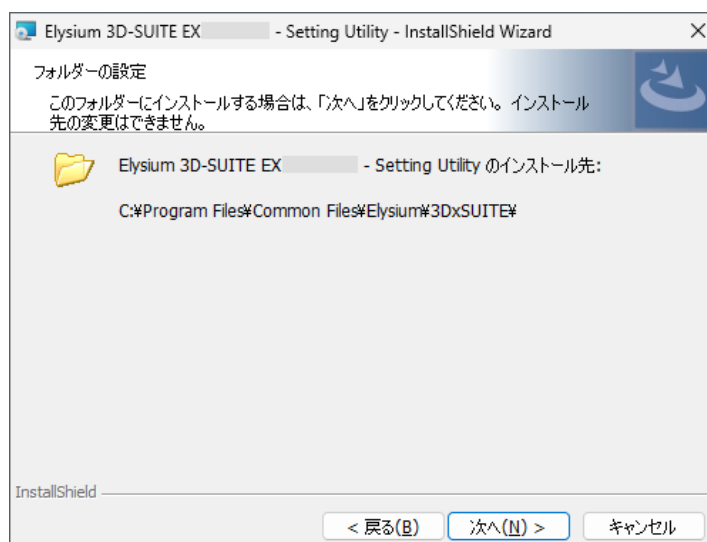
- インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



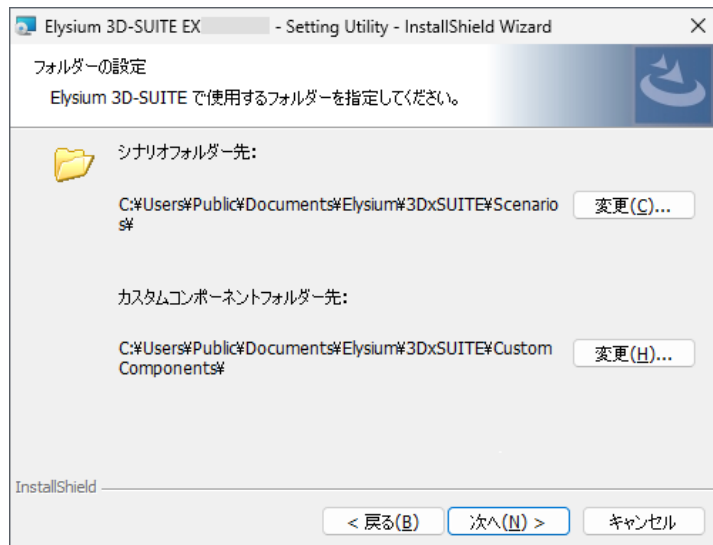
- c. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続ける事はできません。



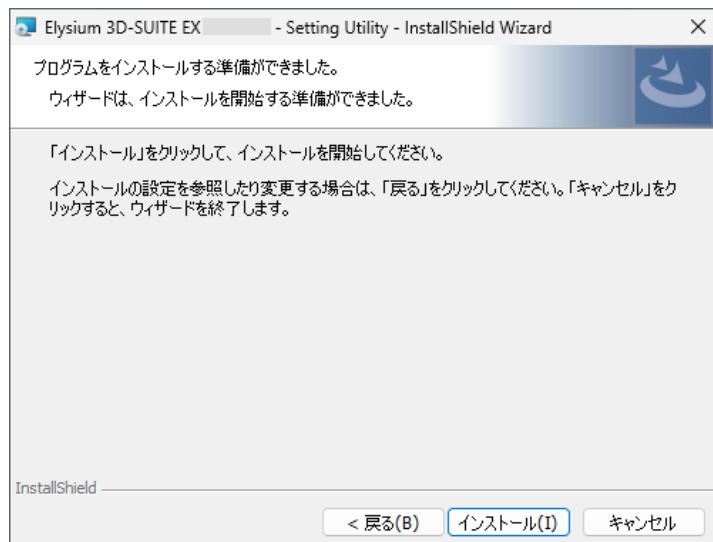
- d. Setting Utility のインストール先を示す画面が表示されます。[次へ] をクリックします。



- e. シナリオフォルダーとカスタムコンポーネントフォルダーを設定する画面が表示されます。必要に応じてフォルダーのパスを変更し、[次へ] をクリックします。



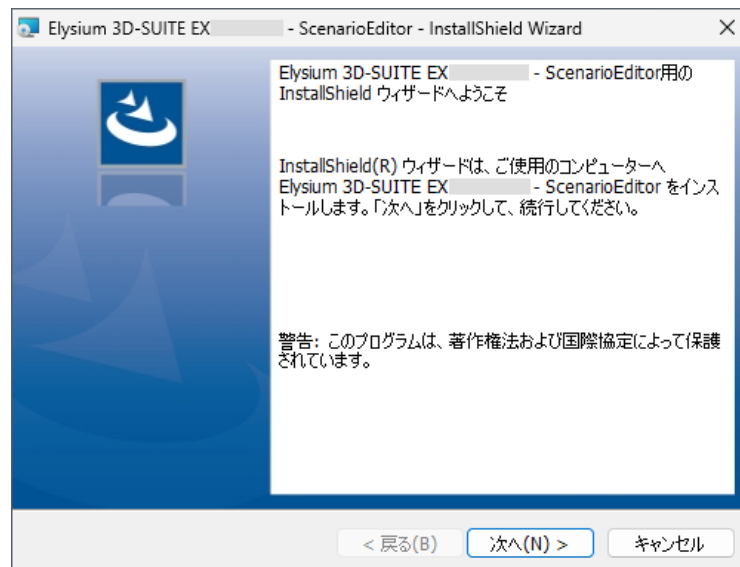
- f. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。



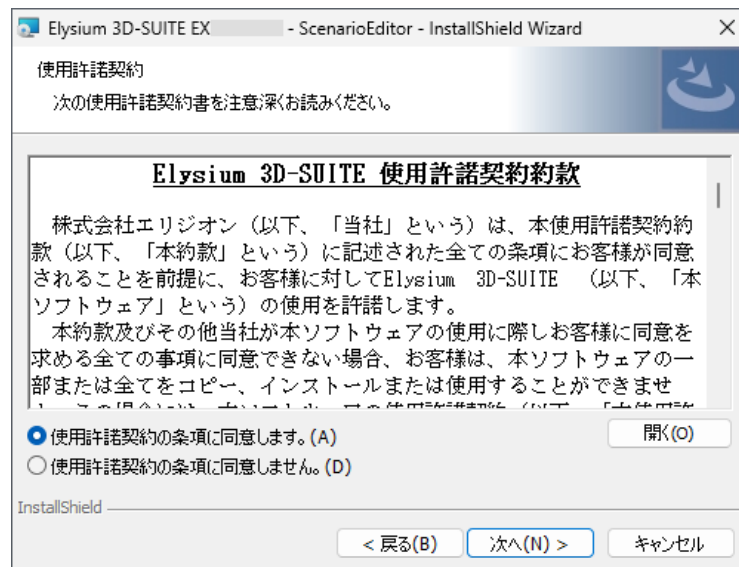
- g. Setting Utility のインストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてインストーラーを終了します。



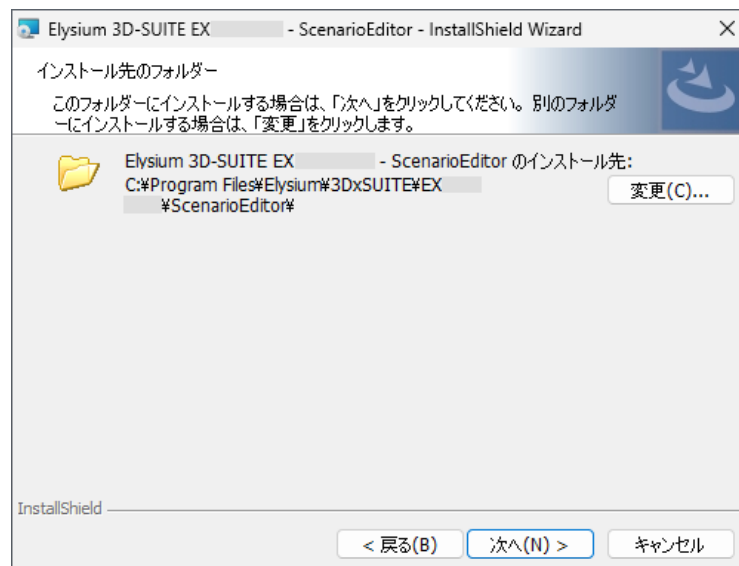
4. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



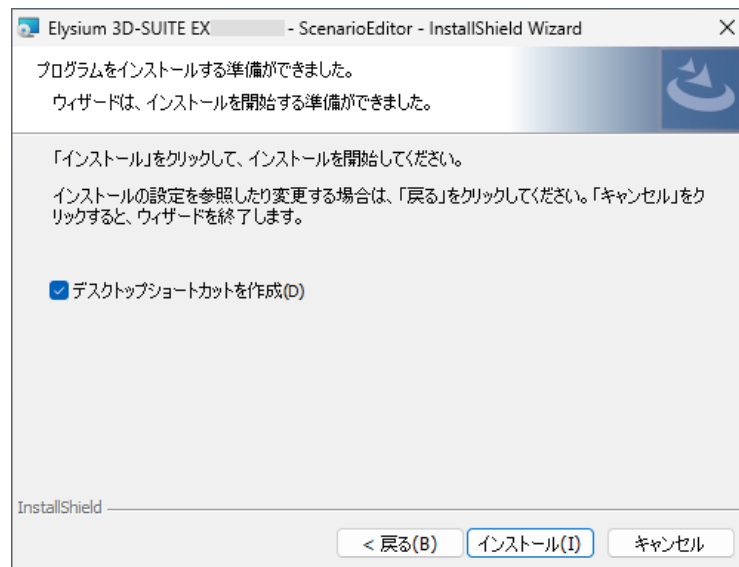
5. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続けることはできません。



6. インストール先のフォルダーを指定するダイアログが表示されます。デフォルトのインストール先から変更する場合は、[変更] をクリックして変更先フォルダーを指定します。指定が完了したら [次へ] をクリックします。



7. デスクトップショートカットを作成しない場合はチェックを外します。[インストール] をクリックしてインストールを開始します。



8. インストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてインストーラーを終了します。



### 11.1.2. サイレントインストール

コマンドにて ScenarioEditor の新規導入やアップグレードを行うことができます。実行コマンドについては、以下のコマンド例とコマンド引数の説明をご参照ください。

- コマンド例

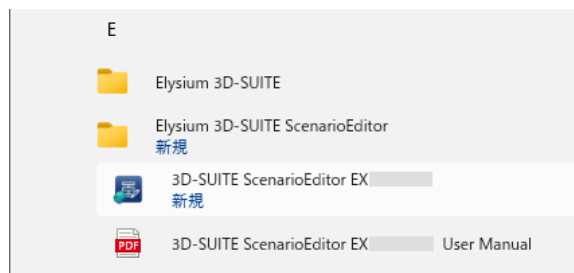
```
Elysium_3D-SUITE_EX11_0_ScenarioEditor.exe /s /v"/l* "%C:\temp\install.log\"  
INSTALLDIR="%C:\Program Files\Elysium\3DxSUITE\EX11.0\ScenarioEditor\" /qn"
```

サイレントインストールの際にインストーラーに渡すコマンド引数の一覧は以下の通りです。

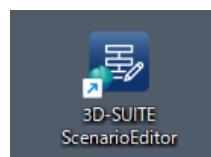
コマンド引数	説明	必須 / 任意
/s	インストールをサイレントモードで実行します。	必須
/v	<p>/v"&lt;引数1&gt;&lt;引数2&gt; …" という形式で以下の引数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• /l* \&lt;ログファイル&gt;": ログファイルのパスを指定します。"/l*" とファイル名の間には半角スペースが必要です。</li> <li>• INSTALLDIR=\&lt;インストールフォルダー&gt;": インストール先のフォルダーを指定します。インストール時のみ指定が可能です。</li> <li>• /qn: ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。</li> <li>• /qn+: インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。</li> </ul>	任意

## 11.2. 起動手順

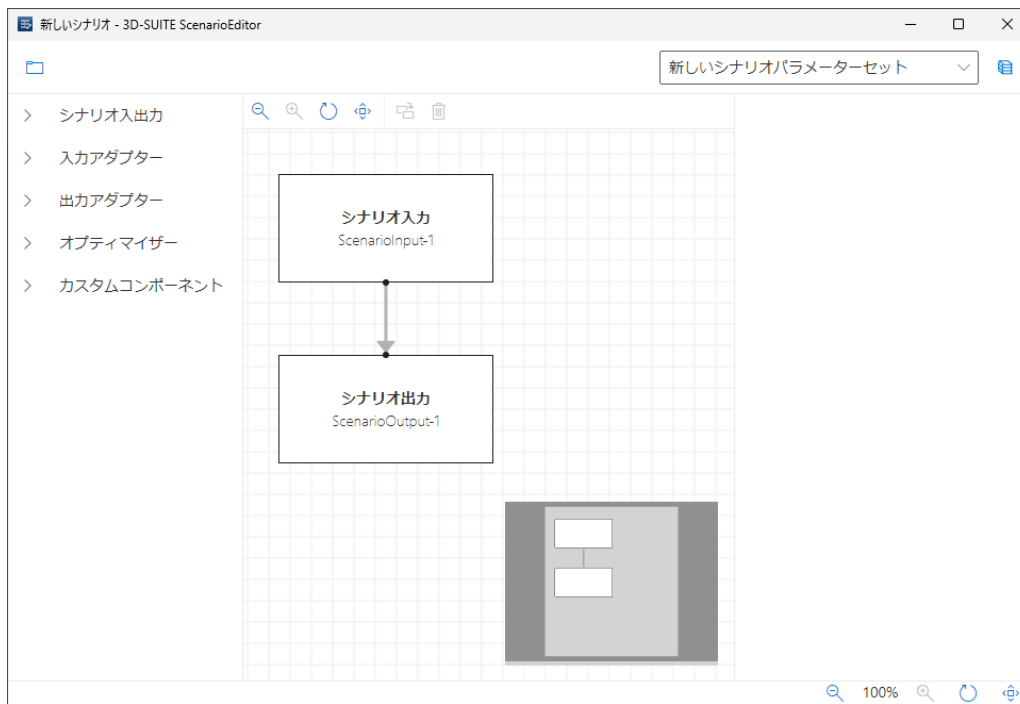
Windows スタートメニューから [Elysium 3D-SUITE ScenarioEditor] - [3D-SUITE ScenarioEditor EX11.0] を選択して起動してください。



デスクトップ上の [3D-SUITE ScenarioEditor EX11.0] ショートカットをダブルクリックして起動することもできます。



ScenarioEditor が起動します。



## 11.3. 終了手順

メニューの [ファイル] - [終了] を選択するか、ウインドウを閉じて終了してください。

## 11.4. アンインストール手順

### 11.4.1. 手動アンインストール

1. Windows スタートメニューから [設定](ギアマーク) を選択します。
2. [アプリ] を選択します。
3. "アプリと機能" に表示されたアプリケーションの一覧から、"Elysium 3D-SUITE EX11.0 - ScenarioEditor" を選択して、アンインストールを実行します。

### 11.4.2. サイレントアンインストール

コマンドでサイレントアンインストールを行うことができます。現在導入されているバージョンのインストーラーが必要です。

- コマンド例

```
Elysium_3D-SUITE_EX11_0_ScenarioEditor.exe /s /x /v"/l*  
\"C:\temp\uninstall.log\" /qn"
```

サイレントアンインストールを実行する際にインストーラーに渡すコマンド引数の一覧です。

コマンド引数	説明	必須 / 任意
/s	アンインストールをサイレントモードで実行します。	必須
/x	アンインストールを実行します。	必須
/v	<p>/v"&lt;引数1&gt;&lt;引数2&gt; …" という形式で以下の引数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• /l* \ "&lt;ログファイル&gt;\" : ログファイルのパスを指定します。"/l*" とファイル名の間に半角スペースが必要です。</li><li>• /qn : ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。</li><li>• /qn+ : インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。</li></ul>	任意

# 12. Elysium 3D-SUITE Data Package Studio (Acrobat Plug-in) for 3D PDF

事前にインストールする必要があるプログラム

- Adobe Acrobat Pro

## 12.1. インストール手順



インストールは管理者権限のあるユーザーで実行してください。

### 12.1.1. 手動インストール

1. Data Package Studio のインストーラーを実行します。

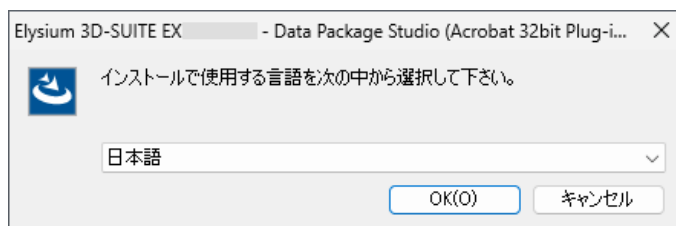
- インストーラーが含まれるフォルダー: <Data Package Studio パッケージ>
- インストーラー:
  - Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_Data\_Package\_Studio\_for\_Acrobat\_32bit.exe
  - Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_Data\_Package\_Studio\_for\_Acrobat\_64bit.exe

Data Package Studio のインストーラーには 64 ビット版と 32 ビット版の 2 種類があります。コンピューターにインストールされている Adobe Acrobat 製品が 32 ビット版と 64 ビット版のどちらであるかに合わせて、同じ種類のインストーラーを実行する必要がありますのでご注意ください。各 Adobe Acrobat 製品が 32 ビット版と 64 ビット版のどちらであるかは以下の表の通りです。

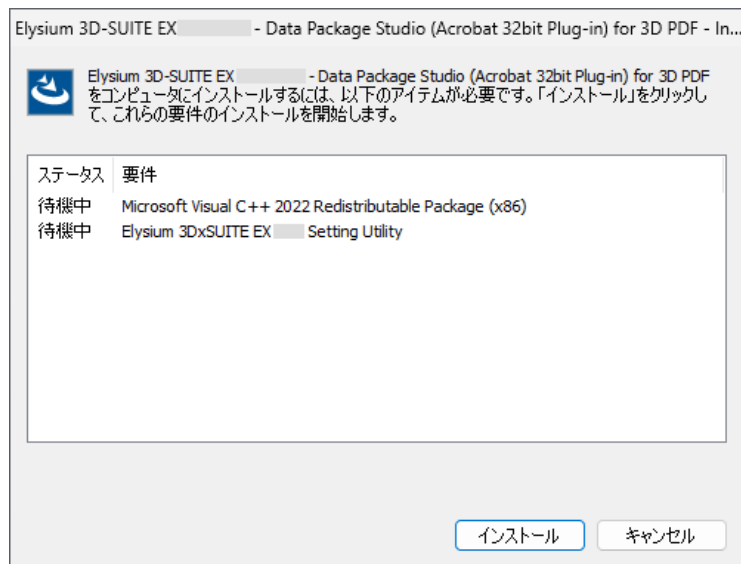


製品名	32 ビット/64 ビット
Adobe Acrobat Pro DC Continuous (古いバージョン)	32 ビット
Adobe Acrobat Pro DC Continuous (最新バージョン)	32 ビット/64 ビット

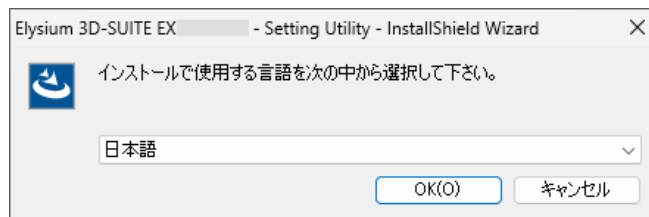
2. インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。



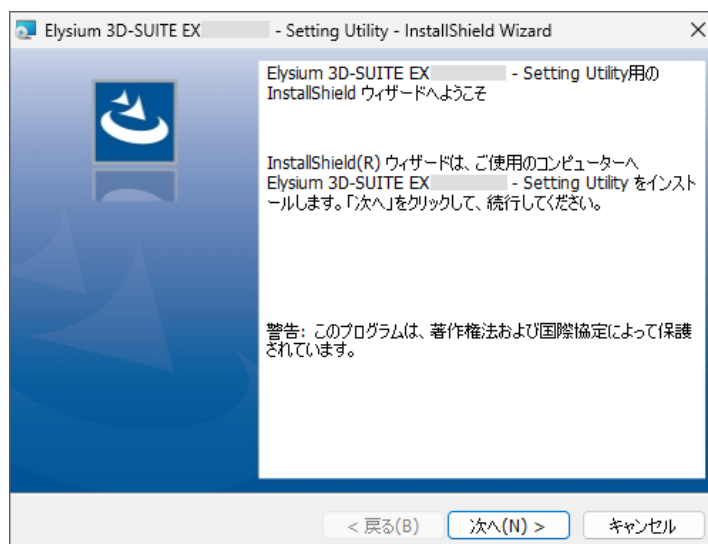
3. このダイアログが表示された場合、[インストール] をクリックします。



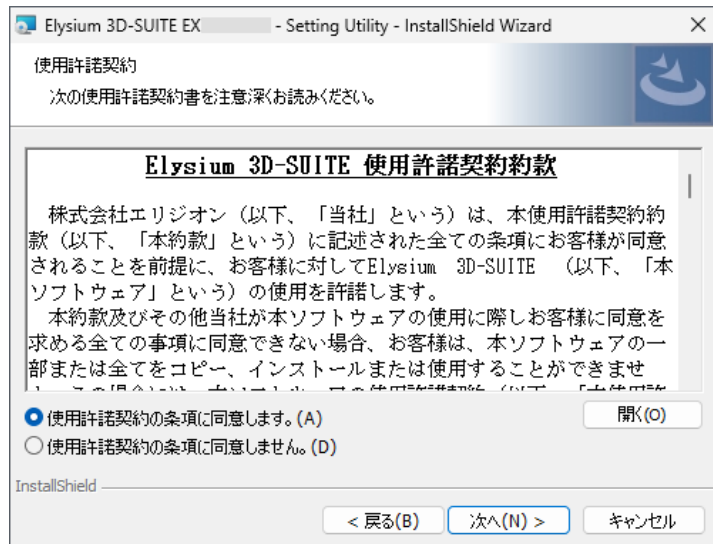
4. Setting Utility がインストールされていない場合、Setting Utility のインストーラーが起動します。以下の手順でインストールを実行します。Setting Utility がすでに導入されている場合は、Setting Utility インストール後の手順へ進んでください。
  - a. インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。



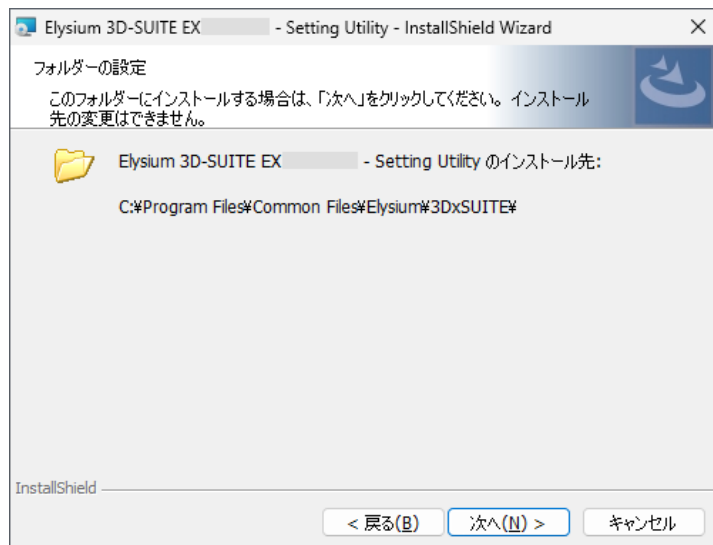
- b. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



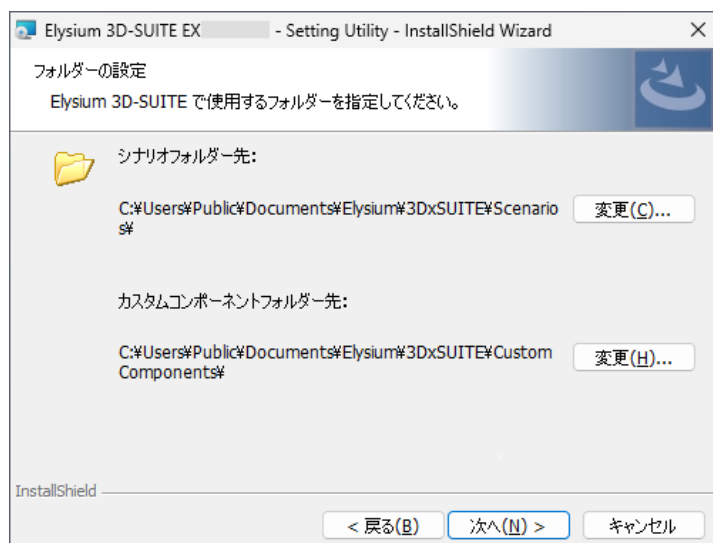
- c. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続ける事はできません。



d. Setting Utility のインストール先を示す画面が表示されます。[次へ] をクリックします。



e. シナリオフォルダーとカスタムコンポーネントフォルダーを設定する画面が表示されます。必要に応じてフォルダーのパスを変更し、[次へ] をクリックします。



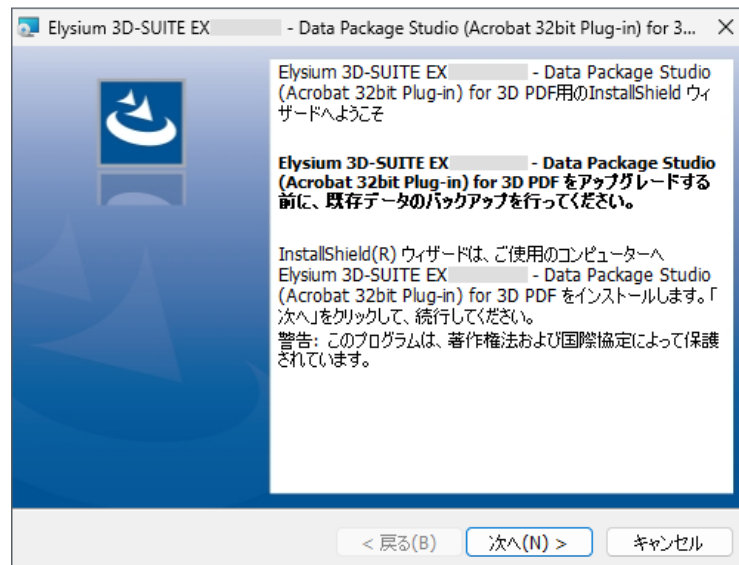
f. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。



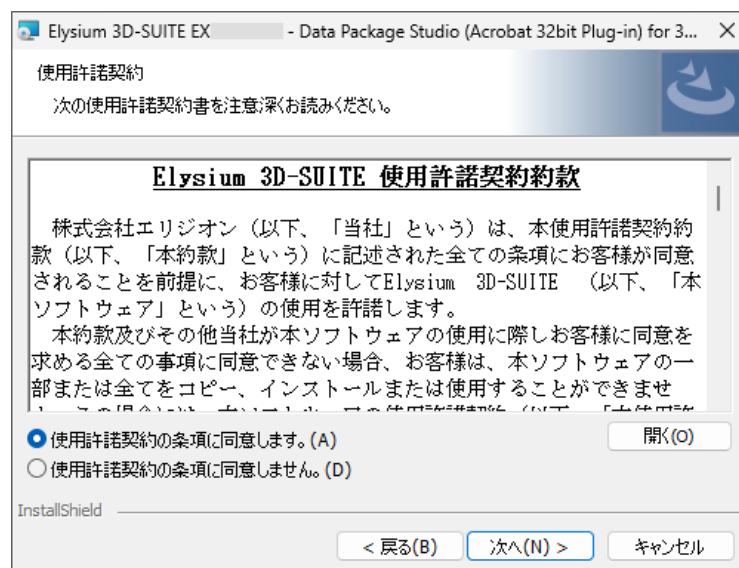
g. Setting Utility のインストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてインストーラーを終了します。



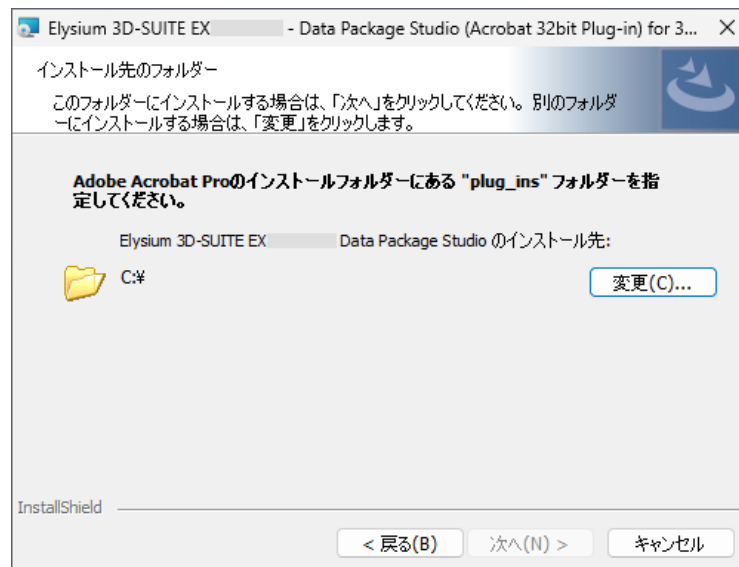
5. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



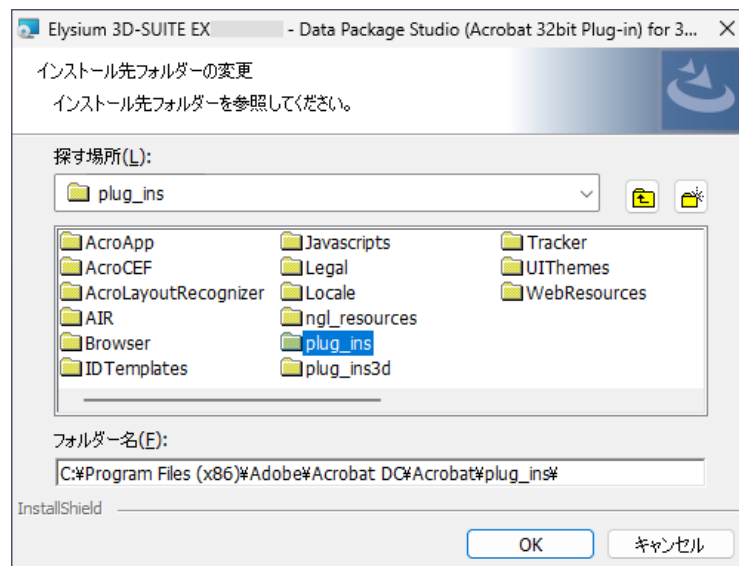
6. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続けることはできません。



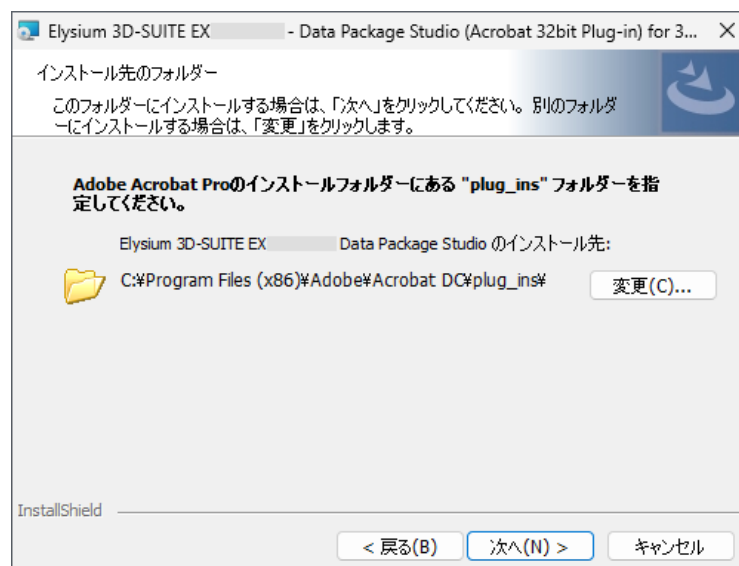
7. インストール先のフォルダー (plug\_ins) を指定するダイアログが表示されます。[変更] をクリックします。



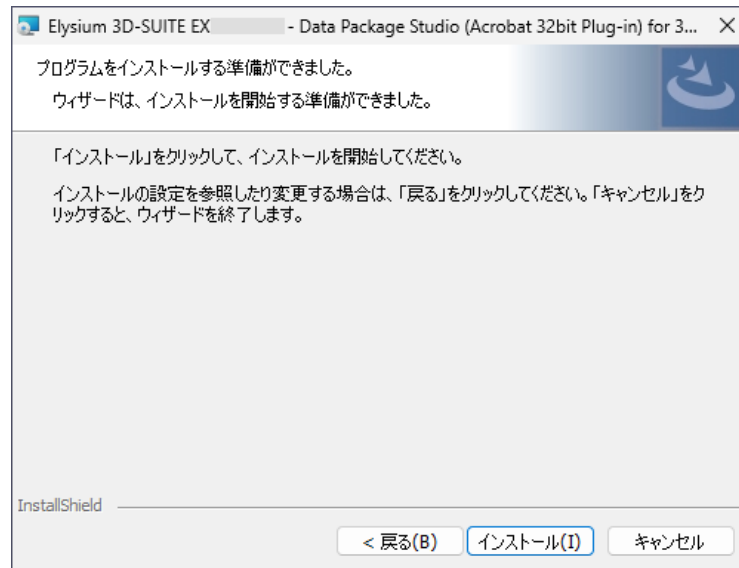
8. 変更先フォルダーを指定します。指定が完了したら [OK] をクリックします。



9. 表示されたインストール先のフォルダーを確認して [次へ] をクリックします。



10. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。



11. インストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてインストーラーを終了します。



### 12.1.2. サイレントインストール

コマンドにて Data Package Studio の新規導入を行うことができます。実行コマンドについては、以下のコマンド例とコマンド引数の説明をご参照ください。

- コマンド例

```
Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Data_Package_Studio_for_Acrobat_32bit.exe /s /v"INSTALLDIR="C:\Program Files (x86)\Adobe\Acrobat DC\Acrobat\plug_ins\" /qn"
```

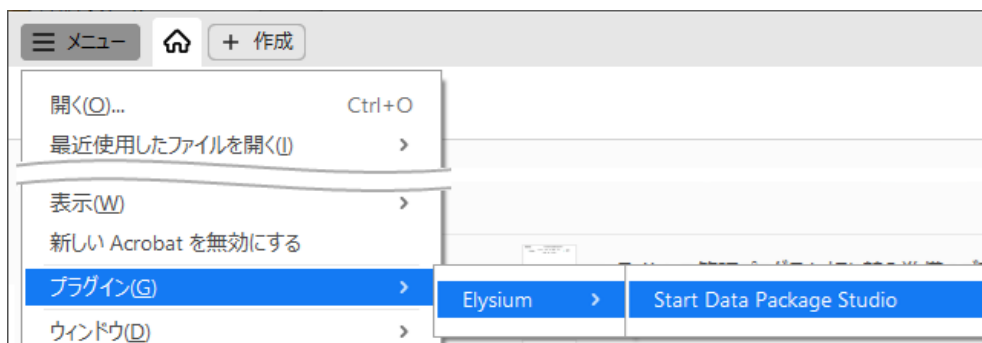
または

```
Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Data_Package_Studio_for_Acrobat_64bit.exe /s
/v"INSTALLDIR="C:\Program Files (x86)\Adobe\Acrobat DC\Acrobat\plug_ins\" /qn"
```

コマンド引数	説明	必須 / 任意
/s	インストールをサイレントモードで実行します。	必須
/v	<p>/v"&lt;引数1&gt;&lt;引数2&gt; …" という形式で以下の引数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• /l* \&lt;ログファイル&gt; : ログファイルのパスを指定します。"/l*" とファイル名の間には半角スペースが必要です。</li> <li>• INSTALLDIR=\&lt;インストールフォルダー&gt; : インストール先のフォルダーを指定します。インストール時のみ指定が可能です。</li> <li>• /qn : ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。</li> <li>• /qn+ : インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。</li> </ul>	任意

## 12.2. 起動手順

1. Adobe Acrobat Pro を起動します。
2. メニューから [プラグイン] - [Elysium] - [Start Data Package Studio] を選択します。



## 12.3. 終了手順

Adobe Acrobat Pro を終了することで、Data Package Studio も終了します。

## 12.4. アンインストール手順

### 12.4.1. 手動アンインストール

1. Windows スタートメニューから [設定](ギアマーク) を選択します。
2. [アプリ] を選択します。

3. "アプリと機能" に表示されたアプリケーションの一覧から、以下のいずれかを選択してアンインストールを実行します。

- Elysium 3D-SUITE EX11.0 - Data Package Studio for Acrobat 32-bit
- Elysium 3D-SUITE EX11.0 - Data Package Studio for Acrobat 64-bit

## 12.4.2. サイレントアンインストール

コマンドでサイレントアンインストールを行うことができます。現在導入されているバージョンのインストーラーが必要です。

- コマンド例

```
Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Data_Package_Studio_for_Acrobat_32bit.exe /s /x /v"/l*
\C:\temp\uninstall.log\" /qn"
```

または

```
Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Data_Package_Studio_for_Acrobat_64bit.exe /s /x /v"/l*
\C:\temp\uninstall.log\" /qn"
```

サイレントアンインストールを実行する際にインストーラーに渡すコマンド引数の一覧です。

コマンド引数	説明	必須 / 任意
/s	アンインストールをサイレントモードで実行します。	必須
/x	アンインストールを実行します。	必須
/v	<p>/v"&lt;引数1&gt; &lt;引数2&gt; …" という形式で以下の引数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• /l* \&lt;ログファイル&gt;\" : ログファイルのパスを指定します。"/l*" とファイル名の間には半角スペースが必要です。</li> <li>• /qn : ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。</li> <li>• /qn+ : インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。</li> </ul>	任意

# 13. Elysium 3D-SUITE Validation Configurator

事前にインストールする必要のあるプログラム

- なし

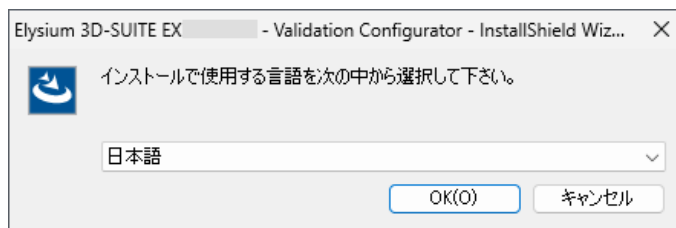
## 13.1. インストール手順



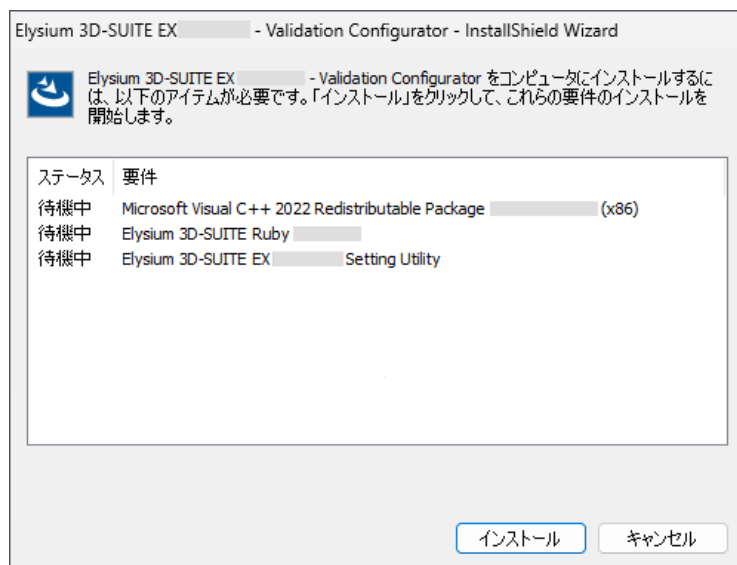
インストールは管理者権限のあるユーザーで実行してください。

### 13.1.1. 手動インストール

- Validation Configurator のインストーラーを実行します。
  - インストーラーが含まれるフォルダー: <Validation Configurator パッケージ>\
  - インストーラー: Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_Validation\_Configurator.exe
- インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。

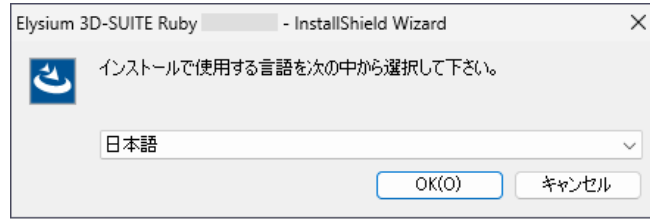


- このダイアログが表示された場合、[インストール] をクリックします。

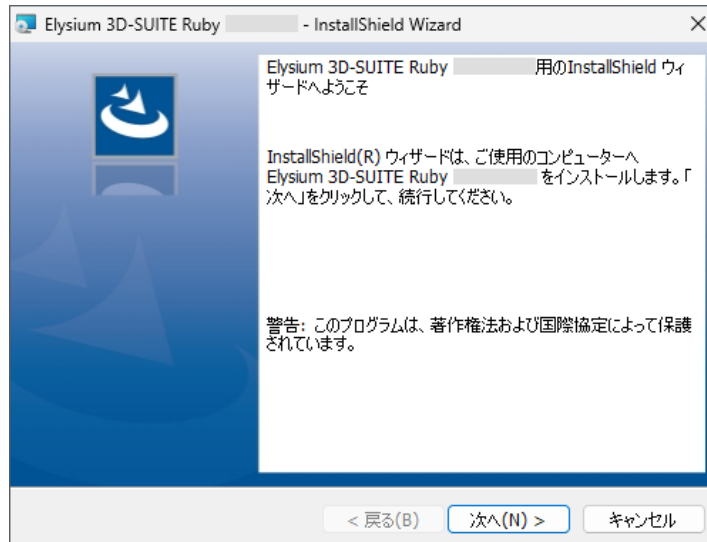


- Elysium 3D-SUITE Ruby が導入されていない環境の場合、Elysium 3D-SUITE Ruby のインストーラーが起動します。以下の手順でインストールを実行します。すでに Elysium 3D-SUITE Ruby が導入されている場合は、Elysium 3D-SUITE Ruby インストール後の手順へ進んでください。

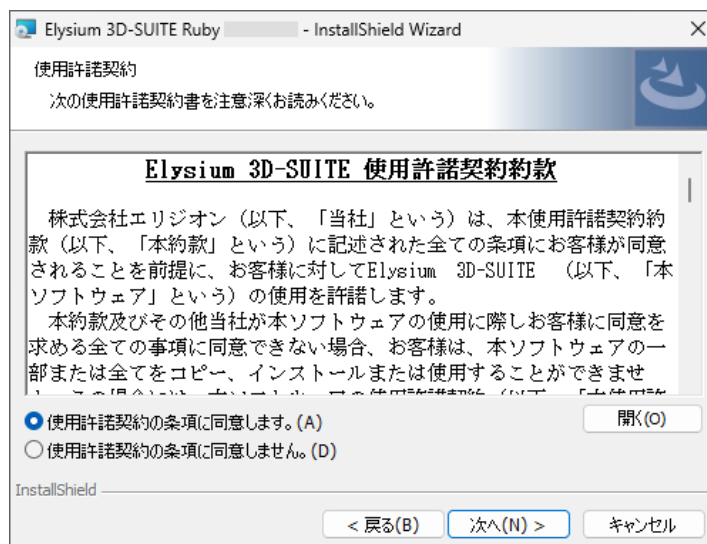
- a. インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。



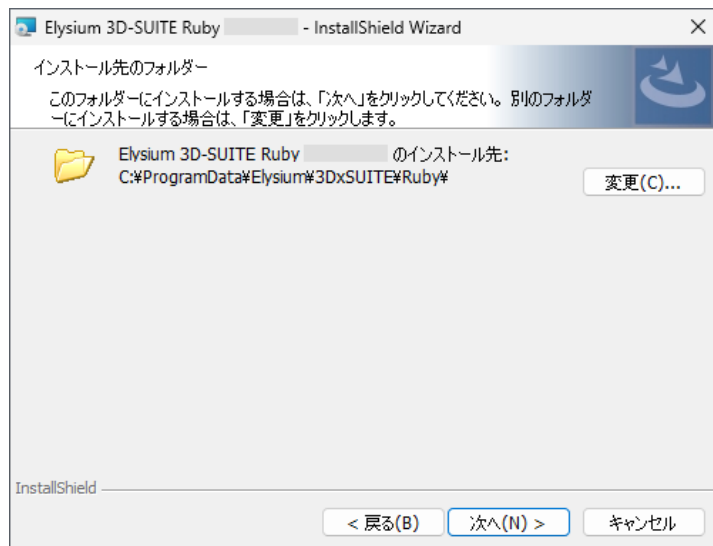
- b. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



- c. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続ける事はできません。

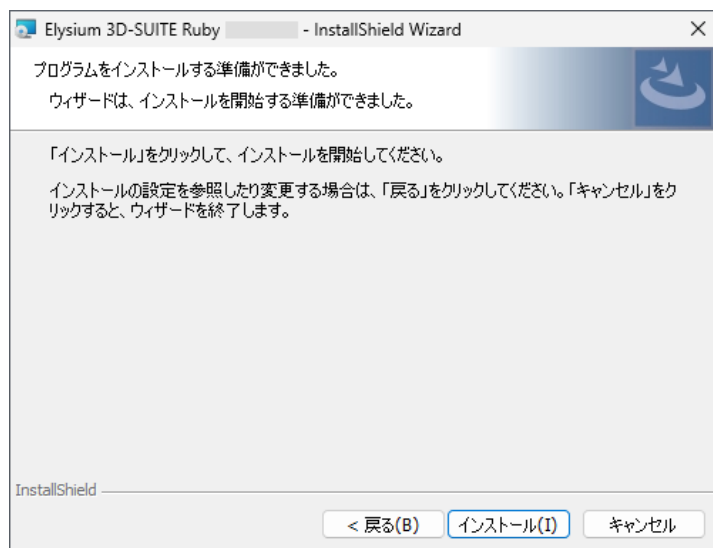


- d. インストール先のフォルダーを指定するダイアログが表示されます。デフォルトのインストール先から変更する場合は、[変更] をクリックして変更先フォルダーを指定します。指定が完了したら [次へ] をクリックします。



インストール先フォルダーのパスは半角英数字および一部の半角記号（「#」「+」「-」「\_」「.」「\$」「/」「:」）のみで構成されるようにしてください。これら以外の文字がパスに含まれている場合にはエラーとなります。

e. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。

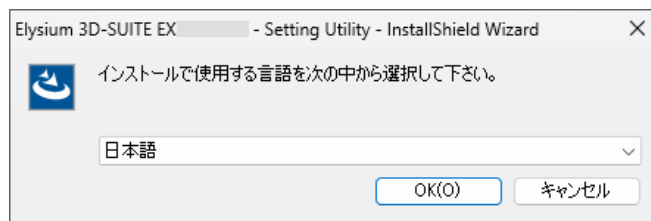


f. インストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてインストーラーを終了します。

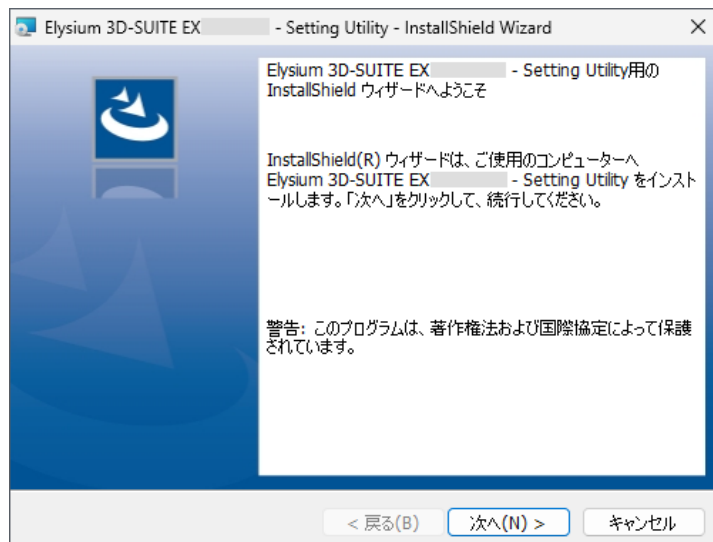


5. Setting Utility がインストールされていない場合、Setting Utility のインストーラーが起動します。以下の手順でインストールを実行します。Setting Utility がすでに導入されている場合は、Setting Utility インストール後の手順へ進んでください。

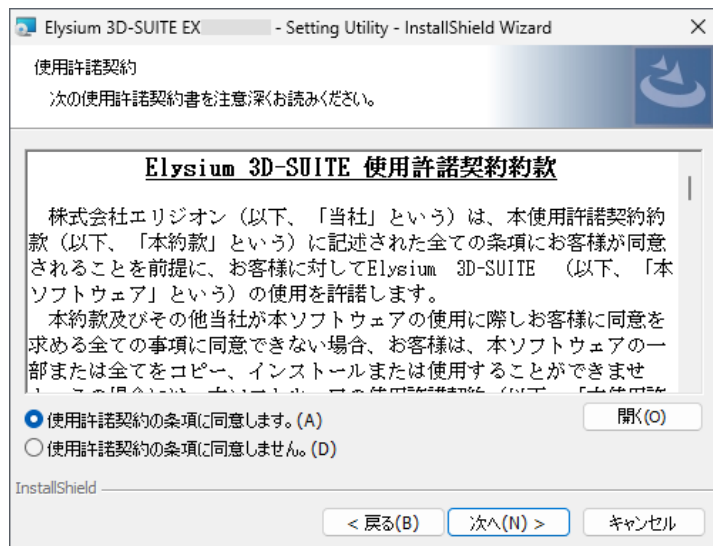
a. インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。



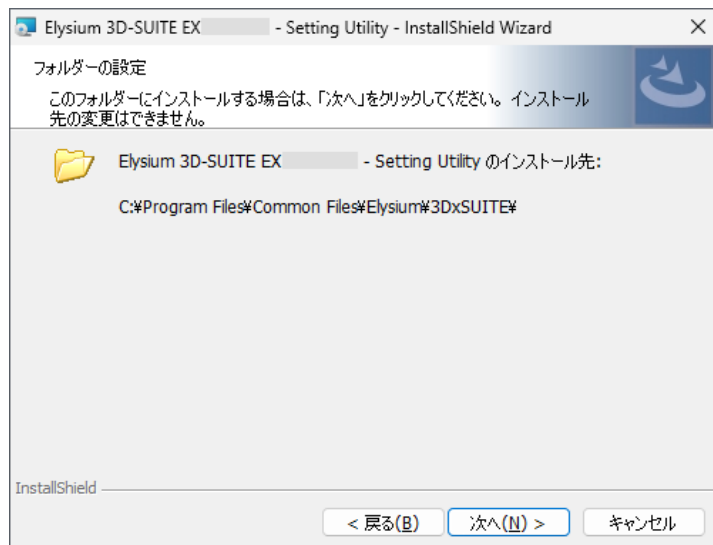
b. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



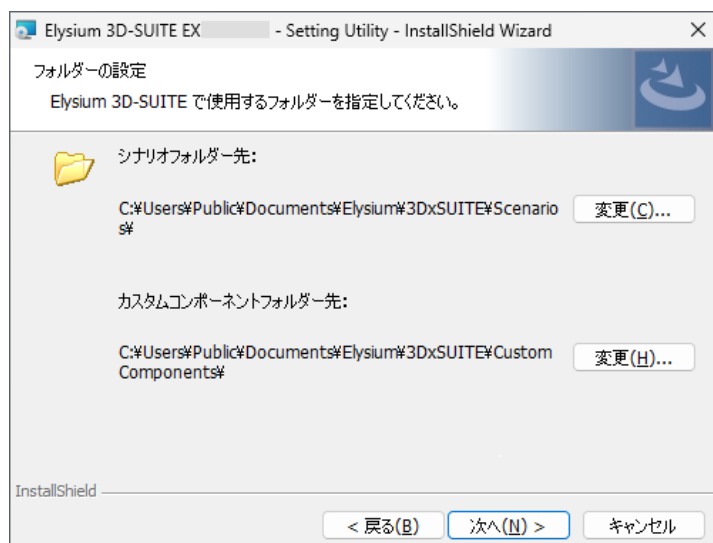
c. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続ける事はできません。



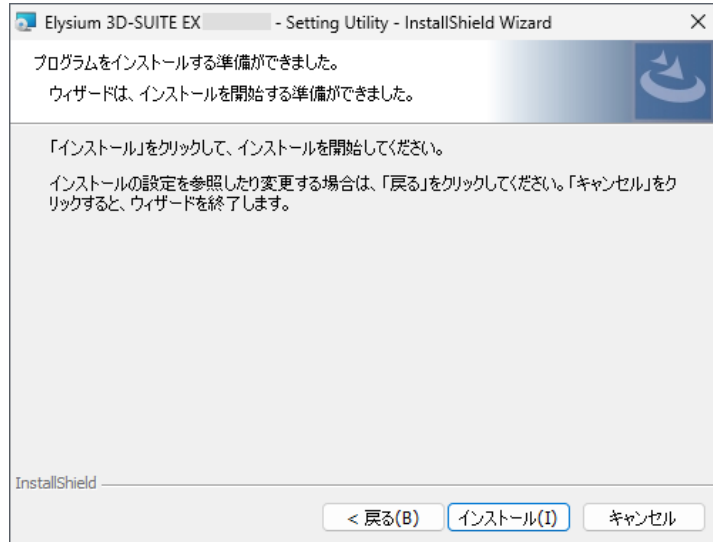
d. Setting Utility のインストール先を示す画面が表示されます。[次へ] をクリックします。



e. シナリオフォルダーとカスタムコンポーネントフォルダーを設定する画面が表示されます。必要に応じてフォルダーのパスを変更し、[次へ] をクリックします。



f. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。



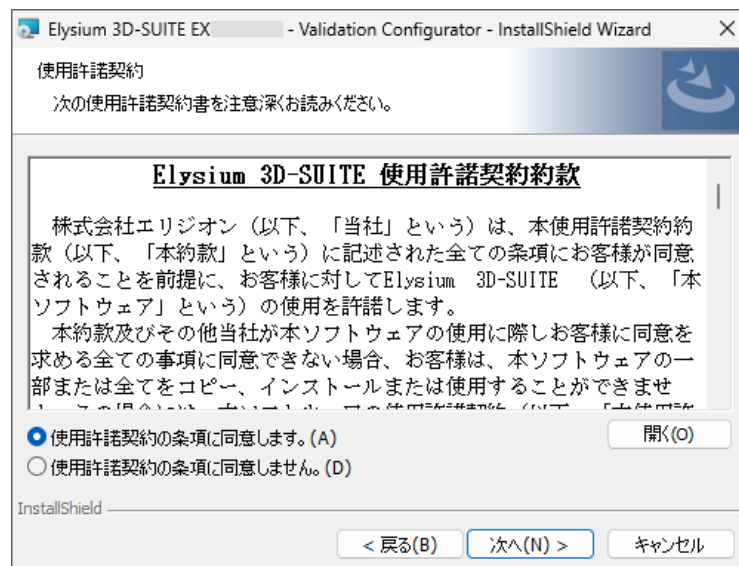
g. Setting Utility のインストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてインストーラーを終了します。



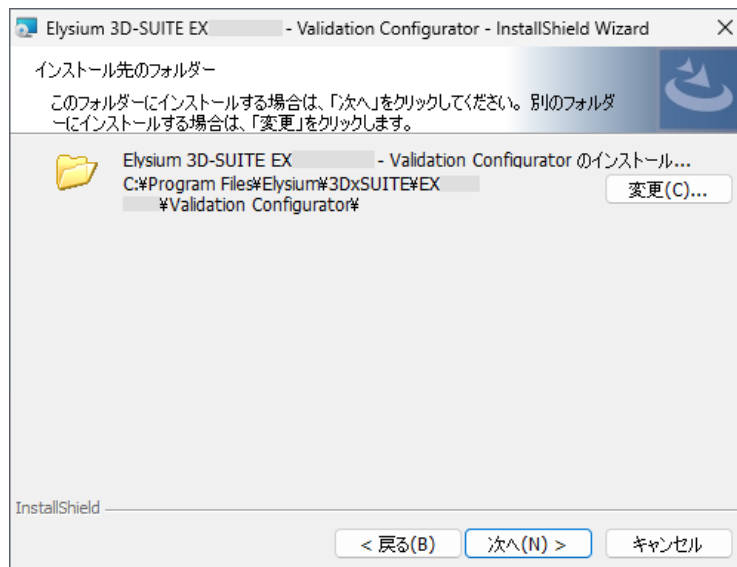
6. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



7. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続けることはできません。

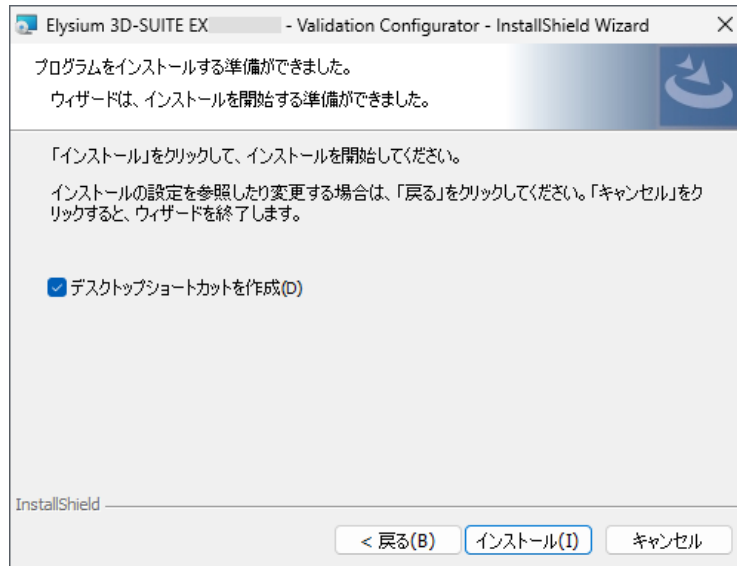


8. インストール先のフォルダーを指定するダイアログが表示されます。デフォルトのインストール先から変更する場合は、[変更] をクリックして変更先フォルダーを指定します。指定が完了したら [次へ] をクリックします。



- ・インストール先フォルダーのパスは ASCII 文字のみで構成されるようにしてください。フォルダーパスに非 ASCII 文字が含まれている場合、アプリケーションが想定通りに動作しない場合があります。
- ・デフォルトのインストールフォルダーより深いパスは指定しないでください。インストールが失敗する可能性があります。

9. デスクトップショートカットを作成しない場合はチェックを外します。[インストール] をクリックしてインストールを開始します。



10. インストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてインストーラーを終了します。



### 13.1.2. サイレントインストール

コマンドにて Validation Configurator の新規導入やアップグレードを行うことができます。実行コマンドについては、以下のコマンド例とコマンド引数の説明をご参照ください。

- コマンド例 (改行は不要)

```
Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Validation_Configurator.exe /s /v"/l*
\C:\temp\install.log\ "INSTALLDIR=\C:\Program Files\Elysium\3D-
SUITE\EX11.0\Validation Configurator" /qn"
```

サイレントインストールの際にインストーラーに渡すコマンド引数の一覧は以下の通りです。

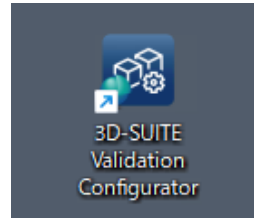
コマンド引数	説明	必須 / 任意
/s	インストールをサイレントモードで実行します。	必須
/v	<p>/v"&lt;引数1&gt; &lt;引数2&gt; …" という形式で以下の引数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• /l* \&lt;ログファイル&gt; : ログファイルのパスを指定します。"/l*" とファイル名の間には半角スペースが必要です。</li> <li>• INSTALLDIR=\&lt;インストールフォルダー&gt; : インストール先のフォルダーを指定します。インストール時のみ指定が可能です。</li> <li>• /qn : ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。</li> <li>• /qn+ : インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。</li> </ul>	任意

## 13.2. 起動手順

1. Windows スタートメニューから [3D-SUITE Validation Configurator EX11.0] を選択します。



デスクトップ上の [3D-SUITE Validation Configurator EX11.0] ショートカットをダブルクリックして起動することもできます。



Validation Configurator が起動しメインダイアログが表示されます。



## 13.3. 終了手順

ウィンドウを閉じて終了してください。

## 13.4. アンインストール手順

### 13.4.1. 手動アンインストール

1. Windows スタートメニューから [設定](ギアマーク) を選択します。
2. [アプリ] を選択します。
3. "アプリと機能" に表示されたアプリケーションの一覧から、"Elysium 3D-SUITE EX11.0 - Validation Configurator" を選択して、アンインストールを実行します。

## 13.4.2. サイレントアンインストール

コマンドでサイレントアンインストールを行うことができます。現在導入されているバージョンのインストーラーが必要です。

- コマンド例

```
Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Validation_Configurator.exe /s /x /v"/l*  
\"C:\temp\uninstall.log\" /qn"
```

サイレントアンインストールを実行する際にインストーラーに渡すコマンド引数の一覧です。

コマンド引数	説明	必須 / 任意
/s	アンインストールをサイレントモードで実行します。	必須
/x	アンインストールを実行します。	必須
/v	<p>/v"&lt;引数1&gt;&lt;引数2&gt; …" という形式で以下の引数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• /l*\"&lt;ログファイル&gt;\" : ログファイルのパスを指定します。"/l*" とファイル名の間には半角スペースが必要です。</li><li>• /qn : ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。</li><li>• /qn+ : インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。</li></ul>	任意

# 14. Elysium 3D-SUITE PDQ Checker Configurator

事前にインストールする必要があるプログラム

- ・ なし

## 14.1. インストール手順

PDQ Checker Configurator のインストーラーはありません。 <PDQ Checker Configurator パッケージ> に含まれる "PDQCheckerSetting.xlsm" と "MakeChkParam.exe" を任意の場所にコピーして使用してください。

## 14.2. 起動手順

"PDQCheckerSetting.xlsm" を Microsoft Excel で開いてください。

## 14.3. 終了手順

Microsoft Excel を終了してください。

## 14.4. アンインストール手順

"PDQCheckerSetting.xlsm" および "MakeChkParam.exe" を削除してください。

# 15. Elysium 3D-SUITE 設定ユーティリティ

事前にインストールする必要があるプログラム

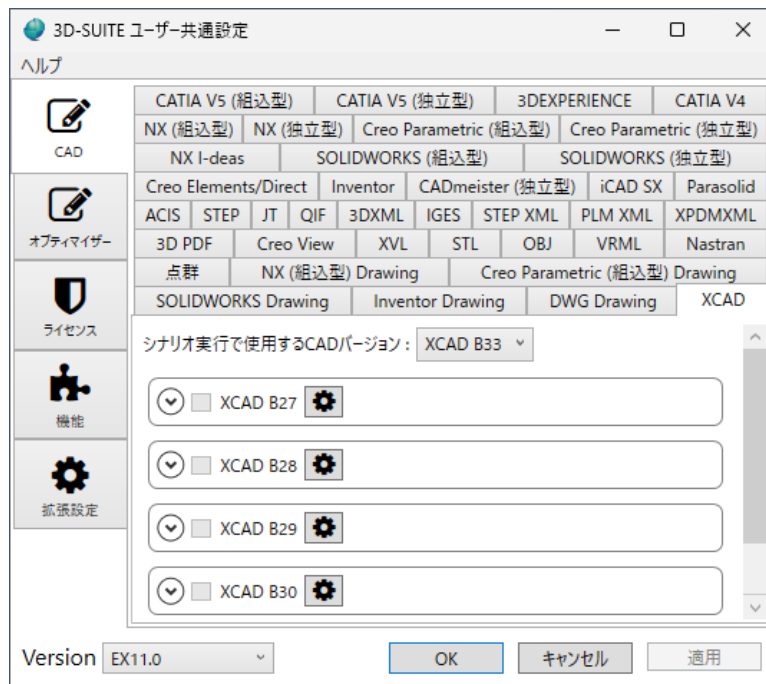
- なし

## 15.1. インストール手順

3D-SUITE 設定ユーティリティは、各製品のインストーラーを実行した際、必要に応じて自動的にインストールされます。個別にインストールする必要はありません。

## 15.2. 起動手順


Windows スタートメニューから [Elysium 3D-SUITE] - [3D-SUITE ユーザー共通設定] または [Elysium 3D-SUITE] - [3D-SUITE ローカルユーザー設定] を選択して起動してください。



## 15.3. 終了手順

ウインドウ下部の [OK] をクリックするか、ウインドウを閉じて終了してください。

## 15.4. アンインストール手順

- Windows メニューから  [設定] を選択し、表示されたウインドウで [アプリ] を選択します。
- 表示されたアプリの一覧から、"Elysium 3D-SUITE EX11.0 - Setting Utility" を選択します。
- [アンインストール] をクリックします。

## 16. トラブルシューティング

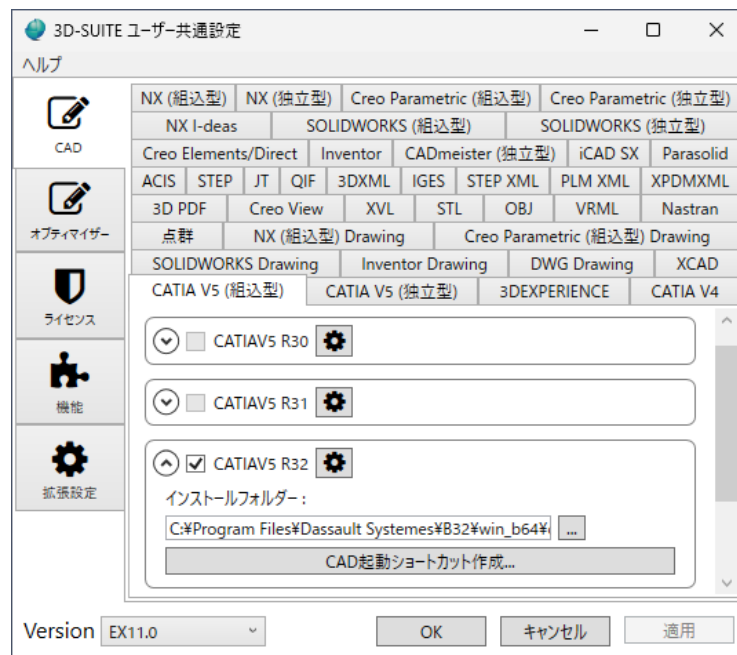
**現象 1: SmartLauncher (Plug-in) for CATIA V5 を起動した際、CATIA V5 の環境ファイルに記載されている内容が反映されない。**

[対処方法] CATIA V5 環境ファイルの情報が正しく指定されていない可能性があります。 [CAD 別初期設定 / 注意事項 - CATIA V5](#) に記載している内容に従って、CATIA V5 環境ファイルの情報を指定してください。

**現象 2: エクスプローラーのコンテキストメニューから SmartLauncher (Standalone) による変換を実行すると、CATIA V5 のライセンスに関するエラーが発生する。通常の手順で CATIA V5 を起動した場合、エラーは発生しない。**

[対処方法] CATIA V5 環境ファイルの情報が正しく指定されていない可能性があります。以下の手順に従って CATIA V5 環境ファイルを指定してください。

1. Windows メニューから [Elysium 3D-SUITE] - [3D-SUITE ユーザー共通設定] または [Elysium 3D-SUITE] - [3D-SUITE ローカルユーザー設定] を選択します。
2. [CAD] タブを開きます。
3. CATIA V5 のタブを選択し、変換に用いるバージョンのギアマークをクリックします。



4. "CAD2ENF" および "ENF2CAD" の "CATIAV5\_EnvPath" に CATIA V5 環境ファイルの絶対パスを入力して [OK] をクリックします。
5. [OK] をクリックして [3D-SUITE ユーザー共通設定] ウィンドウまたは [3D-SUITE ローカルユーザー設定] ウィンドウを閉じます。

**現象 3: カスタマイズされた NX 環境 (Teamcenter 環境を含む) で SmartLauncher (Plug-in) for NX のメニューが表示されない。**

[対処方法] [CAD 別初期設定 / 注意事項 - NX](#) に記載している内容に従って設定を行ってください。

**現象 4: 使用したい CAD のバージョンに対応する SmartLauncher (Plug-in) のインストーラーが見つからない。**

[対処方法] SmartLauncher (Plug-in) は、3D-SUITE がサポートする CAD バージョンの一部のみをサポートしています。詳細については、リリースノートにある "サポートCAD バージョン一覧" を参照してください。

**現象 5: サイレントインストール実行中に OS が再起動される。**

[対処方法] こちらは想定された動作となるため、回避方法はありません。手動インストールではインストール完了時に再起動を求めるダイアログが表示されますが、サイレントインストールではこのダイアログが表示されず、そのまま再起動が実行されます。

**現象 6: "Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_Components.exe" の実行を途中でキャンセルした際に完了画面がフリーズする。**

[対処方法] タスクマネージャーを起動して、"Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_Components.exe" プロセスを強制終了してください。

**現象 7: "Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_Components.exe" の実行が失敗する。**

[対処方法] "Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_Component\_Base.exe" によるインストールのみが実行されている場合にこのような現象が起きることがあります。該当する場合には、追加で "Elysium\_3D-SUITE\_EX11\_0\_SmartLauncher\_Base.exe" によるインストールを実行するか、Windows の "アプリと機能" から "Elysium 3D-SUITE EX11.0 - Component Base" をアンインストールしてください。

**現象 8: 3D-SUITE 製品のいずれかが、インストールに成功しているように見えるにも関わらず起動しない。**

[対処方法] ジャンクションを含むパスにアプリケーションをインストールするとこのような現象が起きることがあります。インストールの際にジャンクションが含まれないパスを指定してください。なおジャンクションの詳細については、以下の URL を参照してください。

<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sysinternals/downloads/junction>

# Appendix A: 3D-SUITE インストーラー一覧

インストール対象製品	説明
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Viewer.exe</b>	
3D-SUITE Viewer	3D-SUITE Viewer をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Editor.exe</b>	
3D-SUITE Editor	3D-SUITE Editor をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_SmartLauncher.exe</b>	
3D-SUITE SmartLauncher	3D-SUITE SmartLauncher をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_SmartController.exe</b>	
3D-SUITE SmartController	3D-SUITE SmartController をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_SmartController_Pro.exe</b>	
3D-SUITE SmartController Pro	3D-SUITE SmartController Pro をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_TransServer.exe</b>	
3D-SUITE TransServer	3D-SUITE TransServer をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_WorkerNode.exe</b>	
3D-SUITE WorkerNode	3D-SUITE WorkerNode をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Inspector.exe</b>	
3D-SUITE Inspector	3D-SUITE Inspector をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Components.exe</b>	
一部を除く製品全体	一部の Front-End と Utility Tool を除く全製品を一括インストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Data_Package_Studio.exe</b>	
3D-SUITE Data Package Studio	3D-SUITE Data Package Studio をインストールするためのインストーラーです。

インストール対象製品	説明
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Validation_Configurator.exe</b>	
3D-SUITE Validation Configurator	3D-SUITE Validation Configurator をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_3D_PDF_Adapter.exe</b>	
3D-SUITE 3D PDF Adapter	3D-SUITE 3D PDF Adapter をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_3DEXPERIENCE_Adapter.exe</b>	
3D-SUITE 3DEXPERIENCE Adapter	3D-SUITE 3DEXPERIENCE Adapter をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_3DXML_Adapter.exe</b>	
3D-SUITE 3DXML Adapter	3D-SUITE 3DXML Adapter をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_ACIS_Adapter.exe</b>	
3D-SUITE ACIS Adapter	3D-SUITE ACIS Adapter をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_CADmeister_Adapter.exe</b>	
3D-SUITE CADmeister Adapter	3D-SUITE CADmeister Adapter をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_CATIA_V4_Adapter.exe</b>	
3D-SUITE CATIA V4 Adapter	3D-SUITE CATIA V4 Adapter をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_CATIA_V5_Adapter.exe</b>	
3D-SUITE CATIA V5 Adapter	3D-SUITE CATIA V5 (Plug-in) Adapter をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_CATIA_V5_Standalone_Adapter.exe</b>	
3D-SUITE CATIA V5 Standalone Adapter	3D-SUITE CATIA V5(Standalone) Adapter をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_CATIA_V5_XCAD_Adapter.exe</b>	
3D-SUITE CATIA V5 XCAD Adapter	3D-SUITE CATIA V5 XCAD Adapter をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Component_Base.exe</b>	
3D-SUITE Component Base	3D-SUITE Component Base をインストールするためのインストーラーです。

インストール対象製品	説明
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Component_Base2.exe</b>	
3D-SUITE Component Base2	3D-SUITE Component Base2 をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Creo_Elements_Direct_Adapter.exe</b>	
3D-SUITE Creo Elements Direct Adapter	3D-SUITE Creo Elements Direct Adapter をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Creo_Parametric_Adapter.exe</b>	
3D-SUITE Creo Parametric Adapter	3D-SUITE Creo Parametric (Plug-in) Adapter をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Creo_Parametric_Drawing_Importer.exe</b>	
3D-SUITE Creo Parametric Drawing Importer	3D-SUITE Creo Parametric Drawing Importer をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Creo_Parametric_Standalone_Adapter.exe</b>	
3D-SUITE Creo Parametric Standalone Adapter	3D-SUITE Creo Parametric(Standalone) Adapter をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Creo_View_Adapter.exe</b>	
3D-SUITE Creo View Adapter	3D-SUITE Creo View Adapter をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_DWG_Drawing_Adapter.exe</b>	
3D-SUITE DWG Drawing Adapter	3D-SUITE DWG Drawing Adapter をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_iCAD_Adapter.exe</b>	
3D-SUITE iCAD SX Adapter	3D-SUITE iCAD SX Adapter をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_IGES_Adapter.exe</b>	
3D-SUITE IGES Adapter	3D-SUITE IGES Adapter をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Inventor_Adapter.exe</b>	
3D-SUITE Inventor Adapter	3D-SUITE Inventor Adapter をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Inventor_Drawing_Importer.exe</b>	
3D-SUITE Inventor Drawing Importer	3D-SUITE Inventor Drawing Importer をインストールするためのインストーラーです。

インストール対象製品	説明
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_JT_Adapter.exe</b>	
3D-SUITE JT Adapter	3D-SUITE JT Adapter をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Nastran_Adapter.exe</b>	
3D-SUITE Nastran Adapter	3D-SUITE Nastran Adapter をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_NX_Adapter.exe</b>	
3D-SUITE NX Adapter	3D-SUITE NX(Plug-in) Adapter をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_NX_Drawing_Importer.exe</b>	
3D-SUITE NX Drawing Importer	3D-SUITE NX Drawing Importer をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_NX_I-deas_Adapter.exe</b>	
3D-SUITE NX I-deas Adapter	3D-SUITE NX I-deas Adapter をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_NX_Standalone_Adapter.exe</b>	
3D-SUITE NX Standalone Adapter	3D-SUITE NX(Standalone) Adapter をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_OBJ_Adapter.exe</b>	
3D-SUITE OBJ Adapter	3D-SUITE OBJ Adapter をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Parasolid_Adapter.exe</b>	
3D-SUITE Parasolid Adapter	3D-SUITE Parasolid Adapter をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_PLM_XML_Adapter.exe</b>	
3D-SUITE PLM XML Adapter	3D-SUITE PLM XML Adapter をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_Point_Cloud_Adapter.exe</b>	
3D-SUITE Point Cloud Adapter	3D-SUITE Point Cloud Adapter をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_QIF_Adapter.exe</b>	
3D-SUITE QIF Adapter	3D-SUITE QIF Adapter をインストールするためのインストーラーです。

インストール対象製品	説明
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_SmartLauncher_3DEXPERIENCE.exe</b>	
3D-SUITE SmartLauncher Plug-in for 3DEXPERIENCE	3DEXPERIENCE 向けの 3D-SUITE SmartLauncher Plug-in をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_SmartLauncher_Base.exe</b>	
3D-SUITE SmartLauncher Base	3D-SUITE SmartLauncher Base をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_SmartLauncher_CATIA_V5.exe</b>	
3D-SUITE SmartLauncher Plug-in for CATIA V5	CATIA V5 向けの 3D-SUITE SmartLauncher Plug-in をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_SmartLauncher_Creo_Parametric.exe</b>	
3D-SUITE SmartLauncher Plug-in for Creo Parametric	Creo Parametric 向けの 3D-SUITE SmartLauncher Plug-in をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_SmartLauncher_NX.exe</b>	
3D-SUITE SmartLauncher Plug-in for NX	NX 向けの 3D-SUITE SmartLauncher Plug-in をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_SmartLauncher_SOLIDWORKS.exe</b>	
3D-SUITE SmartLauncher Plug-in for SOLIDWORKS	SOLIDWORKS 向けの 3D-SUITE SmartLauncher Plug-in をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_SOLIDWORKS_Adapter.exe</b>	
3D-SUITE SOLIDWORKS Adapter	3D-SUITE SOLIDWORKS(Plug-in) Adapter をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_SOLIDWORKS_Standalone_Adapter.exe</b>	
3D-SUITE SOLIDWORKS Adapter	3D-SUITE SOLIDWORKS(Standalone) Adapter をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_SOLIDWORKS_Drawing_Adapter.exe</b>	
3D-SUITE SOLIDWORKS Drawing Adapter	3D-SUITE SOLIDWORKS Drawing Adapter をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_SolidEdge_Adapter.exe</b>	
3D-SUITE Solid Edge Adapter	3D-SUITE Solid Edge Adapter をインストールするためのインストーラーです。

インストール対象製品	説明
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_STEP_Adapter.exe</b>	
3D-SUITE STEP Adapter	3D-SUITE STEP Adapter をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_STEP_XML_Adapter.exe</b>	
3D-SUITE STEP XML Adapter	3D-SUITE STEP XML Adapter をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_STL_Adapter.exe</b>	
3D-SUITE STL Adapter	3D-SUITE STL Adapter をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_VRML_Adapter.exe</b>	
3D-SUITE VRML Adapter	3D-SUITE VRML Adapter をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_XPDMXML_Adapter.exe</b>	
3D-SUITE XPDMXML Adapter	3D-SUITE XPDMXML Adapter をインストールするためのインストーラーです。
<b>Elysium_3D-SUITE_EX11_0_XVL_Adapter.exe</b>	
3D-SUITE XVL Adapter	3D-SUITE XVL Adapter をインストールするためのインストーラーです。

## Appendix B: サンプルシナリオについて

DFM Studio、DFAS Studio、DFA Studio、CAD Validator、Drawing Validator、PMI Checker を実行するためのサンプルシナリオを製品に同梱しています。サンプルシナリオを利用することにより、これらの機能をすぐに利用することができます。それぞれのサンプルシナリオの詳細は以下の通りです。

### B.1. DFM Studio を実行するためのサンプルシナリオ

DFM Studio を実行するためのサンプルシナリオは以下のフォルダーに含まれています。

```
<Base パッケージ>\sample\scenario\dfm
```

フォルダー内にある `install_dfm_scenarios.bat` を実行すると自動的にシナリオフォルダーが作成され、その作成されたフォルダーに `dfm` フォルダー内のシナリオが一括でコピーされます。また、作成されたシナリオフォルダーはラベル付きで "3D-SUITE ユーザー設定" に登録されます。

- 作成されるシナリオフォルダーのフォルダー名: Scenarios\_DFM
- シナリオフォルダーに割り当てられるラベル: Check, Merge, Update, Report

- 3D-SUITE EX9.1.x と DFM Studio v2.1 が導入されている環境に対して、上記の `install_dfm_scenarios.bat` を用いてシナリオを導入すると、古いシナリオが残ったまま新しいシナリオが導入される可能性があります。古いシナリオと新しいシナリオは表示名が同一のため、このような場合には誤って古いシナリオを実行してしまう恐れがあります。

このような場合には、以下の手順で古いシナリオフォルダーのパスを削除してください。

1. 3D-SUITE ユーザー設定を起動します。
2. [機能] ページの [シナリオ] タブを開きます。
3. 表示されているシナリオフォルダーのうち、3D-SUITE EX9.1.x の時点で DFM Studio 向けのシナリオを格納していたものを削除します。



なお古いシナリオフォルダーのパスを削除すると、それらのシナリオに設定されていたシナリオパラメーターセット (SPS) も使用できなくなります。既存の SPS を最新バージョンのシナリオで利用したい場合には、エリジオンもしくは購入元の代理店へお問い合わせください。

- 既にサンプルシナリオフォルダーが作成されている環境で、`install_dfm_scenarios.bat` を実行すると、既存のサンプルシナリオが新しいサンプルシナリオに上書きされます。既存のサンプルシナリオに設定されているシナリオパラメーターセット (SPS) の内容も新しいものに上書きされるため、`install_dfm_scenarios.bat` を実行する前に、サンプルシナリオフォルダーに保存されているシナリオのバックアップを取得することを推奨します。サン

プルシナリオフォルダーのパスについては、"[シナリオフォルダーの作成場所について](#)"を参照してください。

- EX11.0 の install\_dfm\_scenarios.bat で作成されるサンプルシナリオフォルダーの名称は、EX11.0 より前のバージョンで作成したサンプルシナリオフォルダーの名称とは異なります。そのため、EX11.0 の install\_dfm\_scenarios.bat を実行しても、EX11.0 より前のバージョンで作成したサンプルシナリオは上書きされません。

## B.2. DFAS Studio を実行するためのサンプルシナリオ

DFAS Studio を実行するためのサンプルシナリオは以下のフォルダーに含まれています。

```
<Base パッケージ>\sample\scenario\dfas
```

フォルダー内にある install\_dfas\_scenarios.bat を実行すると自動的にシナリオフォルダーが作成され、その作成されたフォルダーに dfas フォルダー内のシナリオが一括でコピーされます。また、作成されたシナリオフォルダーはラベル付きで "3D-SUITE ユーザー設定" に登録されます。

- 作成されるシナリオフォルダーのフォルダー名: Scenarios\_DFAS
- シナリオフォルダーに割り当てられるラベル: Check, Update, Report
- 3D-SUITE EX9.1.x と DFAS Studio v1.1 が導入されている環境に対して、上記の install\_dfas\_scenarios.bat を用いてシナリオを導入すると、古いシナリオが残ったまま新しいシナリオが導入される可能性があります。古いシナリオと新しいシナリオは表示名が同一のため、このような場合には誤って古いシナリオを実行してしまう恐れがあります。このような場合には、以下の手順で古いシナリオフォルダーのパスを削除してください。
  - 3D-SUITE ユーザー設定を起動します。
  - [機能] ページの [シナリオ] タブを開きます。
  - 表示されているシナリオフォルダーのうち、3D-SUITE EX9.1.x の時点で DFAS Studio 向けのシナリオを格納していたものを削除します。なお古いシナリオフォルダーのパスを削除すると、それらのシナリオに設定されていたシナリオパラメーターセット (SPS) も使用できなくなります。既存の SPS を最新バージョンのシナリオで利用したい場合には、エリジオンもしくは購入元の代理店へお問い合わせください。
- 既にサンプルシナリオフォルダーが作成されている環境で、install\_dfas\_scenarios.bat を実行すると、既存のサンプルシナリオが新しいサンプルシナリオに上書きされます。既存のサンプルシナリオに設定されているシナリオパラメーターセット (SPS) の内容も新しいものに上書きされるため、install\_dfas\_scenarios.bat を実行する前に、サンプルシナリオフォルダー



に保存されているシナリオのバックアップを取得することを推奨します。サンプルシナリオフォルダーのパスについては、"[シナリオフォルダーの作成場所について](#)"を参照してください。

- EX11.0 の install\_dfas\_scenarios.bat で作成されるサンプルシナリオフォルダーの名称は、EX11.0 より前のバージョンで作成したサンプルシナリオフォルダーの名称とは異なります。そのため、EX11.0 の install\_dfas\_scenarios.bat を実行しても、EX11.0 より前のバージョンで作成したサンプルシナリオは上書きされません。

## B.3. DFA Studio を実行するためのサンプルシナリオ

DFA Studio を実行するためのサンプルシナリオは以下のフォルダーに含まれています。

```
<Base パッケージ>\sample\scenario\dfa
```

フォルダー内にある install\_dfa\_scenarios.bat を実行すると自動的にシナリオフォルダーが作成され、その作成されたフォルダーに dfa フォルダー内のシナリオが一括でコピーされます。また、作成されたシナリオフォルダーはラベル付きで "3D-SUITE ユーザー設定" に登録されます。

- 作成されるシナリオフォルダーのフォルダー名: Scenarios\_DFA
- シナリオフォルダーに割り当てられるラベル: Check, Update, Report



- 既にサンプルシナリオフォルダーが作成されている環境で、install\_dfa\_scenarios.bat を実行すると、既存のサンプルシナリオが新しいサンプルシナリオに上書きされます。既存のサンプルシナリオに設定されているシナリオパラメーターセット (SPS) の内容も新しいものに上書きされるため、install\_dfa\_scenarios.bat を実行する前に、サンプルシナリオフォルダーに保存されているシナリオのバックアップを取得することを推奨します。サンプルシナリオフォルダーのパスについては、"[シナリオフォルダーの作成場所について](#)"を参照してください。
- EX11.0 の install\_dfa\_scenarios.bat で作成されるサンプルシナリオフォルダーの名称は、EX11.0 より前のバージョンで作成したサンプルシナリオフォルダーの名称とは異なります。そのため、EX11.0 の install\_dfa\_scenarios.bat を実行しても、EX11.0 より前のバージョンで作成したサンプルシナリオは上書きされません。

## B.4. CAD Validator を実行するためのサンプルシナリオ

CAD Validator を実行するためのサンプルシナリオは以下のフォルダーに含まれています。

```
<Base パッケージ>\sample\scenario\cv
```

フォルダー内にある install\_cv\_scenarios.bat を実行すると自動的にシナリオフォルダーが作成さ

れ、その作成されたフォルダーに cv フォルダー内のシナリオが一括でコピーされます。また、作成されたシナリオフォルダーはラベル付きで "3D-SUITE ユーザー設定" に登録されます。

- 作成されるシナリオフォルダーのフォルダー名: Scenarios\_CV
- シナリオフォルダーに割り当てられるラベル: CAD Validator (Pre-defined)



既にサンプルシナリオフォルダーが作成されている環境で、install\_cv\_scenarios.bat を実行すると、既存のサンプルシナリオが新しいサンプルシナリオに上書きされます。既存のサンプルシナリオに設定されているシナリオパラメーターセット(SPS)の内容も新しいものに上書きされるため、install\_cv\_scenarios.bat を実行する前に、サンプルシナリオフォルダーに保存されているシナリオのバックアップを取得することを推奨します。サンプルシナリオフォルダーのパスについては、"[シナリオフォルダーの作成場所について](#)"を参照してください。

サンプルシナリオとは別に、"JAMA 同一性検証ガイドライン"に沿った比較設定ファイルを出力するための Excel マクロも製品に同梱しています。こちらのファイルは以下のフォルダーにあります。



```
<Base パッケージ>\sample\jama
```

使用方法については、同じフォルダーにある "README.txt" を参照してください。

参考: CAxデータ変換における同一性検証ガイドライン  
[https://www.jama.or.jp/cgi-bin/it/download\\_03.cgi](https://www.jama.or.jp/cgi-bin/it/download_03.cgi)

## B.5. Drawing Validator を実行するためのサンプルシナリオ

Drawing Validator を実行するためのサンプルシナリオは以下のフォルダーに含まれています。

```
<Base パッケージ>\sample\scenario\drwv
```

フォルダー内にある install\_drwv\_scenarios.bat を実行すると自動的にシナリオフォルダーが作成され、その作成されたフォルダーに drwv フォルダー内のシナリオが一括でコピーされます。また、作成されたシナリオフォルダーはラベル付きで "3D-SUITE ユーザー設定" に登録されます。

- 作成されるシナリオフォルダーのフォルダー名: Scenarios\_DRWV
- シナリオフォルダーに割り当てられるラベル: Drawing Validator (Pre-defined)



既にサンプルシナリオフォルダーが作成されている環境で、install\_drwv\_scenarios.bat を実行すると、既存のサンプルシナリオが新しいサンプルシナリオに上書きされます。既存のサンプルシナリオに設定されているシナリオパラメーターセット(SPS)の内容も新しいものに上書きされるた

め、install\_drwv\_scenarios.bat を実行する前に、サンプルシナリオフォルダーに保存されているシナリオのバックアップを取得することを推奨します。サンプルシナリオフォルダーのパスについては、"[シナリオフォルダーの作成場所について](#)"を参照してください。

## B.6. PMI Checker を実行するためのサンプルシナリオ

PMI Checker を実行するためのサンプルシナリオは以下のフォルダーに含まれています。

```
<Base パッケージ>\sample\scenario\pmichecker
```

フォルダー内にある install\_pmichecker\_scenarios.bat を実行すると自動的にシナリオフォルダーが作成され、その作成されたフォルダーに pmichecker フォルダー内のシナリオが一括でコピーされます。また、作成されたシナリオフォルダーはラベル付きで "3D-SUITE ユーザー設定" に登録されます。

- 作成されるシナリオフォルダーのフォルダー名: Scenarios\_PMIChecker
- シナリオフォルダーに割り当てられるラベル: PMI Checker (Pre-defined)

### シナリオフォルダーの作成場所について

install\_\*\*\*\_scenarios.bat を実行した際、既定では以下のパスにシナリオフォルダーが作成されます。

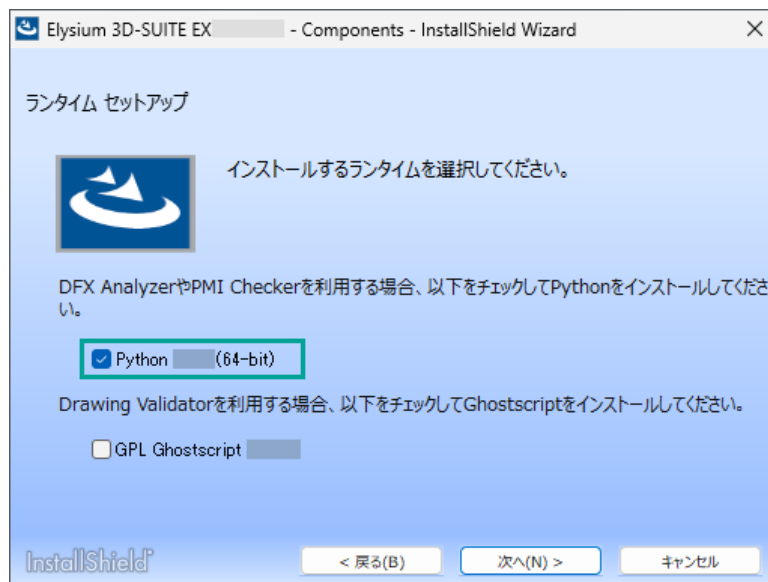
- %PUBLIC%\Documents\Elysium\3DxSUITE

シナリオフォルダーの作成されるパスを変更したい場合には、以下のファイルの 2 行目をアンコメントし、シナリオフォルダーを作成したいパスを指定してください。

- <Base パッケージ>\sample\scenario\lib\config.ini

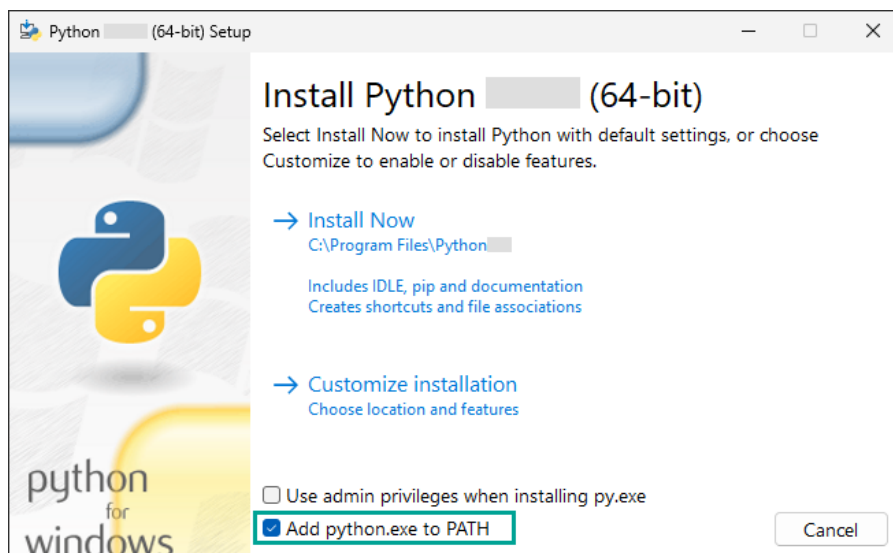
# Appendix C: Python インストール時の注意点について

DFX Analyzer または PMI Checker を利用する場合には、Python をインストールする必要があります。Python の推奨バージョンは 3.13.5 です。推奨マイナーバージョン以上の Python がインストールされていない場合には、以下のチェックボックスを有効にしてインストールしてください。



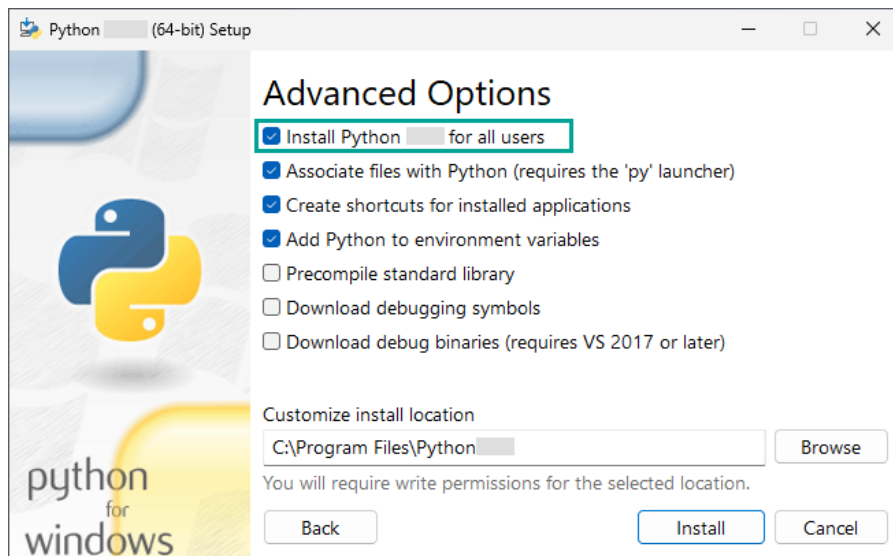
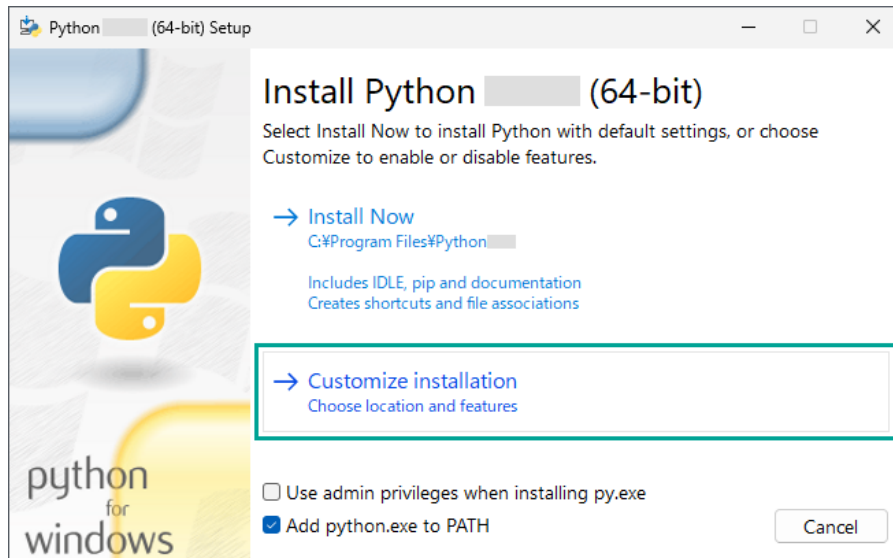
## C.1. Components インストーラーから Python をインストールしない場合の注意点

Python は公式サイトで配布されているインストーラーを利用してインストールしても問題ありません。既にインストール済みの Python を利用する場合や、別途用意したインストーラーを用いて Python をインストールする場合には、"Add python.exe to PATH" を有効にするか、インストール済みの Python モジュールのパスを手動で環境変数 PATH に追加してください。



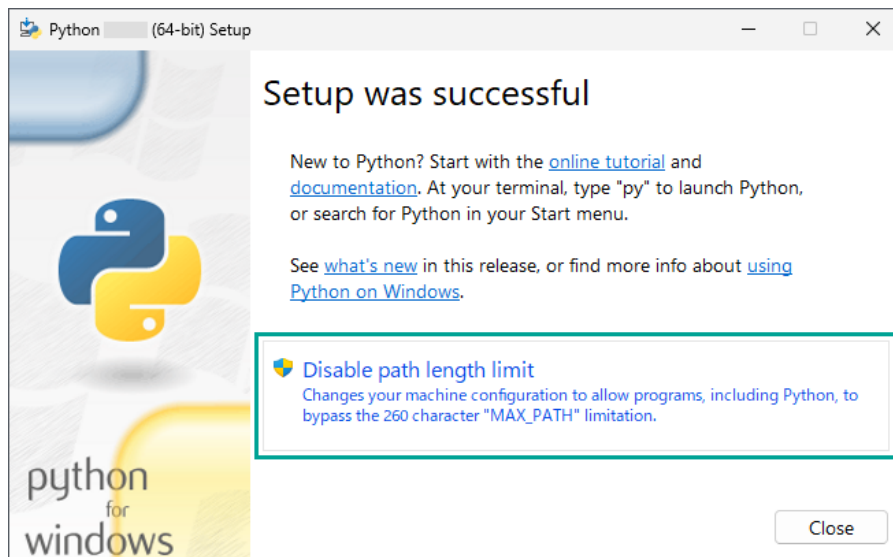
## C.2. 同一コンピューター上で複数のユーザーが DFX Analyzer または PMI Checker を使用する場合の注意点

デフォルトの設定で Python をインストールすると、インストールを実行したユーザーのみが利用できる形で Python がインストールされます。同じコンピューターに複数のユーザーがログインして DFX Analyzer を使用する場合には、1 回のインストールですべてのユーザーが Python を利用できるようにすることも可能です。"Customize installation" を選択し、"Advanced Options" 内の "Install Python x.xx for all users" にチェックを入れた上でインストールしてください。



### C.3. Python で 260 字より長いパスを扱う場合の注意点

Python のインストール後に "Disable path length limit" が表示された場合には、必要に応じて当該項目を選択し、設定を行ってください。



この項目を有効化することで、260 文字より長いパスを扱うことができるようになります。そのような長いパスを扱う可能性がある場合には有効化してください。

一方で "Disable path length limit" の有効化はシステム全体に影響します。有効化した結果としてパスが 260 文字以下であることを前提としている古いプログラムが正常に動作しなくなる可能性もあります。システムの状況なども踏まえた上で慎重に可否を判断してください。

### C.4. 特殊な方法で Python を導入した場合の注意点

DFX Analyzer を利用する場合、公式サイトで配布されているインストーラーを利用するほか、コマンドラインインストーラーやコピー配置などの方法でも Python を導入することができます。

3D-SUITE に同梱される Python インストーラーまたは公式サイトで配布されるインストーラー **以外**の方法で Python を導入した場合、または複数マイナーバージョンの Python が導入された環境で DFX Analyzer の利用する Python のバージョンを指定したい場合には、DFX Analyzer のインストールガイドを参照してください。

本コンテンツに関わる著作権は株式会社エリジオンもしくは原権利者に帰属しています。  
著作権者の承諾なしに無断で改変、複製、転載、再配布、転送、公衆送信、販売、貸与などの  
行為をすることは禁じられています。